

# **TC52x/TC52x-HC/ TC57x**

タッチ コンピュータ



**ZEBRA**

**プロダクト リファレンス ガイ  
ド**  
**Android™ 11**

2022/10/10

ZEBRA および図案化された Zebra ヘッドは、Zebra Technologies Corporation の商標であり、世界各地の多数の法域で登録されています。Google、Android、Google Play などの商標は、Google LLC の商標です。その他のすべての商標は、該当する各所有者が権利を有しています。©2022 Zebra Technologies Corporation および/またはその関連会社。無断複写、転載を禁じます。

本書の内容は、予告なしに変更される場合があります。本書で説明するソフトウェアは、使用許諾契約または秘密保持契約に基づいて提供されます。本ソフトウェアの使用またはコピーは、これらの契約の条件に従ってのみ行うことができます。

法的事項および所有権に関する表明の詳細については、以下を参照してください。

ソフトウェア: [zebra.com/linkoslegal](http://zebra.com/linkoslegal).

著作権および商標: [zebra.com/copyright](http://zebra.com/copyright).

特許: [ip.zebra.com](http://ip.zebra.com).

保証: [zebra.com/warranty](http://zebra.com/warranty).

エンドユーザー ソフトウェア使用許諾契約: [zebra.com/eula](http://zebra.com/eula).

## 使用の条件

### 所有権の表明

本書には、Zebra Technologies Corporation およびその子会社（「Zebra Technologies」）に所有権が属している情報が含まれています。本書は、本書に記載されている機器の操作および保守を行うユーザーに限り、情報の閲覧とその利用を目的として提供するものです。当社に所有権が属している当該情報に関しては、Zebra Technologies の書面による明示的な許可がない限り、他の目的で利用、複製、または第三者へ開示することは認められません。

### 製品の改善

Zebra Technologies は、会社の方針として、製品の継続的な改善を行っています。すべての仕様や設計は、予告なしに変更される場合があります。

### 免責条項

Zebra Technologies では、公開されているエンジニアリング仕様およびマニュアルに誤りがないよう、万全の対策を講じていますが、まれに誤りが発生することがあります。Zebra Technologies は、かかる誤りを修正する権利を留保し、その誤りに起因する責任は負わないものとします。

### 責任の限定

業務の逸失利益、業務の中止、業務情報の損失などを含めて、またはこれらに限定することなく、当該製品の使用、使用の結果、またはその使用不能により派生した損害に関しては、いかなる場合でも、Zebra Technologies、あるいは同梱製品（ハードウェアおよびソフトウェアを含む）の開発、製造、または納入に関与したあらゆる当事者は、損害賠償責任を一切負わないものとします。さらにこれらの損害の可能性を事前に指摘されていた場合でも、損害賠償責任を一切負わないものとします。一部の法域では、付随的または派生的損害の除外または制限が認められないため、上記の制限または除外はお客様に適用されないことがあります。

# 目次

このガイドについて.....	14
構成.....	14
表記規則.....	15
アイコン表記.....	16
サービスに関する情報.....	16
ソフトウェア バージョンの確認.....	17
シリアル番号の確認.....	17
 ご使用の前に.....	18
デバイスの開梱.....	18
機能.....	18
本デバイスのセットアップ.....	22
SIM カードの取り付け.....	23
microSD カードの取り付け.....	25
バッテリの取り付け.....	26
バッテリの充電.....	27
TC52x/TC57x バッテリの交換.....	28
TC52x-HC バッテリの交換.....	29
microSD カードの交換.....	30
SIM カードの交換.....	32
 デバイスの使用方法.....	35
ホーム画面.....	35
ホーム画面回転の設定.....	37
ステータスバー.....	37

## 目次

通知の管理.....	41
クイック アクセス パネルを開く .....	42
クイック設定バーのアイコンの編集.....	44
バッテリ管理.....	44
低バッテリ通知.....	45
無線通信のオフ .....	45
インタラクティブなセンサー テクノロジ.....	45
デバイスのウェイクアップ.....	45
USB 通信.....	46
ファイルの転送.....	46
写真の転送.....	46
ホスト コンピュータからの切断.....	47
 設定.....	48
[Settings] (設定) へのアクセス.....	48
ディスプレイの設定.....	48
画面の輝度の自動設定.....	48
画面の輝度の手動設定.....	48
夜間モードの設定.....	49
画面の回転の設定.....	49
画面のタイムアウトの設定.....	49
ロック画面の通知の設定.....	50
フォント サイズの設定.....	50
表示サイズの設定.....	50
通知 LED の輝度レベル.....	51
タッチ パネル モードの設定.....	51
日時の設定.....	51
全般的なサウンド設定.....	52
サウンド オプション.....	52
Zebra の音量コントロール.....	53
ウェイクアップ ソースの設定.....	53
ボタンの再マッピング .....	53
再マップ対応キー.....	54
アラート ボタン.....	55

## 目次

アラート ボタンを設定する.....	55
アラート アクセシビリティ サービス.....	55
アラート ボタンの使用.....	56
キーボード.....	56
キーボードの設定.....	56
Android および Gboard キーボードの使用.....	56
エンタープライズ キーボード.....	57
言語の使用.....	57
言語設定の変更.....	57
辞書に単語を追加する.....	58
通知.....	58
アプリ通知の設定.....	58
通知の表示.....	59
ロック画面の通知の制御.....	59
ライトの点滅を有効にする.....	60
 アプリケーション.....	61
インストールされているアプリケーション.....	61
アプリへのアクセス.....	62
最近使用したアプリの切り替え.....	62
Battery Manager (バッテリ マネージャ).....	63
バッテリ マネージャを開く.....	63
バッテリ マネージャ情報タブ.....	63
バッテリ マネージャの交換タブ.....	65
カメラ.....	66
写真の撮影.....	66
ビデオの録画.....	67
カメラの設定.....	69
DW Demo.....	70
DW Demo のアイコン.....	70
スキヤナの選択.....	71
PTT Express Voice クライアント.....	71
PTT Express のユーザー インタフェース.....	72
PTT 音声通知.....	72

PTT 通知アイコン.....	73
PTT 通信を有効にする.....	73
トーク グループの選択.....	74
PTT 通信.....	74
グループ通話の作成.....	74
プライベート応答での応答.....	75
PTT 通信を無効にする.....	75
RxLogger.....	75
RxLogger の構成.....	75
構成ファイル.....	76
ログの有効化.....	76
ログの無効化.....	76
ログ ファイルの抽出.....	76
データのバックアップ.....	76
RxLogger Utility.....	76
 データの読み取り.....	78
イメージング.....	78
デジタル カメラ.....	78
動作モード.....	79
スキャン操作に関する考慮事項.....	79
内部イメージヤでのスキャン.....	80
内蔵カメラによるスキャン.....	82
RS507/RS507X ハンズフリー イメージヤでのスキャン.....	83
RS5100 リング スキャナでのスキャン.....	86
RS6000 Bluetooth リング スキャナでのスキャン.....	88
DS3678 Bluetooth スキャナでのスキャン.....	90
LI3678 リニア イメージヤでのスキャン.....	92
DS2278 デジタル スキャナでのスキャン.....	94
DS8178 デジタル スキャナでのスキャン.....	95
Bluetooth リング スキャナのペアリング.....	96
SSI モードで近距離無線通信を使用してペアリングする.....	96
HID モードで近距離無線通信を使用してペアリングする.....	97
Simple Serial Interface (SSI) の使用によるペアリング.....	98

## 目次

Bluetooth ヒューマンインターフェース デバイスを使用してペアリングする.....	98
Bluetooth スキヤナのペアリング.....	99
Simple Serial Interface を使用してペアリングする.....	99
Bluetooth ヒューマンインターフェース デバイスを使用してペアリングする.....	100
DataWedge.....	100
DataWedge の有効化.....	101
DataWedge の無効化.....	101
サポート対象デコーダ.....	101
カメラでサポートされているデコーダ.....	101
SE4720 内蔵イメージヤ対応デコーダ.....	102
RS507/RS507x でサポートされているデコーダ.....	103
RS5100 でサポートされているデコーダ.....	104
RS6000 でサポートされているデコーダ.....	104
DS2278 でサポートされているデコーダ.....	105
DS3678 でサポートされているデコーダ.....	106
DS8178 でサポートされているデコーダ.....	107
LI3678 でサポートされているデコーダ.....	108
 無線.....	109
無線ワイド エリア ネットワーク.....	109
モバイル データ接続の共有.....	109
データ使用量.....	111
携帯電話ネットワークの設定.....	112
無線 LAN (Wireless Local Area Network).....	114
Wi-Fi ネットワークへの接続.....	114
Wi-Fi ネットワークの削除.....	115
WLAN の設定.....	115
Bluetooth.....	120
適応型周波数ホッピング.....	120
セキュリティ.....	121
Bluetooth プロファイル.....	122
Bluetooth の電源の状態.....	123
Bluetooth 無線の電源.....	123
Bluetooth の有効化.....	123

Bluetooth の無効化.....	123
Bluetooth デバイスの検出.....	123
Bluetooth の名前の変更.....	124
Bluetooth デバイスへの接続.....	124
Bluetooth デバイスでのプロファイルの選択.....	124
Bluetooth デバイスのペアリング解除.....	124
キャスト.....	125
近距離無線通信.....	125
NFC カードの読み取り .....	125
NFC を使用した情報の共有.....	127
エンタープライズ NFC の設定.....	127
 <b>通話.....</b>	<b>129</b>
緊急通話.....	129
音声モード .....	129
Bluetooth ヘッドセット.....	129
送信ボタン.....	130
音量の調節.....	130
ダイヤラを使用して電話をかける.....	130
ダイヤル オプションへのアクセス.....	131
連絡先を使用して電話をかける.....	131
ダイヤラの使用.....	131
連絡先アプリの使用.....	132
通話履歴を使用して電話をかける.....	132
[Call History] (通話履歴) リストの使用.....	132
GSM で会議通話を確立する.....	132
Bluetooth ヘッドセットを使用して電話をかける.....	133
通話への応答.....	133
通話設定.....	134
 <b>アクセサリ.....</b>	<b>137</b>
デバイス アクセサリ .....	137
メイン バッテリの充電.....	140

## 目次

予備バッテリの充電.....	140
充電温度.....	141
1 スロット USB クレードル.....	141
セットアップ.....	142
クレードルでのデバイスの充電.....	143
高耐久性ブーツを装着した TC5X をクレードルに挿入する.....	144
1 スロットワークステーション ドッキング クレードル.....	144
セットアップ.....	146
イーサネットの設定.....	147
スキヤナの設定.....	148
セキュリティ.....	149
ワークステーション クレードルの使用.....	149
モニタ解像度の変更.....	149
クレードルでのデバイスの充電.....	149
高耐久性ブーツを装着した TC5X をクレードルに挿入する.....	150
2 スロット USB/イーサネット クレードル.....	151
セットアップ.....	152
イーサネットの設定.....	152
高耐久性ブーツを装着した TC5X をクレードルに挿入する.....	154
クレードルでのデバイスの充電.....	154
5 スロット充電専用クレードル.....	155
セットアップ.....	157
クレードルでのデバイスの充電.....	157
高耐久性ブーツを装着した TC5X をクレードルに挿入する.....	158
5 スロットトイーサネット クレードル.....	159
セットアップ.....	160
イーサネット クレードルのデイジーチェーン接続.....	160
イーサネットの設定.....	161
クレードルでのデバイスの充電.....	163
高耐久性ブーツを装着した TC5X をクレードルに挿入する.....	164
イーサネット接続の確立.....	164
4 スロット バッテリ充電器.....	165
1 台の充電器のセットアップ.....	165
2 台の充電器のセットアップ.....	166

予備バッテリの充電.....	168
高耐久性ブーツ.....	169
取り付け.....	169
プラスチック スタイラスの取り付け.....	170
クレードルで充電する.....	171
ベーシック ハンドストラップ キット.....	172
取り付け.....	173
取り外し.....	174
2.5mm オーディオ アダプタ.....	174
3.5mm オーディオ アダプタ.....	175
高耐久性充電/USB ケーブル.....	177
高耐久性充電/USB ケーブルのデバイスへの接続.....	177
高耐久性ブーツを装着している TC5X への接続.....	178
USB 通信.....	179
本デバイスの充電.....	179
高耐久性充電/USB ケーブルの取り外し.....	180
トリガ ハンドル.....	181
高耐久性ブーツの取り付け.....	181
トリガ ハンドルからのデバイスの取り外し.....	183
オプションのストラップの取り付け.....	184
トリガ ハンドルへのデバイスのセット.....	185
電源.....	186
5 スロット クレードルのラック取り付け.....	186
4 スロット バッテリ充電器のラックへの取り付け.....	189
ラック マウントの取り付け.....	192
壁への取り付け.....	195
下部トレイの組み立て.....	195
プラケットの取り付け.....	196
 アプリケーションの導入.....	198
セキュリティ.....	198
セキュリティ証明書.....	198
セキュリティ証明書のインストール.....	198
認証情報ストレージ設定の構成.....	199

## 目次

Android 開発ツール.....	199
Android 開発ワークステーション.....	199
開発者向けオプションを有効にする.....	200
EMDK for Android.....	200
Android 向け StageNow.....	200
GMS 制限.....	201
ADB USB のセットアップ.....	201
アプリケーションのインストール方法.....	202
USB 接続を使用したアプリケーションのインストール.....	203
Android Debug Bridge を使用したアプリケーションのインストール.....	203
無線 ADB を使用したアプリケーションのインストール.....	204
microSD カードを使用したアプリケーションのインストール.....	206
アプリケーションのアンインストール.....	207
Android システム更新.....	207
microSD カードを使用したシステム更新の実行.....	207
ADB を使用したシステム更新の実行.....	208
無線 ADB を使用したシステム更新の実行.....	209
システム更新のインストールを確認する.....	210
Android - エンタープライズリセット.....	210
microSD カードを使用したエンタープライズリセットの実行.....	211
ADB を使用したエンタープライズリセットの実行.....	211
無線 ADB を使用したエンタープライズリセットの実行.....	212
Android の工場出荷時リセット.....	214
microSD カードを使用した工場出荷時リセットの実行.....	214
ADB を使用して工場出荷時リセットを実行する.....	215
無線 ADB を使用して工場出荷時リセットを実行する.....	216
Android ストレージ.....	218
ランダム アクセス メモリ.....	218
内部ストレージ.....	219
外部ストレージ.....	219
Enterprise フォルダ.....	220
アプリの管理.....	221
アプリの詳細.....	221
ダウンロードの管理.....	222

メンテナンスとトラブルシューティング.....	223
デバイスのメンテナンス.....	223
ディスプレイのベスト プラクティス.....	223
高温環境および直射日光の下で動作するエンタープライズ モバイル コンピューティング デバイスのベスト プラクティス.....	224
バッテリの安全に関するガイドライン.....	224
クリーニング方法.....	225
清掃と消毒のガイドライン .....	225
使用できる洗浄剤と消毒剤.....	226
TC52x-HC 向けの承認済みの洗浄剤と消毒剤.....	226
クリーニングの際の注意事項.....	226
クリーニングの頻度.....	226
デバイスのクリーニング.....	227
ハウジング.....	227
ディスプレイ.....	227
カメラとスキヤナ ウィンドウ.....	227
バッテリ ガイド スロット.....	227
バッテリ コネクタと位置マグネットのクリーニング.....	227
クレードルのコネクタのクリーニング.....	228
トラブルシューティング.....	229
デバイスのリセット.....	229
デバイスのトラブルシューティング .....	229
1 スロット充電専用クレードルのトラブルシューティング .....	232
1 スロット ワークステーション ドッキング クレードルのトラブルシューティング .....	233
2 スロット USB/イーサネット クレードルのトラブルシューティング .....	234
5 スロット充電専用クレードルのトラブルシューティング .....	235
4 スロット バッテリ充電器のトラブルシューティング .....	235
5 スロット イーサネット クレードルのトラブルシューティング .....	236
技術仕様.....	238
読み取り可能距離.....	238
I/O コネクタのピン配列.....	238
1 スロット充電専用クレードルの技術仕様.....	239

## 目次

1 スロット ワークステーション ドッキング クレードルの技術仕様.....	240
2 スロット USB/イーサネット クレードルの技術仕様.....	240
4 スロット充電専用クレードル(バッテリ充電器付き)の技術仕様.....	241
5 スロット充電専用クレードルの技術仕様.....	242
5 スロット イーサネット クレードルの技術仕様.....	242
4 スロット バッテリ充電器の技術仕様.....	243
トリガ ハンドルの技術仕様.....	244
高耐久性充電/USB ケーブルの技術仕様.....	244

# このガイドについて

このガイドでは、TC52x および TC57x タッチ コンピュータの設定と使用方法について説明します。このガイドに示す画面には、デバイス上に表示される実際の画面とは異なるものもあります。

## 構成

このガイドは、以下のモデルを対象としています。

表 1 構成

構成	無線	ディスプレイ	メモリ	データ読み取りオプション	オペレーティングシステム
TC520K-1	WLAN: 802.11 a/b/g/n// ac/d/h/i/r/k/ v3/w WPAN: Bluetooth v5.0 Low Energy	5.0 インチ高解像度 (1080 x 1920) LCD	4GB RAM/32GB フラッシュ	2D イメージャ (SE-4720) および NFC 搭載	Android ベース、Google™ モバイルサービス (GMS) 11
TC520K-1	WLAN: 802.11 a/b/g/n// ac/d/h/i/r/k/ v3/w WPAN: Bluetooth v5.0 Low Energy	5.0 インチ高解像度 (1080 x 1920) LCD	4GB RAM/32GB フラッシュ	2D イメージャ (SE-4720) および NFC 搭載	Android ベース、AOSP 11 (中国のみ)
TC57HO-1	WLAN: 802.11 a/b/g/n/ac/ d/h/i/r/k/ v3/w WPAN: Bluetooth v5.0 Low Energy WWAN: HSPA+/LTE/CDMA	5.0 インチ高解像度 (1080 x 1920) LCD	4GB RAM/32GB フラッシュ	2D イメージャ (SE-4710) および NF 搭載	Google™ モバイルサービス (GMS) 11。

表1 構成 (Continued)

構成	無線	ディスプレイ	メモリ	データ読み取りオプション	オペレーティングシステム
TC57HO-2	WLAN: 802.11 a/b/g/n/ac/d/h/i/r/k/v3/w WPAN: Bluetooth v5.0 Low Energy WWAN: HSPA+/LTE	5.0 インチ高解像度 (1080 x 1920) LCD	4GB RAM/32GB フラッシュ	2D イメージャ (SE-4710) および NFC 搭載	Android オープンソースプロジェクト (AOSP) 11 (中国のみ)。
TC57JO-1	WLAN: 802.11 a/b/g/n/ac/d/h/i/r/k/v3/w WPAN: Bluetooth v5.0 Low Energy WWAN: HSPA+/LTE (データのみ)	5.0 インチ高解像度 (1080 x 1920) LCD	4GB RAM/32GB フラッシュ	2D イメージャ (SE-4710) および NFC 搭載	Google™ モバイルサービス (GMS) 11。 (トルコのみ)。

## 表記規則

本書では、次の表記規則を使用しています。

- **太字**は、次の項目の強調に使用します。
  - ダイアログ ボックス、ウィンドウ、画面の名前
  - ドロップダウンリスト名、リスト ボックス名
  - チェックボックスおよびラジオ ボタン名
  - 画面上のアイコン
  - キーパッド上のキー名
  - 画面上のボタン名
- 中黒 (・) は、次を示します。
  - 実行する操作
  - 代替方法の一覧
  - 実行する必要はあるが、任意の順番で実行できる手順のリスト
- 順番どおりに実行する必要のある手順 (たとえば、順を追った手順) は、番号付きのリストで示されます。

## アイコン表記

このドキュメント セットは、視覚的にわかりやすくする工夫が施されています。ドキュメント セット全体を通じて、次のビジュアル インジケータが使用されています。



**注:** ここに記載されているテキストは、ユーザーが知っておくべき補足情報であり、タスクを完了するために必要ではない情報が記載されています。



**重要:** ここに記載されているテキストは、ユーザーにとって重要な情報です。



**注意—目のけが:** プリンタ内部のクリーニングなど特定の作業を行う場合は、保護眼鏡を着用してください。



**注意—製品の損傷:** 不適切に使用した場合、本製品が損傷するおそれがあります。



**注意:** 記載されている注意事項を守らない場合、ユーザーが軽度または中程度の傷害を負う可能性があります。



**注意—熱い表面:** この部分に触ると、火傷を負う危険性があります。



**注意—ESD:** 回路基板や印刷ヘッドなど、静電気に敏感なコンポーネントを取り扱うときは、静電気に対する適切な安全対策を講じてください。



**注意—電気ショック:** 感電の危険性を回避するため、このタスクまたはタスク手順を実施する前に、デバイスの電源をオフ (O) にし、電源を切ってください。



**警告:** 感電の危険性を回避しない場合、ユーザーが重傷を負うか、死亡するおそれがあります。



**危険:** 危険を回避しない場合、ユーザーが重傷を負うか、死亡するおそれがあります。

## サービスに関する情報

お使いの機器に問題が発生した場合は、地域担当の Zebra グローバル カスタマー サポートにお問い合わせください。問い合わせ先情報については、次の Web サイトをご覧ください。 [zebra.com/support](http://zebra.com/support)

サポートへのお問い合わせの際は、以下の情報をご用意ください。

- 装置のシリアル番号
- モデル番号または製品名
- ソフトウェアのタイプとバージョン番号

Zebra が、サービス契約で定められた期間内に電子メール、電話、またはファックスでお問い合わせに対応いたします。

Zebra カスタマー サポートが問題を解決できない場合、修理のため機器をご返送いただくことがあります。その際に詳しい手順をご案内します。Zebra は、承認された梱包箱を使用せずに発生した搬送時の損傷について、その責任を負わないものとします。装置を不適切な方法で搬送すると、保証が無効になる場合があります。

ご使用の Zebra ビジネス 製品を Zebra ビジネス パートナーから購入された場合、サポートについては購入先のビジネス パートナーにお問い合わせください。

## ソフトウェア バージョンの確認

カスタマー サポートに問い合わせる前に、お使いのデバイスの現在のソフトウェア バージョンを確認してください。

1. ステータス バーから 2 本の指で下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開き、 をタッチします。
2. **[About phone] (電話機情報)** をタッチします。
3. スクロールして、次の情報を表示します。
  - ステータス
  - バッテリ情報
  - 緊急時情報
  - SW コンポーネント
  - 法的情報
  - モデルとハードウェア
  - モデル
  - Android バージョン
    - Android セキュリティ パッチ レベル
    - Android セキュリティ パッチ バージョン
    - Google Play のシステム更新
    - ベースバンド バージョン
    - カーネル バージョン
    - ビルド フィンガープリント
    - ビルド番号
    - Android セキュリティ 更新

デバイス IMEI 情報を確認するには (WWAN のみ)、**[About phone] (電話機情報)[IMEI]** の順にタッチします。

- **[IMEI]** - デバイスの IMEI 番号を表示します。
- **[IMEI SV]** - デバイスの IMEI ソフトウェアバージョン (SV) 番号を表示します。

## シリアル番号の確認

カスタマー サポートに問い合わせる前に、お使いのデバイスのシリアル番号を確認してください。

- ステータス バーから 2 本の指で下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開き、 をタッチします。
- **[About phone] (電話機情報)** をタッチします。
- **[Status] (ステータス)** をタッチします。
- **[Model & hardware] (モデルとハードウェア)** をタッチします。
- **[Serial number] (シリアル番号)** にタッチします。

# ご使用の前に

このセクションでは、デバイスを初めて使用する際の手順について説明します。

## デバイスの開梱

デバイスを梱包箱から開梱します。

1. デバイスを覆っている保護材をすべて慎重に取り外して、後で保管や搬送に使用できるように梱包箱を保管しておきます。
2. 次のものが含まれていることを確認します。
  - タッチコンピュータ
  - >15.48ワット時(標準) / ≥ 4,150mAh PowerPrecision+ リチウムイオンバッテリ
  - 規制ガイド
3. 破損している機器がないかどうかを確認してください。不足または破損している機器がある場合、グローバルカスタマーサポートセンターにただちにお問い合わせください。
4. デバイスを初めて使用する前に、スキャンウィンドウ、ディスプレイ、カメラウィンドウを覆っている搬送保護フィルムをはがしてください。

## 機能

このセクションでは、TC52x、TC52x-HC、およびTC57xタッチコンピュータの機能について説明します。



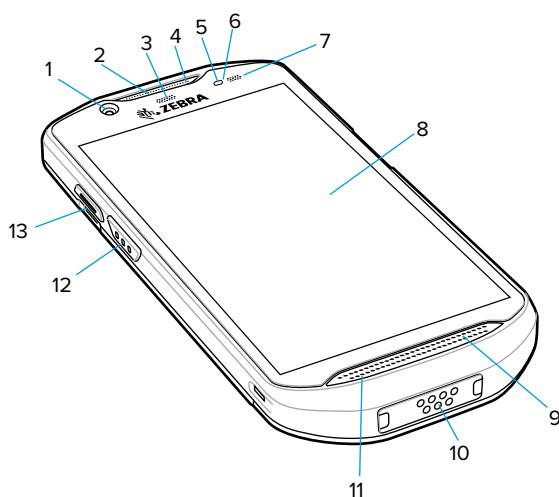
**注:** 特に記載のない限り、TC52x(標準)およびTC52x-HC(医療用)構成の両方ですべての機能を利用できます。



**注意:** デバイス下部の7ピンインターフェースコネクタは取り外しできません。コネクタを無理に取り外そうとすると、デバイスが損傷し、保証が無効になる場合があります。

## ご使用の前に

図1 正面図



番号	項目	説明
1	5MP 前面カメラ	写真やビデオを撮影します。
2	レシーバー	ハンドセットモードでのオーディオ再生に使用します。
3	データ収集 LED	データ収集ステータスを示します。
4	マイク	スピーカフォンモードでの通話に使用します。
5	近接センサ	ハンドセットモードでディスプレイをオフにするために、近接状態を判別します。
6	光センサ	ディスプレイバックライトの輝度をコントロールするために、周辺光を判別します。
7	充電/通知 LED	充電中のバッテリ充電状態と、アプリケーションから生成された通知を示します。
8	タッチスクリーン	デバイスの操作に必要な情報がすべて表示されます。
9	スピーカ	ビデオおよび音楽を再生するための音声を出力します。スピーカモードで音声を出力します。
10	インターフェースコネクタ	USBホストとUSBクライアントの通信、ケーブルおよびアクセサリを使用したオーディオおよびデバイス充電に使用します。
11	マイク	ハンドセットモードでの通信に使用します。
12	スキャンボタン	データ収集を開始します(プログラム可能)。
13	プログラム可能ボタン	通常、PTT通信に使用します。規制上の制限がある場合、ボタンは他のアプリケーションで使用できるように設定できます。 注1: パキスタン、カタール

図2 TC52x 背面図

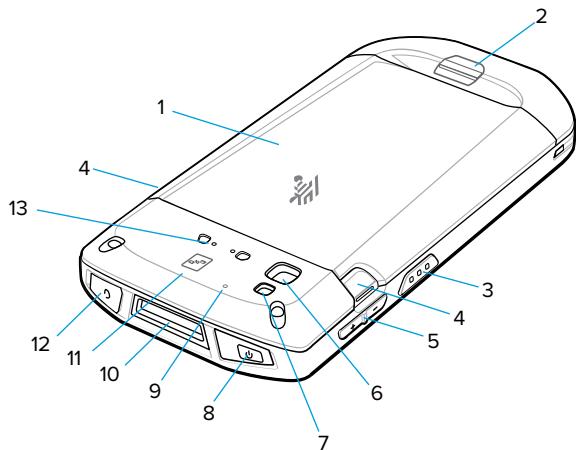


表2 TC52x 背面図

番号	項目	説明
1	バッテリ	$\geq 15.48$ ワット時 (標準)/ $\geq 4,150\text{mAh}$ PowerPrecision+ リチウムイオン バッテリ
2	ベーシックハンドストラップマウント	ベーシックハンドストラップアクセサリ用の取り付けポイントになります。
3	スキャンボタン	データ収集を開始します (プログラム可能)。
4	バッテリリリースラッチ	押して、バッテリを取り外します。
5	音量上/下ボタン	音声のボリュームを調節します (プログラム可能)。
6	13MP 背面カメラ	写真やビデオを撮影します。
7	カメラフラッシュ	カメラ用の照明です。
8	電源ボタン	ディスプレイをオン/オフにします。ボタンを長押しして本デバイスのリセット、電源オフまたはバッテリ交換を行います。
9	マイク	雑音消去機能に使用します。
10	スキャナーウィンドウ	イメージヤを使用したデータ収集に使用します。
11	NFC アンテナ	他の NFC 対応デバイスとの通信に使用します。
12	ヘッドセットジャック	ヘッドセットへの音声の出力に使用します。
13	トリガーハンドルマウント	トリガーハンドルの電気接点と取り付けに使用します。

図3 TC52x-HC 背面図

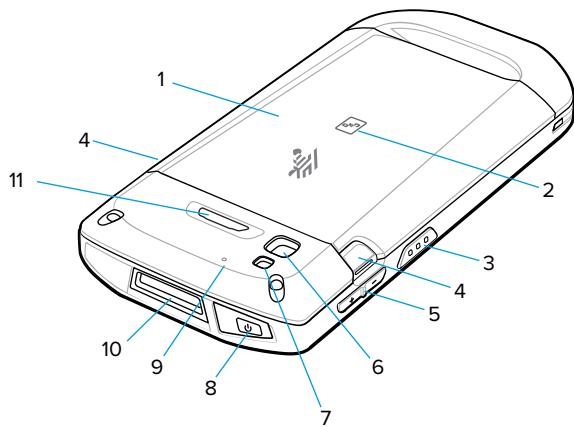


表3 TC52x-HC 背面図

番号	項目	説明
1	バッテリ	$\geq 15.48$ ワット時 (標準) / $\geq 4,150\text{mAh}$ PowerPrecision+ リチウムイオン バッテリ
2	NFC アンテナ	他の NFC 対応デバイスとの通信に使用します。
3	スキャン ボタン	データ収集を開始します (プログラム可能)。
4	バッテリリリース ラッチ	押して、バッテリを取り外します。
5	音量上/下ボタン	音声のボリュームを調節します (プログラム可能)。
6	13MP 背面カメラ	写真やビデオを撮影します。
7	カメラ フラッシュ	カメラ用の照明です。
8	電源ボタン	ディスプレイをオン/オフにします。ボタンを長押しして本デバイスのリセット、電源オフまたはバッテリ交換を行います。
9	マイク	雑音消去機能に使用します。
10	スキャナ ウィンドウ	イメージャを使用したデータ収集に使用します。
11	アラート ボタン	アプリケーションで使用するプログラム可能ボタン。

図4 TC57x 背面図

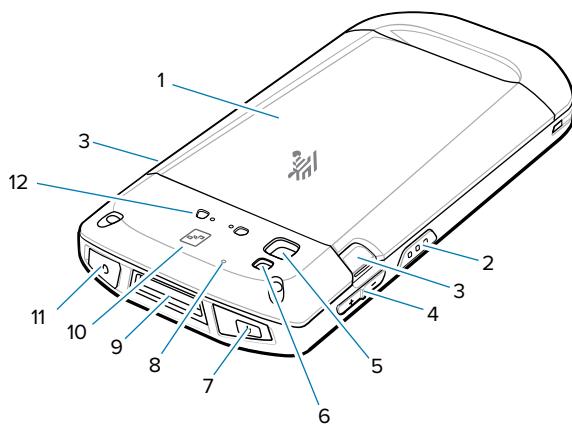


表4 TC57x 背面図

番号	項目	説明
1	バッテリ	$\geq 15.48$ ワット時 (標準) / $\geq 4,150\text{mAh}$ PowerPrecision+ リチウムイオン バッテリ
2	スキャンボタン	データ収集を開始します (プログラム可能)。
3	バッテリリリースラッチ	押して、バッテリを取り外します。
4	音量上/下ボタン	音声のボリュームを調節します (プログラム可能)。
5	13MP 背面カメラ	写真やビデオを撮影します。
6	カメラフラッシュ	カメラ用の照明です。
7	電源ボタン	ディスプレイをオン/オフにします。ボタンを長押しして本デバイスのリセット、電源オフまたはバッテリ交換を行います。
8	マイク	雑音消去機能に使用します。
9	スキャナ ウィンドウ	イメージャを使用したデータ収集に使用します。
10	NFC アンテナ	他の NFC 対応デバイスとの通信に使用します。
11	ヘッドセットジャック	ヘッドセットへの音声の出力に使用します。
12	トリガハンドルマウント	トリガハンドルの電気接点と取り付けに使用します。

## 本デバイスのセットアップ

デバイスを初めて使用する場合。

デバイスを初めて使用する際には、次のことを行います。

1. nano SIM カードを取り付けます (TC57x のみ)。

2. マイクロセキュアデジタル(SD)カードを取り付けます(オプション)。
3. ハンドストラップを取り付けます(オプション)。
4. バッテリを取り付けます。
5. デバイスを充電します。
6. デバイスの電源をオンにします。

### SIM カードの取り付け

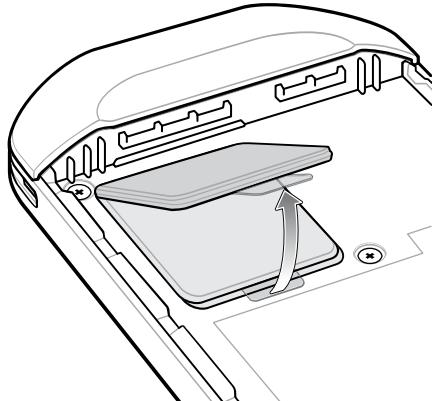


注: nanoSIM カードのみを使用してください。

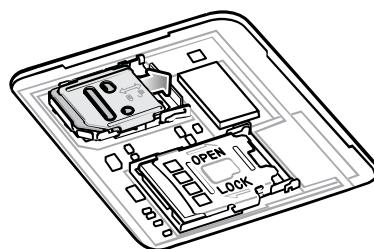


**注意:** SIM カードを損傷しないように、静電気放電(ESD)に関する注意事項に従ってください。ESD に関する適切な注意事項には、ESD マット上での作業や、作業する場合の適切な接地などが記載されています。

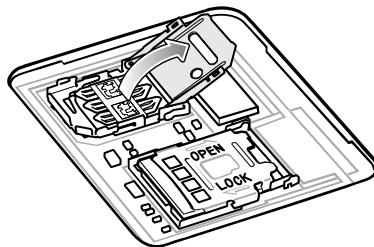
1. アクセスカバーを取り外します。



2. SIM カードホルダをスライドさせてロックを解除します。

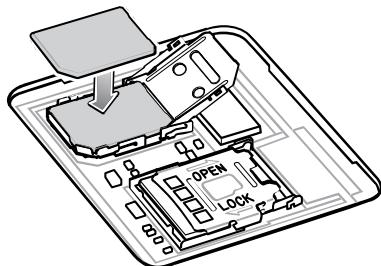


3. SIM カードホルダドアを持ち上げます。

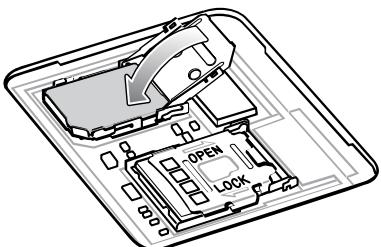


## ご使用の前に

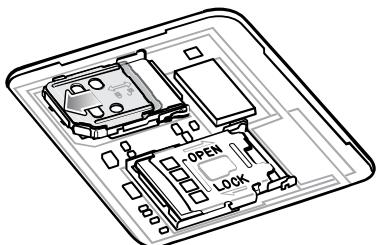
4. カード ホルダに nanoSIM カードを下向きに置きます。



5. SIM カード ホルダ ドアを閉じます。

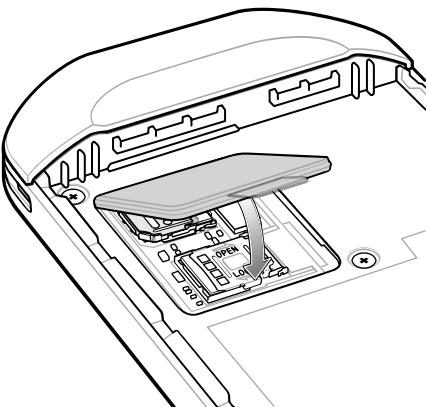


6. SIM カード ホルダ ドアをスライドさせてロックします。



注意：デバイスの適切な密閉状態を確保するために、アクセス ドアは元の位置にしっかりと取り付ける必要があります。

7. アクセス ドアを元に戻します。



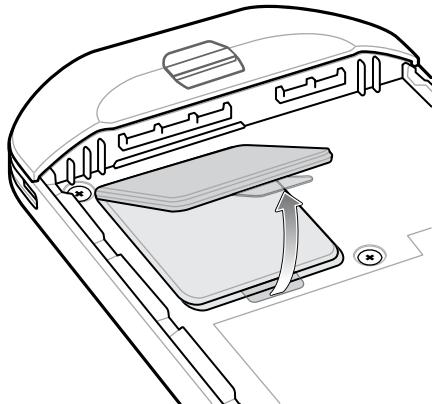
## microSD カードの取り付け

microSD カード スロットを不揮発性のセカンダリストレージに使用できます。スロットはバッテリ パックの下にあります。詳細については、カードに添付されているマニュアルを参照し、メーカーの推奨使用方法に従ってください。

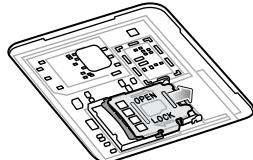


**注意—ESD:** microSD カードを損傷しないように、静電気放電 (ESD) に関する注意事項に従ってください。適切な ESD 予防策には、ESD マットでの作業、および作業者が適切に接地されていることの確認が含まれますが、これらに限定されません。

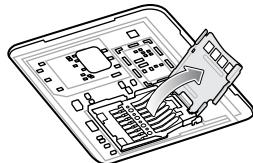
1. アクセス ドアを持ち上げます。



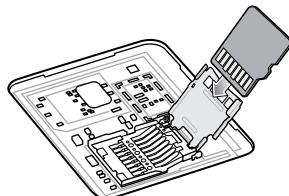
2. microSD カード ホルダをスライドさせてロックを解除します。



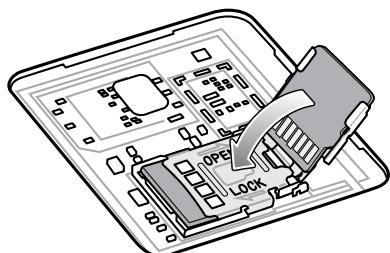
3. microSD カード ホルダを持ち上げます。



4. microSD カードをドアの両端にある固定タブ内部にスライドさせて、カード ホルダ ドアに挿入します。

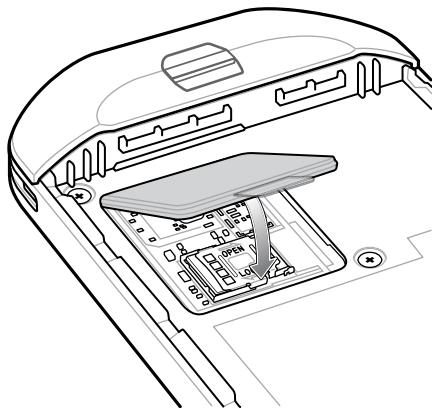


5. microSD カード ホルダを閉じ、ロックします。



**注意：**デバイスの適切な密閉状態を確保するために、アクセスドアは元の位置にしっかりと取り付ける必要があります。

6. アクセスドアを元に戻します。



## バッテリの取り付け

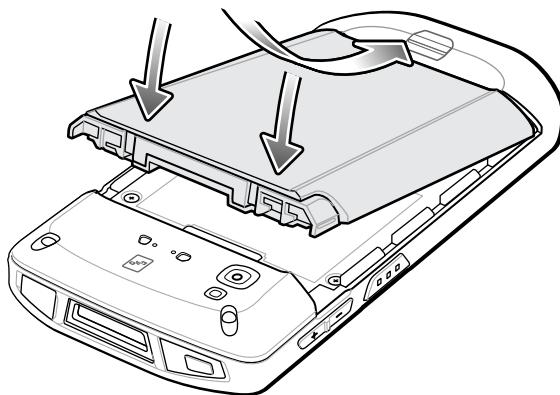
このセクションでは、TC52x、TC52x-HC、またはTC57x デバイスにバッテリを取り付ける方法について説明します。



**注：**特にバッテリパック収納部に対して、ユーザーによる本デバイスの改変(ラベル、資産タグ、刻印、ステッカーなど)を加えると、本デバイスまたはアクセサリの意図された性能が損なわれる可能性があります。シーリング(保護等級(IP))、衝撃性能(落下および転倒)、機能、耐熱性などの性能レベルが影響を受けることがあります。バッテリパック収納部にラベル、資産タグ、刻印、ステッカーなどを付けないでください。

1. デバイスの背面のバッテリコンパートメントに、バッテリを取り付けます。この場合、バッテリの下側を先に入れます。

- 所定の位置にカチッと止まるまでバッテリを押し込みます。



## バッテリの充電

デバイスを初めて使用する場合、まずバッテリ充電/通知 LED が緑色に点灯するまで、メイン バッテリを充電します。本デバイスを充電するには、ケーブルまたはクレードルを使用して適切な電源に接続します。

デバイスで使用可能なアクセサリの詳細については、「[アクセサリ](#)」を参照してください。バッテリが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。



### 注:

多くの場合、日常的な使用に対しては 90% までの充電で充分です。100% にフル充電すると、約 14 時間連続で使用できます。

最も速く充電するには、Zebra の充電アクセサリおよびバッテリのみを使用してください。デバイスをスリープ モードにして、室温でバッテリを充電してください。

バッテリは、5 ~ 40°C (41 ~ 104°F) の温度で充電してください。デバイスやアクセサリのバッテリ充電は、常に安全かつ適切に行われます。高温時(約 37°C 以上 (98°F 以上) など)には、デバイスまたはアクセサリは、バッテリの充電を有効と無効に交互に短時間で切り替えて、バッテリを許容温度に保つ場合があります。デバイスやアクセサリで異常な温度のため充電を中止した場合には、LED が点灯とともにディスプレイに通知が表示されます。

メイン バッテリを充電するには、次の手順に従います。

- 充電アクセサリを適切な電源に接続します。
- 本デバイスをクレードルにセットするか、ケーブルを接続します。本デバイスの電源がオンになり、充電が開始されます。充電中は、充電/通知 LED が黄色で点滅し、充電が完了すると緑色の点灯に変わります。

## 充電の表示

充電/通知 LED は充電ステータスを示します。

表 5 充電/通知 LED 充電インジケータ

状態	LED	表示
オフ	oooooo oooooo	デバイスは充電されていません。デバイスが正しくクレードルにセットされていないか、電源に接続されていません。充電器/クレードルに電源が供給されていません。
黄色でゆっくり点滅 (4秒に1回点滅)	●●●●	デバイスは充電中です。
赤色でゆっくり点滅 (4秒に1回点滅)	●●●●	デバイスは充電中ですが、バッテリパックの寿命が近づいています。
緑色で点灯	●●●●	充電が完了しました。
赤色で点灯	●●●●	充電を完了しましたが、バッテリパックの寿命が近づいています。
黄色で速く点滅 (1秒間に2回点滅)	●●●●	充電エラーです。次のような場合に、この状態になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 温度が低すぎるか、高すぎます。</li><li>• </li><li>• 充電完了までの時間が長すぎます(通常は8時間)。</li><li>• </li></ul>
赤色ですばやく点滅 (1秒間に2回点滅)	●●●●	充電エラーですが、バッテリの寿命が近づいています。次のよろうな場合にこの状態になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 温度が低すぎるか、高すぎます。</li><li>• 充電完了までの時間が長すぎます(通常は8時間)。</li></ul>

## TC52x/TC57x バッテリの交換

TC52x および TC57x デバイスのバッテリの交換。



**注:** 特にバッテリパック収納部に対して、ユーザーによる本デバイスの改変(ラベル、資産タグ、刻印、ステッカーなど)を加えると、本デバイスまたはアクセサリの意図された性能が損なわれる可能性があります。シーリング(保護等級(IP))、衝撃性能(落下および転倒)、機能、耐熱性などの性能レベルが影響を受けることがあります。バッテリパック収納部にラベル、資産タグ、刻印、ステッカーなどを付けないでください。



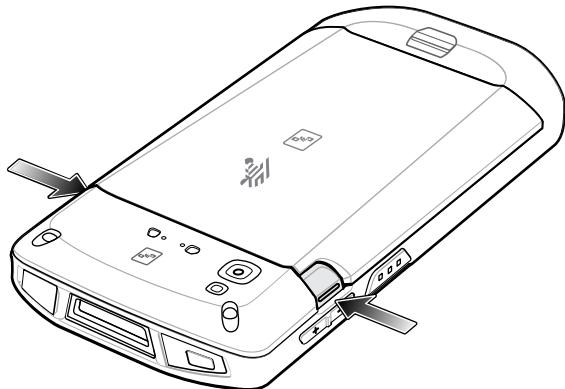
**注意:** バッテリの交換中は、microSD カードの挿入や取り出しを行わないでください。

1. メニューが表示されるまで電源ボタンを押し続けます。
2. [Battery Swap] (バッテリ交換) をタッチします。
3. 画面に表示される指示に従います。

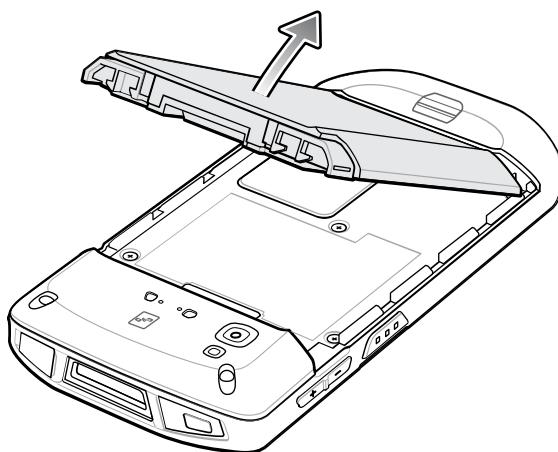


**警告：**赤色の LED が完全に消灯するまで、バッテリを取り外さないでください。データが失われる可能性があります。

4. 赤色の LED が完全に消灯するのを待ちます。
5. ハンドストラップが取り付けられている場合、ハンドストラップを外します。
6. 2つのバッテリ ラッチを押し入れます。



7. バッテリをデバイスから取り出します。



**注意：**75 秒以内にバッテリを交換します。75 秒経過するとデバイスが再起動し、データが失われる可能性があります。

8. デバイスの背面のバッテリ コンパートメントに、交換用のバッテリを取り付けます。この場合、バッテリの下側を先に入れます。
9. バッテリリリース ラッチが所定の位置に収まるまで、バッテリを押し下げます。
10. 必要に応じて、ハンドストラップを元に戻します。
11. 電源ボタンを押して、デバイスの電源をオンにします。

## TC52x-HC バッテリの交換

TC52x-HC デバイスは、バッテリのホットスワップをサポートしています。ユーザーは、Wi-Fi とメモリを維持したまま、30 秒以内にバッテリを取り外し、新しいバッテリを取り付けることで、バッテリを交換できます。30 秒後、Wi-Fi は切断されますが、ユーザーにはバッテリを交換するためにさらに 60 秒の余裕があります。



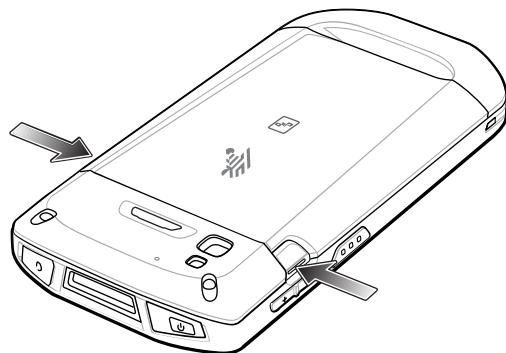
**注:** 特にバッテリ パック収納部に対して、ユーザーによる本デバイスの改変(ラベル、資産タグ、刻印、ステッカーなど)を加えると、本デバイスまたはアクセサリの意図された性能が損なわれる可能性があります。シーリング(保護等級(IP))、衝撃性能(落下および転倒)、機能、耐熱性などの性能レベルが影響を受けることがあります。バッテリ パック収納部にラベル、資産タグ、刻印、ステッカーなどを付けないでください。



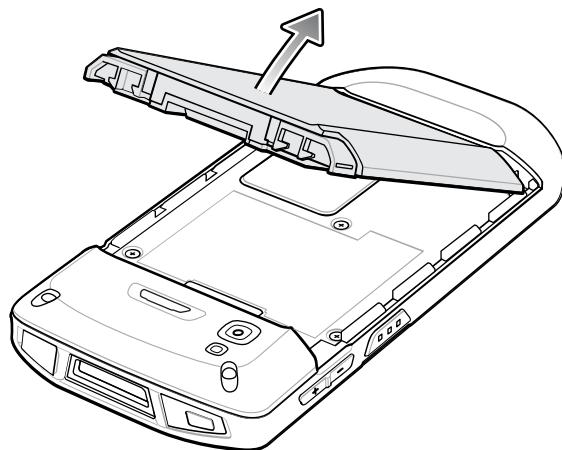
**注意:** バッテリの交換中は、microSD カードの挿入や取り出しを行わないでください。

バッテリを交換するには、次の手順に従います。

1. 2つのバッテリ ラッチを押し入れます。



2. バッテリをデバイスから取り出します。ディスプレイがオフになります。



**注意:** Wi-Fi 接続を維持するには、30 秒以内にバッテリを交換します。

3. デバイスの背面のバッテリ コンパートメントに、交換用のバッテリを取り付けます。この場合、バッテリの下側を先に入れます。
4. バッテリ リリース ラッチが所定の位置に収まるまで、バッテリを押し下げます。
5. ディスプレイがオンになります。

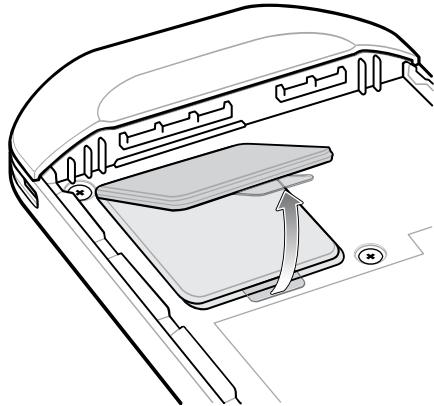
## microSD カードの交換

microSD カードを交換するには、次の手順を実行します。

microSD カードを交換するには、次の手順に従います。

## ご使用の前に

1. メニューが表示されるまで電源ボタンを押し続けます。
2. [Power off] (電源オフ) をタッチします。
3. [OK] をタッチします。
4. ハンドストラップが取り付けられている場合、ハンドストラップクリップをデバイスの上にスライドさせ、持ち上げます。
5. 2つのバッテリ ラッチを押し入れます。
6. バッテリをデバイスから取り出します。
7. アクセス ドアを持ち上げます。

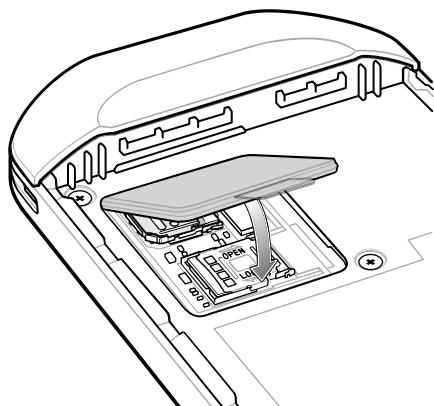


8. microSD カードをホルダから取り外します。
9. 交換用の microSD カードを取り付けます。



**注意：**デバイスの適切な密閉状態を確保するために、アクセス ドアは元の位置にしっかりと取り付ける必要があります。

10. アクセス ドアを元に戻します。



11. デバイスの背面のバッテリ コンパートメントに、バッテリを取り付けます。この場合、バッテリの下側を先に入れます。
12. バッテリリリース ラッチが固定されるまで、バッテリを押し下げます。
13. 必要に応じて、ハンドストラップを元に戻します。
14. 電源ボタンを長押しして、デバイスの電源をオンにします。

## SIM カードの交換

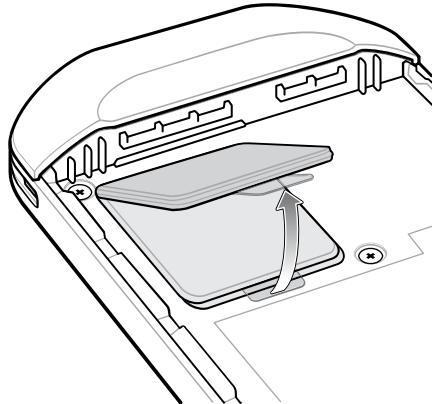
SIM カードを交換するには、次の手順を実行します。



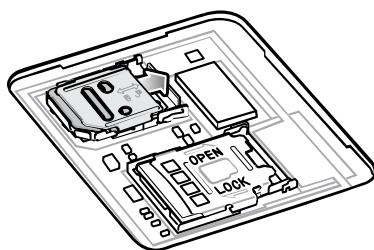
**注:** 特にバッテリパック収納部に対して、ユーザーによる本デバイスの改変(ラベル、資産タグ、刻印、ステッカーなど)を加えると、本デバイスまたはアクセサリーの意図された性能が損なわれる可能性があります。シーリング(保護等級(IP))、衝撃性能(落下および転倒)、機能、耐熱性などの性能レベルが影響を受けることがあります。バッテリパック収納部にラベル、資産タグ、刻印、ステッカーなどを付けないでください。

SIM カードを交換するには、次の手順に従います。

1. メニューが表示されるまで電源ボタンを押し続けます。
2. [Power off] (電源オフ) をタッチします。
3. [OK] をタッチします。
4. ハンドストラップが取り付けられている場合、ハンドストラップクリップをデバイスの上にスライドさせ、持ち上げます。
5. 2つのバッテリラッチを押し入れます。
6. バッテリをデバイスから取り出します。
7. アクセスドアを持ち上げます。

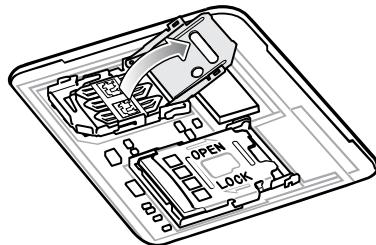


8. SIM カード ホルダのドアをスライドさせてロックを解除します。



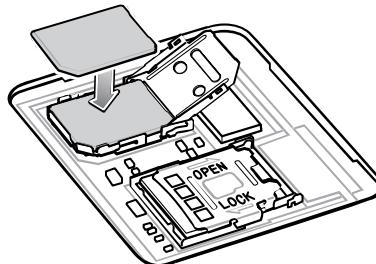
## ご使用の前に

9. SIM カード ホルダ ドアを持ち上げます。

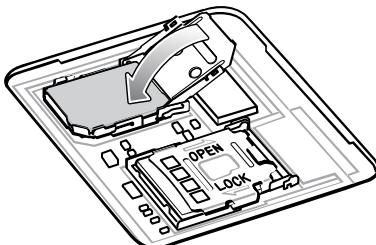


10. SIM カードを取り外します。

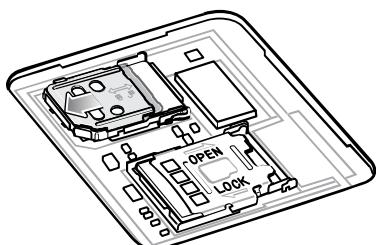
11. カード ホルダに新しい SIM カードを下向きに取り付けます。



12. SIM カード ホルダを閉じます。

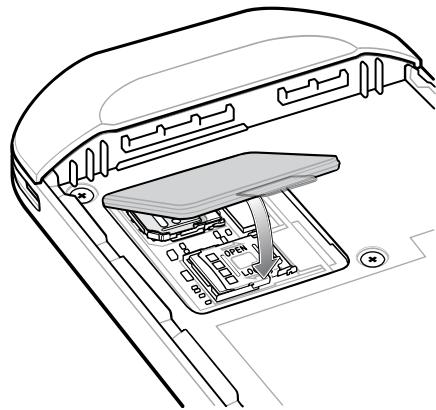


13. SIM カード ホルダのドアをスライドさせてロックします。



注意：デバイスの適切な密閉状態を確保するために、アクセス ドアは元の位置にしっかりと取り付ける必要があります。

14. アクセス ドアを元に戻します。



15. デバイスの背面のバッテリ コンパートメントに、バッテリを取り付けます。この場合、バッテリの下側を先に入れます。
16. バッテリ リリース ラッチが所定の位置に固定されるまで、バッテリを押し下げます。
17. 必要に応じて、ハンド ストラップを元に戻します。
18. 電源ボタンを長押しして、デバイスの電源をオンにします。

# デバイスの使用方法

このセクションでは、デバイスの使用方法について説明します。

## ホーム画面

ホーム画面を表示するには、デバイスの電源をオンにします。システム管理者によるデバイスの設定によっては、ホーム画面がこのセクションの図と異なる場合があります。

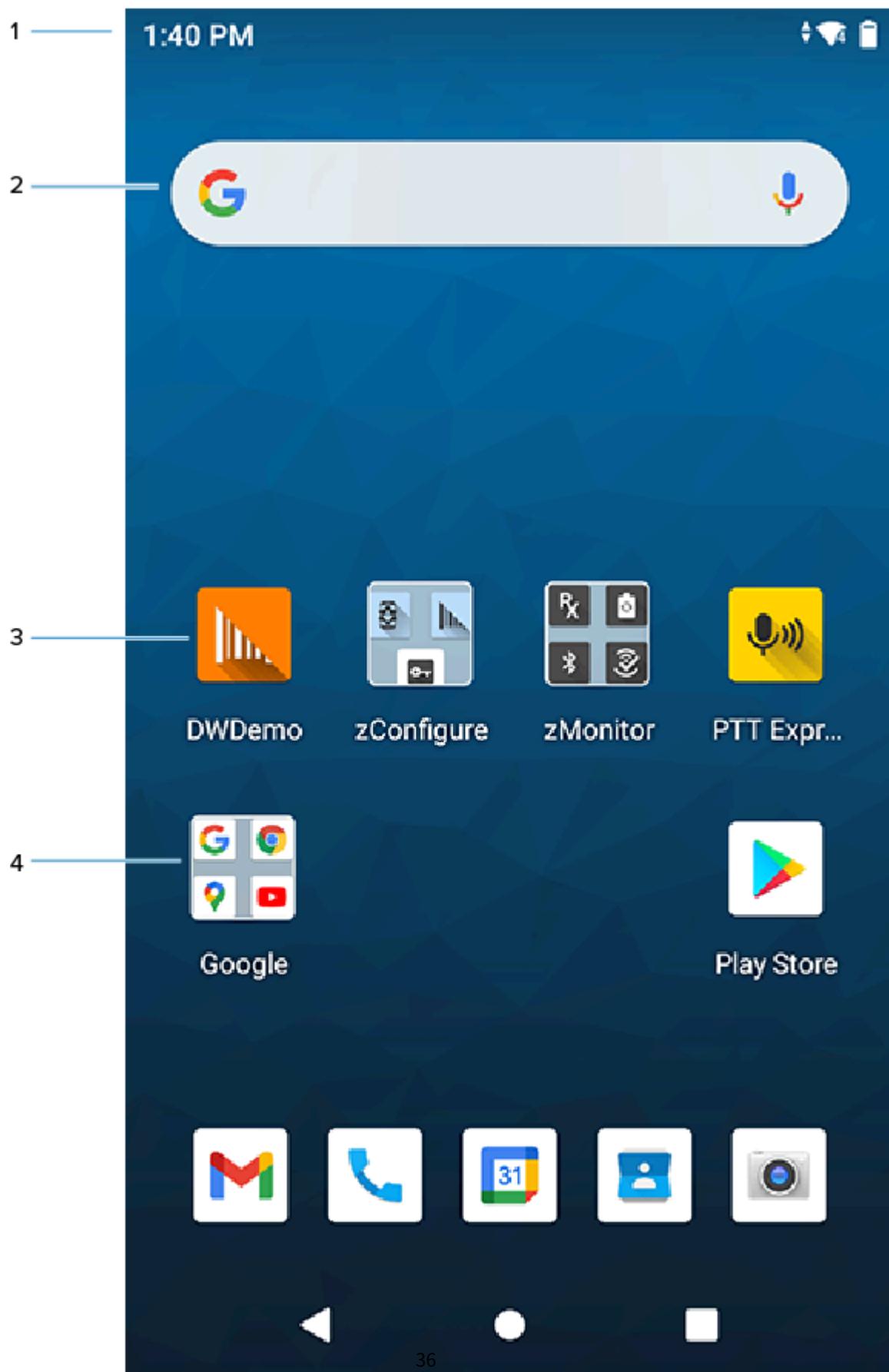
デバイスがスリープ モードになると、ホーム画面にロック スライダが表示されます。画面にタッチし、上にスライドさせてロックを解除します。ホーム画面には、ウィジェットとショートカットを配置するための 4 つの追加画面があります。画面を左右にスワイプすると、追加画面が表示されます。



**注:** デフォルトでは、AOSP デバイスは GMS デバイスとホーム画面上のアイコンが異なります。以下に記載されているアイコンは一例です。

ホーム画面アイコンはユーザーが設定可能で、ここに示すものとは異なる可能性があります。

図5 ホーム画面



1	ステータスバー	時間、ステータスアイコン(右側)、および通知アイコン(左側)が表示されます。
2	ウィジェット	ホーム画面で実行するスタンドアロン型のアプリを起動します。
3	ショートカットアイコン	デバイスにインストールされているアプリが開きます。
4	フォルダ	アプリが入っています。
5	戻る	前の画面を表示します。
6	ホーム	ホーム画面を表示します。
7	履歴	最近使用したアプリケーションを表示します。

## ホーム画面回転の設定

デフォルトでは、ホーム画面の回転は無効になっています。



注：ホーム画面回転の設定を使用するには、クイックアクセスパネルまたは[Settings](設定)で自動回転を有効にする必要があります。

1. オプションが表示されるまで、ホーム画面を長押しします。
2. [Home settings](ホームの設定)をタッチします。
3. [Allow Home screen rotation](ホーム画面の回転を許可する)スイッチをタッチします。
4. [Home](ホーム)をタッチします。
5. デバイスを回転させます。

## ステータスバー

ステータスバーには、時間、通知アイコン(左側)、およびステータスアイコン(右側)が表示されます。

ステータスバーに表示可能な数より多くの通知がある場合、他にも通知があることを示す1個のドットが表示されます。ステータスバーから下にスワイプして通知パネルを開き、すべての通知とステータスを表示します。

図6 通知アイコンおよびステータスアイコン



1	通知アイコン
2	ステータスアイコン

## 通知アイコン

通知アイコンはアプリのイベントとメッセージを示します。

表 6 通知アイコン

アイコン	説明
	メインバッテリの残量が少なくなっています。
	表示されていない通知があります。
	データを同期中です。
	間近に迫ったイベントを示します。AOSP 搭載デバイスのみ。
	間近に迫ったイベントを示します。GMS 搭載デバイスのみ。
	オープン Wi-Fi ネットワークが利用できます。
	音声の再生中です。
	サインインまたは同期で問題が発生しました。
	デバイスはデータのアップロード中です。
	動画表示: デバイスはデータのダウンロード中です。静止画表示: ダウンロードが完了しました。
	デバイスが仮想プライベート ネットワーク (VPN) 経由で接続しているか、または VPN から切断されました。
	内部ストレージのエラーをチェックして準備しています。
	デバイスで USB デバッグが有効になっています。
	通話中です (WWAN のみ)。
	メールボックスに 1 つ以上のボイス メッセージが含まれています (WWAN のみ)。
	通話が保留中です (WWAN のみ)。
	未応答の通話があります (WWAN のみ)。

表6 通知アイコン (Continued)

アイコン	説明
	ブーム モジュール付き有線ヘッドセットがデバイスに接続されています。
	ブーム モジュールのない有線ヘッドセットがデバイスに接続されています。
	PTT Express Voice クライアントのステータス。詳細なリストについては、 <a href="#">PTT Express の「PTT 通知アイコン」</a> を参照してください。
	RxLogger アプリが実行中であることを示します。
	Bluetooth スキャナがデバイスに接続されていることを示します。
	リング スキャナが HID モードでデバイスに接続されていることを示します。

## ステータス アイコン

ステータス アイコンはデバイスのシステム情報を表示します。

表7 ステータス アイコン

アイコン	説明
	アラームがアクティブです。
	メイン バッテリはフル充電されています。
	メイン バッテリは一部が消耗された状態です。
	メイン バッテリの残量が少なくなっています。
	メイン バッテリの残量が非常に少なくなっています。
	UPS バッテリはフル充電されています。
	メディアとアラーム以外のすべての音がミュートされています。バイブレーション モードが有効になっています。
	非通知モードが有効になっています。

表7 ステータス アイコン (Continued)

アイコン	説明
	機内モードが有効になっています。すべての無線がオフになります。
	Bluetooth がオンになっています。
	デバイスが Bluetooth デバイスに接続しています。
	Wi-Fi ネットワークに接続されていることを示します。Wi-Fi のバージョン番号を示します。
	Wi-Fi ネットワークに接続されていないか、Wi-Fi 信号がありません。
	イーサネット ネットワークに接続されています。
	スピーカfonがオンになっています。
	ポータブル Wi-Fi ホットスポットが有効です (WWANのみ)。
	4G LTE/LTE-CA ネットワークに接続されています (WWANのみ)。 <small>a</small>
	DC-HSPA、HSDPA、HSPA+、HSUPA、LTE/LTE-CA、またはWCMDMA ネットワークに接続されています (WWANのみ)。 <small>a</small>
	1x-RTT (Sprint)、EGDGE、EVDO、EVDV、またはWCDMA ネットワークに接続されています (WWANのみ)。 <small>a</small>
	GPRS ネットワークに接続されています (WWANのみ)。 <small>a</small>
	WCDMA ネットワークに接続されています (WWANのみ)。 <small>a</small>
	DC-HSPA、HSDPA、HSPA+、または HSUPA ネットワークに接続されています (WWANのみ)。 <small>a</small>
	EDGE ネットワークに接続されています (WWANのみ)。 <small>a</small>
	GPRS ネットワークに接続されています (WWANのみ)。 <small>a</small>
	1x-RTT (Verizon) ネットワークに接続されています (WWANのみ)。 <small>a</small>

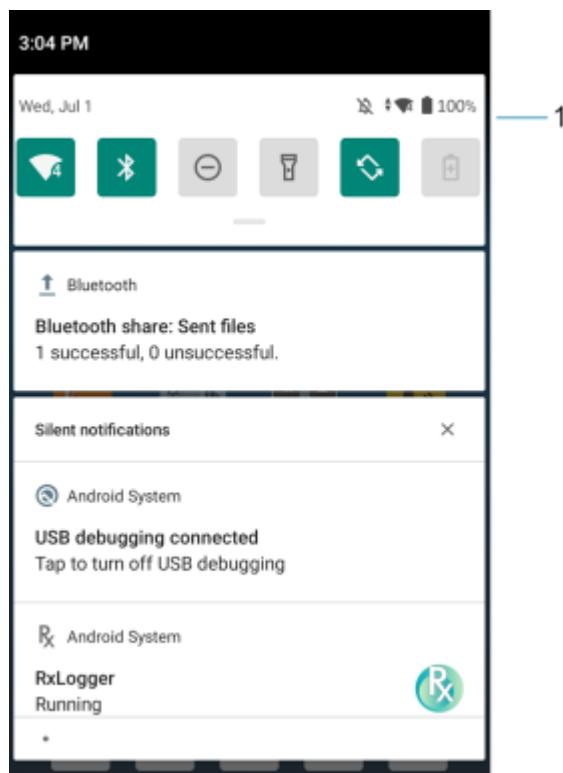
表7 ステータス アイコン (Continued)

アイコン	説明
R ↓↑	ネットワークからのローミング中です (WWANのみ)。
■	SIM カードが取り付けられていません (WWANのみ)。
a	表示される携帯電話ネットワーク アイコンは、携帯電話会社/ネットワークにより異なります。

## 通知の管理

通知アイコンは、新しいメッセージの到着、カレンダ イベント、アラーム、および進行中のイベントを報告します。通知が行われると、簡単な説明とともにアイコンがステータス バーに表示されます。

図7 通知パネル



1	クイック設定バー
---	----------

- すべての通知のリストを表示するには、画面の上部からステータス バーを下にドラッグして通知パネルを開きます。
- 通知に応答するには、通知パネルを開き、通知をタッチします。通知パネルが閉じ、対応するアプリが開きます。

- 最近の通知または頻繁に使用される通知を管理するには、通知パネルを開いて、[Manage notifications] (通知の管理) をタッチします。アプリの横にある切り替えスイッチをタッチしてすべての通知をオフにするか、アプリをタッチしてその他の通知オプションを表示します。
- すべての通知をクリアするには、通知パネルを開き、[CLEAR ALL] (すべてクリア) をタッチします。イベントベースのすべての通知が削除されます。進行中の通知はそのままリストに残ります。
- 通知パネルを閉じるには、通知パネルを上にスワイプします。

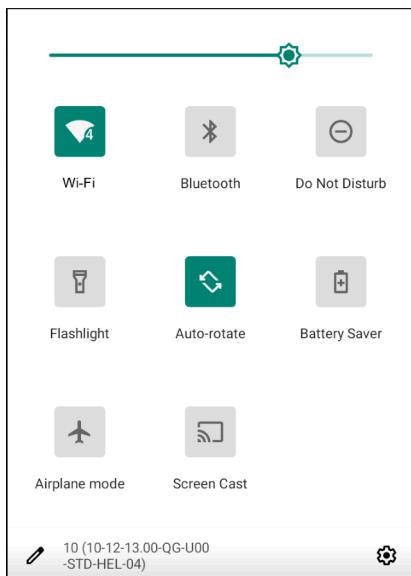
## クイック アクセス パネルを開く

クイック アクセス パネルを使用して、頻繁に使用する設定 (機内モードなど) にアクセスします。



**注:** 図に示されていないアイコンがあります。アイコンは異なる場合があります。

図 8 クイック アクセス パネル



- デバイスがロックされている場合、1回下にスワイプします。
- デバイスがロック解除されている場合、2本の指で1回、または1本の指で2回下にスワイプします。
- 通知パネルが開いている場合は、クイック設定バーから下にスワイプします。

## クイック アクセス パネル アイコン

クイック アクセス パネルのアイコンは、頻繁に使用する設定 (機内モードなど) を示します。

表 8 クイック アクセス パネル アイコン

アイコン	説明
	[Display brightness] (ディスプレイの明るさ) - スライダを使用して、画面の明るさを増減します。

表8 クイック アクセス パネル アイコン (Continued)

アイコン	説明
	[Wi-Fi network] (Wi-Fi ネットワーク) - Wi-Fi のオン/オフを切り替えます。Wi-Fi 設定を開くには、Wi-Fi ネットワーク名をタッチします。
	[Bluetooth settings] (Bluetooth 設定) - Bluetooth のオン/オフを切り替えます。Bluetooth の設定を開くには、[Bluetooth] をタッチします。
	[Do not disturb] (サイレント モード) - 通知を受信する方法とタイミングを制御します。
	[Flashlight] (フラッシュライト) - ライトをオンまたはオフにします。カメラのフラッシュをオンまたはオフにします。内部スキャンエンジンが搭載されていないカメラのみ搭載のデバイスでは、アプリを開くとフラッシュライトがオフになります。これにより、カメラでスキャンできるようになります。
	[Auto-rotate] (自動回転) - デバイスの向きを縦または横方向でロックするか、自動的に回転するように設定します。
	[Battery saver] (バッテリ セーバー) - バッテリ セーバー モードのオン/オフを切り替えます。バッテリ セーバー モードがオンになっている場合、バッテリ 電力を節約するためにデバイスのパフォーマンスが低下します (適用されません)。
	[Mobile data] (モバイル データ) - 携帯電話の無線のオン/オフを切り替えます。モバイル データの設定を開くには、長押しします (WWANのみ)。
	[Airplane mode] (機内モード) - 機内モードのオン/オフを切り替えます。機内モードがオンの場合、デバイスは Wi-Fi または Bluetooth に接続しません。
	[Screen Cast] (画面キャスト) - Chromecast、または Chromecast が内蔵されたテレビで、電話のコンテンツを共有できます。キャスト画面にタッチしてデバイスのリストを表示し、デバイスにタッチしてキャストを開始します。
	[Screen Record] (画面の録画) - 画面で行ったすべての操作をビデオに録画できます。オーディオや画面のタッチを含めるオプションもあります。
	[NFC] - NFC 通信を有効または無効にします。
	[Location] (位置情報) - 位置情報機能を有効または無効にします。
	[Hotspot] (ホットスポット) - デバイスのモバイル データ接続を他のデバイスと共有するには、オンにします。
	[Invert colors] (色を反転) - 表示色を反転します。
	[Data Saver] (データ セーバー) - 一部のアプリによるバックグラウンドでのデータ送受信を防止するには、このオプションをオンにします。

表8 クイック アクセス パネル アイコン (Continued)

アイコン	説明
	[Dark Theme] (ダーク テーマ) - ダーク テーマのオンとオフを切り替えます。ダーク テーマでは画面の輝度が減少し、色のコントラスト比が最小に設定されます。これにより、バッテリ電力を節約しながら、目の疲れを軽減し、現在の照明条件に合わせて輝度を調整して暗い環境でも画面を見やすくすることにより、視覚的な人間工学が改善されます。
	[Night Light] (夜間モード) - 照度の低い場所でも画面を見やすくするために、画面を暖色系の色合いに切り替えます。日没から夜明けまで、または他の時間帯に、自動的にオンになるように夜間モードを設定します。
	[Focus mode] (フォーカス モード) - オンにすると集中の妨げとなるアプリが一時停止します。[Focus mode] (フォーカス モード) 設定はタッチして開きます。
	[Bedtime mode] (おやすみ時間モード) - グレースケールのオン/オフを切り替えます。グレースケールを使用すると画面が白黒に変わり、電話の雑音が軽減され、バッテリ寿命が向上します。
	[Nearby Share] (近くの共有) - デバイスの近くのサービスや他のデバイスを見つけて操作します。

## クイック設定バーのアイコンの編集

クイック アクセス パネルの最初の数個の設定タイルがクイック設定バーになります。

- クイック アクセス パネルを開き、 をタッチして設定タイルを編集、追加、または削除します。

## バッテリ管理

デバイスに推奨されるバッテリ最適化のヒントを確認してください。

- 非アクティブ状態で一定時間経過したら画面がオフになるように画面を設定します。
- 画面の輝度を下げます。
- 無線機能を使用していないときは、すべての無線機能をオフにします。
- 電子メール、カレンダ、連絡先、および他のアプリの自動同期機能をオフにします。
- 音楽やビデオなどのアプリを使用するとデバイスがスリープにならないため、これらのアプリケーションの使用は最小限に抑えてください。



注：バッテリ充電レベルを確認する前に、すべての AC 電源 (クレードルまたはケーブル) からデバイスを取り外します。

## 低バッテリ通知

バッテリ充電残量が以下の表に示す充電残量未満になると、デバイスを電源に接続するよう求める通知がデバイスに表示されます。次のいずれかの充電アクセサリを使用して、バッテリを充電します。

表9 低バッテリ通知

充電レベル が次に示す 数値未満に なった場合	アクション
18%	ユーザーはすぐにバッテリを充電する必要があります。
10%	ユーザーはバッテリを充電する必要があります。
4%	デバイスがオフになります。ユーザーはバッテリを充電する必要があります。

## 無線通信のオフ

- ステータスバーから下にスワイプして、クイック設定パネルを開きます。
- [Airplane mode] (機内モード) をタッチします。ステータスバーに航空機アイコン  が表示され、すべての無線がオフになったことを示します。

## インタラクティブなセンサー テクノロジ

このデバイスには、動き、向き、周囲光を監視するセンサーが含まれています。

- ジャイロスコープ - 角回転速度を測定して、デバイスの回転を検知します。
- 加速度計 - 動きの線形加速度を測定して、デバイスの向きを検知します。
- デジタルコンパス - デジタルコンパスまたは磁力計は、地球の磁場に対して単純な向きを示します。結果的に、デバイスは常にどの方向が北かを認識しているため、デバイスの物理的な向きに応じてデジタルマップを自動的に回転させることができます。
- 光センサー - 周辺光を検知し、画面の明るさを調整します。
- 圧力センサー - タッチスクリーンの圧力を検出します。

これらのセンサーを活用するために、アプリケーションはAPIコマンドを使用します。詳細については、Google Android Sensor APIを参照してください。Zebra Android EMDKの詳細については、以下を参照してください。[techdocs.zebra.com](http://techdocs.zebra.com)を参照してください。

## デバイスのウェイクアップ

電源を押したときや、([Display settings] (ディスプレイの設定) ウィンドウで設定した) 一定の期間にわたって非アクティブな状態が続いた場合に、デバイスはスリープモードになります。

- デバイスをスリープモードから復帰させるには、電源または設定されている復帰ソースを押します。[Lock] (ロック) 画面が表示されます。

## 2. 画面を上にスワイプしてロックを解除します。

- [Pattern] (パターン) 画面のロック解除機能が有効な場合は、[Lock] (ロック) 画面ではなく、[Pattern] (パターン) 画面が表示されます。
- [PIN] または [Password] (パスワード) 画面のロック解除機能が有効な場合は、画面をロック解除した後に、PIN またはパスワードを入力します。



**注:** 間違った PIN、パスワードまたはパターンを 5 回入力すると、再試行するまで 30 秒待たなければならなくなります。

- PIN、パスワード、またはパターンを忘れてしまった場合は、システム管理者に連絡してください。

## USB 通信

デバイスとホストコンピュータの間でファイルを転送するには、デバイスをホストコンピュータに接続します。

デバイスをホストコンピュータに接続する場合、ファイルの損傷や破損を防ぐため、ホストコンピュータの USB デバイスの接続と切断の指示に従います。このデバイスで使用可能な USB 通信アクセサリの詳細については、「[アクセサリ](#)」を参照してください。

### ファイルの転送

ファイル転送を使用して、デバイスとホストコンピュータ間でファイルをコピーします。

1. USB アクセサリを使用し、デバイスをホストコンピュータに接続します。
2. デバイスで通知パネルを表示し、[Charging this device via USB] (このデバイスを USB で充電中) をタッチします。  
デフォルトでは、[No data transfer] (データ転送なし) が選択されています。
3. [File Transfer] (ファイル転送) をタッチします。



**注:** [File Transfer] (ファイル転送) の設定を変更してから USB ケーブルを取り外すと、設定は [No data transfer] (データ転送なし) に戻ります。USB ケーブルを再接続したら、[File Transfer] (ファイル転送) をもう一度選択します。

4. ホストコンピュータ上で、ファイルエクスプローラを開きます。
5. ポータブルデバイスとして表示されるデバイスを探します。
6. SD カードまたは内部ストレージ フォルダを開きます。
7. 必要に応じて、デバイスとの間でファイルをコピーしたりファイルを削除したりします。

### 写真的転送

PTP を使用して、デバイスからホストコンピュータに写真をコピーします。

1. USB アクセサリを使用し、デバイスをホストコンピュータに接続します。
2. デバイスで通知パネルを表示し、[Charging this device via USB] (このデバイスを USB で充電中) をタッチします。
3. [Transfer photos (PTP)] (写真を転送する (PTP)) をタッチします。
4. ホストコンピュータ上で、ファイルエクスプローラ アプリケーションを開きます。

5. SD カードまたは内部ストレージ フォルダを開きます。
6. 目的に応じて、写真をコピーまたは削除します。

### ホスト コンピュータからの切断



注：情報が失われないように、ホスト コンピュータの指示に慎重に従って、microSD カードをマウント解除し、USB デバイスを正しく切断します。

1. ホスト コンピュータで、デバイスをマウント解除します。
2. デバイスを USB アクセサリから取り外します。

# 設定

このセクションでは、デバイスの設定について説明します。

## [Settings] (設定)へのアクセス

デバイスの設定にアクセスする方法は複数あります。

- ホーム画面の一番上から2本の指で下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開き、をタッチします。
- ホーム画面の一番上から下にダブルスワイプして、クイック アクセス パネルを開き、をタッチします。
- ホーム画面の一番下から上にスワイプしてアプリ一覧を開き、 [Settings] (設定) をタッチします。

## ディスプレイの設定

ディスプレイの設定を使用して、画面の輝度の変更、夜間モードの有効化、背景画像の変更、画面の回転の有効化、画面タイムアウトの設定、およびフォントサイズの変更を行います。

### 画面の輝度の自動設定

内蔵光センサーを使用して画面の輝度を自動的に調整します。

- [Settings] (設定) に移動します。
- [Display] (ディスプレイ) をタッチします。
- 無効になっている場合、[Adaptive brightness] (明るさの自動調整) をタッチして、輝度が自動的に調整されるようにします。

デフォルトでは、[Adaptive brightness] (明るさの自動調整) は有効になっています。無効にするには、スイッチを切り替えます。

### 画面の輝度の手動設定

タッチスクリーンを使用して画面の輝度を手動で設定します。

- ステータスバーから2本の指で下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開きます。

2. アイコンをスライドさせて画面の輝度レベルを調整します。



## 夜間モードの設定

[Night Light] (夜間モード) 設定を有効にすると、画面が暖色系の色合いになり、照度の低い場所でも画面が見やすくなります。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Display] (ディスプレイ) をタッチします。
3. [Night Light] (夜間モード) をタッチします。
4. [Schedule] (スケジュール) をタッチします。
5. スケジュール値を 1 つ選択します。
  - [None] (なし) (デフォルト)
  - [Turns on at custom time] (指定した時間にオンにする)
  - [Turns on from sunset to sunrise] (日の出から日没までオンにする)
6. デフォルトでは、[Night Light] (夜間モード) は無効になっています。[TURN ON NOW] (今すぐオンにする) をタッチして有効にします。
7. [Intensity] (輝度) スライダを使用して色合いを調整します。

## 画面の回転の設定

デフォルトでは、画面回転は有効になっています。



注：ホーム画面の回転を変更するには、「[ホーム画面回転の設定](#)」を参照してください。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Display] (ディスプレイ) > [Advanced] (詳細) の順にタッチします。
3. [Auto-rotate screen] (画面の自動回転) をタッチします。
4. ホーム ボタンをタッチします。

## 画面のタイムアウトの設定

選択した一定時間に操作が行われないと、画面がオフになり、スリープモードになります。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Display] (ディスプレイ) > [Advanced] (詳細) > [Screen timeout] (画面タイムアウト) の順にタッチします。

### 3. 画面タイムアウト値を1つ選択します。

- [15 seconds] (15秒)
- [30 seconds] (30秒)
- [1 minute] (1分) (デフォルト)
- [2 minutes] (2分)
- [5 minutes] (5分)
- [10 minutes] (10分)
- [30 minutes] (30分)

## ロック画面の通知の設定

ロック画面表示設定で、通知を受信したときに画面がスリープ状態から復帰するようにできます。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Display] (ディスプレイ) > [Advanced] (詳細) の順にタッチします。
3. [Lock screen] (ロック画面) をタッチします。
4. [When to Show] (表示するタイミング) セクションで、スイッチを使用してオプションを有効または無効にします。

## フォントサイズの設定

システムアプリのフォントサイズを設定します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Display] (ディスプレイ) > [Advanced] (詳細) の順にタッチします。
3. [Font size] (フォントサイズ) をタッチします。
4. オプションを選択して、タッチキーライトの点灯時間を選択します。
  - [Small] (小)
  - [Default] (デフォルト)
  - [Large] (大)
  - [Largest] (最大)。

## 表示サイズの設定

デフォルトでは、表示サイズはデフォルトに設定されています。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Display] (ディスプレイ) > [Advanced] (詳細) の順にタッチします。
3. [Display size] (表示サイズ) をタッチします。

4. [-] および [+] をタッチして表示サイズを変更します。
  - [Small] (小)
  - [Default] (デフォルト)
  - [Large] (大)

## 通知 LED の輝度レベル

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Display] (ディスプレイ) > [Advanced] (詳細) の順にタッチします。
3. [Notification LED Brightness Level] (通知 LED の輝度レベル) にタッチします。
4. スライダを使用して、輝度の値を設定します (デフォルト: 15)

## タッチ パネル モードの設定

デバイスは、指、導電性スタイラス、または手袋をはめた指によるタッチを検出できます。



**注:** 医療用のラテックス、皮革、綿、または羊毛製の手袋を使用できます。最適なパフォーマンスを得るためにには、Zebra 認定スタイラスをご使用ください。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Display] (ディスプレイ) > [Advanced] (詳細) の順にタッチします。
3. [TouchPanelUI] をタッチします。
4. 以下のの中から選択します。
  - [Stylus and Finger (Screen Protector OFF)] (スタイルスペンおよび指 (スクリーン保護シートなし)): スクリーン保護シートが貼られていない画面で、指やスタイルスペンを使用できます。
  - [Glove and Finger (Screen Protector OFF)] (手袋および指 (スクリーン保護シートなし)): スクリーン保護シートが貼られていない画面で、指や手袋をはめた指を使用できます。
  - [Stylus and Finger (Screen Protector ON)] (スタイルスペンおよび指 (スクリーン保護シートあり)): スクリーン保護シートが貼られている画面で、指やスタイルスペンを使用できます。
  - [Glove and Finger (Screen Protector ON)] (手袋および指 (スクリーン保護シートあり)): スクリーン保護シートが貼られている画面で、指や手袋をはめた指を使用できます。
  - [Finger Only] (指のみ): 画面で指を使用します (デフォルト)。
5. ホーム ボタンをタッチします。

## 日時の設定

日付と時刻は、デバイスが携帯電話/無線ネットワークに接続されると、NITZ サーバーを使用して自動的に同期されます。無線 LAN でネットワーク タイム プロトコル (NTP) がサポートされていない場合または携帯電話/無線ネットワークに接続されていない場合のみ、タイム ゾーンまたは日時の設定が必要です。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [System] (システム) > [Date & time] (日付/時刻) の順にタッチします。
3. [Use network-provided time] (ネットワークが提供する時刻を使用する) をタッチして、日付と時刻の自動同期を無効にします。

4. タイム ゾーンの自動同期を無効にするには、[Use network-provided time zone] (ネットワークが提供するタイム ゾーンを使用する) をタッチします。
5. [Date] (日付) をタッチして、カレンダの日付を選択します。
6. [OK] をタッチします。
7. [Time] (時刻) をタッチします。
  - a) 緑色の丸いアイコンをタッチし、現在の時間までドラッグして放します。
  - b) 緑色の丸いアイコンをタッチし、現在の分までドラッグして放します。
  - c) [AM] または [PM] (許可) をタッチします。
8. [Time zone] (タイム ゾーン) をタッチして、リストから現在のタイム ゾーンを選択します。
9. [Update Interval] (更新間隔) をタッチして、ネットワークからシステム時刻を同期する間隔を選択します。
10. [TIME FORMAT] (時刻の形式) で、[Use local default] (言語/地域のデフォルトを使用する) または [Use 24-hour format] (24 時間形式を使用) のいずれかを選択します。
11. [Use 24-hour format] (24 時間形式を使用) をタッチします。

## 全般的なサウンド設定

デバイスの音量ボタンを押して、画面上の音量コントロールを表示します。

[Sound] (音) 設定を使用して、メディアおよびアラームの音量を設定します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Sound] (サウンド) をタッチします。
3. オプションにタッチしてサウンドを設定します。

## サウンド オプション

- [Media volume] (メディアの音量) - 音楽、ゲーム、メディアの音量を制御します。
- [Call volume] (通話音量) - 通話中の音量を制御します。
- [Ring & notification volume] (呼び出し音と通知音の音量) - 呼び出し音と通知音の音量を制御します。
- [Alarm volume] (アラームの音量) - アラーム時計の音量を制御します。
- [Vibrate for calls] (着信時に振動) - オンまたはオフを切り替えます。
- [Do Not Disturb] (非通知) - 音と振動の一部またはすべてをミュートします。
- [Media] (メディア) - サウンド再生時にメディア プレーヤを [Quick Settings] (クイック設定) で表示し、すばやくアクセスできるようにします。
- [Shortcut to prevent ringing] (着信音ミュート用のショートカット) - スイッチをオンにすると、電話を受けたときにデバイスが振動します(デフォルト - 無効)。
- [Phone ringtone] (着信音) - 電話が鳴るときの音を選択します。
- [Default notification sound] (デフォルト通知音) - すべてのシステム通知に対して再生される音を選択します。
- [Default alarm sound] (デフォルト アラーム音) - アラームの再生音を選択します。

- その他の音やバイブレーション

- **[Dial pad tones]** (ダイヤル パッド操作音) - ダイヤル パッドのキーを押したときに音が鳴ります (デフォルト - 無効)。
- **[Screen locking sounds]** (画面ロックの音) - 画面をロックまたはロック解除したときに音が鳴ります (デフォルト - 有効)。
- **[Charging sounds and vibration]** (充電時の音とバイブレーション) - デバイスに電源が供給されると音が鳴って振動します (デフォルト - 有効)。
- **[Touch sounds]** (タッチ サウンド) - 画面上で選択を行ったときに音が鳴ります (デフォルト - 有効)。
- **[Touch vibration]** (タッチ時の振動) - 画面上で選択を行ったときにデバイスが振動します (デフォルト - 有効)。

## Zebra の音量コントロール

デフォルトのサウンド設定に加えて、音量ボタンを押すと [Zebra Volume Control] (Zebra 音量コントロール) が表示されます。

Zebra Volume Control は、音声音量 UI マネージャ (AudioVolUIMgr) を使用して設定します。管理者は、AudioVolUIMgr を使用して、音声プロファイルの追加、削除、置換、デバイスを使用する音声プロファイルの選択、およびデフォルトの音声プロファイルの変更を行うことができます。AudioVolUIMgr を使用して Zebra Volume Control を設定する方法については、[techdocs.zebra.com](https://techdocs.zebra.com) を参照してください。

## ウェイクアップソースの設定

デフォルトでは、デバイスは、ユーザーが電源を押すとスリープ モードから復帰します。デバイス ハンドルの左側にある **PTT** または **スキャン** を押した場合に復帰するようにデバイスを設定できます。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Wake-Up Sources]** (ウェイクアップソース) をタッチします。
  - **LEFT\_TRIGGER\_2** - PTT ボタン。
  - **REAR\_BUTTON** - オプションのトリガ ハンドルスキャン ボタン。
  - **RIGHT\_TRIGGER\_1** - 右スキャン ボタン。
  - **SCAN** - 左スキャン ボタン。
3. チェックボックスをタッチします。チェックボックスに、チェックマークが表示されます。
4. **[Home]** (ホーム) ボタンをタッチします。

## ボタンの再マッピング

デバイスのボタンは、インストール済みアプリのさまざまな機能またはショートカットを実行するようにプログラムできます。キーの名と説明のリストについては、[techdocs.zebra.com](https://techdocs.zebra.com) を参照してください。



注：スキャン ボタンの再マッピングはお勧めしません。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Key Programmer] (キー プログラマ) をタッチします。プログラム可能ボタンのリストが表示されます。
3. 再マッピングするボタンを選択します。
4. [BUTTON REMAPPING] (ボタンの再マッピング) タブ、[SHORTCUT] (ショートカット) タブ、または [TRIGGERS] (トリガ) タブをタッチして、使用可能な機能、アプリケーション、トリガを一覧表示します。
5. ボタンにマッピングする機能またはアプリケーションのショートカットをタッチします。

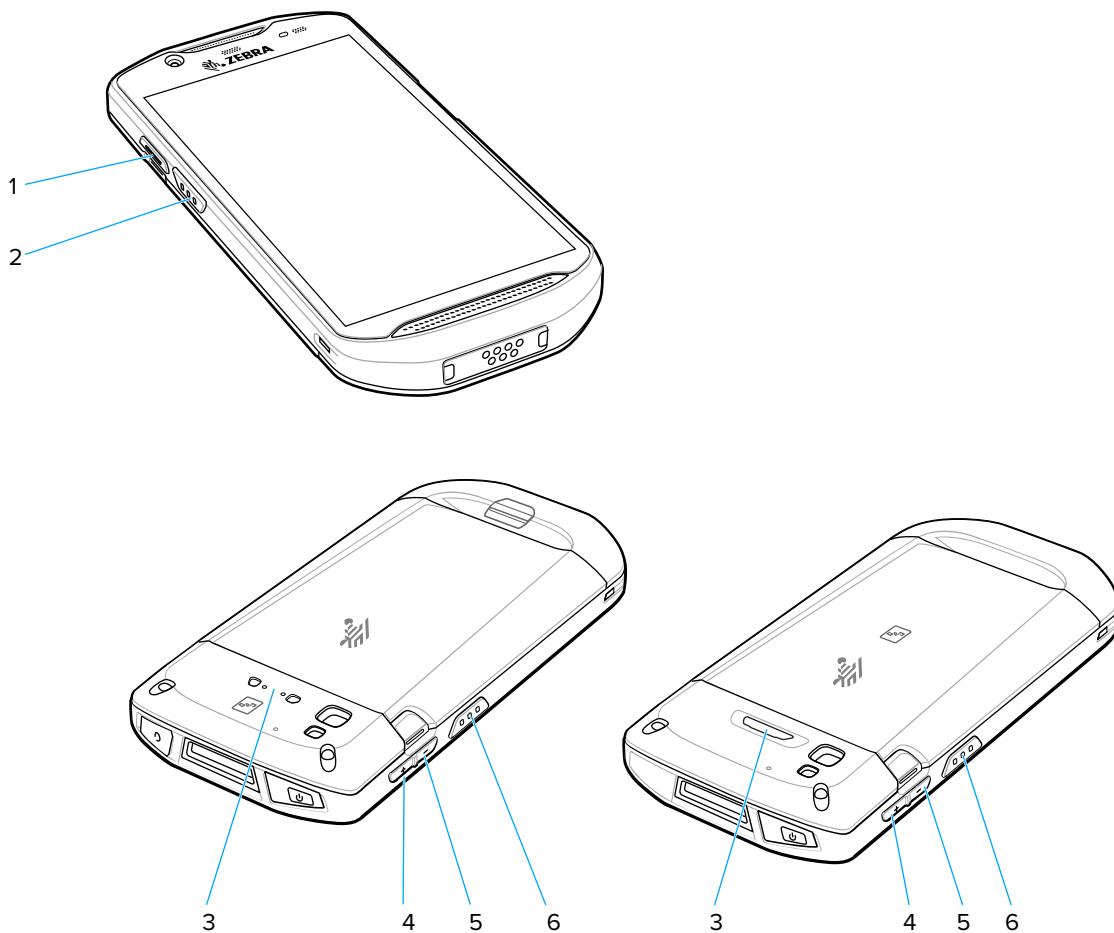


注：アプリケーションのショートカットを選択すると、[Key Programmer] (キー プログラマ) 画面で、ボタンの横にアプリケーションアイコンが表示されます。

## 再マップ対応キー

再マップ可能なデバイスキーのリスト。

図9 キーの位置



1年	BUTTON_L2	PTT ボタン[PTTぼたん]
2年	SCAN (スキャン)	左スキャン ボタン。

3年	BUTTON_L1	オプションのトリガハンドルスキャンボタン(TC52x および TC57x)。アラートボタン(TC52x-HC)。
4年	VOLUME_UP	音量上ボタン。
5年	VOLUME_DOWN	音量下ボタン。
6年	BUTTON_R1	右スキャンボタン。

## アラートボタン

StageNow を使用して、デバイス上の再マップ対応キーをアラートボタンとして設定します。

アラートボタンを使用してアプリとコマンドを起動するか、指定した電話番号に電話をかけます。医療機器では、この目的のために機器の背面に赤いボタンが用意されています。

### アラートボタンを設定する

このセクションでは、基本的な設定について説明します。アラートボタンの設定の詳細については、[zebra.techdocs.com/stagenow](https://zebra.techdocs.com/stagenow) を参照してください。

次の構成サービス プロバイダ (CSP) を使用して、StageNow からアラートボタンを設定します。

- [PowerMgr] - すべてのウェイクアップソースをオンに設定します。これにより、デバイスがスリープモードになっている場合は、デバイスが復帰します。
- [Intent] (インテント) - 新しい設定を作成します。
  - [Mode] (モード) - キーを押したときにインテントの送信をスケジュールするように設定します。
  - [Keep Device Awake] (デバイスを復帰状態に維持する) - キーを短押しした後、このオプションを有効にして、デバイスを復帰状態に維持します。
  - [Key Identifier] (キー識別子) - 再マップ対応キーを選択します。たとえば、後部ボタンなどです。
  - [Android Action Name] (Android アクション名) - アクション名を入力します。たとえば、通話を開始するには、android.intent.action.CALL と入力します。
  - [URI] - URI を入力します。たとえば、電話番号に電話をかけるには、「tel:123456789」と入力します。
- [KeyMappingMgr] - ボタンのデフォルト動作を変更します。これは、[None] (なし) に設定することをお勧めします。それ以外の場合、ボタンはアラートの送信に加えて、デフォルトの動作を実行します。

## アラートアクセシビリティ サービス

StageNow を使用してアラートボタンを設定すると、デバイスでアラートアクセシビリティ サービスを利用できます。

アラートボタンを有効または無効にするには、[Settings] (設定) > [Accessibility] (ユーザー補助) > [Alert Accessibility service] (アラートアクセシビリティ サービス) に移動します。デバイスが再起動すると、アラートアクセシビリティ サービスが自動的に有効になります。

## アラート ボタンの使用

誤ってアラートを発しないように、1秒以上長押ししてアラート ボタンを有効にします。

- デバイスがスリープ モードの場合は、アラート ボタンを短く押してから長押しします。
- デバイスが稼働状態になっている場合は、アラート ボタンを長押しします。

## キーボード

デバイスには複数のキーボード オプションがあります。



**注:** デフォルトでは、エンタープライズ キーボードおよび仮想キーボードは無効になっています。エンタープライズ キーボードは、[Zebra サポートサイト](#)からダウンロードできます。

- Android キーボード - AOSP デバイスのみ
- Gboard - GMS デバイスのみ
- 物理キーボード
- エンタープライズ キーボード - デバイスに事前にインストールされていません。詳細については、Zebra サポートにお問い合わせください。

## キーボードの設定

このセクションでは、デバイスのキーボードの設定について説明します。

### Android および Gboard キーボードの使用

テキスト フィールドにテキストを入力するには、Android または Gboard キーボードを使用します。

- キーボード設定を行うには、";" (カンマ) をタッチしてたま **[Android keyboard settings]** (**Android キーボード設定**) を選択します。

### テキストの編集

入力したテキストを編集して、メニュー コマンドを使用し、アプリ内または複数のアプリ間でテキストの切り取り、コピー、および貼り付けを行います。アプリの中には、表示しているテキストの一部またはすべての編集をサポートしていないものや、テキストの選択に独自の方法を使用するものもあります。

### 数字、記号、および特殊文字の入力

#### 1. 数字および記号を入力します。

- メニューが表示されるまで最上部の行にあるキーの 1 つを長押ししてから、数字または特殊文字を選択します。
- Shift キーを 1 回タッチすると、大文字を 1 回入力できます。Shift キーを 2 回タッチすると、大文字がロックされます。もう一度 Shift キーをタッチすると、Capslock のロックが解除されます。
- ?123 にタッチすると、数字と記号のキーボードに切り替わります。
- 数字と記号のキーボードで =\< キーにタッチすると、別の記号が表示されます。

## 2. 特殊文字を入力します。

- 他の記号のメニューが開くまで数字または記号のキーを長押しします。キーボードの上に、より大きいバージョンのキーが短時間表示されます。

## エンタープライズ キーボード

エンタープライズ キーボードには、複数のキーボードの種類があります。



**注:** Mobility DNA Enterprise ライセンスでのみ利用可能です。

- 数字
- 英字
- 特殊文字
- データ収集

### 数字タブ

数字キーボードには「123」というラベルが付いています。表示されるキーは、使用しているアプリによって異なります。たとえば、[Contacts] (連絡先) には矢印が表示されますが、[Email] (電子メール) アカウント設定には [Done] (完了) が表示されます。

### 英字タブ

英字キーボードには、言語コードを使用してラベルが付けられています。英語の場合、英字キーボードには「EN」というラベルが付いています。

### 追加文字タブ

追加文字キーボードには「#/」というラベルが付いています。

- テキストメッセージに絵文字のアイコンを入力するには、😊 をタッチします。
- [ABC] をタッチすると、記号のキーボードに戻ります。

### [Scan] (スキャン) タブ

[Scan] (スキャン) タブには、バーコードをスキャンするための簡単なデータ収集機能があります。

## 言語の使用

[Language & input] (言語と入力) 設定を使用して、辞書に追加される単語など、デバイスの言語を変更します。

## 言語設定の変更

- [Settings] (設定) に移動します。
- [System] (システム) > [Language & input] (言語と入力) をタッチします。

3. [Languages] (言語) をタッチします。使用可能な言語のリストが表示されます。
4. 目的の言語がリストにない場合は、[Add a language] (言語を追加) をタッチして、リストから言語を選択します。
5. 目的の言語の右側にある = を長押しして、リストの上部にドラッグします。
6. オペレーティングシステムのテキストが選択した言語に変わります。

## 辞書に単語を追加する

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [System] (システム) > [Language & input] (言語と入力) > [Advanced] (詳細設定) > [Personal dictionary] (個人辞書) をタッチします。
3. プロンプトが表示されたら、その単語または語句を保存する言語を選択します。
4. + をタッチして、新しい単語または語句を辞書に追加します。
5. 単語または語句を入力します。
6. [Shortcut] (ショートカット) テキストボックスに、単語またはフレーズのショートカットを入力します。

## 通知

ユーザーは、デバイスおよび特定のアプリの通知を構成できます。デバイス通知設定では、デバイスで通知を行う方法を設定できます。アプリ通知設定を使用すると、ユーザーは特定のアプリの通知方法を設定できます。

デバイス通知設定を表示するには、[Settings] (設定) > [Apps & notifications] (アプリと通知) > [Notifications] (通知) の順にタッチします。アプリ通知を表示するには、[Settings] (設定) > [Apps & notifications] (アプリと通知) > [App info] (アプリ情報) の順にタッチし、アプリを選択します。

## アプリ通知の設定

特定のアプリの通知設定を構成します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Apps & notifications] (アプリと通知) > [See all XX apps] (XX 個のアプリをすべて表示) をタッチします。[App info] (アプリ情報) 画面が表示されます。
3. アプリを選択します。
4. [Notifications] (通知) をタッチします。

選択したアプリケーションによってオプションは異なります。

## 5. 使用可能なオプションを選択します。

**[Show notifications] (通知を表示)** - 選択すると、このアプリからのすべての通知をオン(デフォルト)またはオフにします。通知カテゴリをタッチして追加のオプションを表示します。

- **[Alerting] (アラート)** - このアプリからの通知が音を出すことを許可します。
  - **[Pop on screen] (画面に表示)** - このアプリからの通知を許可すると、通知が画面上に表示されます。
  - **[Alerting] (アラート)** - このアプリからの通知を許可して、デバイスで音を鳴らしたり振動させたりします。
    - **[Pop on screen] (画面に表示)** - このアプリからの通知を許可すると、通知が画面上に表示されます。
    - **[Silent] (サイレント)** - このアプリからの通知で音を出すことを許可しません。
    - **[Minimize] (最小化)** - [Notifications] (通知) パネルで通知を1行に折りたたみます。
  - **[Silent] (サイレント)** - このアプリからの通知で音を出したり振動したりすることを許可しません。
    - **[Minimize] (最小化)** - [Notifications] (通知) パネルで通知を1行に折りたたみます。
  - **[Advanced] (詳細設定)** - タッチすると追加オプションが表示されます。
    - **[Sound] (サウンド)** - このアプリから通知で再生するサウンドを選択します。
    - **[Vibrate] (振動)** - このアプリからの通知でデバイスを振動させることを許可します。
    - **[Blink light] (ライトを点滅)** - このアプリからの通知で通知 LED が青色に点灯することを許可します。
    - **[Show notification dot] (通知ドットの表示)** - このアプリからの通知で、アプリアイコンに通知ドットを追加することを許可します。
    - **[Override Do Not Disturb] (非通知より優先)** - [Do Not Disturb] (非通知) が有効な場合に、通知に割り込みを許可します。

### [Advanced] (詳細設定)

- **[Allow notification dot] (通知ドットの許可)** - 通知ドットをアプリアイコンに追加することを許可しません。
- **[Additional settings in the app] (アプリ内のその他の設定)** - アプリの設定を開きます。

## 通知の表示

1. **[Settings] (設定)** に移動します。
2. **[Apps & Notifications] (アプリと通知)** をタッチします。
3. **[Notifications] (通知)** まで下にスクロールして、通知をオフにしたアプリの数を表示します。

## ロック画面の通知の制御

デバイスがロックされているときに、通知を表示するかどうかを管理します。

1. **[Settings] (設定)** に移動します。
2. **[Apps & notifications] (アプリと通知) > [Notifications] (通知)** の順にタッチします。

3. [Notifications on lockscreen] (ロック画面上の通知をタッチして、次のいずれかを選択します。)
  - [Show alerting and silent notifications] (アラートとサイレント通知を表示) (デフォルト)
  - [Show alerting notifications only] (アラート通知のみ表示)
  - [Don't show any notifications] (通知を表示しない)

## ライトの点滅を有効にする

通知 LED は、電子メールや VoIP などのアプリでプログラム可能な通知が生成された場合、またはデバイスが Bluetooth デバイスに接続されたことを示す場合に青色に点灯します。デフォルトでは、LED 通知は有効になっています。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Apps & notifications] (アプリと通知) > [Notifications] (通知) > [Advanced] (詳細) の順にタッチします。
3. [Blink light] (点滅) をタッチして、通知をオンまたはオフに切り替えます。

# アプリケーション

[APPS] (アプリ) 画面には、インストールされているすべてのアプリのアイコンが表示されます。アプリのインストールとアンインストールの詳細については、「[アプリケーションの導入](#)」を参照してください。標準的な Android アプリの詳細については、Google Play [アプリストア](#)にアクセスしてください。

## インストールされているアプリケーション

デバイスにインストールされている Zebra 固有のアプリケーションおよびその他のアプリケーションについて、このセクションで説明します。

表 10 アプリケーション

項目	説明
	<b>[Battery Manager]</b> (バッテリ マネージャ) - 充電レベル、ステータス、健全性、消耗レベルなどのバッテリ情報を表示し、バッテリ交換時にデバイスをバッテリ交換モードにするために使用します。
	<b>[Bluetooth Pairing Utility]</b> (Bluetooth ペアリング ユーティリティ) - バーコードをスキャンして、Zebra Bluetooth スキナをデバイスとペアリングするために使用します。
	<b>[DataWedge]</b> - イメージャを使用したデータ収集を有効にします。
	<b>[DisplayLink Presenter]</b> - 接続されているモニタにデバイス画面を表示するために使用します。
	<b>[DWDemo]</b> - イメージャを使用したデータ収集機能のデモンストレーションを行うことができます。
	<b>[License Manager]</b> (ライセンス マネージャ) - デバイスのソフトウェア ライセンスを管理するために使用します。
	<b>[PTT Express]</b> - VoIP 通信用の PTT Express クライアントの起動に使用します。

表 10 アプリケーション (Continued)

項目	説明
	[RxLogger] - デバイスおよびアプリに関する問題を診断するために使用します。
	[StageNow] - 設定、ファームウェア、およびソフトウェアの導入を開始することで、このデバイスが任意のデバイスを初期使用に向けてステージングできるようにします。
	[VOD] - Video on Device 基本アプリにより、適切なデバイスクリーニングのハウツービデオが提供されます。[Video on Device] (デバイスのビデオ) のライセンス情報については、learning.zebra.com を参照してください。
	[Worry Free Wifi Analyzer] - 診断用インテリジェントアプリ。周辺領域を診断し、受信範囲の穴の検出や付近のアクセスポイントなど、ネットワークに関する統計情報を表示します。『Worry Free Wi-Fi Analyzer Administrator Guide for Android』を参照してください。Mobility DNA Enterprise ライセンスでのみ利用可能です。
	[Zebra Bluetooth Settings] (Zebra Bluetooth 設定) - Bluetooth ロギングの設定に使用します。
	[Zebra Data Services] (Zebra データサービス) - Zebra データサービスを有効または無効にするために使用します。一部のオプションはシステム管理者によって設定されます。

## アプリへのアクセス

[APPS] (アプリ) ウィンドウを使用してデバイスにインストールされたすべてのアプリにアクセスします。

1. ホーム画面で、画面の一番下から上にスワイプします。
2. [APPS] (アプリ) ウィンドウを上または下にスライドすると、その他のアプリアイコンが表示されます。
3. アプリを開くには、アイコンをタッチします。

## 最近使用したアプリの切り替え

最近使用したアプリを切り替えるには、[Recent] (履歴) ボタンを使用します。

1. [Recent] (履歴) ボタンをタッチします。

最近使用したアプリのアイコンが表示されたウィンドウが画面に表示されます。

2. 表示されているアプリを上下にスライドすると、最近使用したすべてのアプリを表示できます。
3. 左か右にスワイプすると、リストからアプリを削除して、そのアプリを強制的に終了します。
4. アイコンをタッチするとアプリが開きます。または、戻るボタンをタッチすると現在の画面に戻ります。

## Battery Manager (バッテリ マネージャ)

[Battery Manager] (バッテリ マネージャ) は、バッテリに関する詳細情報を提供します。このセクションでは、サポート対象デバイスのバッテリ交換手順についても説明します。

### バッテリ マネージャを開く

- バッテリ マネージャ アプリを開くには、ホーム画面の一番下から上にスワイプして、 をタッチします。

### バッテリ マネージャ情報タブ

バッテリ マネージャには、バッテリの充電、健全性、およびステータスに関する詳細情報が表示されます。

**表 11** バッテリ アイコン

バッテリアイコン	説明
	バッテリ充電レベルが 85% ~ 100%
	バッテリ充電レベルが 19% ~ 84%
	バッテリ充電レベルが 0% ~ 18%

- [Level] (レベル) - パーセンテージ表示での現在のバッテリ充電レベル。レベルが不明の場合、-%と表示されます。
- [Wear] (消耗) - グラフ形式でのバッテリの健全性。消耗レベルが 80% を超えると、バーの色が赤に変わります。

- [Health] (健全性) - バッテリの健全性。重大なエラーが発生した場合、❗が表示されます。タッチするとエラーの説明が表示されます。
  - [Decommission] (使用不可) - 耐用期間を過ぎているため、バッテリを交換する必要があります。システム管理者にお問い合わせください。
  - [Good] (良好) - バッテリは良好な状態です。
  - [Charge error] (充電エラー) - 充電中にエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。
  - [Over Current] (過電流) - 過電流状態が発生しました。システム管理者にお問い合わせください。
  - [Dead] (使用不可) - バッテリは充電できません。バッテリを交換します。
  - [Over Voltage] (過電圧) - 過電圧状態が発生しました。システム管理者にお問い合わせください。
  - [Below Temperature] (温度低下) - バッテリの温度が動作温度未満です。システム管理者にお問い合わせください。
  - [Failure Detected] (障害検出) - バッテリに障害が検出されました。システム管理者にお問い合わせください。
  - [Unknown] (不明) - システム管理者にお問い合わせください。
- 充電状態
  - [Not charging] (未充電) - デバイスが AC 電源に接続されていません。
  - [Not charging] (未充電) - デバイスは充電中ではありません。
  - [Charging-AC] (AC から充電中) - デバイスが AC 電源に接続されて充電中、または USB 経由で高速充電中です。
  - [Charging-USB] (USB から充電中) - デバイスが USB ケーブルでホスト コンピュータに接続され、充電中です。
  - [Discharging] (放電) - バッテリが放電中です。
  - [Full] (フル) - バッテリが完全に充電されています。
  - [Unknown] (不明) - バッテリの状態が不明です。
- [Time until full] (完全充電までの時間) - バッテリが完全に充電されるまでの時間。
- [Time since charging] (充電時間) - デバイスが充電を開始してからの時間。
- [Time until empty] (空になるまでの時間) - バッテリが空になるまでの時間。
- [Advanced info] (詳細情報) - タッチして追加のバッテリ情報を表示します。
- [Battery present status] (バッテリの現在の状態) - バッテリが装着されていることを示します。
- [Battery level] (バッテリ レベル) - パーセンテージ表示のバッテリ充電レベル。
- [Battery scale] (バッテリ スケール) - バッテリ レベルを判断するために使用されるバッテリのスケール レベル (100) です。
- [Battery voltage] (バッテリ電圧) - ミリボルト単位で示された現在のバッテリ電圧。
- [Battery temperature] (バッテリ温度) - バッテリの現在の温度 (摂氏)。
- [Battery technology] (バッテリ テクノロジ) - バッテリの種類。
- [Battery Current] (バッテリ電流) - 直近の 1 秒間にバッテリに出入りした平均電流 (mAh)。
- [Battery manufacture date] (バッテリ製造日) - 製造日。

- **[Battery serial number]** (バッテリ シリアル番号) - バッテリのシリアル番号。番号は、バッテリ ラベルに印刷されているシリアル番号と一致します。
- **[Battery part number]** (バッテリ部品番号) - バッテリの部品番号。
- **[Battery rated capacity]** (バッテリ定格容量) - バックアップ バッテリの定格容量のリストの表示です (mAh)。
- **[Battery decommission status]** (バッテリ耐用ステータス) - バッテリの耐用期間が過ぎているかどうかを示します。
  - **[Battery Good]** (バッテリ良好) - バッテリは良好な状態です。
  - **[Decommissioned Battery]** (使用不可バッテリ) - 耐用期間を過ぎているため、バッテリを交換する必要があります。
- **[Base cumulative charge]** (基本累積充電量) - Zebra 充電器のみを使用した累積充電量です。
- **[Battery present capacity]** (バッテリの現在の容量) - バッテリが完全に充電されている場合の、現在の放電状態でバッテリから得られる最大充電量です。
- **[Battery health percentage]** (バッテリ健全性の割合) - 0 ~ 100 の範囲の割合です。  
「design\_capacity」の放電率での「design\_capacity」に対する「present\_capacity」の割合になります。
- **[% decommission threshold]** (耐用しきい値 %) - Gifted バッテリを 80% とした場合のデフォルトの耐用しきい値。
- **[Battery present charge]** (バッテリの現在の充電量) - 現在の放電状態での現時点のバッテリ残量を示します。
- **[Battery total cumulative charge]** (バッテリ合計累積充電量) - すべての充電器での合計累積充電量。
- **[Battery time since first use]** (初回使用時からのバッテリ使用時間) - 初めてバッテリを Zebra タミナルに取り付けてから経過した時間。
- **[Battery error status]** (バッテリ エラー ステータス) - バッテリのエラー ステータス。
- **[Battery usage number]** (バッテリ使用状況ナンバー) - 充放電の結果としてのバッテリの状態。数字が大きいほど、バッテリ健全性が低下しています。
- **[Usage decommission threshold]** (使用耐用しきい値) - バッテリ使用状況ナンバーが [Usage decommission threshold] (使用耐用しきい値) 以上の場合、バッテリは耐用期間を過ぎているため、交換する必要があります。
- **[App version]** (アプリ バージョン) - アプリケーションのバージョン番号。

## バッテリ マネージャの交換タブ

バッテリを交換するときにデバイスをバッテリ交換モードにするために使用します。画面の指示に従います。[Proceed with battery swap] (バッテリを交換する) ボタンをタッチします。



**注：**[Swap] (交換) タブは、ユーザーが電源ボタンを押して [Battery Swap] (バッテリ交換) を選択した場合にも表示されます。

# カメラ

ここでは、内蔵デジタルカメラを使用した写真の撮影とビデオの録画について説明します。



**注:** デバイスに microSD カードを取り付けてストレージ パスを手動で変更している場合、写真やビデオが microSD カードに保存されます。デフォルトでは、写真やビデオは内部ストレージに保存されます。また、microSD カードを取り付けていない場合も内部ストレージに保存されます。

## 写真の撮影



**注:** カメラ設定の説明については、「[写真設定](#)」を参照してください。

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、[Camera] (カメラ) をタッチします。



1	シーン モード
2	フィルタ
3	カメラの切り替え
4	HDR

5	設定
6	カメラ モード
7	シャッター ボタン
8	ギャラリ

2. 必要に応じて、カメラ モード アイコンをタッチして、 をタッチします。
3. 背面カメラと前面カメラ (使用可能な場合) を切り替えるには、 をタッチします。
4. 被写体に画面のフレームを合わせます。
5. ズームインまたはズームアウトを行うには、2本の指を画面に置いて指の間隔を狭めたり、広げたりします。ズームを操作するオプションが画面に表示されます。
6. 画面の焦点を合わせる領域にタッチします。焦点の場所を示す円が表示されます。ピントが合うと、2本のバーが緑色に変わります。
7.  をタッチします。

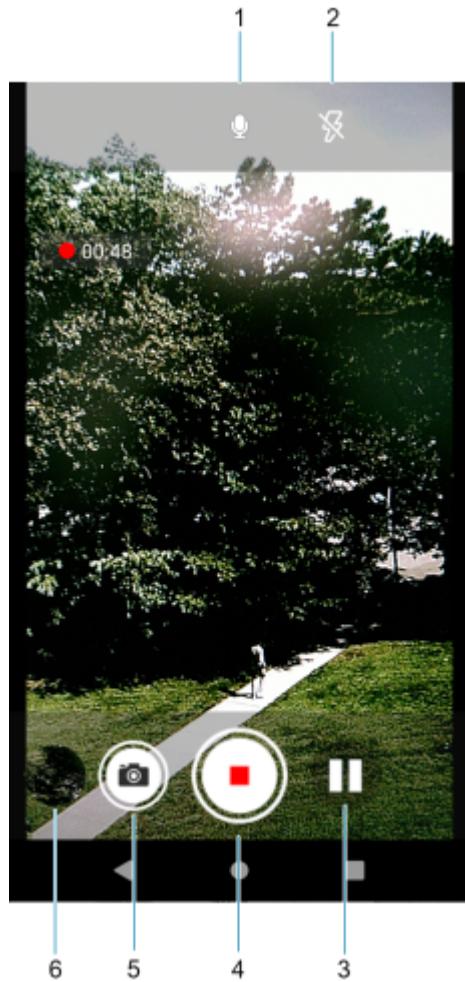
カメラで写真が撮影され、シャッター音が鳴ります。

撮影した写真是サムネイルとして左下隅に短時間表示されます。

## ビデオの録画

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、[Camera] (カメラ) をタッチします。

2. [Camera Mode] (カメラ モード) メニュー、■◀の順にタッチします。



1	オーディオ
2	フラッシュ
3	録画の一時停止
4	シャッター ボタン (録画停止)
5	写真の撮影
6	ギャラリ

3. 背面カメラと前面カメラ (使用可能な場合) を切り替えるには、❶をタッチします。
4. カメラとフレームを被写体に向けます。
5. ズーム インまたはズーム アウトするには、2本の指を画面に置いて指の間隔を狭めたり広げたりします。ズームを操作するオプションが画面に表示されます。
6. ❷をタッチして、録画を開始します。  
ビデオの残り時間が画面の左上に表示されます。
7. ❸をタッチして、録画を終了します。

撮影したビデオは、サムネイルとして左下隅に短時間表示されます。

## カメラの設定

写真モードの場合、カメラ設定が画面に表示されます。...>⚙️ をタッチし、カメラ設定オプションを表示します。

- 一般
  - [Face Detection] (顔検出) - 選択して顔検出を [Off] (オフ) (デフォルト) または [On] (オン) にします。
  - [Storage] (ストレージ) - 写真の保存先を次のいずれかに設定します。[Phone] (電話) または [SD Card] (SD カード)。
- 静止カメラ
  - [Countdown timer] (カウントダウンタイマー) - [Off] (オフ) (デフォルト)、[2 seconds] (2 秒)、[5 seconds] (5 秒)、または [10 seconds] (10 秒) を選択します。
  - [Continuous Shot] (連写) - 選択すると、撮影ボタンを押した状態で複数枚の写真をすばやく撮影します。[Off] (オフ) (デフォルト) または [On] (オン)。
  - [Selfie Mirror] (自撮りミラー) - 選択すると、左右反転画像の写真が保存されます。前面カメラの場合にのみ利用できます。オプション: [Off] (オフ) (デフォルト) または [On] (オン)。
  - [Picture size] (画像サイズ) - 写真のサイズ (ピクセル単位) を次のいずれかにします。[13M pixels] (13M ピクセル) (背面カメラのデフォルト)、[8M pixels] (8M ピクセル) (背面カメラのみ)、[5M pixels] (5M ピクセル) (前面カメラのデフォルト)、[3M pixels] (3M ピクセル)、[HD1080]、[2M pixels] (2M ピクセル)、[HD720]、[1M pixels] (1M ピクセル)、[WVGA]、[VGA]、または [QVGA]。
  - [Picture quality] (画質) - 画質設定を次のいずれかに設定します。[Low] (低)、[Standard] (標準)、または [High] (高) (デフォルト)。
  - [Exposure] (露出) - 露出設定を次のいずれかに設定します。[-2]、[-1.5]、[-1]、[-0.5]、[0] (デフォルト)、[+0.5]、[+1]、[+1.5]、[+2]。
  - [White balance] (ホワイトバランス) - 最も自然な色調になるように、光源の種類に合わせてどのように色を調整するかを選択します。
    - [Incandescent] (白熱灯) - 白熱灯に適するようにホワイトバランスを調整します。
    - [Fluorescent] (蛍光灯) - 蛍光灯に合わせてホワイトバランスを調整します。
    - [Auto] (自動) - ホワイトバランスを自動的に調整します (デフォルト)。
    - [Daylight] (昼光) - 昼光に適するようにホワイトバランスを調整します。
    - [Cloudy] (曇り) - 曇天の環境に適するようにホワイトバランスを調整します。
  - [Selfie Flash] (セルフィー フラッシュ) - 画面を白にして、薄暗い環境で少し明るくなるようにします。前面カメラの場合にのみ利用できます。オプション: [Off] (オフ) (デフォルト)、または [On] (オン)。
  - [Shutter Sound] (シャッター音) - 撮影時にシャッター音を鳴らす場合は選択します。オプション: [Disable] (無効化) または [Enable] (有効化) (デフォルト)。
  - [AF Animation] (AF アニメーション) - カメラプレビューでカメラのフォーカス リングを有効または無効にする場合に選択します。オプション: [Disable] (無効化) (デフォルト) または [Enable] (有効化)。
  - [Picture Format] (画像形式) - 静止画はすべて JPEG 形式で保存されます。

- ビデオ カメラ
  - [Video quality] (画質) - ビデオ画質を次のいずれかに設定します。[4k UHD] (背面カメラのみ)、[HD 1080p] (デフォルト)、[HD 720p]、[SD 480p]、[VGA]、[CIF]、または [QVGA]。
  - [Video duration] (ビデオ持続時間) - 次のいずれかに設定します。[30 seconds (MMS)] (30 秒 (MMS))、[10 minutes] (10 分)、[30 minutes] (30 分) (デフォルト) または [no limit] (制限なし)。
  - [Image Stabilization] (画像の安定化) - デバイスの振動によって発生するビデオのぼやけを軽減するように設定します。オプション:[On] (オン) または [Off] (オフ) (デフォルト)。
  - [Noise Reduction] (ノイズ抑制) - [Off] (オフ) (デフォルト)、[Fast] (高速)、または [High Quality] (最高品質)。
  - [Video Encoder] (ビデオ エンコーダ) - ビデオ エンコーダを次のいずれかに設定します。[MPEG4]、[H264] (デフォルト)、または [H265]。
  - [Audio Encoder] (オーディオ エンコーダ) - オーディオ エンコーダを次のいずれかに設定します。[AMRNB]、または [AAC] (デフォルト)。
  - [Video Rotation] (ビデオ回転) - ビデオ回転を次のいずれかに設定します。[0] (デフォルト)、[90]、[180]、または [270]。
  - [Time Lapse] (低速度撮影) - 低速度撮影の間隔を次のいずれかに設定します。[Off] (オフ) (デフォルト)、または 0.5 秒～24 時間の時間。
- システム
  - [Restore default] (初期設定に戻す) - 選択すると、すべての設定が初期設定値に戻ります。
  - [Version Info] (バージョン情報) - カメラ アプリのソフトウェア バージョンを表示します。

## DWDemo

データ読み取り機能のデモンストレーションを実行するには、[DataWedge Demonstration] (DataWedge デモンストレーション) (DWDemo) を使用します。DataWedge を構成するには、[techdocs.zebra.com/datawedge/](https://techdocs.zebra.com/datawedge/) を参照してください。



**注:** DataWedge はホーム画面では無効になっています。この機能を有効にするには、[DataWedge] 設定に移動し、[Barcode input] (バーコード入力) オプションを有効にします。

## DWDemo のアイコン

次の表に、DWDemo アプリケーションで使用可能なアイコンを示します。

**表 12** DataWedge デモンストレーションのアイコン

カテゴリ	アイコン	説明
照明		イメージヤの照明がオンです。タッチして照明をオフにします。
照明		イメージヤの照明がオフです。タッチして照明をオンにします。
データの読み取り		データ収集機能は内蔵イメージヤを使用して行われます。

表 12 DataWedge デモンストレーションのアイコン (Continued)

カテゴリ	アイコン	説明
データの読み取り		データ収集機能は、背面カメラを使用して行われます。
データの読み取り		Bluetooth スキャナが接続されています。
データの読み取り		Bluetooth スキャナが接続されていません。
スキャンモード		イメージヤがピックリスト モードになっています。タッチすると、通常のスキャンモードに切り替わります。
スキャンモード		イメージヤが通常のスキャンモードになっています。タッチすると、ピックリスト モードに切り替わります。
メニュー		アプリケーション情報を表示するため、またはアプリケーションの DataWedge プロファイルを設定するためのメニューを開きます。

## スキャナの選択

詳細については、「[データ収集](#)」セクションを参照してください。

- スキャナを選択するには、 > [Settings] (設定) > [Scanner selection] (スキャナの選択) の順にタッチします。
- プログラム可能ボタンを押すか、黄色のスキャンボタンをタッチしてデータを収集します。収集したデータは、黄色のボタンの下にあるテキストフィールドに表示されます。

## PTT Express Voice クライアント

PTT Express Voice クライアントを使用すると、さまざまなエンタープライズデバイス間でプッシュトゥトーク (PTT) 通信ができるようになります。PTT Express は、既存の無線 LAN (WLAN) インフラストラクチャを利用して、音声通信サーバー不要の簡単な PTT 通信機能を提供します。



注：PTT Express のライセンスが必要です。



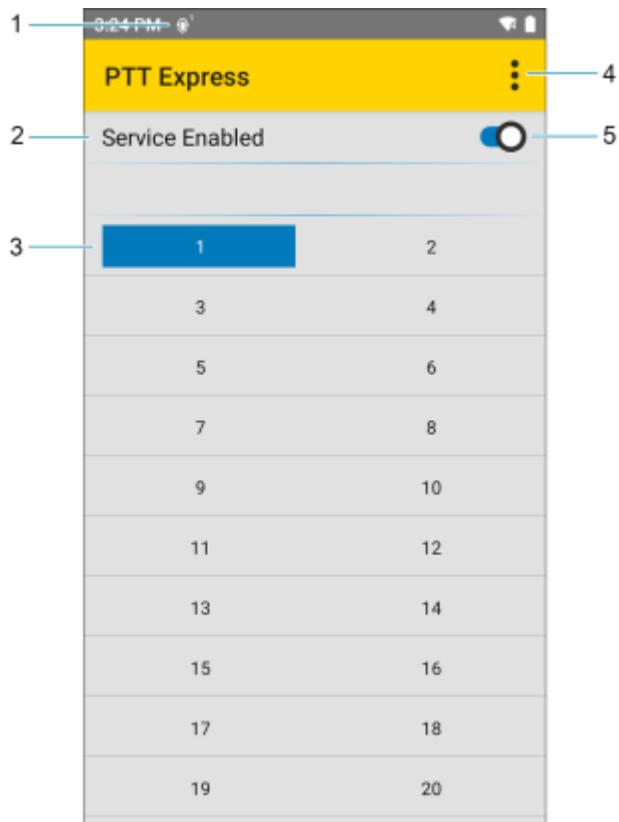
注：すべての国で利用できるものではありません。

- グループ通信 - PTT (トーク)** を長押して、他の音声クライアントユーザーとの通信を開始します。
- プライベート応答** - 直前のブロードキャストの発信元に応答したり、プライベート応答したりするには、PTT を 2 回押します。

## PTT Express のユーザー インタフェース

プッシュトゥトーク通信には、PTT Express インタフェースを使用します。

**図 10** PTT Express のユーザー インタフェース



番号	項目	説明
1	通知アイコン	PTT Express クライアントの現在の状態を示します。
2	サービス状態の表示	PTT Express クライアントの状態を示します。以下のオプションがあります。[Service Enabled] (サービスが有効)、[Service Disabled] (サービスが無効) または [Service Unavailable] (サービスが利用不可)。
3	トーク グループ	PTT 通信で利用できる全 32 のトーク グループが一覧表示されます。
4	設定	PTT Express の [Settings] (設定) 画面を開きます。
5	有効化/無効化スイッチ	PTT サービスをオンまたはオフにします。

## PTT 音声通知

音声クライアントを使用するときに、以下の通知音が役立ちます。

- **トーク トーン:** チャープ音が 2 回鳴ります。[Talk] (トーク) ボタンを押すと鳴ります。会話の開始を促しています。

- アクセストーン:** ピープ音が1回鳴ります。相手のユーザーがブロードキャストまたは応答を終了すると鳴ります。こちら側からグループブロードキャストまたはプライベート応答を開始できる合図です。
- ビジー トーン:** 連続トーンが鳴ります。[Talk] (トーク) ボタンを押したときに別のユーザーが同じトーグループすでに通信を開始しているときに鳴ります。許容される最大送信時間(60秒)を経過すると鳴ります。
- ネットワーク トーン:**
  - 徐々に高くなるピープ音が3回鳴ります。PTT ExpressでWLAN接続を確立してサービスが有効になると鳴ります。
  - 徐々に低くなるピープ音が3回鳴ります。PTT ExpressのWLAN接続が失われるか、サービスが無効になると鳴ります。

## PTT 通知アイコン

通知アイコンは、PTT Express Voice クライアントの現在の状態を示します。

表 13 PTT Express アイコン

ステータス アイコン	説明
	PTT Express Voice クライアントが無効になっています。
	PTT Express Voice クライアントは有効になっていますが、WLAN に接続されていません。
	PTT Express Voice クライアントは有効で、WLAN に接続されています。アイコンの隣にある番号のトーク グループを示しています。
	PTT Express Voice クライアントは有効で、WLAN に接続されています。アイコンの隣にある番号のトーク グループで通信しています。
	PTT Express Voice クライアントは有効で、WLAN に接続されています。プライベート応答中です。
	PTT Express Voice クライアントは有効でミュートになっています。
	PTT Express Voice クライアントは有効になっていますが、VoIP テレフォニー コール中のため通信できません。

## PTT 通信を有効にする

- ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。
- 有効化/無効化スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドします。ボタンが [ON] (オン) に変わります。

## トーク グループの選択

PTT Express ユーザーが選択できる 32 のトーク グループがあります。ただし、デバイスで一度に有効にできるのは、1 つのトーク グループのみです。

- 32 のトーク グループのいずれか 1 つをタッチします。選択したトーク グループが強調表示されます。

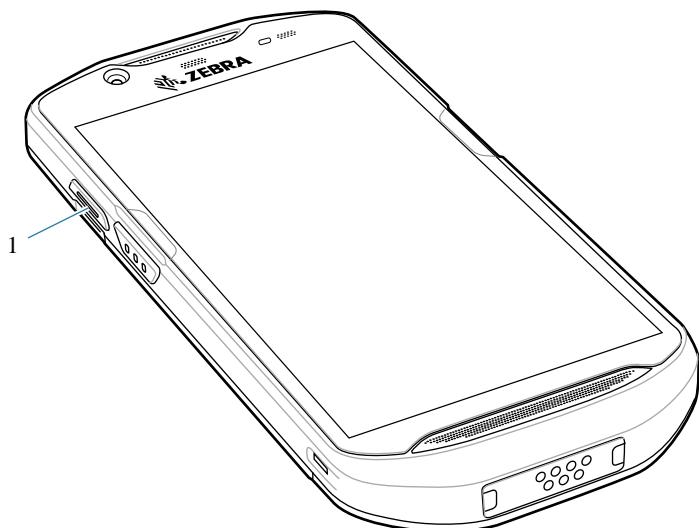
## PTT 通信

このセクションでは、デフォルトの PTT Express クライアント設定について説明します。クライアントの使用に関する詳細については、『PTT Express V1.2 User Guide』を参照してください。

PTT 通信は、グループ通話として確立されます。

PTT 通信は、グループ通話として確立されます。PTT Express が有効になると、デバイスの左側の PTT ボタンが PTT 通信に割り当てられます。有線ヘッドセットを使用する場合は、ヘッドセットのトーク ボタンを押して、グループ通話を開始することもできます。

**図 11** PTT ボタン



1	PTT ボタン
---	---------

## グループ通話の作成

グループ通話を使用すると、ユーザーはユーザーのグループと通話できます。



**注:** When using a wired headset, use only Zebra wired headsets with a PTT button.

1. **PTT** (またはヘッドセットのトーク) を長押しして、トーク トーンが鳴るのを待ちます。

ビジー トーンが鳴る場合、ボタンを放してしばらく待ってから、やり直してみます。PTT Express と WLAN が有効であることを確認してください。

2. トーク トーンが聞こえたら、通話を開始します。



**注:** ボタンを 60 秒 (デフォルト) 以上押し続けると、通話が終了して、他のユーザーがグループ通話を開始できるようになります。話し終わったら、ボタンを放して他のユーザーが会話できるようにします。

## プライベート応答での応答

プライベート応答を開始できるのは、グループ通話が確立されてからです。最初のプライベート応答は、グループ通話の発信元に対して実行されます。

1. アクセストーンを待ちます。
2. 10 秒以内に PTT を 2 回押して、トーク トーンが鳴るのを待ちます。
3. ビジー トーンが鳴る場合、ボタンを放してしばらく待ってから、やり直してみます。PTT Express と WLAN が有効であることを確認してください。
4. トーク トーンが鳴ったら、通話を開始します。
5. 話し終わったら、ボタンを放します。

## PTT 通信を無効にする

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。
2. [Enable/Disable Switch] (有効化/無効化スイッチ) を [OFF] (オフ) の位置にスライドします。ボタンが [OFF] (オフ) に変わります。

## RxLogger

RxLogger は、アプリケーションとシステムの測定値を示す総合的な診断ツールです。このツールでは、デバイスやアプリケーションの問題を診断できます。

RxLogger には次の情報が記録されます。CPU 負荷、メモリ負荷、メモリのスナップショット、バッテリ消費、電源の状態、無線ロギング、セルラロギング、TCP ダンプ、Bluetooth ロギング、GPS ロギング、LogCat、FTP プッシュ/ブル、ANR ダンプなど。生成されたログやファイルはすべてデバイスのフラッシュストレージ (内蔵または外付け) に保存されます。

RxLogger には次の情報が記録されます。CPU 負荷、メモリ負荷、メモリのスナップショット、バッテリ消費、電源の状態、無線ロギング、TCP ダンプ、Bluetooth ロギング、LogCat、FTP プッシュ/ブル、ANR ダンプなど。生成されたログやファイルはすべてデバイスのフラッシュストレージ (内蔵または外部) に保存されます。

## RxLogger の構成

RxLogger は拡張可能なプラグインアーキテクチャで構築されており、すでに組み込まれている多くのプラグインがパッケージ化されています。RxLogger の構成については、[techdocs.zebra.com/rxlogger/](https://techdocs.zebra.com/rxlogger/) を参照してください。

構成画面を開くには、RxLogger のホーム画面で [Settings] (設定) をタッチします。

## 構成ファイル

RxLogger の構成は、XML ファイルを使用して設定できます。

config.xml 構成ファイルは、RxLogger\config フォルダにあります。USB 接続を使用して、デバイスからホストコンピュータにファイルをコピーします。構成ファイルを編集したら、デバイスで XML ファイルを置き換えます。ファイルの変更は自動的に検出されるため、RxLogger サービスの停止および再開は必要ありません。

config.xml 構成ファイルは、microSD カード内の RxLogger\config フォルダにあります。USB 接続を使用して、デバイスからホストコンピュータにファイルをコピーします。構成ファイルを編集したら、デバイスで XML ファイルを置き換えます。ファイルの変更は自動的に検出されるため、RxLogger サービスの停止および再開は必要ありません。

## ログの有効化

1. 画面を上にスワイプして  を選択します。
2. [Start] (開始) をタッチします。

## ログの無効化

1. 画面を上にスワイプして  を選択します。
2. [Stop] (停止) をタッチします。

## ログ ファイルの抽出

1. USB 接続を使用し、デバイスをホストコンピュータに接続します。
2. エクスプローラを使用して、RxLogger フォルダに移動します。
3. デバイスからホストコンピュータにファイルをコピーします。
4. ホストコンピュータからデバイスを切断します。

## データのバックアップ

RxLogger Utility を使用すると、ユーザーはデバイスで RxLogger フォルダの zip ファイルを作成できます。この zip ファイルには、デバイスに保存されているすべての RxLogger ログがデフォルトで含まれます。

- バックアップデータを保存するには、⋮ > [BackupNow] (今すぐバックアップ) をタッチします。

## RxLogger Utility

RxLogger Utility は、RxLogger の実行時にデバイスでログを表示するデータ監視アプリケーションです。ログおよび RxLogger Utility の機能には、メインチャットヘッドを使用してアクセスします。

### メインチャットヘッドの開始

1. RxLogger を開きます。

2. ⚡ > [Toggle Chat Head] (チャットヘッドの切り替え) をタッチします。  
メインチャットヘッドのアイコンが画面に表示されます。
3. メインチャットヘッドのアイコンをタッチし、ドラッグして画面上を移動します。

### メインチャットヘッドの削除

1. アイコンをタッチしてドラッグします。  
Xの付いた円が表示されます。
2. アイコンを円に移動したら、指を放します。

### ログの表示

1. メインチャットヘッドのアイコンをタッチします。  
RxLogger Utility の画面が表示されます。
2. ログをタッチして開きます。  
ユーザーは複数のログを開いて、それぞれに新しいサブチャットヘッドを表示できます。
3. 必要に応じて、左または右にスクロールして、追加のサブチャットヘッドアイコンを表示します。
4. サブチャットヘッドをタッチすると、ログの内容が表示されます。

### サブチャットヘッドアイコンの削除

- サブチャットヘッドアイコンを削除するには、アイコンが消えるまでアイコンを長押しします。

### オーバーレイビューでのバックアップ

RxLogger Utility を使用すると、ユーザーはデバイスで RxLogger フォルダの zip ファイルを作成できます。この zip ファイルには、デバイスに保存されているすべての RxLogger ログがデフォルトで含まれます。

バックアップアイコンは、オーバーレイビューで常に使用できます。

1. 📁 をタッチします。  
[Backup] (バックアップ) ダイアログボックスが表示されます。
2. [Yes] (はい) をタッチして、バックアップを作成します。

# データの読み取り

このセクションでは、さまざまなスキャンオプションを使用してバーコードデータを読み取る方法について説明します。

デバイスは以下を使用するデータ収集をサポートしています。

- 内蔵 SE4720 イメージャ
- 内蔵カメラ
- RS507/RS507x Bluetooth リングスキャナ
- RS5100 Bluetooth リングスキャナ
- RS6000 Bluetooth リングスキャナ
- DS3678 デジタルスキャナ
- DS2278 デジタルスキャナ
- DS8178 デジタルスキャナ
- LI3678 リニアスキャナ

## イメージング

2D イメージャ搭載のデバイスは、次の機能を備えています。

- 最も一般的なリニアコード、ポスタルコード、PDF417 コード、Digimarc コード、2D マトリックスコードを含む、各種バーコードシンボルの無指向読み取り。
- 画像を収集して、各種画像処理アプリケーションで処理するためにホストにダウンロードする機能。
- 容易な読み取り操作を可能にする直感的な高性能半導体レーザー照準機能(十字およびドット照準)。

イメージャは、イメージングの技術を使用してバーコードの画像を撮影し、画像をメモリに格納して、先進のソフトウェア読み取りアルゴリズムを実行して画像からバーコードデータを抽出します。

## デジタルカメラ

内蔵カメラベースのバーコードスキャンソリューションを備えたデバイスには、次の機能があります。

- 最も一般的なリニアコード、郵便番号、QR コード、PDF417 コード、2D マトリックスコードを含む、各種バーコードシンボルの無指向読み取り。
- 読み取り操作を簡単にするクロスヘアレクチル。
- 読み取り幅内の多数のバーコードから特定のバーコードを読み取るピックリストモード。

このソリューションでは、高度なカメラ技術を使用してバーコードのデジタル画像を撮影し、先進のソフトウェア読み取りアルゴリズムを実行して画像からデータを抽出します。

## 動作モード

統合イメージャ搭載のデバイスは、次の3つの動作モードをサポートしています。

各モードは、**スキャンボタン**を押して有効にします。

- 読み取りモード — デバイスは読み取り幅内にある有効なバーコードを見つけて読み取ります。スキャンボタンを押している間、またはバーコードを読み取るまで、イメージャはこのモードのままになります。



**注:** ピックリストモードを有効にするには、DataWedgeで設定するか、またはAPIコマンドを使用してアプリケーション内で設定します。

- ピックリストモード — 複数のバーコードがデバイスの読み取り幅内にある場合、照準十字またはドットを目的のバーコードの上に移動して、バーコードを選択的に読み取ります。この機能は、複数のバーコードが含まれているピックリストや、複数のタイプ(1Dまたは2D)のバーコードが含まれている製造ラベルや輸送ラベルに使用します。



**注:** 基本マルチバーコードモードを有効にするには、DataWedgeで設定するか、またはAPIコマンドを使用してアプリケーション内で設定します。

- 基本マルチバーコードモード — このモードでは、デバイスは読み取り幅内にある特定の数の一意なバーコードを見つけて読み取ります。スキャンボタンを押している間、またはすべてのバーコードを読み取るまで、デバイスはこのモードのままになります。
  - デバイスは、プログラムされた数の一意のバーコードをスキャンしようとします(2から100まで)。
  - 重複バーコード(同じシンボル体系のタイプとデータ)がある場合、重複バーコードの1つだけが読み取られ、残りは無視されます。ラベルに2つの重複バーコードと別の2つの異なるバーコードがある場合、そのラベルから最大3つのバーコードが読み取られます。1つは重複として無視されます。
  - 複数のシンボル体系のバーコードと一緒に取得できます。たとえば、基本マルチバーコードスキャナの指定数量が4で、2つのバーコードがシンボル体系Code 128、他の2つはシンボル体系Code 39などが可能です。
  - 指定された数の一意のバーコードがデバイスの最初の読み取り幅内にない場合、デバイスは、デバイスを動かして追加のバーコードを収集するかタイムアウトが発生するまで、データを読み取りません。デバイスの読み取り幅内に、指定された数量よりも多くのバーコードが含まれている場合、デバイスは一意のバーコードが指定された数に達するまでバーコードをランダムに読み取ります。たとえば、数が2に設定されていて、8つのバーコードが読み取り幅内にある場合、デバイスは最初に検出した2つの一意のバーコードを読み取り、データをランダムな順番で返します。
  - 基本マルチバーコードモードでは、連結バーコードはサポートされていません。

## スキャン操作に関する考慮事項

通常、スキャン操作は、照準合わせ、スキャン、読み取りという単純な操作で、何度か練習をすればすぐに習得可能ですが、

最適なスキャン効率を実現するためにも次のことを考慮してください。

- **範囲** — スキャナは、特定の動作範囲(バーコードからの最小距離と最大距離の範囲内)にある場合に最適な読み取りを行います。この範囲は、バーコードの密度とスキャンデバイスの光学系によって異なります。

なります。すばやく連続して読み取るには範囲内でスキャンします。近すぎたり遠すぎたりすると、正しく読み取れません。スキャナを近づけたり遠ざけたりして、スキャンするバーコードの適切な読み取り幅を見つけてください。

- 角度—スキャン角度は、すばやく読み取るために重要です。照明/フラッシュがイメージャに直接反射する場合、正反射により照度が上がり、イメージャが読み取れなくなる可能性があります。これを回避するには、光線が正反射しないような角度でバーコードをスキャンしてください。正しく読み取るためにスキャナは散乱した反射光線を収集する必要があるため、あまりに鋭角な角度ではスキャンしないでください。練習することで、適切な角度はすぐにわかります。
- 大きなシンボルの場合は、デバイスを離してください。
- バーの間隔が狭いシンボルの場合は、デバイスを近づけてください。



**注:** スキャン手順は、アプリとデバイスの構成によって異なります。アプリによっては、スキャン手順が上記とは異なる場合があります。

## 内部イメージャでのスキャン

内蔵イメージャを使用して、バーコードデータを読み取ります。



**注:** バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。デバイスには、ユーザーがスキャナでバーコードデータを読み取ったりバーコードコンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリがあります。



**注:** イメージャの読み取りは通常、瞬時に行われます。精度の悪いまたは読み取りづらいバーコードの場合は、スキャンボタンを押し続けると、デジタル写真(画像)を撮影する手順が繰り返されます。

内蔵イメージャでスキャンするには、次の手順に従います。

1. アプリケーションがデバイスで開かれていることと、テキストフィールドがフォーカスされている(テキストカーソルがテキストフィールドにある)ことを確認します。

## データの読み取り

2. デバイスのスキャナ ウィンドウをバーコードに向けます。

図 12 TC52x/TC57x イメージャでのスキャン

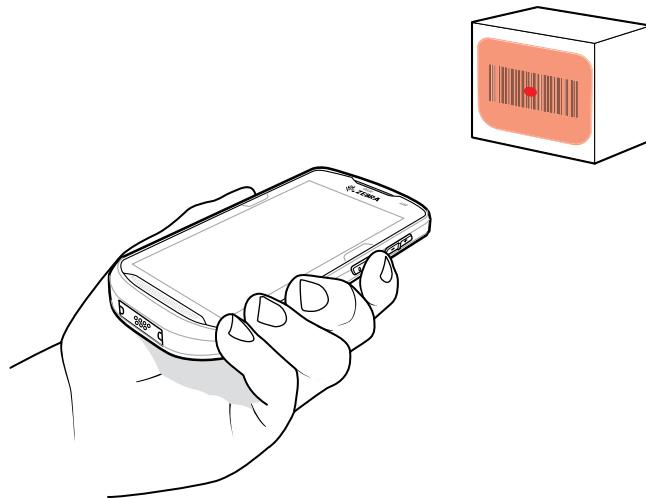
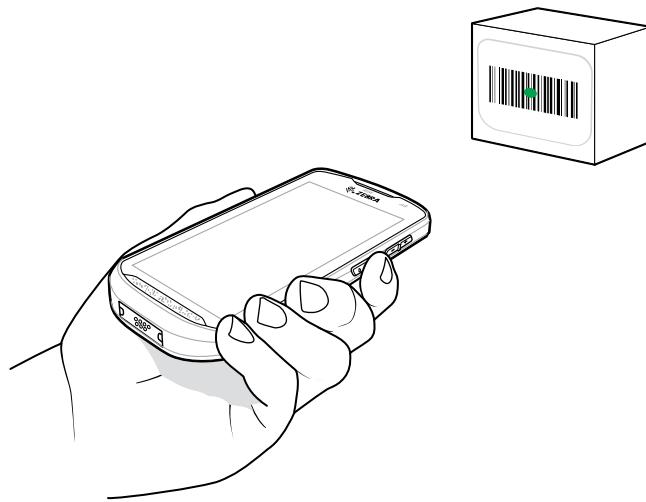


図 13 TC52x-HC イメージャでのスキャン

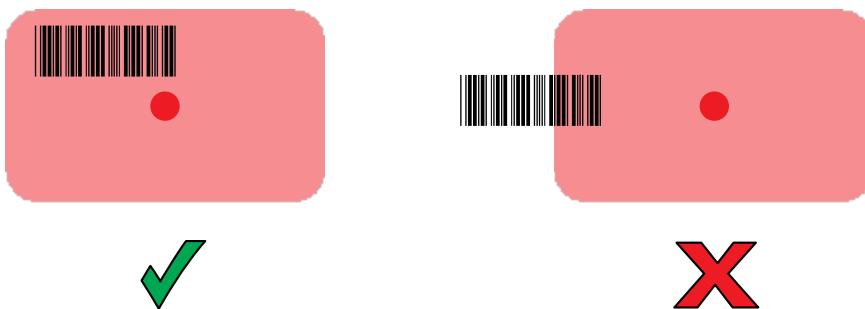
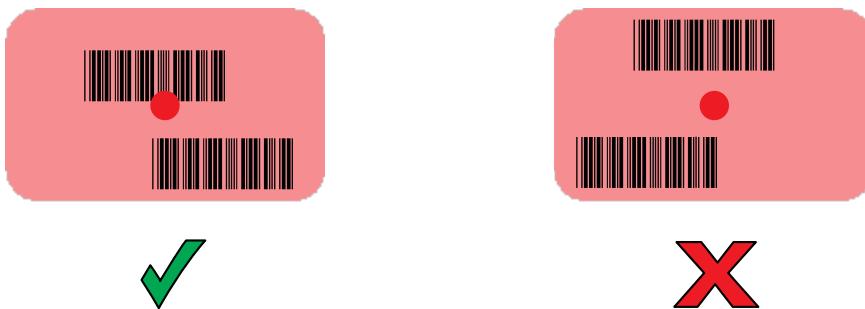


3. スキャンボタンを押し続けます。

TC52x/TC57x では、照準を合わせるための赤色のレーザー照準パターンおよび赤色の照準ドットがオンになります。

TC52x-HC では、照準を合わせるための白色のレーザー照準パターンおよび緑色の照準ドットがオンになります。

4. 照準パターンの領域にバーコードが納まっていることを確認します。照準ドットは明るい照明条件下で視認性を向上させるために使用されます。

**図 14 照準パターン****図 15 ピックリストモード: 複数のバーコードがある場合**

**注:** デバイスがピックリストモードの場合、デバイスは十字の照準の中心がバーコードに当たるまでバーコードを読み取りません。

デフォルト設定の場合、データ収集 LED が緑色で点灯してビープ音が鳴り、バーコードの読み取りが正常に完了したことを示します。

##### 5. トリガを放します。

バーコードコンテンツデータが、テキストフィールドに表示されます。

## 内蔵カメラによるスキャン

内蔵カメラを使用して、バーコードデータを読み取ります。



**注:** バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。デバイスには、ユーザーがスキャナでバーコードデータを読み取ったりバーコードコンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリがあります。

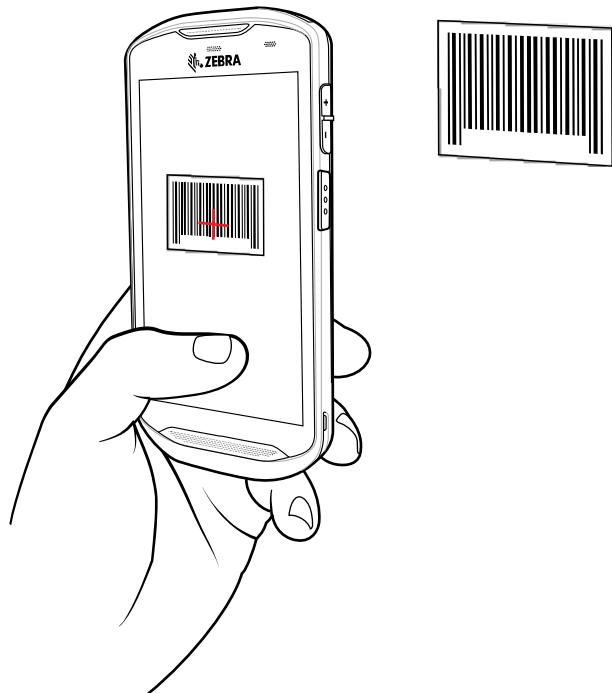


**注:** 内蔵カメラは、ライトデューティバーコードスキャン用です。1日100回以上のスキャンを実行するヘビーデューティスキャンの場合は、2Dイメージャを使用してください。

暗い照明下でバーコードデータを読み取る場合、DataWedge アプリケーションで、[Illumination mode] (照明モード) をオンにします。

内蔵カメラでスキャンするには、次の手順に従います。

### 1. カメラ ウィンドウをバーコードに向けます。



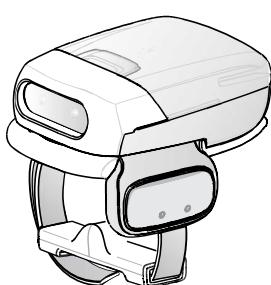
注：ピックリスト モードが有効になっている場合は、バーコードが画面の赤い照準の中央に来るようにデバイスを移動します。

2. トリガを押し続けます。デフォルトでは、画面にプレビュー ウィンドウが表示されます。
3. バーコードが画面に表示されるまでデバイスを移動します。
4. デフォルトでは、読み取り LED が緑色に点灯してビープ音が鳴り、デバイスが振動して、バーコードの読み取りが正常に完了したことを示します。
5. 読み取られたデータがテキスト フィールドに表示されます。

## RS507/RS507X ハンズフリーイマージャでのスキャン

RS507/RS507X ハンズフリーイマージャを使用して、バーコード データを収集します。

図 16 RS507/RS507X ハンズフリーイマージャ



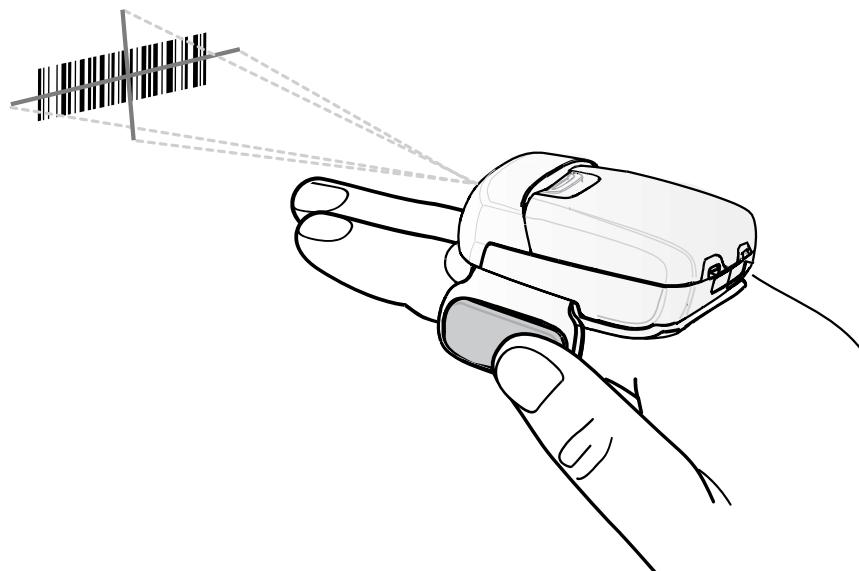
詳細については、『RS507/RS507X Hands-free Imager Product Reference Guide』を参照してください。



注：バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。デバイスには、ユーザーがスキャナでバーコードデータを読み取ったりバーコードコンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリがあります。

RS507/RS507x でスキャンするには、次の手順に従います。

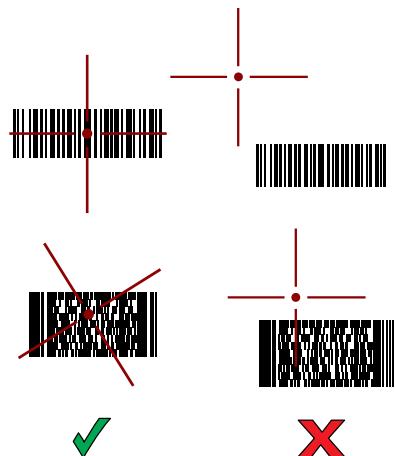
1. RS507/RS507X をデバイスとペアリングします。
2. アプリが本デバイスで開かれていること、テキストフィールドがフォーカスされている（テキストカーソルがテキストフィールドにある）ことを確認します。
3. RS507/RS507X をバーコードに向けます。



**4. トリガを押し続けます。**

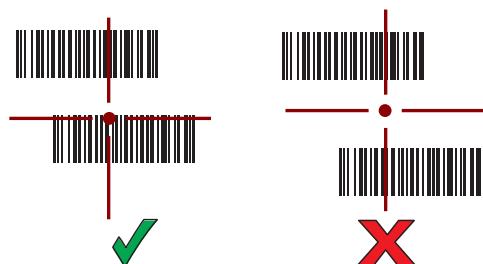
照準を合わせるための赤色のレーザー照準パターンがオンになります。照準パターンの十字の領域にバーコードが納まっていることを確認します。照準ドットにより、明るい照明条件でもよく見えます。

図 17 RS507/RS507X の照準パターン



RS507/RS507X がピックリスト モードの場合、十字の照準の中心がバーコードに当たるまで RS507/RS507X はバーコードを読み取りません。

図 18 RS507/RS507X ピックリスト モード: 複数のバーコードが照準パターン内にある場合



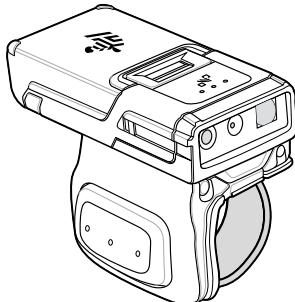
RS507/RS507X の LED が緑色に点灯してビープ音が鳴り、バーコードの読み取りが正常に完了したこと示します。

収集されたデータがテキストフィールドに表示されます。

## RS5100 リングスキャナでのスキャン

RS5100 リングスキャナを使用してバーコードデータを収集します。

図 19 RS5100 リングスキャナ



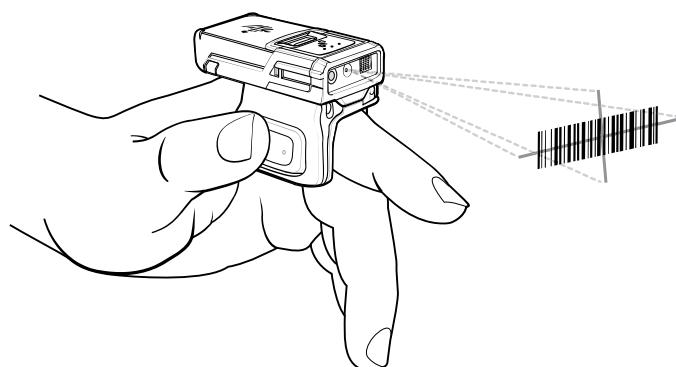
詳細については、『RS5100 Ring Scanner Product Reference Guide』を参照してください。



**注:** バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。デバイスには、ユーザーがスキャナでバーコードデータを読み取ったりバーコードコンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリがあります。

RS5100 でスキャンするには、次の手順に従います。

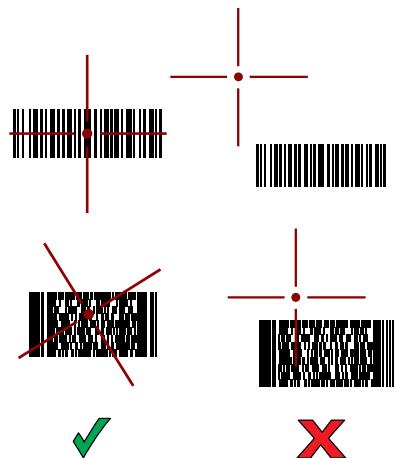
1. RS5100 をデバイスとペアリングします。
2. アプリが本デバイスで開かれていることと、テキストフィールドがフォーカスされている(テキストカーソルがテキストフィールドにある)ことを確認します。
3. RS5100 をバーコードに向けます。



**4. トリガを押し続けます。**

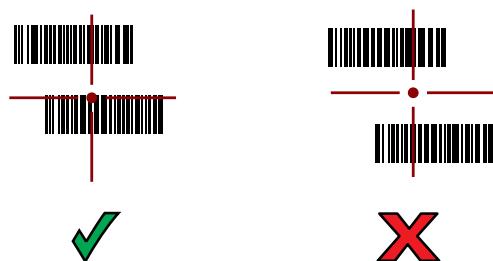
照準を合わせるための赤色のレーザー照準パターンがオンになります。照準パターンの十字の領域にバーコードが納まっていることを確認します。照準ドットにより、明るい照明条件でもよく見えます。

図 20 RS5100 の照準パターン



RS5100 がピックリスト モードの場合、十字の照準の中心がバーコードに当たるまで RS5100 はバーコードを読み取りません。

図 21 RS5100 ピックリスト モード: 複数のバーコードが照準パターン内にある場合



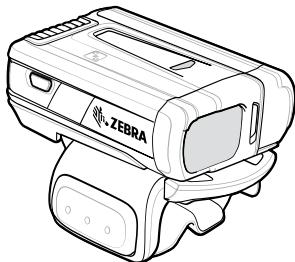
RS5100 LED が緑色に点灯してビープ音が鳴り、バーコードの読み取りが正常に完了したことを示します。

収集されたデータがテキスト フィールドに表示されます。

## RS6000 Bluetooth リング スキャナでのスキャン

RS6000 Bluetooth リング スキャナを使用してバーコード データを収集します。

図 22 RS6000 Bluetooth リング スキャナ



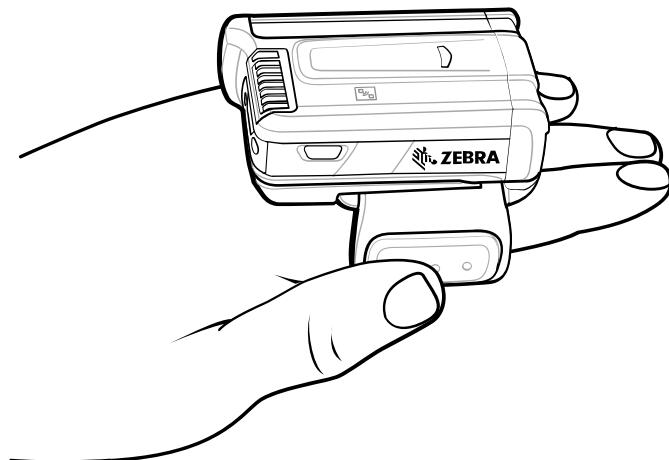
詳細については、『RS6000 Bluetooth Ring Scanner Product Reference Guide』を参照してください。



**注:** バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。デバイスには、ユーザーがスキャナでバーコード データを読み取ったりバーコード コンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリがあります。

RS6000 でスキャンするには、次の手順に従います。

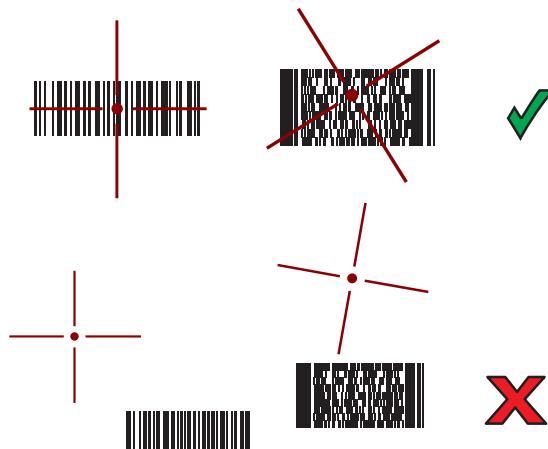
1. RS6000 をデバイスとペアリングします。
2. アプリが本デバイスで開かれていること、テキスト フィールドがフォーカスされている (テキスト カーソルがテキスト フィールドにある) ことを確認します。
3. RS6000 をバーコードに向けます。



**4. トリガを押し続けます。**

照準を合わせるための赤色のレーザー照準パターンがオンになります。照準パターンの十字の領域にバーコードが納まっていることを確認します。照準ドットにより、明るい照明条件でもよく見えます。

図 23 RS6000 の照準パターン



RS6000 がピックリスト モードの場合、十字の照準の中心がバーコードに当たるまで RS6000 はバーコードを読み取りません。

図 24 RS6000 ピックリスト モード: 複数のバーコードが照準パターン内にある場合



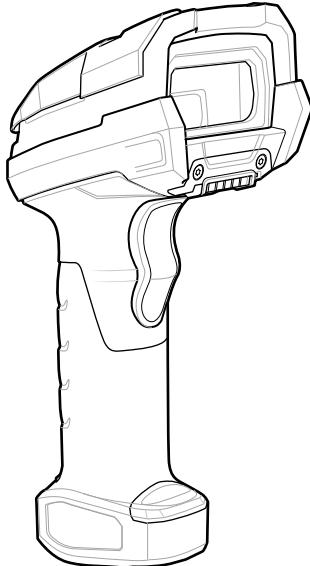
RS6000 LED が緑色に点灯してビープ音が鳴り、バーコードの読み取りが正常に完了したことを示します。

収集されたデータがテキスト フィールドに表示されます。

## DS3678 Bluetooth スキャナでのスキャン

DS3678 Bluetooth スキャナを使用してバーコード データを収集します。

図 25 DS3678 デジタル スキャナ



詳細については、『DS3678 Product Reference Guide』を参照してください。

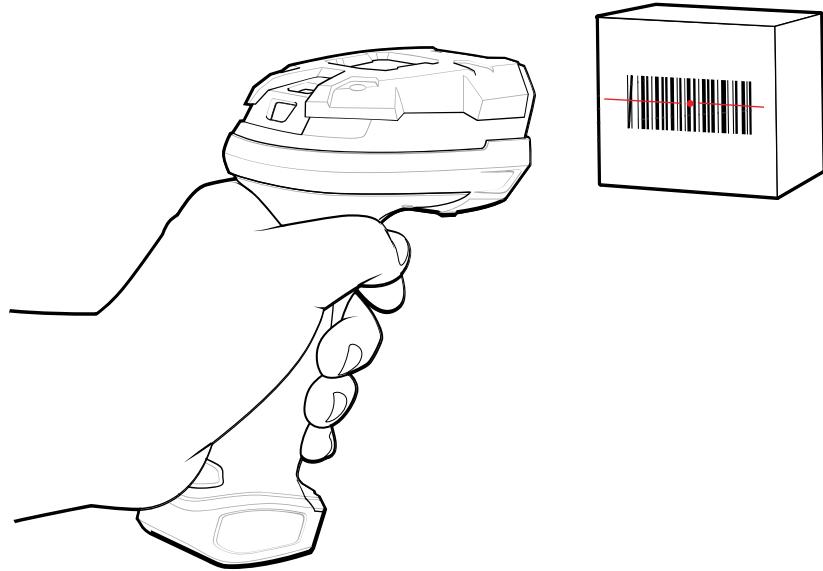


**注:** バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。デバイスには、ユーザーがスキャナでバーコード データを読み取ったりバーコード コンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリがあります。

DS3678 スキャナでスキャンするには、次の手順に従います。

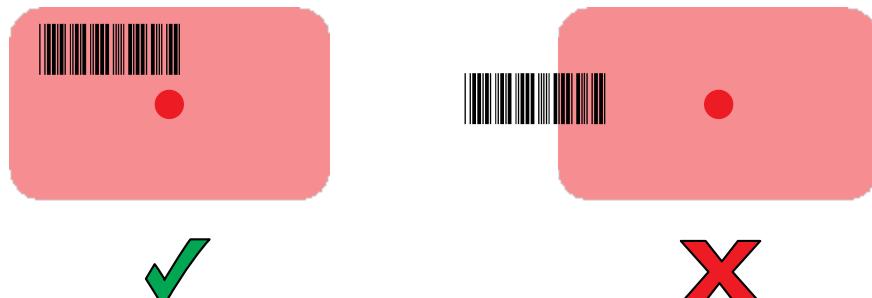
1. スキャナをデバイスとペアリングします。詳細については、「[Bluetooth スキャナのペアリング](#)」を参照してください。
2. アプリが本デバイスで開かれていることと、テキストフィールドがフォーカスされている（テキストカーソルがテキストフィールドにある）ことを確認します。

3. スキャナをバーコードに向けます。



4. トリガを押し続けます。

照準パターンの領域にバーコードが納まっていることを確認します。照準ドットにより、明るい照明条件でもよく見えます。

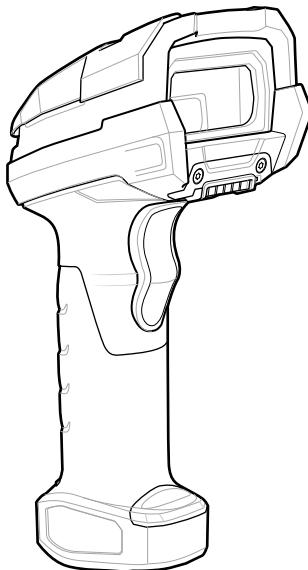


収集されたデータがテキストフィールドに表示されます。

## LI3678 リニア イメージャでのスキャン

LI3678 リニア イメージャを使用してバーコード データを収集します。

図 26 LI3678 Bluetooth スキャナ



詳細については、『LI3678 Product Reference Guide』を参照してください。



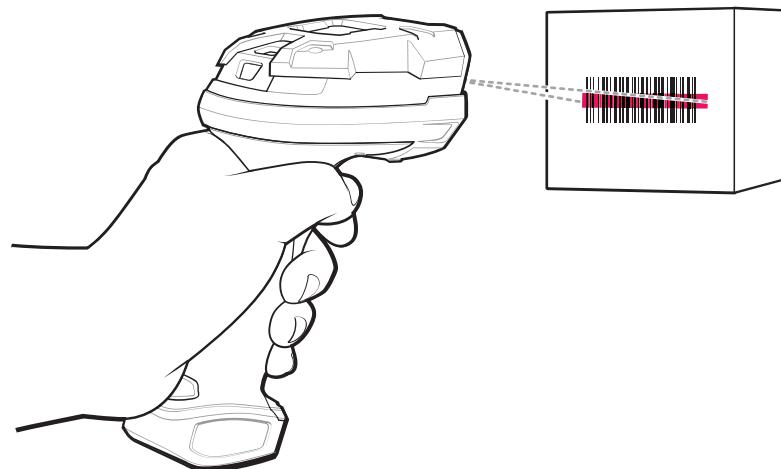
**注:** バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。デバイスには、ユーザーがスキャナでバーコード データを読み取ったりバーコード コンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリがあります。

LI3678 でスキャンするには、次の手順に従います。

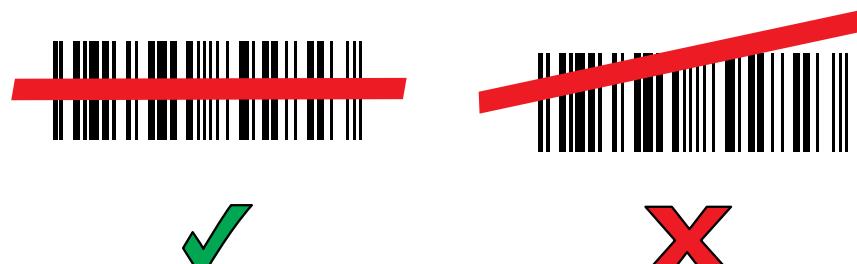
1. LI3678 をデバイスとペアリングします。詳細については、「[Bluetooth スキャナのペアリング](#)」を参照してください。
2. アプリが本デバイスで開かれていることと、テキストフィールドがフォーカスされている(テキストカーソルがテキストフィールドにある)ことを確認します。
3. LI3678 をバーコードに向けます。

## データの読み取り

4. トリガを押し続けます。



5. 照準パターンがバーコードを覆っていることを確認してください。



読み取りが成功すると、スキャナはビープ音を鳴らし、LED が 1 回緑色に点滅します。  
収集されたデータがテキストフィールドに表示されます。

## DS2278 デジタルスキャナでのスキャン

DS2278 デジタルスキャナを使用してバーコードデータを収集します。

図 27 DS2278 デジタルスキャナ



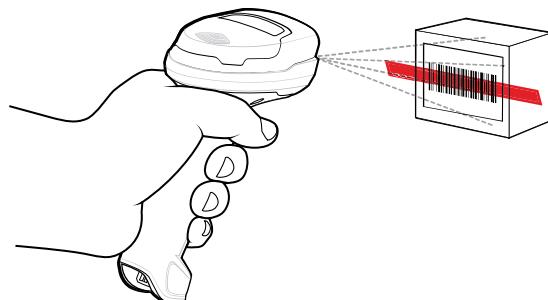
詳細については、『DS2278 デジタルスキャナ プロダクトリファレンスガイド』を参照してください。



**注:** バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。デバイスには、ユーザーがスキャナでバーコードデータを読み取ったりバーコードコンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリがあります。

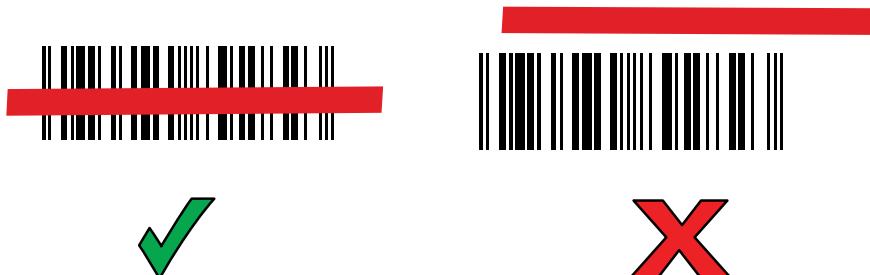
DS2278 でスキャンするには、次の手順に従います。

1. DS2278 をデバイスとペアリングします。詳細については、「[Bluetooth スキャナのペアリング](#)」を参照してください。
2. アプリが本デバイスで開かれていることと、テキストフィールドがフォーカスされている（テキストカーソルがテキストフィールドにある）ことを確認します。
3. スキャナをバーコードに向けます。



4. トリガを押し続けます。

5. 照準パターンがバーコードを覆っていることを確認してください。



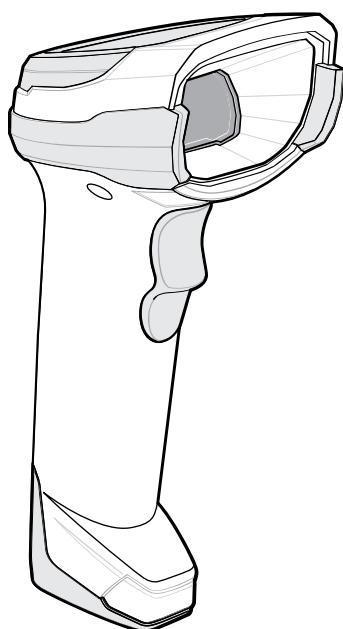
6. 読み取りに成功すると、スキャナはビープ音を鳴らし、LED が点滅し、スキャン ラインがオフになります。

収集されたデータがテキスト フィールドに表示されます。

## DS8178 デジタル スキャナでのスキャン

DS8178 Bluetooth スキャナを使用してバーコード データを収集します。

図 28 DS8178 デジタル スキャナ



詳細については、『DS8178 デジタル スキャナ プロダクト リファレンス ガイド』を参照してください。

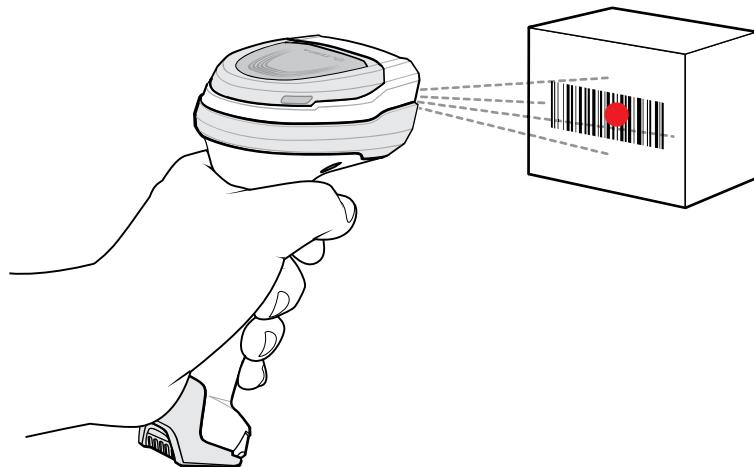


注：バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。デバイスには、ユーザーがスキャナでバーコード データを読み取ったりバーコード コンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリがあります。

DS8178 スキャナでスキャンするには、次の手順に従います。

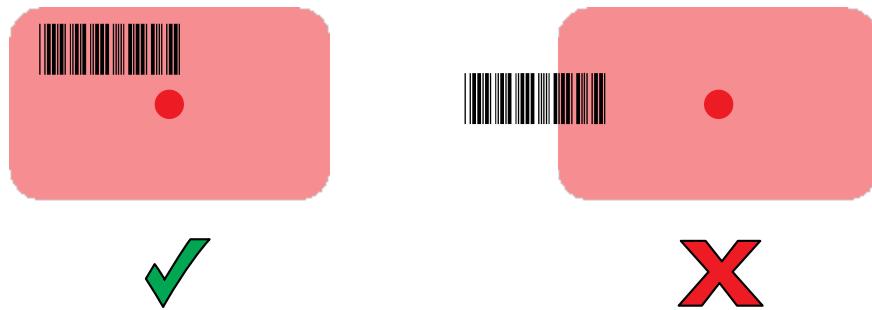
1. スキャナをデバイスとペアリングします。詳細については、「Bluetooth スキャナのペアリング」を参照してください。
2. アプリが本デバイスで開かれていることと、テキスト フィールドがフォーカスされている（テキスト カーソルがテキスト フィールドにある）ことを確認します。

3. スキャナをバーコードに向けます。



4. トリガを押し続けます。

5. 照準パターンの領域にバーコードが納まっていることを確認します。照準ドットにより、明るい照明条件でもよく見えます。



6. 読み取りに成功すると、スキャナはビープ音を鳴らし、LED が点滅し、スキャン ラインがオフになります。収集されたデータがテキスト フィールドに表示されます。

## Bluetooth リング スキャナのペアリング

デバイスで Bluetooth リング スキャナを使用する前に、デバイスをリング スキャナに接続します。

以下のいずれかの方法により、リング スキャナをデバイスに接続します。

- 近距離無線通信 (NFC) (RS6000 のみ)
- Simple Serial Interface (SSI)
- Bluetooth ヒューマンインターフェース デバイス (HID) モード

### SSI モードで近距離無線通信を使用してペアリングする

デバイスは、NFC を使用して SSI モードで RS5100 または RS6000 リング スキャナをペアリングできます。



注：RS5100 または RS6000 のみ。

1. NFC がデバイスで有効になっていることを確認します。

## 2. リングスキャナのNFCアイコンとデバイスの背面にあるNFCアンテナを合わせます。

ステータスLEDが青色に点滅し、リングスキャナがデバイスとの接続を確立しようとしていることを示します。接続が確立されると、ステータスLEDが消灯し、リングスキャナで低いビープ音と高いビープ音が続けて鳴ります。

デバイスの画面に通知が表示されます。

アイコンがステータスバーに表示されます。

## HIDモードで近距離無線通信を使用してペアリングする

デバイスは、NFCを使用してHIDモードでRS6000リングスキャナをペアリングできます。デバイスは、NFCを使用してHIDモードでRS5100またはRS6000リングスキャナをペアリングできます。



注：NFCは、デバイスのプレミアム構成でサポートされています。

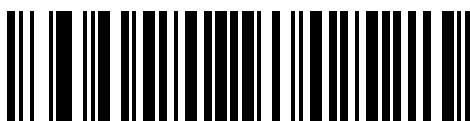
すべてのZebraデバイスがNFCリーダーとタップツーペア機能をサポートしているわけではありません。



注：RS5100またはRS6000のみ。

1. NFCがデバイスで有効になっていることを確認します。
2. 両方のデバイスでBluetoothが有効になっていることを確認します。
3. 検出するBluetoothデバイスが検出可能モードになっていることを確認します。
4. 2つのデバイスの距離が10m(32.8フィート)以下であることを確認します。
5. リングスキャナをヒューマンインターフェースデバイス(HID)モードに設定します。リングスキャナがすでにHIDモードになっている場合、手順6に進みます。
  - a) リングスキャナからバッテリを取り出します。
  - b) 復元キーを押し続けます。
  - c) リングスキャナにバッテリを取り付けます。
  - d) 高い音が聞こえるまで、約5秒にわたって復元キーを押したままにします。スキャンLEDが緑色に点滅します。
  - e) 下記のバーコードをスキャンして、リングスキャナをHIDモードに設定します。

図29 Bluetooth HIDバーコード



6. リングスキャナからバッテリを取り出します。
7. リングスキャナに再度バッテリを取り付けます。
8. リングスキャナのNFCアイコンとデバイスのNFCアンテナを合わせます。

ステータスLEDが青色に点滅し、リングスキャナがデバイスとの接続を確立しようとしていることを示します。接続が確立されると、ステータスLEDが消灯し、リングスキャナで低いビープ音と高いビープ音が続けて鳴ります。

デバイスの画面に通知が表示されます。

**A** アイコンがステータスバーに表示されます。

## Simple Serial Interface (SSI) の使用によるペアリング

Simple Serial Interface を使用してリングスキャナとデバイスをペアリングします。

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。
2. リングスキャナを使用して、画面でバーコードをスキャンします。

リングスキャナで高いビープ音と低いビープ音が交互に鳴ります。スキャン LED が緑色に点滅し、リングスキャナがデバイスとの接続を確立しようとしていることを示します。接続が確立されると、スキャン LED が消灯し、リングスキャナで、低いビープ音と高いビープ音が続けて1回鳴ります。

通知が [Notification] (通知) パネルに表示され、 アイコンがステータスバーに表示されます。

## Bluetooth ヒューマンインターフェースデバイスを使用してペアリングする

ヒューマンインターフェースデバイス (HID) を使用してリングスキャナをデバイスとペアリングします。

1. 両方のデバイスで Bluetooth が有効になっていることを確認します。
2. 検出する Bluetooth デバイスが検出可能モードになっていることを確認します。
3. 2つのデバイスの距離が 10m (32.8 フィート) 以下であることを確認します。
4. リングスキャナを HID モードにします。リングスキャナがすでに HID モードになっている場合、手順 5 に進みます。
  - a) リングスキャナからバッテリを取り出します。
  - b) 復元を押し続けます。
  - c) リングスキャナにバッテリを取り付けます。
  - d) 高い音が聞こえるまで、約 5 秒にわたって復元キーを押したままにします。スキャン LED が緑色で点滅します。
  - e) 下記のバーコードをスキャンして、リングスキャナを HID モードに設定します。

図 30 RS507 Bluetooth HID バーコード

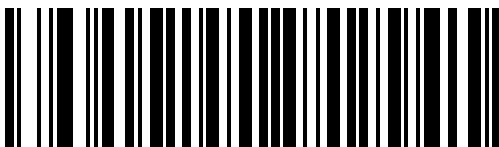
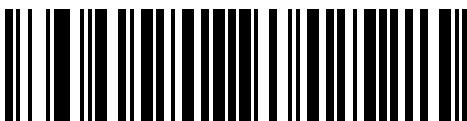


図 31 RS6000 Bluetooth HID バーコード



5. リングスキャナからバッテリを取り出します。
6. リングスキャナに再度バッテリを取り付けます。
7. ステータスバーから下にスワイプしてクイックアクセスパネルを開き、 をタッチします。

8. [Bluetooth] をタッチします。
9. [Pair new device] (新しいデバイスとペア設定する) をタッチします。エリア内で検出可能な Bluetooth デバイスの検索が開始され、[Available devices] (使用可能なデバイス) にデバイスのリストが表示されます。
10. リストをスクロールし、リング スキャナを選択します。  
デバイスがリング スキャナと接続され、デバイス名の下に [Connected] (接続済み) と表示されます。Bluetooth デバイスが [Paired devices] (ペアリング済みデバイス) リストに追加され、信頼された (ペアリングされた) 接続が確立されます。  
通知が [Notification] (通知) パネルに表示され、 アイコンがステータスバーに表示されます。

## Bluetooth スキャナのペアリング

デバイスで Bluetooth スキャナを使用する前に、デバイスを Bluetooth スキャナに接続します。

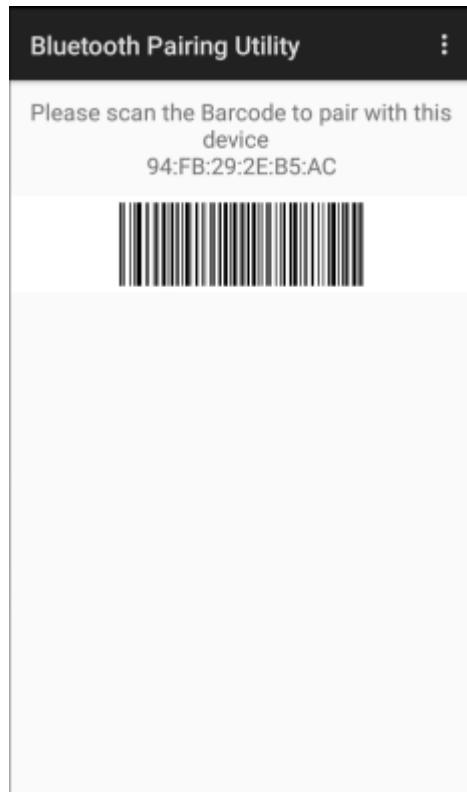
次のいずれかの方法を使用して、スキャナをデバイスに接続します。

- Simple Serial Interface (SSI) モード
- Bluetooth ヒューマンインターフェース デバイス (HID) モード

### Simple Serial Interface を使用してペアリングする

Simple Serial Interface を使用してリング スキャナとデバイスをペアリングします。

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。



## 2. リングスキャナを使用して、画面でバーコードをスキャンします。

リングスキャナで高いビープ音と低いビープ音が交互に鳴ります。スキャン LED が緑色に点滅し、リングスキャナがデバイスとの接続を確立しようとしていることを示します。接続が確立されると、スキャン LED が消灯し、リングスキャナで、低いビープ音と高いビープ音が続けて 1 回鳴ります。

通知が [Notification] (通知) パネルに表示され、 アイコンがステータスバーに表示されます。

## Bluetooth ヒューマンインターフェース デバイスを使用してペアリングする

HID を使用してスキャナをデバイスとペアリングするには、以下の手順を実行します。

1. バッテリをスキャナから取り外します。
2. バッテリを交換します。
3. スキャナを再起動したら、以下のバーコードをスキャンして、スキャナを HID モードに設定します。



4. デバイスで、ステータスバーから下にスワイプしてクイックアクセスパネルを開き、 をタッチします。
  5. [Bluetooth] をタッチします。
  6. [Pair new device] (新しいデバイスとペア設定する) をタッチします。エリア内に検出できる Bluetooth デバイスの検索が開始され、[Available devices] (使用可能なデバイス) にデバイスのリストが表示されます。
  7. リストをスクロールして XXXXX xxxxxxx (XXXXX はスキャナ、xxxxxx はシリアル番号) を選択します。
- デバイスがスキャナに接続されるとビープ音が 1 回鳴り、デバイス名の下に [Connected] (接続済み) が表示されます。Bluetooth デバイスが [Paired devices] (ペアリング済みデバイス) リストに追加され、信頼された (ペアリングされた) 接続が確立されます。

## DataWedge

DataWedge は、コードを記述せずに、アプリケーションに高度なバーコードスキャナ機能を追加するユーティリティです。これはバックグラウンドで実行され、内蔵バーコードスキャナへのインターフェースを処理します。収集されたバーコードデータはキーストロークに変換され、キーパッドで入力したかのように、目的のアプリケーションに送信されます。

DataWedge を使用すると、デバイス上の任意のアプリでバーコードスキャナ、MSR、RFID、音声、またはシリアルポートなどの入力ソースからデータを取得し、オプションまたはルールに基づいてデータを操作できます。

DataWedge を設定すると次を実行できます。

- あらゆるアプリからデータ収集サービスを提供する。
- 特定のスキャナ、リーダー、またはその他の周辺機器を使用する。
- データを適切にフォーマットし、特定のアプリに送信する。

DataWedge を構成するには、[techdocs.zebra.com/datawedge/](https://techdocs.zebra.com/datawedge/) を参照してください。

## DataWedge の有効化

この手順では、デバイスで DataWedge を有効にする方法について説明します。

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。
2.  > [Settings] (設定) の順にタッチします。
3. [DataWedge enabled] (DataWedge の有効化) チェックボックスをタッチします。

青色のチェックマークがチェックボックスに表示され、DataWedge が有効になったことを示します。

## DataWedge の無効化

この手順では、デバイスで DataWedge を無効にする方法について説明します。

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。
2.  をタッチします。
3. [Settings] (設定) をタッチします。
4. [DataWedge enabled] (DataWedge の有効化) をタッチします。

## サポート対象デコーダ

デバイスは、この表に記載されているデコーダをサポートしています

### カメラでサポートされているデコーダ

内蔵カメラでサポートされているデコーダを表示します。

**表 14** カメラでサポートされているデコーダ

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Australian Postal	O	EAN8	X	MSI	O
Aztec	X	Grid Matrix	O	PDF417	X
Canadian Postal	O	GS1 DataBar	X	QR Code	X
Chinese 2 of 5	O	GS1 DataBar Expanded	X	Decoder Signature	O
Codabar	X	GS1 DataBar Limited	O	TLC 39	O
Code 11	O	GS1 Datamatrix	O	Trioptic 39	O
Code 128	X	GS1 QRCode	O	UK Postal	O
Code 39	X	HAN XIN	O	UPCA	X
Code 93	O	Interleaved 2 of 5	O	UPCE0	X

表 14 カメラでサポートされているデコーダ (Continued)

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Composite AB	O	Japanese Postal	O	UPCE1	O
Composite C	O	Korean 3 of 5	O	US4state	O
Discrete 2 of 5	O	MAIL MARK	X	US4state FICS	O
DataMatrix	X	Matrix 2 of 5	O	US Planet	O
Dutch Postal	O	Maxicode	X	US Postnet	O
DotCode	X	MicroPDF	O		
EAN13	X	MicroQR	O		

キー: X = 有効、 O = 無効、 - = サポート対象外

## SE4720 内蔵イメージヤ対応デコーダ

SE4720 内蔵イメージヤでサポートされているデコーダを示します。

表 15 SE4720 内蔵イメージヤ対応デコーダ

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Australian Postal	O	EAN8	X	MSI	O
Aztec	X	Grid Matrix	O	PDF417	X
Canadian Postal	O	GS1 DataBar	X	QR Code	X
Chinese 2 of 5	O	GS1 DataBar Expanded	X	Decoder Signature	O
Codabar	X	GS1 DataBar Limited	O	TLC 39	O
Code 11	O	GS1 Datamatrix	O	Trioptic 39	O
Code 128	X	GS1 QRCode	O	UK Postal	O
Code 39	X	HAN XIN	O	UPCA	X
Code 93	O	Interleaved 2 of 5	O	UPCE0	X
Composite AB	O	Japanese Postal	O	UPCE1	O
Composite C	O	Korean 3 of 5	O	US4state	O
Discrete 2 of 5	O	MAIL MARK	X	US4state FICS	O
DataMatrix	X	Matrix 2 of 5	O	US Planet	O
Dutch Postal	O	Maxicode	X	US Postnet	O

表 15 SE4720 内蔵イメージヤ対応デコーダ (Continued)

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
DotCode	O	MicroPDF	O		
EAN13	X	MicroQR	O		

キー: X = 有効、 O = 無効、 - サポート対象外

## RS507/RS507x でサポートされているデコーダ

RS507/RS507X リングスキャナでサポートされているデコーダを示します。

表 16 RS507/RS507x でサポートされているデコーダ

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Australian Postal	O	EAN8	X	MSI	O
Aztec	X	Grid Matrix	O	PDF417	X
Canadian Postal	-	GS1 DataBar	X	QR Code	X
Chinese 2 of 5	O	GS1 DataBar Expanded	X	Decoder Signature	O
Codabar	X	GS1 DataBar Limited	O	TLC 39	O
Code 11	O	GS1 Datamatrix	-	Trioptic 39	O
Code 128	X	GS1 QRCode	-	UK Postal	O
Code 39	O	HAN XIN	-	UPCA	X
Code 93	O	Interleaved 2 of 5	O	UPCE0	X
Composite AB	O	Japanese Postal	O	UPCE1	O
Composite C	O	Korean 3 of 5	O	US4state	O
Discrete 2 of 5	O	MAIL MARK	-	US4state FICS	O
DataMatrix	X	Matrix 2 of 5	O	US Planet	O
Dutch Postal	O	Maxicode	X	US Postnet	O
DotCode	O	MicroPDF	O		
EAN13	X	MicroQR	O		

キー: X = 有効、 O = 無効、 - = サポート対象外

## RS5100 でサポートされているデコーダ

RS5100 リングスキャナでサポートされているデコーダを示します。

表 17 RS5100 でサポートされているデコーダ

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Australian Postal	O	EAN8	X	MSI	O
Aztec	X	Grid Matrix	O	PDF417	X
Canadian Postal	O	GS1 DataBar	X	QR Code	X
Chinese 2 of 5	O	GS1 DataBar Expanded	X	Decoder Signature	O
Codabar	X	GS1 DataBar Limited	O	TLC 39	O
Code 11	O	GS1 Datamatrix	O	Trioptic 39	O
Code 128	X	GS1 QRCode	O	UK Postal	O
Code 39	X	HAN XIN	O	UPCA	X
Code 93	O	Interleaved 2 of 5	O	UPCE0	X
Composite AB	O	Japanese Postal	O	UPCE1	O
Composite C	O	Korean 3 of 5	O	US4state	O
Discrete 2 of 5	O	MAIL MARK	X	US4state FICS	O
DataMatrix	X	Matrix 2 of 5	O	US Planet	O
Dutch Postal	O	Maxicode	X	US Postnet	O
DotCode	O	MicroPDF	O		
EAN13	X	MicroQR	O		

キー: X = 有効、 O = 無効、 - = サポート対象外

## RS6000 でサポートされているデコーダ

RS6000 リングスキャナでサポートされているデコーダを示します。

表 18 RS6000 でサポートされているデコーダ

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Australian Postal	O	EAN8	X	MSI	O
Aztec	X	Grid Matrix	O	PDF417	X

表 18 RS6000 でサポートされているデコーダ (Continued)

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Canadian Postal	O	GS1 DataBar	X	QR Code	X
Chinese 2 of 5	O	GS1 DataBar Expanded	X	Decoder Signature	O
Codabar	X	GS1 DataBar Limited	O	TLC 39	O
Code 11	O	GS1 Datamatrix	O	Trioptic 39	O
Code 128	X	GS1 QRCode	O	UK Postal	O
Code 39	X	HAN XIN	O	UPCA	X
Code 93	O	Interleaved 2 of 5	O	UPCE0	X
Composite AB	O	Japanese Postal	O	UPCE1	O
Composite C	O	Korean 3 of 5	O	US4state	O
Discrete 2 of 5	O	MAIL MARK	X	US4state FICS	O
DataMatrix	X	Matrix 2 of 5	O	US Planet	O
Dutch Postal	O	Maxicode	X	US Postnet	O
DotCode	O	MicroPDF	O		
EAN13	X	MicroQR	O		

キー: X = 有効、 O = 無効、 - = サポート対象外

## DS2278 でサポートされているデコーダ

DS2278 デジタルスキャナでサポートされているデコーダを示します。

表 19 DS2278 デジタルスキャナでサポートされているデコーダ

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Australian Postal	O	EAN8	X	MSI	O
Aztec	X	Grid Matrix	O	PDF417	X
Canadian Postal	-	GS1 DataBar	X	QR Code	X
Chinese 2 of 5	O	GS1 DataBar Expanded	X	Decoder Signature	O
Codabar	X	GS1 DataBar Limited	O	TLC 39	O

表 19 DS2278 デジタルスキャナでサポートされているデコーダ (Continued)

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Code 11	O	GS1 Datamatrix	O	Trioptic 39	O
Code 128	X	GS1 QRCode	O	UK Postal	O
Code 39	X	HAN XIN	—	UPCA	X
Code 93	O	Interleaved 2 of 5	O	UPCE0	X
Composite AB	O	Japanese Postal	O	UPCE1	O
Composite C	O	Korean 3 of 5	O	US4state	O
Discrete 2 of 5	O	MAIL MARK	X	US4state FICS	O
DataMatrix	X	Matrix 2 of 5	O	US Planet	O
Dutch Postal	O	Maxicode	X	US Postnet	O
DotCode	O	MicroPDF	O		
EAN13	X	MicroQR	O		

キー: X = 有効、 O = 無効、 — = サポート対象外

## DS3678 でサポートされているデコーダ

DS3678 スキャナでサポートされているデコーダを示します。

表 20 DS3678 でサポートされているデコーダ

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Australian Postal	O	EAN8	X	MSI	O
Aztec	X	Grid Matrix	O	PDF417	X
Canadian Postal	—	GS1 DataBar	X	QR Code	X
Chinese 2 of 5	O	GS1 DataBar Expanded	X	Decoder Signature	—
Codabar	X	GS1 DataBar Limited	O	TLC 39	O
Code 11	O	GS1 Datamatrix	O	Trioptic 39	O
Code 128	X	GS1 QRCode	O	UK Postal	O
Code 39	X	HAN XIN	O	UPCA	X
Code 93	O	Interleaved 2 of 5	O	UPCE0	X

表 20 DS3678 でサポートされているデコーダ (Continued)

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Composite AB	O	Japanese Postal	O	UPCE1	O
Composite C	O	Korean 3 of 5	O	US4state	O
Discrete 2 of 5	O	MAIL MARK	X	US4state FICS	O
DataMatrix	X	Matrix 2 of 5	O	US Planet	O
Dutch Postal	O	Maxicode	X	US Postnet	O
DotCode	O	MicroPDF	O		
EAN13	X	MicroQR	O		

キー: X = 有効、 O = 無効、 — = サポート対象外

## DS8178 でサポートされているデコーダ

DS8178 デジタルスキャナでサポートされているデコーダを示します。

表 21 DS8178 デジタルスキャナでサポートされているデコーダ

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Australian Postal	O	EAN8	X	MSI	O
Aztec	X	Grid Matrix	O	PDF417	X
Canadian Postal	—	GS1 DataBar	X	QR Code	X
Chinese 2 of 5	O	GS1 DataBar Expanded	X	Decoder Signature	—
Codabar	X	GS1 DataBar Limited	O	TLC 39	O
Code 11	O	GS1 Datamatrix	O	Trioptic 39	O
Code 128	X	GS1 QRCode	O	UK Postal	O
Code 39	X	HAN XIN	—	UPCA	X
Code 93	O	Interleaved 2 of 5	O	UPCE0	X
Composite AB	O	Japanese Postal	O	UPCE1	O
Composite C	O	Korean 3 of 5	O	US4state	O
Discrete 2 of 5	O	MAIL MARK	X	US4state FICS	O
DataMatrix	X	Matrix 2 of 5	O	US Planet	O
Dutch Postal	O	Maxicode	X	US Postnet	O

表 21 DS8178 デジタルスキャナでサポートされているデコーダ (Continued)

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
DotCode	O	MicroPDF	O		
EAN13	X	MicroQR	O		

キー: X = 有効、 O = 無効、 — = サポート対象外

## LI3678 でサポートされているデコーダ

LI3678 スキャナでサポートされているデコーダを示します。

表 22 LI3678 でサポートされているデコーダ

デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態	デコーダ	デフォルト状態
Australian Postal	—	EAN8	X	MSI	O
Aztec	—	Grid Matrix	O	PDF417	—
Canadian Postal	—	GS1 DataBar	X	QR Code	—
Chinese 2 of 5	O	GS1 DataBar Expanded	X	Decoder Signature	—
Codabar	X	GS1 DataBar Limited	O	TLC 39	O
Code 11	O	GS1 Datamatrix	—	Trioptic 39	O
Code 128	X	GS1 QRCode	—	UK Postal	—
Code 39	X	HAN XIN	O	UPCA	X
Code 93	O	Interleaved 2 of 5	O	UPCE0	X
Composite AB	—	Japanese Postal	—	UPCE1	O
Composite C	—	Korean 3 of 5	O	US4state	—
Discrete 2 of 5	O	MAIL MARK	—	US4state FICS	—
DataMatrix	—	Matrix 2 of 5	O	US Planet	—
Dutch Postal	—	Maxicode	—	US Postnet	—
DotCode	O	MicroPDF	—		
EAN13	X	MicroQR	—		

キー: X = 有効、 O = 無効、 — = サポート対象外

# 無線

このセクションでは、デバイスの無線機能について説明します。

デバイスでは、次の無線機能を使用できます。

- 無線ワイドエリアネットワーク (WWAN)
- 無線ローカルエリアネットワーク (WLAN)
- Bluetooth
- キャスト
- 近距離無線通信 (NFC)

## 無線ワイドエリアネットワーク

携帯電話ネットワーク経由でデータにアクセスするには、無線 WAN (WWAN) を使用します。



注：TC57x のみ。

このセクションでは、次について説明します。

- データ接続の共有
- データ使用量の監視
- 携帯電話ネットワーク設定の変更

## モバイルデータ接続の共有

[**Tethering & Portable Hotspot**] (テザリングとポータブルホットスポット) 設定を使用して、モバイルデータ接続を USB のテザリングまたは Bluetooth のテザリング経由で 1 台のコンピュータと共有できます。

ポータブル Wi-Fi ホットスポットを有効にして、8 台までのデバイスと同時にデータ接続を共有します。デバイスでデータ接続を共有している間、画面の上部にはアイコンが表示され、通知リストに関連メッセージが表示されます。

### USB テザリングを有効にする



注：USB テザリングは、Mac OS を実行するコンピュータではサポートされていません。Windows または最近の Linux バージョン (Ubuntu など) を実行しているコンピュータの場合、特別な準備は不要なので次の手順に従ってください。Windows 7 より前のバージョンの

Windows や、他のオペレーティング システムを使用している場合は、USB 経由でネットワーク接続を確立できるようにコンピュータを準備する必要が生じることがあります。

1. USB ケーブルを使用し、デバイスをホスト コンピュータに接続します。

[Charging this device via USB] (USB でこのデバイスを充電中) という通知が [Notifications] (通知) パネルに表示されます。

2. [Settings] (設定) に移動します。

3. [Network & Internet] (ネットワークとインターネット) をタッチします。

4. [Hotspot & tethering] (ホットスポットとテザリング) をタッチします。

5. [USB tethering] (USB テザリング) スイッチをタッチして有効にします。

これで、ホスト コンピュータはデバイスのデータ接続を共有するようになりました。

データ接続の共有を停止するには、[USB tethering] (USB テザリング) スイッチをもう一度タッチするか、USB ケーブルを取り外します。

## Bluetooth テザリングを有効にする

Bluetooth のテザリングを使用して、ホスト コンピュータとデータ接続を共有します。

Bluetooth を使用してネットワーク接続を取得するようにホスト コンピュータを設定します。 詳細については、ホスト コンピュータのマニュアルを参照してください。

1. デバイスをホスト コンピュータとペアリングします。

2. [Settings] (設定) に移動します。

3. [Networking & Internet] (ネットワークとインターネット) をタッチします。

4. [Hotspot & tethering] (ホットスポットとテザリング) をタッチします。

5. [Bluetooth tethering] (Bluetooth テザリング) スイッチをタッチして有効にします。

これで、ホスト コンピュータはデバイスのデータ接続を共有するようになりました。

データ接続の共有を停止するには、[Bluetooth tethering] (Bluetooth テザリング) スイッチをもう一度タッチします。

## Wi-Fi ホットスポットを有効にする

1. [Settings] (設定) に移動します。

2. [Networking & Internet] (ネットワークとインターネット) をタッチします。

3. [Hotspot & tethering] (ホットスポットとテザリング) をタッチします。

4. [Wi-Fi hotspot] (Wi-Fi ホットスポット) をタッチします。

5. 有効にするには、スイッチを切り替えます。

しばらくすると、デバイスは Wi-Fi ネットワーク名 (SSID) のブロードキャストを開始します。8 台までのコンピュータまたはその他のデバイスを接続します。 ホットスポット  アイコンがステータス バーに表示されます。

データ接続の共有を停止するには、切り替えスイッチをもう一度タッチします。

## Wi-Fi ホットスポットの設定

1. [Settings] (設定) に移動します。

2. [Networking & Internet] (ネットワークとインターネット) をタッチします。
3. [Hotspot & tethering] (ホットスポットとテザリング) をタッチします。
4. [Wi-Fi hotspot] (Wi-Fi ホットスポット) をタッチします。
5. [Hotspot name] (ホットスポット名) テキストフィールドで、ホットスポットの名前を編集します。
6. [Security] (セキュリティ) をタッチして、ドロップダウンリストからセキュリティの方法を選択します。
  - WPA2-Personal
    - a. [Hotspot password] (ホットスポットのパスワード) をタッチします。
    - b. パスワードを入力します。
    - c. [OK] をタッチします。
  - [None] (なし) - [Security] (セキュリティ) オプションで [None] (なし) を選択した場合、パスワードは要求されません。
7. [Advanced] (詳細設定) をタッチします。
8. 必要に応じて、[Turn off hotspot automatically] (ホットスポットを自動的にオフにする) をタッチして、デバイスが接続されていないときに Wi-Fi ホットスポットをオフにします。
9. [AP Band] (AP 帯域幅) ドロップダウンリストから、[2.4GHz Band] (2.4GHz 帯) または [5.0GHz Band] (5.0GHz 帯) を選択します。

## データ使用量

データ使用量とは、所定の期間内にデバイスによってアップロードまたはダウンロードされたデータの量を指します。無線通信のプランに応じて、データ使用量がプランの制限を超えると、追加料金が請求される場合があります。

データ使用量設定では、次の設定ができます。

- データセーバーを有効にする。
- データ使用量の警告レベルを設定する。
- データ使用量の制限を設定する。
- アプリごとにデータ使用量を表示または制限する
- モバイルホットスポットを識別し、追加料金が発生する可能性があるバックグラウンドのダウンロードを制限する。

## データ使用量の警告の設定

一定のモバイルデータが使用されると警告を発するよう設定します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Network & internet] (ネットワークとインターネット) > [Mobile network] (モバイルネットワーク) > [Data usage] (データ使用量) >  の順にタッチします。
3. 必要に応じて、[Set data warning] (データ警告の設定) にタッチして有効にします。
4. [Data warning] (データ警告) をタッチします。
5. 数値を入力します。

メガバイト (MB) とギガバイト (GB) を切り替えるには、下矢印をタッチします。

6. [SET] (設定) をタッチします。  
データ使用量が設定レベルに達すると、通知が表示されます。

## データ制限の設定

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Network & internet] (ネットワークとインターネット) > [Mobile network] (モバイルネットワーク) > [Data usage] (データ使用量) >  の順にタッチします。
3. [Set data limit] (データ制限の設定) をタッチします。
4. [OK] をタッチします。
5. [Data limit] (データ制限) をタッチします。
6. 数値を入力します。  
メガバイト (MB) とギガバイト (GB) を切り替えるには、下矢印をタッチします。
7. [Set] (設定) をタッチします。  
制限に達すると、データは自動的にオフになります。

## 携帯電話ネットワークの設定

携帯電話ネットワークの設定は、WWAN デバイスにのみ適用されます。

### ローミング時のデータ

ローミングはデフォルトで無効になっています。これにより、デバイスが携帯電話会社のネットワークがカバーするエリアを離れたときに、他の携帯電話会社のモバイルネットワーク経由でデータを転送しなくなります。サービス プランにデータ ローミングが含まれていない場合に経費を制御するのに役立ちます。

#### GSM デバイスでのデータの有効化

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Networking & Internet] (ネットワークとインターネット) > [Mobile network] (モバイルネットワーク) の順にタッチします。
3. [Roaming] (ローミング) をタッチします。  
スイッチが [ON] (オン) の位置に移動します。

## 優先ネットワークの設定

ネットワーク動作モードを変更します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Network & Internet] (ネットワークとインターネット) > [Mobile network] (モバイルネットワーク) > [Advanced] (詳細) の順にタッチします。
3. [Automatically select network] (ネットワークの自動選択) をタッチします。
4. [Network] (ネットワーク) にタッチします。

- [Available network] (使用可能なネットワーク) リストで、携帯電話会社のネットワークを選択します。

## [Search for MicroCell] (マイクロセルの検索) の使用方法

マイクロセルは、建物や住宅内で小さな携帯電話基地局のように動作し、既存のブロードバンド インターネット サービスに接続します。音声通話、テキスト、携帯電話のデータ アプリケーション(画像メッセージ、Web サーフィンなど) 使用時の携帯電話信号のパフォーマンスが向上します。

- [Settings] (設定) に移動します。
- [Network & Internet] (ネットワークとインターネット) > [Mobile network] (モバイル ネットワーク) の順にタッチします。
- [Search for MicroCell] (マイクロセルの検索) をタッチします。

## アクセス ポイント名の編集

ネットワークでデータを使用するには、APN 情報を設定します。



注：多数のサービス プロバイダのアクセス ポイント名 (APN) データが事前にデバイスで設定されています。その他すべてのサービス プロバイダの APN 情報は、ワイヤレス サービス プロバイダから取得する必要があります。

- [Settings] (設定) に移動します。
- [Network & Internet] (ネットワークとインターネット) > [Mobile network] (モバイル ネットワーク) > [Advanced] (詳細) の順にタッチします。
- [Access Point Names] (アクセス ポイント名) をタッチします。
- リストの APN 名をタッチして既存の APN を編集するか、[+] をタッチして新しい APN を作成します。
- 各 APN 設定をタッチして、ワイヤレス サービス プロバイダから取得した適切な情報を入力します。
- 完了したら、⋮ > [Save] (保存) の順にタッチします。
- APN 名の横にあるラジオ ボタンをタッチして、その APN の使用を開始します。

## SIM カードのロック

SIM カードをロックすると、デバイスの電源をオンにするたびに PIN の入力が必要になります。正しい PIN が入力されない場合、かけられるのは緊急電話のみになります。

- [Settings] (設定) に移動します。
- [Security] (セキュリティ) > [SIM card lock] (SIM カードのロック) の順にタッチします。
- [Lock SIM card] (SIM カードのロック) をタッチします。
- カードと関連付けられている PIN を入力します。
- [OK] をタッチします。
- デバイスをリセットします。

## 無線 LAN (Wireless Local Area Network)

無線 LAN (WLAN) を使用すると、屋内でデバイスの無線通信が可能になります。WLAN でデバイスを使用するには、WLAN を利用するために必要なハードウェア (インフラストラクチャとも呼ばれる) を施設に装備する必要があります。この通信を有効にするには、インフラストラクチャとデバイスを正しく設定する必要があります。



**注:** バッテリの寿命を延ばすには、Wi-Fi を使用しないときはオフにします。

インフラストラクチャの設定方法については、インフラストラクチャ (アクセスポイント (AP)、アクセスポート、スイッチ、Radius サーバーなど) に付属しているマニュアルを参照してください。

選択した WLAN セキュリティ方式を適用するようにインフラストラクチャを設定したら、[Wireless & networks] (無線とネットワーク) 設定を使用して、そのセキュリティ方式に適合するようにデバイスを設定します。

デバイスは、次の WLAN セキュリティ オプションをサポートします。

- なし
- Enhanced Open
- Wireless Equivalent Privacy (WEP)
- Wi-Fi Protected Access (WPA)/WPA2 Personal (PSK)
- WPA3-Personal
- WPA/WPA2/WPA3 Enterprise (EAP)
  - Protected Extensible Authentication Protocol (PEAP) - MSCHAPV2 と GTC 認証が使用可能です。
  - Transport Layer Security (TLS)
  - Tunneled Transport Layer Security (TTLS) - Password Authentication Protocol (PAP)、MSCHAP および MSCHAPv2 認証を使用。
  - パスワード (PWD)。
  - Lightweight Extensible Authentication Protocol (LEAP)
- WPA3-Enterprise 192 ビット

ステータスバーには、Wi-Fi ネットワークが利用できるかどうかを示すアイコンと、Wi-Fi の状態を示すアイコンが表示されます。

### Wi-Fi ネットワークへの接続

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Network & Internet] (ネットワーク & インターネット) をタッチします。
3. [Wi-Fi] にタッチすると、[Wi-Fi] 画面が開きます。デバイスはエリア内の WLAN を検索してリスト表示します。
4. リスト内をスクロールして、使用する WLAN ネットワークを選択します。
5. オープンネットワークの場合は、プロファイルを一度タッチするか、または押し続けてから [Connect] (接続) を選択します。また、セキュアネットワークの場合は、要求されるパスワードまた

はその他の資格情報を入力してから、[Connect] (接続) をタッチします。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

デバイスは、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) プロトコルを使用してネットワークからネットワーク アドレスなどの必要な情報を取得します。固定インターネットプロトコル (IP) アドレスでデバイスを設定するには、[静的 IP アドレスを使用するためのデバイスの設定](#)を参照してください。

6. Wi-Fi の設定フィールドに、[Connected] (接続済み) が表示され、デバイスが WLAN に接続されていることが示されます。

## Wi-Fi ネットワークの削除

認識されているまたは接続されているネットワークを削除します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Network & Internet] (ネットワーク & インターネット) > [Wi-Fi] をタッチします。
3. リストの下部までスクロールして、[Saved networks] (保存済みネットワーク) をタッチします。
4. ネットワーク名をタッチします。
5. [FORGET] (消去) をタッチします。

## WLAN の設定

このセクションでは、Wi-Fi 設定の構成に関する情報を提供します。

### セキュリティ保護された Wi-Fi ネットワークの設定

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Network & Internet] (ネットワークとインターネット) > [Wi-Fi] をタッチします。
3. スイッチを [On] (オン) の位置にスライドさせます。
4. エリア内に WLAN があるか検索が開始され、画面にリストが表示されます。
5. リスト内をスクロールして、使用する WLAN ネットワークを選択します。
6. 目的のネットワークをタッチします。ネットワークセキュリティが [Open] (オープン) の場合、デバイスは自動的にネットワークに接続されます。その他すべてのネットワークセキュリティについては、ダイアログ ボックスが表示されます。
7. ネットワークセキュリティが [WPA/WPA2-Personal]、または [WEP] である場合は、必要なパスワードを入力して [Connect] (接続) をタッチします。
8. ネットワークセキュリティが [WPA/WPA2-Personal]、[WPA3-Personal] または [WEP] である場合は、必要なパスワードを入力して [Connect] (接続) をタッチします。
9. ネットワークセキュリティが [WPA/WPA2/WPA3 Enterprise] の場合:
  - a) [EAP method] (EAP 方式) ドロップダウンリストをタッチして、次のいずれかを選択します。
    - PEAP
    - TLS
    - TTLS
    - PWD
    - SIM

- AKA
- AKA'
- LEAP

- b) 適切な情報を入力します。オプションは、選択した [EAP method] (EAP 方式) によって異なります。
- [CA certificate] (認証局証明書) を選択すると、認証局 (CA) 証明書が [Security] (セキュリティ) 設定に基づいてインストールされます。
  - EAP 方式の PEAP、TLS、または TTLS を使用する場合は、ドメインを指定します。
  - [Advanced options] (詳細設定) をタッチして、追加のネットワーク オプションを表示します。

## 手動での Wi-Fi ネットワークの追加

Wi-Fi ネットワークがその名前 (SSID) をブロードキャストしない場合、またはエリア外にいるときに Wi-Fi ネットワークを追加するには、手動で Wi-Fi ネットワークを追加します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Network & Internet] (ネットワークとインターネット) > [Wi-Fi] をタッチします。
3. Wi-Fi のスイッチを [On] (オン) の位置にスライドさせます。
4. リストの下部までスクロールして、[Add network] (ネットワークの追加) を選択します。
5. [Network name] (ネットワーク名) テキスト ボックスで、Wi-Fi ネットワーク名を入力します。
6. [Security] (セキュリティ) ドロップダウン リストで、セキュリティの種類を次のいずれかに設定します。
  - なし
  - Enhanced Open
  - WEP
  - WPA/WPA2-Personal
  - WPA3-Personal
  - WPA/WPA2/WPA3-Enterprise
  - WPA3-Enterprise 192 ビット
7. ネットワーク キュリティが [None] (なし) または [Enhanced Open] の場合、[Save] (保存) をタッチします。
8. ネットワーク セキュリティが [None] (なし) の場合は、[Save] (保存) をタッチします。
9. ネットワーク セキュリティが [WEP]、[WPA3-Personal]、または [WPA/WPA2-Personal] である場合は、必要なパスワードを入力して [Save] (保存) をタッチします。
10. ネットワーク セキュリティが [WEP] または [WPA/WPA2-Personal] である場合は、必要なパスワードを入力して [Save] (保存) をタッチします。



**注:** デフォルトでは、ネットワーク プロキシは [None] (なし) に設定され、IP 設定は [DHCP] に設定されます。プロキシ サーバーへの接続を設定する場合は、「[プロキシ サーバーの設定](#)」を参照してください。静的 IP アドレスを使用するようにデバイスを設定する場合は、「[静的 IP アドレスを使用するためのデバイスの設定](#)」を参照してください。

**11. ネットワークセキュリティが [WPA/WPA2/WPA3 Enterprise] の場合:**

a) [EAP method] (EAP 方式) ドロップダウンリストをタッチして、次のいずれかを選択します。

- PEAP
- TLS
- TTLS
- PWD
- SIM
- AKA
- AKA'
- LEAP

b) 適切な情報を入力します。オプションは、選択した [EAP method] (EAP 方式) によって異なります。

- [CA certificate] (認証局証明書) を選択すると、認証局 (CA) 証明書が [Security] (セキュリティ) 設定に基づいてインストールされます。
- EAP 方式の PEAP、TLS、または TTLS を使用する場合は、ドメインを指定します。
- [Advanced options] (詳細設定) をタッチして、追加のネットワークオプションを表示します。

**12. ネットワークセキュリティが WPA3-Enterprise 192 ビットの場合:**

- [CA certificate] (CA 証明書) をタッチし、認証局 (CA) 証明書を選択します。注: 証明書は、[Security] (セキュリティ) 設定を使用してインストールします。
- [User certificate] (ユーザー証明書) をタッチし、ユーザー証明書を選択します。注: ユーザー証明書は、[Security] (セキュリティ) 設定を使用してインストールします。
- [Identity] (ID) テキストボックスにユーザー名の認証情報を入力します。

**13. [Save] (保存) をタッチします。** 保存したネットワークに接続するには、保存したネットワークをタッチしてその状態を維持し、[Connect to network] (ネットワークに接続) を選択します。

## プロキシサーバーの設定

プロキシサーバーは、他のサーバーのリソースを探しているクライアントからの要求に対して仲介役として動作するサーバーです。クライアントは、プロキシサーバーに接続し、別のサーバーから利用できる、ファイル、接続、Web ページ、またはその他のリソースなどのサービスを要求します。プロキシサーバーは、フィルタリングのルールに従って、要求を評価します。たとえば、IP アドレスまたはプロトコルによってトラフィックをフィルタできます。フィルタにより要求が検証された場合、プロキシは、関連サーバーに接続し、クライアントに代わってサービスを要求することにより、リソースを提供します。

企業の顧客にとって、社内にセキュリティ保護されたコンピューティング環境を設定できることは重要であり、プロキシ設定が不可欠になっています。プロキシ設定は防御壁として動作し、プロキシサーバーがインターネットとイントラネットの間のすべてのトラフィックを監視します。通常、これは、インターネット内の企業ファイアウォールでのセキュリティ維持に不可欠な要素です。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Network & Internet] (ネットワークとインターネット) > [Wi-Fi] をタッチします。
3. Wi-Fi のスイッチを [On] (オン) の位置にスライドさせます。

4. [Network] (ネットワーク) ダイアログ ボックスで、任意のネットワークを選択し、タッチします。
5. 接続済みのネットワークを設定する場合は、 をタッチしてネットワークの詳細を編集し、下矢印をタッチしてキーボードを非表示にします。
6. [Advanced options] (詳細設定) をタッチします。
7. [Proxy] (プロキシ) をタッチし、[Manual] (手動) を選択します。
8. [Proxy hostname] (プロキシ ホスト名) テキスト ボックスにプロキシ サーバーのアドレスを入力します。
9. [Proxy port] (プロキシ ポート) テキスト ボックスにプロキシ サーバーのポート番号を入力します。
10. [Bypass proxy for] (プロキシをバイパス) テキスト ボックスに、プロキシ サーバーを経由する必要がない Web サイトのアドレスを入力します。アドレス間にはカンマ (,) を使用します。アドレスの間にスペースや改行を使用しないでください。
11. 接続済みのネットワークを構成している場合は、[Save] (保存) をタッチし、それ以外の場合には、[Connect] (接続) をタッチします。
12. [Connect] (接続) をタッチします。

## 静的 IP アドレスを使用するためのデバイスの設定

デフォルトでは、デバイスは、ワイヤレス ネットワークに接続されたときに、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用してインターネット プロトコル (IP) を割り当てるよう設定されます。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Network & Internet] (ネットワークとインターネット) > [Wi-Fi] をタッチします。
3. Wi-Fi のスイッチを [On] (オン) の位置にスライドさせます。
4. [Network] (ネットワーク) ダイアログ ボックスで、任意のネットワークを選択し、タッチします。
5. 接続済みのネットワークを設定する場合は、 をタッチしてネットワークの詳細を編集し、下矢印をタッチしてキーボードを非表示にします。
6. [Advanced options] (詳細設定) をタッチします。
7. [IP settings] (IP 設定) をタッチして、[Static] (静的) を選択します。
8. [IP address] (IP アドレス) テキスト ボックスにデバイスの IP アドレスを入力します。
9. 必要な場合、[Gateway] (ゲートウェイ) テキスト ボックスにデバイスのゲートウェイ アドレスを入力します。
10. 必要に応じて、[Network prefix length] (ネットワーク プレフィックス長) テキスト ボックスにプレフィックスの長さを入力します。
11. 必要な場合、[DNS 1] テキスト ボックスにドメインネーム システム (DNS) アドレスを入力します。
12. 必要な場合、[DNS 2] テキスト ボックスに DNS アドレスを入力します。
13. 接続済みのネットワークを構成している場合は、[Save] (保存) をタッチし、それ以外の場合には、[Connect] (接続) をタッチします。

## Wi-Fi 設定

[Wi-Fi preferences] (Wi-Fi 設定) を使用して、高度な Wi-Fi 設定を構成します。Wi-Fi 画面から画面の一番下までスクロールし、[Wi-Fi preferences] (Wi-Fi 設定) をタッチします。

- [Turn on Wi-Fi automatically] (Wi-Fi を自動的にオンにする) - 有効にすると、Wi-Fi は、高品質の保存済みネットワークに近づくと自動的にオンに戻ります。
- [Open network notification] (ネットワーク通知を開く) - 有効にすると、オープン ネットワークが使用可能なときにそのことをユーザーに通知します。
- [Additional settings] (追加設定) - タッチして、その他の Wi-Fi 設定を表示します。
- [Advanced] (詳細設定) - タッチしてオプションを展開します。
  - [Additional settings] (追加設定) - 「追加設定」を参照してください。
  - [Install Certificates] (証明書のインストール) - タッチして、証明書をインストールします。
  - [Network rating provider] (ネットワーク評価プロバイダ) - [Disabled] (無効) (AOSP デバイス)。優れた Wi-Fi ネットワークの構成要素を判断できるように、Android はオープン Wi-Fi ネットワークの品質に関する情報を提供する外部ネットワーク評価プロバイダをサポートしています。リストされているプロバイダのいずれか、または [None] (なし) を選択します。使用可能なネットワークがない場合、または何も選択されていない場合、オープン ネットワークへの接続機能は無効になります。
  - [Wi-Fi Direct] (Wi-Fi ダイレクト) - ダイレクト Wi-Fi 接続に使用できるデバイスのリストを表示します。

## 追加の Wi-Fi 設定

追加の Wi-Fi 設定を行うには、[Additional Settings] (追加の設定) を使用します。追加の Wi-Fi 設定を表示するには、Wi-Fi 画面の下部までスクロールして、[Wi-Fi Preferences] (Wi-Fi 設定) > [Advanced] (詳細設定) > [Additional settings] (追加の設定) をタッチします。



注：追加の Wi-Fi 設定は、特定の無線ネットワークを対象としたものではなく、デバイスを対象にしています。

- [Regulatory] (規制)
  - [Country selection] (国の選択) - 802.11d が有効なときに取得された国コードを表示します。802.11d が有効でないときは、現在選択されている国コードを表示します。
  - [Region code] (リージョン コード) - 現在のリージョン コードを表示します。
- [Band and Channel Selection] (帯域とチャネルの選択)
  - [Wi-Fi frequency band] (Wi-Fi 周波数帯) - 周波数帯を次のいずれかに設定します。[Auto] (自動) (デフォルト)、[5 GHz only] (5GHz のみ)、または [2.4 GHz only] (2.4GHz のみ)。
  - [Available channels (2.4 GHz)] (使用可能なチャネル (2.4GHz)) - タッチして、[Available channels] (使用可能なチャネル) メニューを表示します。特定のチャネルを選択して、[OK] をタッチします。
  - [Available channels (5 GHz)] (使用可能なチャネル (5GHz)) - タッチして、[Available channels] (使用可能なチャネル) メニューを表示します。特定のチャネルを選択して、[OK] をタッチします。

- [Logging] (ロギング)
  - [Advanced Logging] (詳細ロギング) - タッチして、詳細ロギングを有効にするか、ログ ディレクトリを変更します。
  - [Wireless logs] (無線ログ) - Wi-Fi ログ ファイルを収集するのに使用します。
- [Fusion Logger] - タッチして、[Fusion Logger] アプリケーションを開きます。このアプリケーションは、高レベルの WLAN イベントの履歴を保持するため、接続のステータスを理解するのに役立ちます。
- [Fusion Status] (Fusion のステータス) - タッチして、WLAN 状態のライブ ステータスを表示します。また、デバイスおよび接続されたプロファイルの情報を提供します。
- [About] (バージョン情報)
  - [Version] (バージョン情報) - 現在の Fusion に関する情報を表示します。

## Wi-Fi Direct

Wi-Fi Direct デバイスは、アクセスマートポイントを経由せずに相互に接続できます。Wi-Fi Direct デバイスは、必要に応じて独自のアドホック ネットワークを確立します。使用可能なデバイスが表示されるため、ユーザーは接続するデバイスを選択できます。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Wi-Fi] > [Wi-Fi preferences] (Wi-Fi 設定) > [Advanced] (詳細設定) > [Wi-Fi Direct] をタッチします。デバイスは別の Wi-Fi Direct デバイスの検索を開始します。
3. [Peer devices] (ピア デバイス) で、他のデバイス名をタッチします。
4. もう一方のデバイスで、[Accept] (受け入れる) を選択します。

デバイスに [Connected] (接続済み) が表示されます。どちらのデバイスでも、[Wi-Fi Direct] 画面のリストには、相手方のデバイス名が表示されます。

## Bluetooth

Bluetooth デバイスは、周波数ホッピング方式スペクトル拡散 (FHSS) 無線周波数 (RF) を使用して 2.4GHz の産業科学医療用 (ISM) バンド (802.15.1) でデータを送受信する無線通信が可能です。Bluetooth 無線テクノロジは、短距離 (10m/32.8 フィート) 通信用に特別に開発された低消費電力の通信技術です。

Bluetooth 機能を搭載したデバイスは、プリンタ、アクセスマートポイント、その他のモバイルデバイスなどの Bluetooth 対応デバイスと、情報 (ファイル、予定、タスクなど) を交換できます。

デバイスでは、Bluetooth Low Energy がサポートされています。Bluetooth Low Energy は、医療、フィットネス、セキュリティおよびホームエンターテインメント業界のアプリケーションを対象としています。Bluetooth の標準の範囲を確保しつつ、電力消費とコストの削減を可能にします。

## 適応型周波数ホッピング

適応型周波数ホッピング (AFH: Adaptive Frequency Hopping) は、固定周波数干渉を回避する方式で、Bluetooth 音声通信に使用することができます。AFH を機能させるためには、ピコネット (Bluetooth ネットワーク) 内のすべてのデバイスが AFH に対応している必要があります。デバイスの接続時および検出時に AFH は行われません。重要な 802.11b 通信中は、Bluetooth 接続の確立や検出を行わないでください。

Bluetooth の AFH は、次の 4 つの主なセクションから構成されています。

- チャネル分類 - チャネルごとに干渉を検出する方式、または定義済みのチャネルマスクで干渉を検出する方式です。
- リンク管理 - AFH 情報を調整して、Bluetooth ネットワーク全体に AFH 情報を配信します。
- ホップシーケンス修正 - ホッピング チャネル数を選択的に削減することで干渉を回避します。
- チャネルメンテナンス - 定期的にチャネルを再評価する方法です。

AFH が有効な場合、Bluetooth 無線は 802.11b 高速チャネルを通るのではなく、「ホッピング」します。AFH の共存性により、エンタープライズ デバイスはあらゆるインフラストラクチャで動作できます。

本デバイスの Bluetooth 無線は、Class 2 デバイス パワー クラスとして動作します。最大出力は 2.5mW で、予想伝送距離は 10m (32.8 フィート) です。伝送距離は、出力およびデバイスの違いや、開放空間なのかまたは閉鎖されたオフィス空間なのかによって左右されるため、パワー クラスに基づいて伝送距離を判断することは困難です。



**注:** 802.11b での高速な動作が求められる場合は、Bluetooth 無線テクノロジの照会を実行することはお勧めしません。

## セキュリティ

現在の Bluetooth 仕様は、リンク レベルでセキュリティを定義しています。アプリケーションレベルのセキュリティは指定されていません。このため、アプリケーション開発者は、各自のニーズに応じてカスタマイズしたセキュリティ メカニズムを定義することができます。リンク レベルのセキュリティは、ユーザー間ではなくデバイス間に適用されるのに対して、アプリケーション レベルのセキュリティはユーザーごとに実装することができます。Bluetooth の仕様では、デバイスの認証に必要なセキュリティアルゴリズムとプロシージャ、および必要に応じてデバイス間のリンクで伝送されるデータを暗号化するためのセキュリティ アルゴリズムとプロシージャを定めています。デバイスの認証は、Bluetooth に必須の機能ですが、リンクの暗号化は任意の機能です。

Bluetooth デバイスのペアリングは、デバイスを認証し、デバイスのリンク キーを作成するための初期化キーを作成することによって実行されます。ペアリングしようとするデバイスの共通個人識別番号 (PIN) を入力することで、初期化キーが生成されます。PIN は無線では送信されません。デフォルトでは、Bluetooth スタックは、キーが要求されたときにキーなしで応答します (キー要求イベントに応答するかどうかはユーザー次第です)。Bluetooth デバイスの認証は、チャレンジレスポンストランザクションをベースにしています。Bluetooth では、他の 128 ビットキーの作成に使用した PIN またはパスキーをセキュリティおよび暗号化のために使用できます。暗号化キーは、ペアリング デバイスの認証に使用したリンク キーから導出されます。また、Bluetooth 無線の制限された伝送距離と高周波ホッピングにより、離れた場所からの盗聴が困難であることも特長の 1 つです。

推奨事項:

- セキュリティ保護された環境でペアリングを行う
- PIN コードを公開しない。また、PIN コードをデバイスに保存しない
- アプリケーション レベルのセキュリティを実装する

## Bluetooth プロファイル

デバイスはリストされている Bluetooth サービスをサポートします。

表 23 Bluetooth プロファイル

プロファイル	説明
サービス検索プロトコル (SDP)	既知のサービスおよび特殊なサービスの他、一般サービスの検索も処理します。
シリアルポートプロファイル (SPP)	RFCOMM プロトコルを使った 2 台の Bluetooth ピア デバイス間でのシリアルケーブル接続のエミュレートが可能になります。たとえば、デバイスをプリンタに接続できます。
オブジェクトプッシュプロファイル (OPP)	デバイスとプッシュサーバーの間で、オブジェクトのプッシュとプルを可能にします。
高品質オーディオ配信プロファイル (A2DP)	ステレオ並みの高品質な音声を無線ヘッドセットや無線ステレオスピーカにストリーミング配信できます。
オーディオ/ビデオリモートコントロールプロファイル (AVRCP)	ユーザーがアクセスできる AV 機器をデバイスからリモートで制御できます。A2DP と併せて使用できます。
パーソナルエリアネットワーク (PAN)	Bluetooth ネットワーク カプセル化プロトコルを使用して、Bluetooth リンクで L3 のネットワーク機能を提供します。PANU ロールのみサポートされます。
ヒューマンインターフェースデバイスプロファイル (HID)	Bluetooth キーボード、ポインティングデバイス、ゲームデバイス、およびリモート監視デバイスをデバイスに接続できるようになります。
ヘッドセットプロファイル (HSP)	Bluetooth ヘッドセットなどのハンズフリー デバイスを使用した発着信の操作を行えるようになります。
ハンズフリー プロファイル (HFP)	車載ハンズフリー キットと車内のデバイスの間の通信を可能にします。
電話帳アクセスプロファイル (PBAP)	車載キットと携帯電話の間で Phone Book オブジェクトを交換できるようにして、車載キットで、着信通話の発信者の名前を表示し、Phone Book をダウンロードして、車載ディスプレイから通話を開始できるようになります。
アウト オブ バンド (OOB)	ペアリングプロセスで使用する情報の交換を可能にします。ペアリングは Bluetooth 無線で行いますが、OOB メカニズムからの情報を必要とします。OOB を NFC で使用すると、時間のかかる検出プロセスを行う必要がなくなり、デバイスを近づけるだけでペアリングできるようになります。
Symbol Serial Interface (SSI)	Bluetooth イメージャと通信できるようにします。
一般属性プロファイル (GATT)	Bluetooth Low Energy プロトコル用にプロファイルの検出と説明のサービスを提供します。サービスを形成するセットに属性をグループ化する方法を定義します。
ダイヤルアップネットワーク (DUN)	Bluetooth を介してインターネットやその他のダイヤルアップサービスにアクセスするための標準を提供します。
一般アクセスプロファイル (GAP)	デバイスの検出と認証に使用します。
Object EXchange (OBEX)	デバイス間のバイナリ オブジェクトの交換を容易にします。

## Bluetooth の電源の状態

デフォルトでは Bluetooth 無線はオフになっています。

- [Suspend] (サスPEND) - デバイスがスリープ モードになっても、Bluetooth 無線はオンのままです。
- [Airplane Mode] (機内モード) - デバイスを [Airplane Mode] (機内モード) に設定すると、Bluetooth 無線がオフになります。航空機モードが無効になると、Bluetooth 無線は前の状態に戻ります。[Airplane Mode] (航空機モード) の間も、必要に応じてBluetooth 無線をオンに戻すことができます。

## Bluetooth 無線の電源

バッテリを節約する、または無線機器の使用が制限されている区域(航空機内など)に入る場合、Bluetooth 無線をオフにします。無線をオフにすると、他の Bluetooth デバイスはこのデバイスを検出したり接続したりすることができなくなります。エリア内の他の Bluetooth デバイスと情報を交換するには、Bluetooth 無線をオンにします。デバイスが近接した場所にある場合のみ Bluetooth 無線で通信してください。



注：バッテリを長持ちさせるには、未使用時に無線をオフにします。

## Bluetooth の有効化

1. ステータスバーから下にスワイプして、通知パネルを開きます。
2. \* をタッチして、Bluetooth をオンにします。

## Bluetooth の無効化

1. ステータスバーから下にスワイプして、通知パネルを開きます。
2. \* をタッチして、Bluetooth をオフにします。

## Bluetooth デバイスの検出

デバイスは、検出されたデバイスとペアリングされていなくても、そのデバイスから情報を受信できます。ただし、ペアリングしておくと、Bluetooth 無線をオンにした時点で、デバイスとペアリングされたデバイスは情報を自動的に交換します。

1. 両方のデバイスで Bluetooth が有効になっていることを確認します。
2. 検出する Bluetooth デバイスが検出可能モードになっていることを確認します。
3. 2つのデバイスの距離が 10m (32.8 フィート) 以下であることを確認します。
4. ステータスバーから下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開きます。
5. [Bluetooth] を長押しします。
6. [Pair new device] (新しいデバイスとペア設定する) をタッチします。エリア内で検出可能な Bluetooth デバイスの検索が開始され、[Available devices] (使用可能なデバイス) にデバイスのリストが表示されます。
7. リストをスクロールし、デバイスを選択します。[Bluetooth pairing request] (Bluetooth ペアリングのリクエスト) ダイアログ ボックスが表示されます。

8. 両方のデバイスで [Pair] (ペアリング) をタッチします。
9. Bluetooth デバイスが [Paired devices] (ペアリング済みデバイス) リストに追加され、信頼された (ペアリングされた) 接続が確立されます。

## Bluetooth の名前の変更

デバイスには汎用の Bluetooth 名があり、他のデバイスに接続されると、デフォルトではこの名前が表示されます。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Connected devices] (接続済みのデバイス) > [Connection preferences] (接続の設定) > [Bluetooth] をタッチします。
3. Bluetooth がオンになっていない場合は、スイッチにタッチして Bluetooth をオンにします。
4. [Device name] (デバイス名) をタッチします。
5. 名前を入力して、[RENAME] (名前を変更) をタッチします。

## Bluetooth デバイスへの接続

ペアリングしたら、Bluetooth デバイスに接続します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
  2. [Connected devices] (接続済みのデバイス) > [Connection preferences] (接続の設定) > [Bluetooth] をタッチします。
  3. リストで、未接続の Bluetooth デバイスをタッチします。
- 接続されると、デバイス名の下に [Connected] (接続済み) と表示されます。

## Bluetooth デバイスでのプロファイルの選択

一部の Bluetooth デバイスには複数のプロファイルが用意されています。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Connected devices] (接続済みデバイス) > [Connection preferences] (接続設定) > [Bluetooth] をタッチします。
3. [Paired Devices] (ペアリング済みデバイス) リストで、デバイス名の隣にある  をタッチします。
4. プロファイルをオンまたはオフにして、デバイスがプロファイルを使用できるようにします。

## Bluetooth デバイスのペアリング解除

Bluetooth デバイスのペアリングを解除すると、すべてのペアリング情報が消去されます。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Connected devices] (接続済みデバイス) > [Connection preferences] (接続設定) > [Bluetooth] をタッチします。
3. [Paired Devices] (ペアリング済みデバイス) リストで、デバイス名の隣にある  をタッチします。
4. [FORGET] (消去) をタッチします。

## キャスト

[Cast] (キャスト) を使用して、Miracast 対応無線ディスプレイにデバイスの画面をミラー表示します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Connected devices] (接続済みのデバイス) > [Connection preferences] (接続設定) > [Cast] (キャスト) をタッチします。
3. ⚙ > [Enable wireless display] (無線ディスプレイを有効にする) をタッチします。  
デバイスは近くの Miracast デバイスを検索してリスト表示します。
4. デバイスをタッチしてキャストを開始します。

## 近距離無線通信

NFC/HF RFID は、リーダーと非接触型スマートカード間の安全なトランザクションを可能にする短距離無線接続技術標準です。

この技術は、HF 13.56MHz の免許不要の帯域を利用し、ISO/IEC 14443 type A/B (近接) ISO/IEC 15693 (周辺) 標準に基づいています。

デバイスでは次の動作モードがサポートされています。

- リーダー モード
- カード エミュレーション モード

NFC を使用して、デバイスで次のことを実行できます。

- 非接触型チケット、ID カードおよび ePassport などの非接触型カードの読み取り。
- SmartPoster やチケットなどの非接触型カードの他、自動販売機などの NFC インタフェース搭載デバイスに対する情報の読み取りと書き込み。
- サポート対象の医用センサからの情報の読み取り。
- プリンタ、リング スキャナ (例: RS6000) やヘッドセット (例: HS3100) など、サポートされている Bluetooth デバイスとペアリングします。
- 別の NFC デバイスとのデータの交換。
- チケットなどの非接触型カードをエミュレートします。

デバイスの NFC アンテナは、ユーザーが手に持った状態で、デバイスの上部から NFC カードを読み取れるように配置されています。

## NFC カードの読み取り

NFC を使用して非接触型カードを読み取ります。

1. NFC 対応アプリケーションを起動します。

2. 次に示すように、デバイスを持ちます。

図 32 TC52x/TC57x NFC カードの読み取り

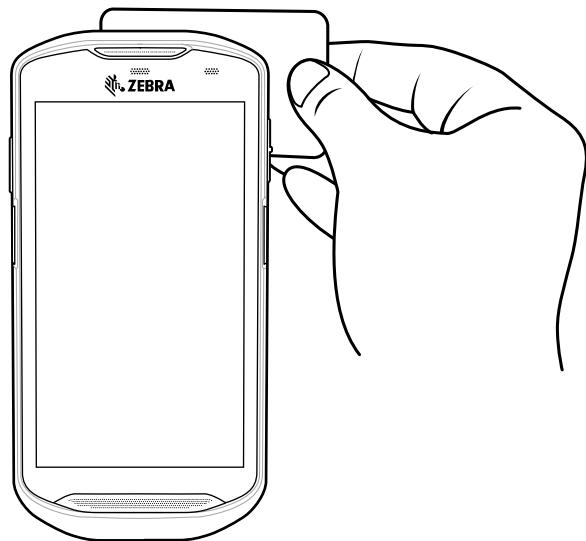
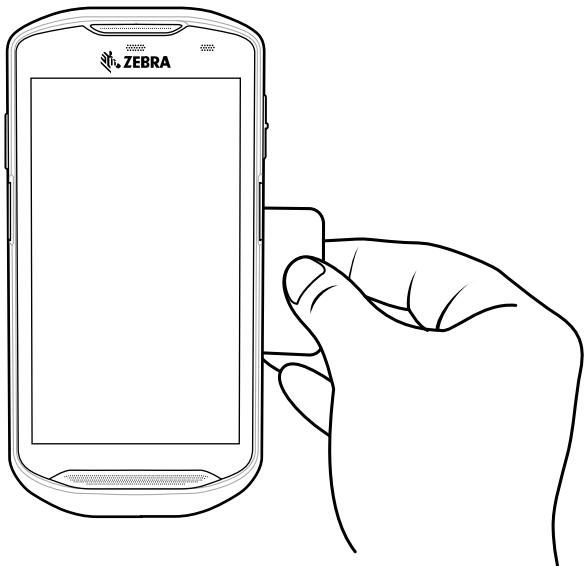


図 33 TC52x-HC NFC カードの読み取り



3. カードをデバイスの背面にある NFC アンテナに移動します。

4. デバイスがカードを検出するまで、デバイスを NFC カードに近づけます。

5. トランザクションが完了するまで (通常はアプリケーションによって示される)、カードを固定したままかざします。

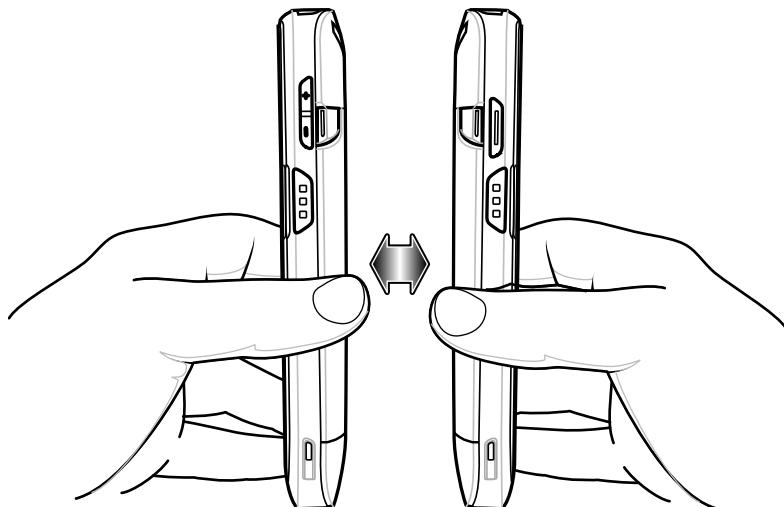
## NFC を使用した情報の共有

複数のデバイスを背中合わせにして、画面に表示されている Web ページ、連絡先カード、画像、YouTube のリンクまたは位置情報などのコンテンツを送信することができます。

両方のデバイスがロックされていないこと、NFC をサポートしていること、および NFC と Android Beam の両方がオンになっていることを確認してください。

1. Web ページ、ビデオ、写真、または連絡先を表示する画面を開きます。
2. デバイスの背面を、他のデバイスの背面に向けます。
3. デバイスの NFC ロゴと相手のデバイスの NFC アンテナを合わせます。
4. デバイスの前面を、相手のデバイスの前面に向けて近づけます。

デバイスが接続された時点でサウンドが再生され、画面に表示されている画像のサイズが縮小され、[Touch to beam] (タッチして送信) というメッセージが表示されます。



5. 画面のどこかにタッチします。

送信が開始されます。

## エンタープライズ NFC の設定

デバイスで使用する NFC 機能を選択することで NFC のパフォーマンスを向上させたり、バッテリ寿命を延長したりできます。

- [Card Detection Mode] (カード検出モード) - カード検出モードを選択します。
  - [Low] (低) - NFC の検出速度を下げることでバッテリ寿命を延長します。
  - [Hybrid] (ハイブリッド) - NFC の検出速度とバッテリ寿命とのバランスをとります (デフォルト)。
  - [Standard] (標準) - NFC の検出速度は最適ですが、バッテリ持続時間は短くなります。

- **サポートされているカード技術** - NFC タグ タイプを 1 つだけ検出するオプションを選択すると、バッテリの寿命は長くなりますが、検出速度が低下します。
  - ISO 14443 タイプ A
  - ISO 14443 Type B
  - FeliCa
  - ISO15693
- **[NFC Debug Logging] (NFC デバッグ ロギング)** - NFC のデバッグ ロギングを有効または無効にします。

# 通話

[Phone] (電話) アプリ、[Contacts] (連絡先) アプリ、またはその他のアプリ、あるいは連絡先情報を表示するウィジェットから電話をかけます。



注: TC57JO には適用されません。



注: このセクションは WWAN デバイスにのみに適用されます。

## 緊急通話

サービス プロバイダは、あらゆる状況下で通話可能な 1 つまたは複数の緊急電話番号 (110 や 119 など) を用意しています。この番号には、電話がロックされている場合や SIM カードが装着されていない場合、電話が有効でない場合でも電話をかけることができます。サービス プロバイダは、追加の緊急番号を SIM カードにプログラムすることができます。ただし、SIM カードに保存されている番号を使用するには、デバイスに SIM カードが装着されている必要があります。詳細については、サービス プロバイダにお問い合わせください。



注: 緊急番号は、国によって異なります。一部の地域で電話機にあらかじめ設定されている緊急番号が使用できないことがあります。また、ネットワーク、環境、または干渉の問題により、緊急通話が行えないこともあります

## 音声モード

デバイスは、通話中に使用できる 3 種類の通話音声モードを備えています。

- ハンドセット モード - デバイスをハンドセットとして使用するために、デバイスの前面上部にあるレシーバから音声が出力されます。これがデフォルトのモードです。
- スピーカ モード - デバイスをスピーカフォンとして使用します。
- ヘッドセット モード - Bluetooth ヘッドセットまたは有線ヘッドセットを接続すると、自動的に音声出力がヘッドセットに切り替わります。

## Bluetooth ヘッドセット

音声対応アプリを使用しているときに、Bluetooth ヘッドセットを使用して音声通信できます。

ヘッドセットを装着する前に、音量を適切に設定してください。Bluetooth ヘッドセットを接続すると、スピーカフォンはミュートになります。

## 送信ボタン

音声対応アプリを使用しているときに、有線ヘッドセットとオーディオアダプタを使用して音声通信できます。ヘッドセットを装着する前に、音量を適切に設定してください。有線ヘッドセットを接続すると、スピーカフォンはミュートになります。

有線ヘッドセットによる通話を終了するには、通話が終了するまでヘッドセットボタンを押し続けます。

## 音量の調節

音量ボタンを使用して、電話の音量を調整します。

- 通話中でないときの呼び出し音と通知音の音量。
- 通話中の会話の音量。

## ダイヤラを使用して電話をかける

ダイヤラタブを使用して電話番号をダイヤルします。

- ホーム画面で、 をタッチします。
-  をタッチします。
- キーをタッチし、電話番号を入力します。
- ダイヤラの下にある  をタッチし、通話を開始します。

オプション	説明
	スピーカフォンに音声を送ります。
	通話をミュートします。
	ダイヤルパッドを表示します。
	通話を保留にします(一部のサービスでは利用できません)。
	電話会議を作成します。
	音声の音量を上げます。

- 通話を終了するには、 をタッチします。

Bluetoothヘッドセットを使用している場合、詳細な音声オプションが利用できます。音声アイコンをタッチして、音声メニューを開きます。

オプション	説明
	音声がBluetoothヘッドセットに送られています。
	音声がスピーカフォンに送られています。
	音声がイヤホンに送られています。

## ダイヤル オプションへのアクセス

ダイヤラには、ダイヤルした番号の連絡先への保存、SMSの送信、またはダイヤル文字列への一時停止および待機の挿入をするオプションがあります。

- ダイヤラに 1 行以上の数字を入力し、⋮ をタッチします。
  - [Add 2-sec pause] (2 秒間の一時停止を追加) - 2 秒間一時停止してから次の数字をダイヤルします。連続して複数の一時停止を追加します。
  - [Add wait] (待機を追加) - 残りの桁の送信の確認を待機します。

## 連絡先を使用して電話をかける

連絡先を使用して電話をかける方法には、ダイヤラを使用する方法と [Contacts] (連絡先) アプリを使用する方法の 2 つがあります。

### ダイヤラの使用

1. ホーム画面で、📞 をタッチします。
2. ☎ をタッチします。
3. 連絡先をタッチします。
4. 通話を開始するには、📞 をタッチします。

オプション	説明
🔊	スピーカフォンに音声を送ります。
🔇	通話をミュートします。
⌨️	ダイヤルパッドを表示します。
⏸	通話を保留にします (一部のサービスでは利用できません)。
📞	電話会議を作成します。
🔊	音声の音量を上げます。

5. 通話を終了するには、🔴 をタッチします。

Bluetooth ヘッドセットを使用している場合、詳細な音声オプションが利用できます。音声アイコンをタッチして、音声メニューを開きます。

オプション	説明
*	音声が Bluetooth ヘッドセットに送られています。
🔊	音声がスピーカフォンに送られています。
🔊	音声がイヤホンに送られています。

## 連絡先アプリの使用

1.  をタッチします。
2. 連絡先の名前をタッチします。
3. 通話を開始するには、 をタッチします。

## 通話履歴を使用して電話をかける

通話履歴は、発信、着信、または不在着信したすべての通話のリストです。通話履歴は、番号のリダイヤル、電話の折り返し、または連絡先に番号を追加するのに便利です。

通話の横にある矢印アイコンが通話のタイプを示します。複数の矢印は複数の通話を示しています。

**表 24** 通話タイプインジケータ

アイコン	説明
	不在着信
	応答した着信
	発信

## [Call History] (通話履歴) リストの使用

1. ホーム画面で、 をタッチします。
2.  タブをタッチします。
3. 連絡先の横にある をタッチして、通話を開始します。
4. 連絡先をタッチして、他の機能を実行します。
5. 通話を終了するには、 をタッチします。

## GSM で会議通話を確立する

複数の相手との会議通話セッションを確立します



**注:** 一部のサービスでは、会議通話機能を使用できないことがあります。また、会議通話の数が異なることがあります。会議通話機能を使用できるかどうかについては、サービス プロバイダにお問い合わせください。

1. ホーム画面で、 をタッチします。
2.  をタッチします。
3. キーをタッチし、電話番号を入力します。
4. ダイヤラの下にある をタッチし、通話を開始します。

5. 電話が接続された時点では、 をタッチします。  
最初の通話が保留になります。
6.  をタッチします。
7. キーをタッチし、2番目の電話番号を入力します。
8. ダイヤラの下にある  をタッチし、通話を開始します。  
電話がつながると、最初の通話が保留になり、2番目の通話が有効になります。
9.  をタッチし、3者による会議通話を作成します。
10. 別の通話を追加するには、 をタッチします。  
会議が保留になります。
11.  をタッチします。
12. キーをタッチし、別の電話番号を入力します。
13. ダイヤラの下にある  をタッチし、通話を開始します。
14. 3番目の通話を会議に追加するには、 アイコンをタッチします。
15. [Manage conference call] (会議通話の管理) をタッチし、すべての通話者を表示します。

オプション	説明
	通話先相手を会議から削除します。
	会議通話中に1人の相手とプライベートな会話を行います。
	すべての通話相手を再度参加させます。

## Bluetooth ヘッドセットを使用して電話をかける

1. Bluetooth ヘッドセットをデバイスとペアリングします。
2. Bluetooth ヘッドセットの [Call] (通話) ボタンを押します。
3. 通話を終了するには、Bluetooth ヘッドセットの [Call] (通話) ボタンを押します。

## 通話への応答

電話がかかってくると、[Incoming Call] (着信) 画面が開き、発信者 ID と [Contacts] (連絡先) アプリにある発信者に関する情報が表示されます。



注：すべての設定ですべてのオプションが使用できるわけではありません。

電話の通話設定を変更するには、ホーム画面で  >  > [Settings] (設定) の順にタッチします。

- [ANSWER] (応答) をタッチして応答するか、[DECLINE] (拒否) をタッチして通話者に留守電を残してもらいます。

画面ロックを有効にしている場合、デバイスのロック解除をせずに通話に応答できます。

- 着信時は、次の手順に従います。
  - にタッチし、上にスライドして着信に応答します。
  - にタッチし、下にスライドして着信を留守電に送ります。
  - をタッチして、クリックテキスト応答のリストを開きます。いずれかをタッチし、発信者にただちに送信します。

通話が終了しても、デバイスはロックされたままでです。

Bluetooth ヘッドセットを使用している場合、着信したら、Bluetooth ヘッドセットの通話ボタンをタッチして応答します。通話を終了するには、ヘッドセットの通話ボタンを押します。

すべての着信は、電話アプリの [Call log] (コールログ) タブに記録されます。電話に出られない場合、通知を受信します。電話に応答する前に着信音を無音にするには、デバイスの横にある音量を下げるボタンを押します。

## 通話設定

電話の通話設定を変更するには、ホーム画面で  >  > [Settings] (設定) の順にタッチします。



**注:** すべての設定ですべてのオプションが使用できるわけではありません。

- 表示オプション**
  - [Sort by] (並び替え) - [First name] (名) または [Last name] (姓) に設定します。
  - [Name format] (名前の形式) - [First name first] (名姓順) または [Last name first] (姓名順) に設定します。
  - [Sounds and vibrations] (着信音とバイブレーション) - タッチして、デバイスの一般的なサウンド設定を編集します。
  - [Quick responses] (クイック レスポンス) - タッチして、通話に応答する代わりに使用するクイックレスポンスを編集します。
  - [Speed dial settings] (短縮ダイヤルの設定) - 連絡先の短縮ダイヤルのショートカットを設定します。

- **通話アカウント**

- **[Settings] (設定)** - モバイル プロバイダをタッチして、そのプロバイダのオプションを表示します。
- **[Fixed Dialing Numbers] (発信先固定)** - [Fixed Dialing] (発信先固定) リストに指定された電話番号または市外局番のみをダイヤルできるようにするために設定します。
- **[Call forwarding] (自動転送)** - 着信を別の電話番号に転送するように設定します。



**注:** 自動転送は、すべてのネットワークで利用できるわけではありません。利用できるかどうかについては、サービス プロバイダに確認してください。

- **追加設定**

- **[Caller ID] (発信者 ID)** - 通話中の相手を判別できるようにするための発信者 ID を設定します。オプション: [Network default] (ネットワークのデフォルト) (デフォルト)、[Hide number] (番号を非表示にする)、[Show number] (番号の表示)。
- **[Call waiting] (割込通話)** - 設定すると、通話中に着信を通知します。
- **[SIP Accounts] (SIP アカウント)** - デバイスに追加されたアカウントのインターネット通話を受信する、SIP アカウントを表示または変更する、またはインターネット通話アカウントを追加する場合に選択します。
- **[Use SIP calling] (SIP 通話の使用)** - **[For all calls] (すべての通話)** または **[Only for SIP calls] (SIP 通話のみ)** (デフォルト) に設定します。
- **[Receive incoming calls] (着信を受信)** - 有効にすると、着信を許可します (デフォルト - 無効)。
- **[Wi-Fi calling] (Wi-Fi 通話)** - 有効にすると、Wi-Fi 通話を許可し、Wi-Fi 通話設定 (デフォルト - 無効) を設定できます。
- **[Call barring] (発着信制限)** - 特定のタイプの着信または発信をブロックするために設定します。
- **[Blocked numbers] (ブロック番号)** - 特定の電話番号からの通話とテキストをブロックするように設定します。電話番号をブロックするには、[ADD A NUMBER] (番号の追加) をタッチします。
- **[Voicemail] (ボイスメール)** - ボイスメール設定を行います。
- **[Notifications] (通知)** - ボイスメール通知設定を行います。
  - **[Importance] (重要)** - 通知の重要度を [Urgent] (緊急)、[High] (高) (デフォルト)、[Medium] (中)、または [Low] (低) に設定します。
  - **[Alerting] (アラート)** - タッチして、ボイスメールを受信したときに音声および振動通知を受信します。切り替えスイッチを使用して、[Pop on screen] (ポップ オン画面)、[Blink light] (ライトを点滅)、[Show notification dot] (通知ドットを表示)、および [Override Do Not Disturb] (非通知を上書き) を有効または無効にします。
  - **[Silent] (サイレント)** - タッチして、ボイスメールを受信したときの音声および振動通知を非通知にします。切り替えスイッチを使用して、[Minimize] (最小限)、[Show notification dot] (通知ドットを表示) を有効または無効にします。

知ドットを表示)、および [Override Do Not Disturb] (非通知を上書き) を有効または無効にします。

- [Sound] (サウンド) - このアプリからの通知を再生するサウンドを選択します。
- [Vibrate] (振動) - このアプリからの通知でデバイスを振動させることを許可します。
- [Blink light] (ライトを点滅) - このアプリからの通知で通知 LED が青色に点灯することを許可します。
- [Show notification dot] (通知ドットの表示) - このアプリからの通知で、アプリアイコンに通知ドットを追加することを許可します。
- [Override Do Not Disturb] (非通知を上書き) - [Do Not Disturb] (非通知) が有効に設定されている場合、これらの通知に割り込みを許可します。
- **詳細設定**
  - [Service] (サービス) - ボイスメールサービスにサービス プロバイダまたはその他のプロバイダを設定します。
  - [Setup] (設定) - 選択して、ボイスメールへのアクセスに使用する電話番号を更新します。
- **ユーザー補助**
  - [TTY mode] (TTY モード) - タッチして、TTY 設定を行います。デバイスでオプションのテレタイプライタ (TTY) を使用して、通話の送受信を行います。TTY のプラグをデバイスのヘッドセットジャックに接続して、デバイスがいずれかの TTY モードで動作するように設定します。



**注:** TSB-121 準拠ケーブル (TTY メーカー製) を使用して、TTY をデバイスに接続します。

正しく動作させるためには、デバイスの音量を中間レベルに設定します。誤った文字の数が多い場合は、エラー率を最小限にするために音量を必要に応じて調整してください。

最適なパフォーマンスを得るためにには、デバイスは TTY から 30cm (12 インチ) 以上離してください。デバイスと TTY の距離が近すぎると、エラー率が高くなる場合があります。

- [TTY off] (TTY オフ) - TTY はオフです (デフォルト)。
- [TTY Full] (TTY フル) - TTY 文字を送受信します。
- [TTY HCO] - TTY 文字を送信しますが、受信はイヤホンで聞くことによって行います。
- [TTY VCO] - TTY 文字を受信しますが、送信はマイクで話すことによって行います。
- [Hearing aids] (補聴器) - 選択して、補聴器に対応できるようにします。
- [RTT settings] (RTT 設定) - リアルタイム テキスト (RTT) 設定を設定します。
- [Real-time text (RTT) call] (リアルタイム テキスト (RTT) 通話) - 通話中のメッセージを許可する場合に選択します。
- [Set RTT visibility] (RTT 表示の設定) - [Visible during calls] (通話中に表示) (デフォルト) または [Always visible] (常に表示) に設定します。

# アクセサリ

このセクションでは、デバイスのアクセサリの使用方法について説明します。

## デバイス アクセサリ

このセクションでは、デバイスのアクセサリの使用方法について説明します。次の表に、デバイスで使用できるアクセサリを示します。

表 25 アクセサリ

アクセサリ	部品番号	説明
<b>クレードル</b>		
1スロット USB/充電専用クレードルキット	CRD-TC51-1SCU-01	デバイスの充電および通信に使用します。クレードル、電源(PWR-BGA12V50W0WW)およびDC電源コードが含まれます。
医療用 1スロット USB/充電専用クレードルキット	CRD-TC51-HC1SC-01	デバイスの充電および通信に使用します。クレードル、電源(PWR-BGA12V50W0WW)およびDC電源コードが含まれます。
1スロットワークステーションドッキングクレードル	CRD-TC5X-1SWS-01	HDMI モニター、キーボード、マウスに接続しているときに、デバイスを充電でき、またデバイスをワークステーションコンピュータとして使用できる、HDMI、イーサネット、および USB ポート用の追加ポートを備えています。(PWR-BGA12V50W0WW)と DC 電源コードが付属します。
2スロット USB/イーサネットクレードルキット	CRD-TC5X-2SETH-02	デバイスと予備バッテリの充電、および USB とイーサネット通信を提供します。クレードル、電源(PWR-BGA12V50W0WW)およびDC電源コードが含まれます。
4スロット充電専用クレードル(バッテリ充電器付き)	CRD-TC51-5SC4B-01	最大 4 台のデバイスと 4 個の予備バッテリを充電します。クレードル、電源(PWR-BGA12V108W0WW)およびDC電源コードが含まれます。
5スロット充電専用クレードルキット	CRD-TC51-5SCHG-01	最大 5 台のデバイスを充電します。クレードル、電源(PWR-BGA12V108W0WW)およびDC電源コードが含まれます。
医療用 5スロット充電専用クレードルキット	CRD-TC51-HC5SC-01	最大 5 台のデバイスを充電します。クレードル、電源(PWR-BGA12V108W0WW)およびDC電源コードが含まれます。

表 25 アクセサリ (Continued)

アクセサリ	部品番号	説明
5スロット イーサネット クレードル キット	CRD-TC51-5SETH-01	最大 5 台のデバイスの充電およびイーサネット通信用です。クレードル、電源 (PWR-BGA12V108W0WW) および DC 電源コードが含まれます。
クレードル マウント	BRKT-SCRD-SMRK-01	壁面またはラックに 5 スロット充電専用クレードル、5 スロット イーサネット クレードル、および 4 スロット バッテリ充電器を取り付けます。
USB イーサネット アダプタ	KT-TC51-ETH1-01	1 スロット USB/充電専用クレードル キットとの USB およびイーサネット通信を提供します。
<b>バッテリと充電器</b>		
PowerPrecisionPlus バッテリ	BTRY-TC51-43MA1-01	交換用バッテリ (シングル パック)
	BTRY-TC51-43MA1-10	交換用バッテリ (10 パック)
4スロット バッテリ充電器 キット	SAC-TC51-4SCHG-01	最大 4 個のバッテリ パックを充電します。クレードル、電源 (PWR-BGA12V50W0WW) および DC 電源コードが含まれます。
医療用 4スロット バッテリ充電器 キット	SAC-TC51-HC4SC-01	最大 4 個のバッテリ パックを充電します。クレードル、電源 (PWR-BGA12V50W0WW) および DC 電源コードが含まれます。
<b>充電ケーブルおよび通信ケーブル</b>		
高耐久性充電/USB ケーブル	CBL-TC51-USB1-01	デバイスへの電力供給と通信に使用します。電源 PWR-WUA5V12W0xx が必要です。
高耐久性 USB-C アダプタ	ADPTR-TC56-USBC-01	USB-C ケーブル (CBL-TC5X-USBC2A-01) を使用して、デバイスとの通信と電源供給を行います。
USB-C 通信充電ケーブル	CBL-TC5X-USBC2A-01	USB-A から USB-C への通信とデバイスへの電力供給を行います。
USB 通信ケーブル	25-124330-01R	1 スロット USB/充電専用クレードル キットで Micro USB から USB への通信に使用します。
<b>オーディオ アクセサリ</b>		
2.5mm オーディオ アダプタ	CBL-TC51-HDST25-01	デバイスに差し込み、2.5mm プラグの有線ヘッドセットに音声を送ります。
2.5mm ヘッドセット	HDST-25MM-PTVP-01	PTT 通話および VoIP 通話に使用します。
3.5mm オーディオ アダプタ	CBL-TC51-HDST35-01	デバイスに差し込み、3.5mm カラード プラグの有線ヘッドセットに音声を送ります。
3.5mm ヘッドセット	HDST-35MM-PTVP-01	PTT 通話および VoIP 通話に使用します。
<b>その他</b>		
ハンドストラップ付きの高耐久性ブーツ	SG-TC5X-EXO1-01	デバイスとハンドストラップの保護を強化します。
高耐久性ブーツ	SG-TC5X-EXONHS-01	デバイスの保護を強化します。

表 25 アクセサリ (Continued)

アクセサリ	部品番号	説明
トリガ ハンドル	TRG-TC5X-ELEC1-01	使いやすく生産性の高いスキャン操作を可能にするスキナ トリガを備えたガンタイプのハンドルを取り付けます。高耐久性ブーツが必要です。
スクリーン保護シート	KT-TC51-SCRNP1-01	画面保護を強化します。
DEX ソリューション	DEX30	デバイスに無線 DEX 通信機能を提供します。
リストストラップ	SG-PD40-WLD1-01	デバイスを手首でしっかりと持つために使用します。トリガ ハンドルまたは高耐久性ブーツで使用します。
<b>携帯用ソリューション</b>		
ソフト ホルスター	SG-TC51-HLSTR1-01	デバイスを腰に固定する際に使用します。高耐久性ブーツとトリガ ハンドル付きのデバイスに対応します。
ハンドストラップ	SG-TC51-EHDSTP1-03	ハンドストラップマウントクリップ付き交換ハンドストラップ(3パック)
ベーシックハンドストラップ	SG-TC51-BHDSTP1-03	高耐久性ブーツのないデバイスを持ちやすくするためのハンドストラップです。
医療用携帯用クリップ	SG-TC51-CLIPHC1-01	デバイスに取り付け可能で、ユーザーはベルトに取り付けることができます。
プラスチックスタイルスおよびコイルストラップ	SG-TC7X-STYLUS-03	プラスチックスタイルスとコイルストラップ(3個組)。
金属スタイルス	SG-STYLUS-TCX-MTL-03	特に雨や雪での使用に適した、マイクロニットハイブリッドメッシュファイバチップ付きステンレススチールおよび真鍮製スタイルス(3個組)。
<b>電源</b>		
電源	PWR-BGA12V50W0WW	1スロットUSB充電クレードルおよび4スロット予備バッテリ充電器に電力を供給します。AC電源コードが必要です。
電源	PWR-BGA12V108W0WW	4スロット充電専用クレードル(バッテリ充電器付き)、5スロット充電専用クレードルおよび5スロットトイーサネットクレードルに電力を供給します。p/n 50-16002-029RのDC電源コードと、国別のアース付きAC電源コード(3ワイヤ)が必要です(別売り)。
電源	PWR-WUA5V12W0US	高耐久性充電/USBケーブルにDC12V、2.5Aの電力を供給します。米国で使用するためのプラグアダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0GB	高耐久性充電/USBケーブルにDC12V、2.5Aの電力を供給します。英国で使用するためのプラグアダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0EU	高耐久性充電/USBケーブルにDC12V、2.5Aの電力を供給します。欧州連合で使用するためのプラグアダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0AU	高耐久性充電/USBケーブルにDC12V、2.5Aの電力を供給します。オーストラリアで使用するためのプラグアダプタが含まれます。

表 25 アクセサリ (Continued)

アクセサリ	部品番号	説明
電源	PWR-WUA5V12W0CN	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。中国で使用するためのプラグアダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0IN	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。インドで使用するためのプラグアダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0KR	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。韓国で使用するためのプラグアダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0BR	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。ブラジルで使用するためのプラグアダプタが含まれます。
DC 電源コード	CBL-DC-381A1-01	電源 (PWR-BGA12V108W0WW) から 4 スロット充電専用ケーブル(バッテリ充電器付き)、5 スロット充電専用ケーブル、および 5 スロットイーサネットケーブルに電力を供給します。
DC 電源コード	CBL-DC-388A1-01	電源 (PWR-BGA12V50W0WW) から 1 スロット USB/充電専用ケーブルおよび 4 スロットバッテリ充電器に電力を供給します。
2 股 DC ケーブル	CBL-DC-523A1-01	1 つの電源 (PWR-BGA12V108W0WW) を 2 台の 4 スロットバッテリ充電器に接続します。
US AC 電源コード	23844-00-00R	電源に電力を供給します。

## メイン バッテリの充電

デバイスの充電/通知 LED は、デバイスのバッテリ充電状態を示します。デバイスの充電状態については、「[充電インジケータ](#)」を参照してください。バッテリが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。



注：多くの場合、日常的な使用に対しては 90% までの充電で充分です。100% にフル充電すると、約 14 時間連続で使用できます。

最も速く充電するには、Zebra の充電アクセサリおよびバッテリのみを使用してください。デバイスをスリープモードにして、室温でバッテリを充電してください。

## 予備バッテリの充電

カップの予備バッテリ充電 LED は、予備バッテリの充電の状態を示します。バッテリが完全に空になっている場合、約 2.3 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。



注：多くの場合、日常的な使用に対しては 90% までの充電で充分です。100% にフル充電すると、約 14 時間連続で使用できます。

最も速く充電するには、Zebra の充電アクセサリおよびバッテリのみを使用してください。

表 26 予備バッテリの LED 充電インジケータ

意味	LED	説明
黄色で点灯		予備バッテリが充電中。
黄色で点灯 (黄色の明るさに明暗がある)		適切な予備バッテリを充電中です。2スロット USB/イーサネット クレードルでは使用できません。
緑色で点灯		予備バッテリの充電が完了しました。
緑色で点灯 (緑色の明るさに明暗がある)		最適な予備バッテリの充電が完了しました。2スロット USB/イーサネット クレードルでは使用できません。
赤色で点灯		予備バッテリが充電中です。バッテリの寿命が近づいています。 充電が完了しました。バッテリの寿命が近づいています。
赤色で速く点滅 (1秒に2回点滅)		充電中にエラーが発生しました。予備バッテリが正しく挿入されているかを確認してください。バッテリの寿命が近づいています。
消灯		スロットに予備バッテリがありません。予備バッテリがスロットに正しく装着されていません。クレードルに電源が供給されていません。

## 充電温度

バッテリは、5 ~ 40°C (41 ~ 104°F) の温度で充電してください。本デバイスやクレードルでは常に、安全かつインテリジェントな方法でバッテリ充電が行われます。高温時(約 37°C (98°F) 以上など)には、デバイスまたはクレードルは、バッテリの充電を有効と無効に交互に短時間で切り替えて、バッテリを許容温度に保つ場合があります。異常な温度のために充電が無効になった場合は、デバイスやクレードルの LED にエラーが表示されます。

## 1スロット USB クレードル

1スロット USB クレードルは、電源およびホスト通信に利用できます。

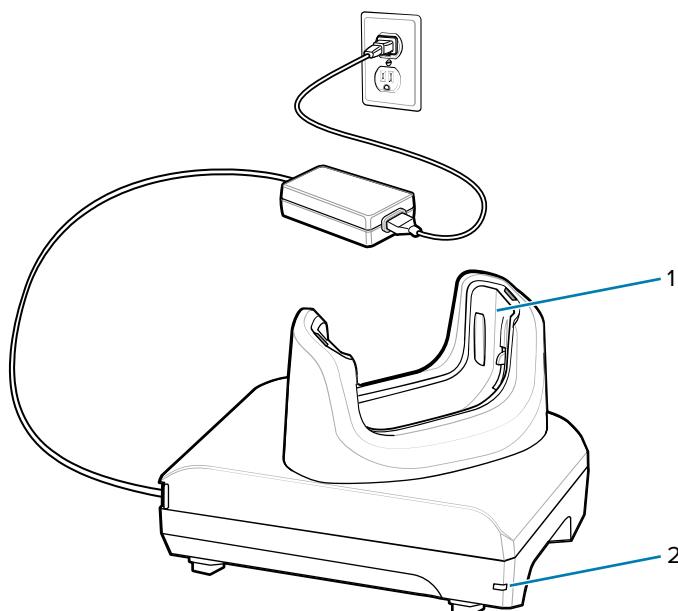


**注意:** 「[バッテリの安全に関するガイドライン](#)」に記載されている、バッテリの安全に関するガイドラインに従っていることを確認してください。

1スロット USB 充電クレードルには、次のような機能があります。

- デバイスの操作に必要な 5VDC の電力を供給する。
- デバイスのバッテリを充電する。
- ホスト コンピュータとの USB 通信を行う。

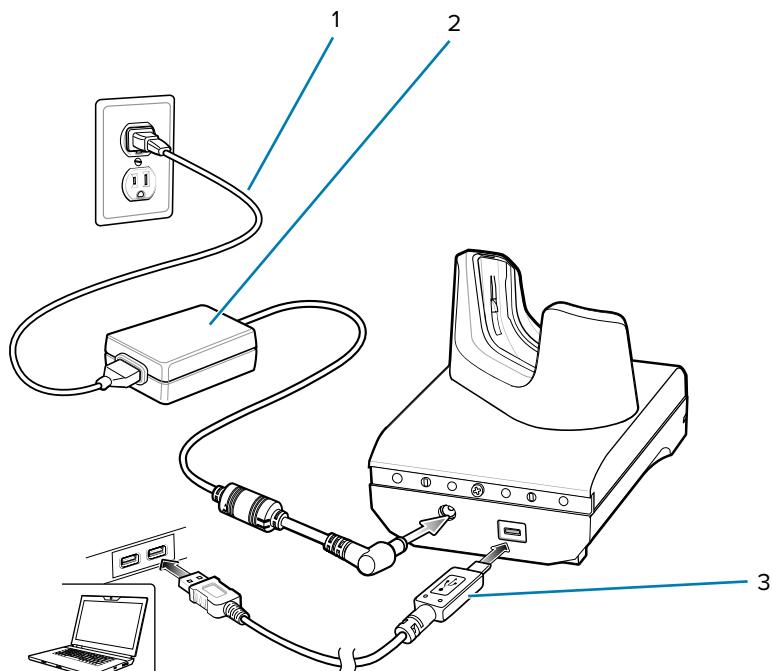
図 34 1 スロット USB 充電クレードル



1	カップアダプタ
2	電源 LED

## セットアップ

図 35 1 スロット USB 充電クレードルのセットアップ



1	AC 電源コード
---	----------

2	電源
3	USB ケーブル

## クレードルでのデバイスの充電

デバイスを充電するには、次の手順に従います。

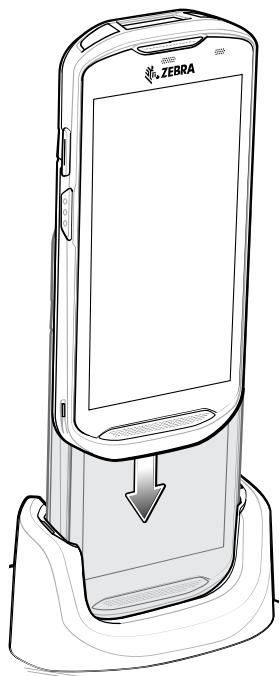


**注:** デバイスに高耐久性ブーツを装着している場合、デバイスを挿入する前にカップアダプタを取り外します。



**重要:** デフォルトでは、デバイスはインターフェースコネクタを搭載しています。USB タイプ C ケーブルを接続するためインターフェースコネクタを取り外している場合、クレードルに置いて充電を行なったりイーサネット IP アドレスを受信したりする前に、コネクタを装着し直してください。

1. スロットにデバイスを挿入すると充電が開始します。

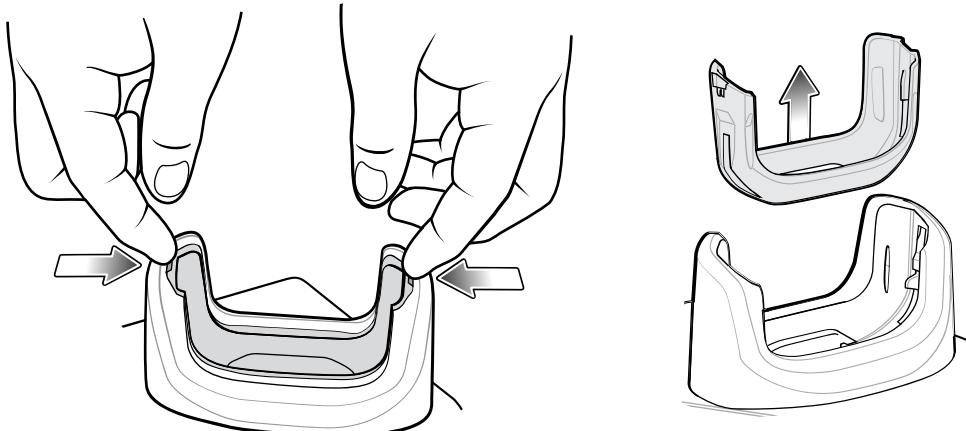


2. デバイスが正しくセットされていることを確認してください。

## 高耐久性ブーツを装着した TC5X をクレードルに挿入する

クレードルの各カップにはアダプタがあります。高耐久性ブーツを装着したデバイスを挿入する場合、このアダプタを先に取り外す必要があります。アダプタを取り外した後、デバイスをカップに挿入します。

図 36 カップからアダプタを取り外す

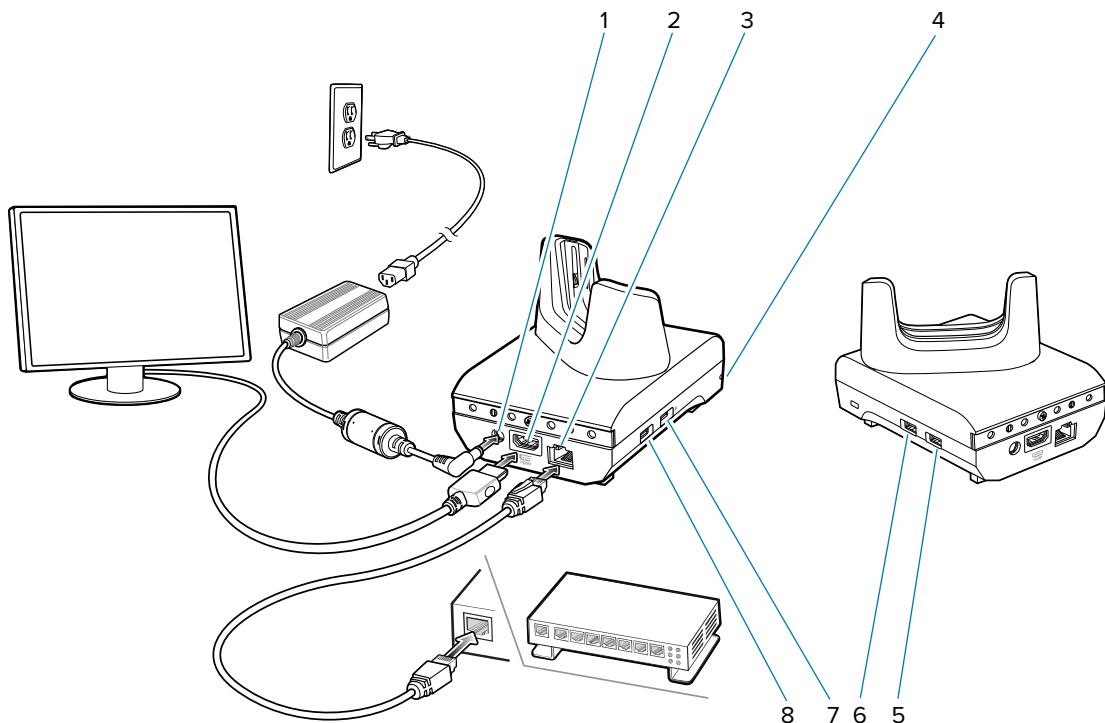


## 1スロットワークステーションドッキング クレードル

TC5X ワークステーションクレードルは、HDMI、イーサネット、および 4 つの USB ポート用の追加ポートを備えた拡張シングルスロット充電クレードルで、デバイスを HDMI モニタ、キーボード、マウスに接続したときにワークステーションコンピュータとして使用できます。



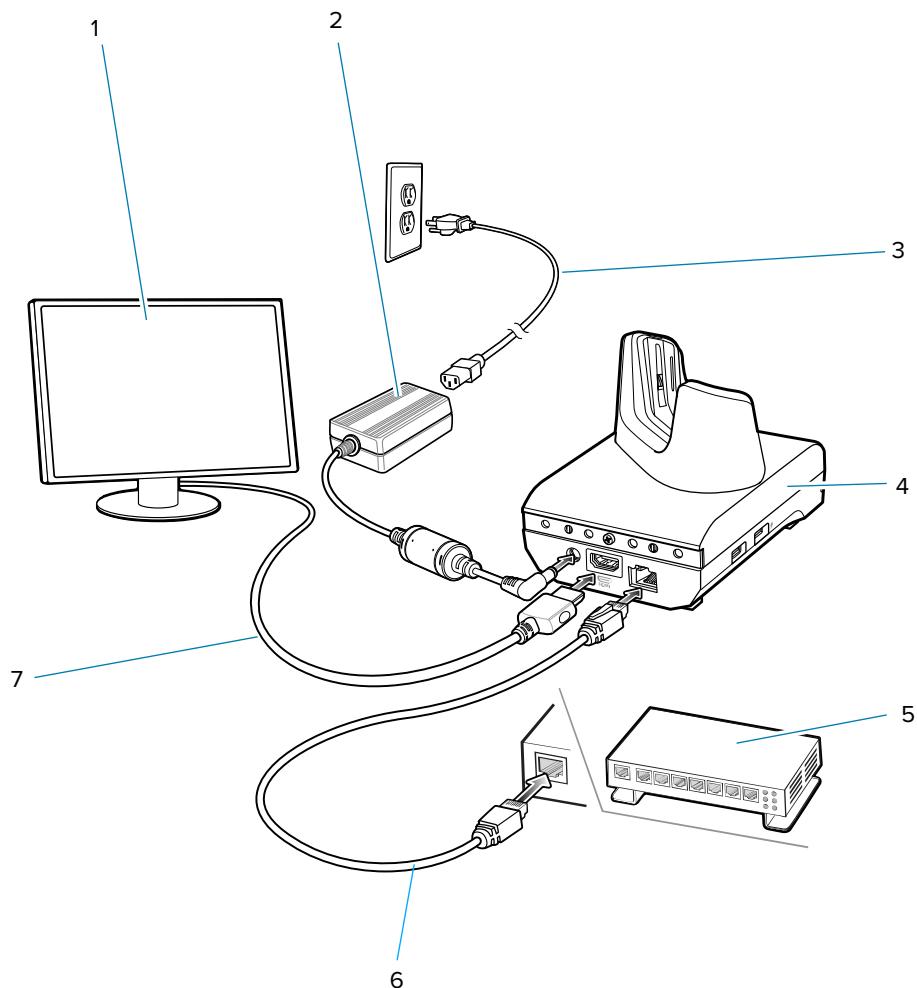
**注意：**「[バッテリの安全に関するガイドライン](#)」に記載されている、バッテリの安全に関するガイドラインに従っていることを確認してください。



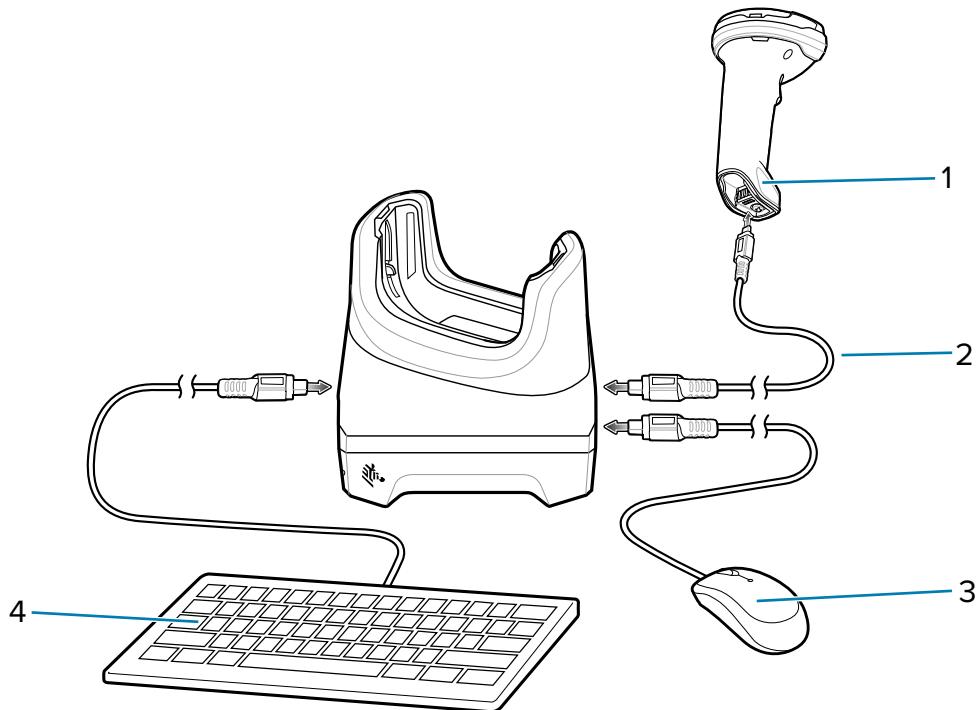
1	電源ポート	クレードルに電源を供給します。
2	HDMI ポート	モニタに接続します。
3	イーサネットポート	イーサネット ネットワークに接続します。
4	LED	電源がクレードルに接続されていることを示します。
5	USB Type-A ポート	マウスまたはキーボード用の接続。
6	USB Type-A ポート	マウスまたはキーボード用の接続。
7	1.5 mA USB ポート	マウスまたはキーボード用、あるいは個人用モバイルデバイス用 USB Type-A ポート。
8	0.5 mA USB ポート	マウスまたはキーボード用 USB Type-A ポート。

## セットアップ

図37 ワークステーションクレードルのセットアップ



1	監視
2	電源
3	AC 電源コード
4	クレードル
5	イーサネットスイッチ
6	イーサネットケーブル
7	HDMI ケーブル



1	USB スキャナ
2	USB ケーブル
3	USB マウス
4	USB キーボード[HIDきぼど]

## イーサネットの設定

イーサネット通信を使用する場合、次の設定を構成できます。

- プロキシ設定
- 静的 IP

### イーサネット プロキシ設定の構成

デバイスには、イーサネット クレードル ドライバが搭載されています。デバイスを挿入してから、イーサネット接続を構成します。

1. ステータスバーから下にスワイプしてクイック設定バーを開き、⚙️ をタッチします。
2. [Ethernet] (イーサネット) をタッチします。
3. スイッチを [On] (オン) の位置にスライドさせます。
4. デバイスをイーサネット クレードル スロットに配置します。
5. メニューが表示されるまで eth0 を長押しします。
6. [Modify Proxy] (プロキシの変更) をタッチします。
7. [Proxy] (プロキシ) ドロップダウンリストをタッチし、[Manual] (手動) を選択します。

8. [Proxy hostname] (プロキシ ホスト名) フィールドに、プロキシ サーバーのアドレスを入力します。

9. [Proxy port] (プロキシ ポート) フィールドに、プロキシ サーバーのポート番号を入力します。



**注：**[Bypass proxy for] (プロキシのバイパス) フィールドにプロキシ アドレスを入力する際は、アドレスとアドレスの間にスペースや改行を使用しないでください。

10. [Bypass proxy for] (プロキシのバイパス) テキスト ボックスに、プロキシ サーバーを経由する必要がない Web サイトのアドレスを入力します。

11. アドレスとアドレスの間には区切り記号「|」を使用します。

12. [MODIFY] (変更) をタッチします。

13. ホーム ボタンをタッチします。

## イーサネット静的 IP アドレスの構成

デバイスには、イーサネット クレードル ドライバが搭載されています。デバイスを挿入してから、イーサネット接続を構成します。

1. ステータスバーから下にスワイプしてクイック設定バーを開き、⚙️ をタッチします。

2. [Ethernet] (イーサネット) をタッチします。

3. スイッチを [On] (オン) の位置にスライドさせます。

4. デバイスをイーサネット クレードルスロットに配置します。

5. [eth0] をタッチします。

6. [Disconnect] (切断) をタッチします。

7. [eth0] をタッチします。

8. [IP] 設定ドロップダウンリストをタッチし、[Static] (静的) を選択します。

9. [IP address] (IP アドレス) フィールドにプロキシ サーバーのアドレスを入力します。

10. 必要に応じて、[Gateway] (ゲートウェイ) フィールドにデバイスのゲートウェイ アドレスを入力します。

11. 必要に応じて、[Netmask] (ネットマスク) フィールドにネットワーク マスク アドレスを入力します

12. 必要に応じて、[DNS] アドレス フィールドにドメインネーム システム (DNS) アドレスを入力します。

13. [CONNECT] (接続) にタッチします。

14. ホーム ボタンをタッチします。

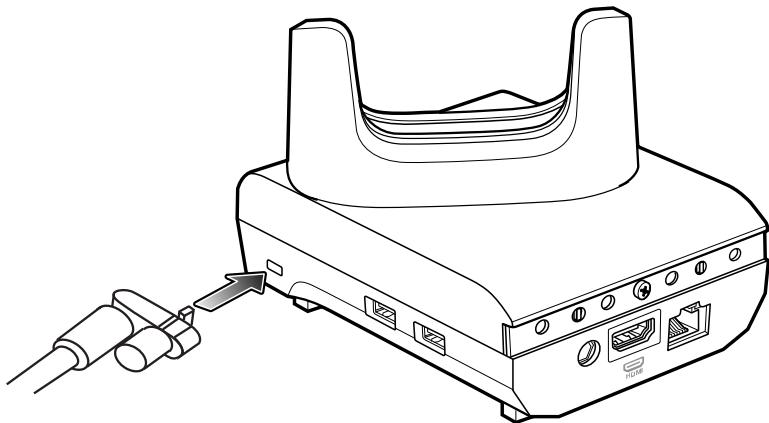
## スキャナの設定

ワークステーション クレードルは、ヒューマン インタフェース デバイス (HID) モードの USB スキャナのみをサポートします。スキャナを HID モードに設定する方法については、スキャナのプロダクト リファレンス ガイドを参照してください。

## セキュリティ

クレードルには、Kensington ロック ケーブルを使用してクレードルをセキュリティ保護する Kensington スロットがあります。

図 38 Kensington ロックによるクレードルのセキュリティ保護



## ワークステーションクレードルの使用

ワークステーションクレードルの使用を開始する手順について説明します。

1. デバイスをオンにします。
2. クレードルにデバイスを装着します。

デバイスの画面が自動的に回転し、接続されているモニタ上でミラーリングされます。

## モニタ解像度の変更

クレードルにセットすると、デバイスによって画面解像度が自動的に検出されます。外部モニタの画面解像度を手動で変更するには:

1. [Settings] (設定) > [Display] (ディスプレイ) > [External screen resolution] (外部画面解像度) に移動します。
2. 接続されているモニタの解像度を選択します。
3. クレードルにデバイスを装着します。

## クレードルでのデバイスの充電

デバイスを充電するには、次の手順に従います。

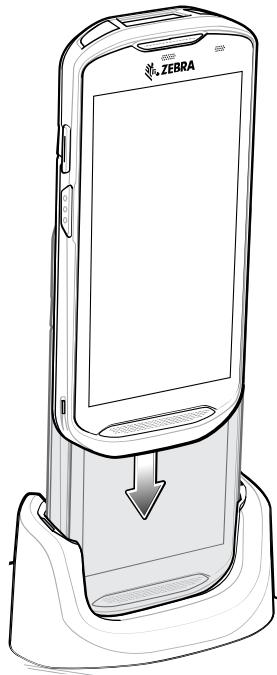


**注:** デバイスに高耐久性ブーツを装着している場合、デバイスを挿入する前にカップアダプタを取り外します。



**重要:** デフォルトでは、デバイスはインターフェースコネクタを搭載しています。USB タイプ C ケーブルを接続するためインターフェースコネクタを取り外している場合、クレードルに置いて充電を行なったりイーサネット IP アドレスを受信したりする前に、コネクタを装着し直してください。

- スロットにデバイスを挿入すると充電が開始します。

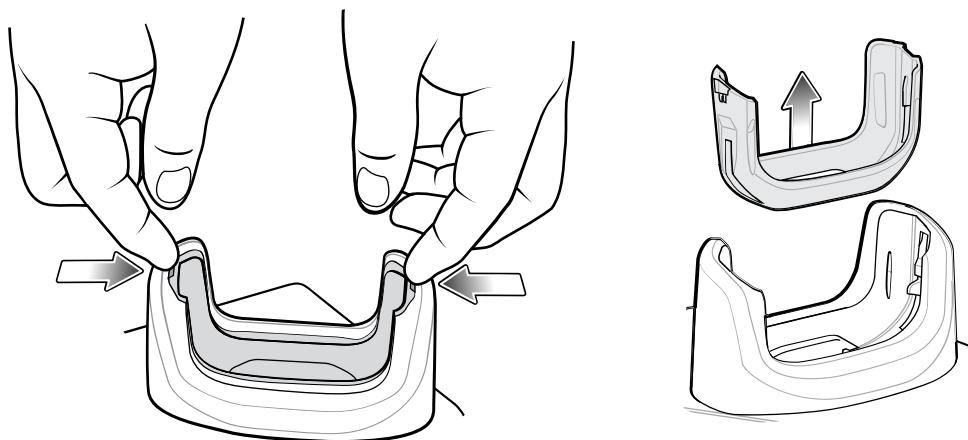


- デバイスが正しくセットされていることを確認してください。

## 高耐久性ブーツを装着した TC5X をクレードルに挿入する

クレードルの各カップにはアダプタがあります。高耐久性ブーツを装着したデバイスを挿入する場合、このアダプタを取り外す必要があります。アダプタを取り外した後、デバイスをカップに挿入します。

図 39 カップからアダプタを取り外す



## 2スロット USB/イーサネット クレードル

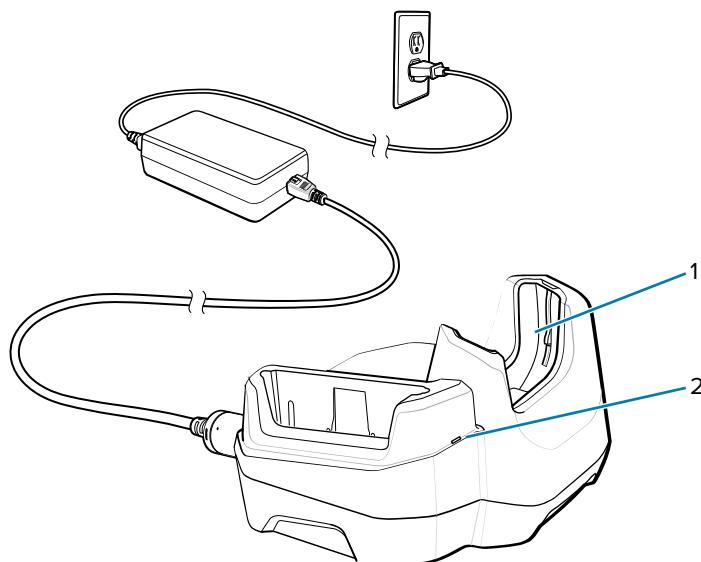


**注意：**「バッテリの安全に関するガイドライン」に記載されている、バッテリの安全に関するガイドラインに従っていることを確認してください。

2スロット USB/イーサネット クレードルには、次のような機能があります。

- デバイスの操作に必要な 5VDC の電力を供給する。
- デバイスのバッテリを充電する。
- 予備バッテリを充電する。
- デバイスをイーサネット ネットワークに接続する。
- ホスト コンピュータとの USB 通信を行う。

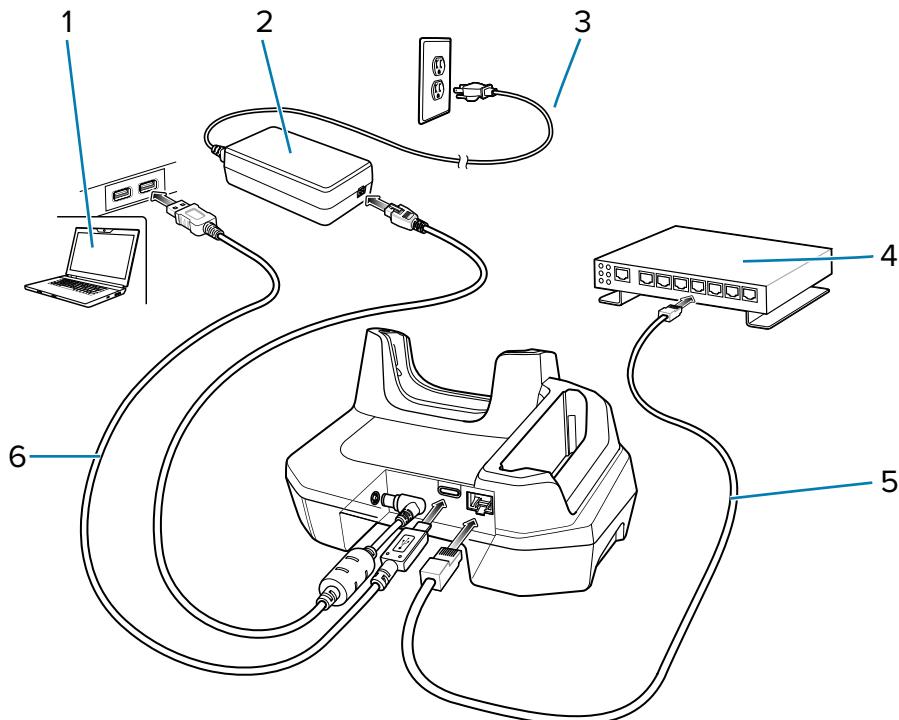
**図 40** 2スロット USB/イーサネット クレードル



1	カップアダプタ
2	予備バッテリ充電 LED

## セットアップ

図 41 セットアップ



1	ホスト コンピュータ
2	電源
3	DC 電源コード
4	イーサネット スイッチ
5	イーサネット ケーブル
6	USB ケーブル

## イーサネットの設定

イーサネット通信を使用する場合、次の設定を構成できます。

- プロキシ設定
- 静的 IP

### イーサネット プロキシ設定の構成

デバイスには、イーサネット クレードル ドライバが搭載されています。デバイスを挿入してから、イーサネット接続を構成します。

1. ステータスバーから下にスワイプしてクイック設定バーを開き、⚙️ をタッチします。
2. [Ethernet] (イーサネット) をタッチします。

3. スイッチを [On] (オン) の位置にスライドさせます。
4. デバイスをイーサネット クレードルスロットに配置します。
5. メニューが表示されるまで eth0 を長押しします。
6. [Modify Proxy] (プロキシの変更) をタッチします。
7. [Proxy] (プロキシ) ドロップダウンリストをタッチし、[Manual] (手動) を選択します。
8. [Proxy hostname] (プロキシ ホスト名) フィールドに、プロキシ サーバーのアドレスを入力します。
9. [Proxy port] (プロキシ ポート) フィールドに、プロキシ サーバーのポート番号を入力します。



注：[Bypass proxy for] (プロキシのバイパス) フィールドにプロキシ アドレスを入力する際は、アドレスとアドレスの間にスペースや改行を使用しないでください。

10. [Bypass proxy for] (プロキシのバイパス) テキスト ボックスに、プロキシ サーバーを経由する必要がない Web サイトのアドレスを入力します。
11. アドレスとアドレスの間には区切り記号「|」を使用します。
12. [MODIFY] (変更) をタッチします。
13. ホーム ボタンをタッチします。

## イーサネット静的 IP アドレスの構成

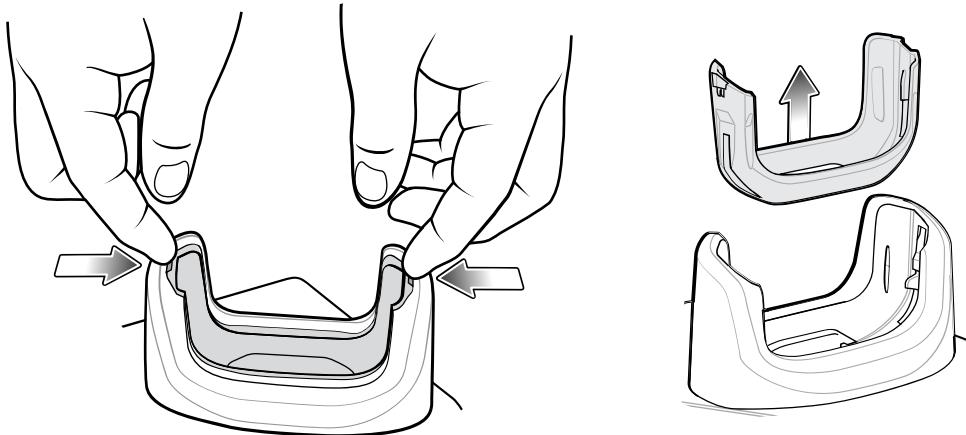
デバイスには、イーサネット クレードル ドライバが搭載されています。デバイスを挿入してから、イーサネット接続を構成します。

1. ステータスバーから下にスワイプしてクイック設定バーを開き、⚙️ をタッチします。
2. [Ethernet] (イーサネット) をタッチします。
3. スイッチを [On] (オン) の位置にスライドさせます。
4. デバイスをイーサネット クレードルスロットに配置します。
5. [eth0] をタッチします。
6. [Disconnect] (切断) をタッチします。
7. [eth0] をタッチします。
8. [IP] 設定ドロップダウンリストをタッチし、[Static] (静的) を選択します。
9. [IP address] (IP アドレス) フィールドにプロキシ サーバーのアドレスを入力します。
10. 必要に応じて、[Gateway] (ゲートウェイ) フィールドにデバイスのゲートウェイ アドレスを入力します。
11. 必要に応じて、[Netmask] (ネットマスク) フィールドにネットワーク マスク アドレスを入力します
12. 必要に応じて、[DNS] アドレス フィールドにドメインネーム システム (DNS) アドレスを入力します。
13. [CONNECT] (接続) にタッチします。
14. ホーム ボタンをタッチします。

## 高耐久性ブーツを装着した TC5X をクレードルに挿入する

クレードルの各カップにはアダプタがあります。高耐久性ブーツを装着したデバイスを挿入する場合、このアダプタを先に取り外す必要があります。アダプタを取り外した後、デバイスをカップに挿入します。

**図 42** カップからアダプタを取り外す



## クレードルでのデバイスの充電

デバイスを充電するには、次の手順に従います。

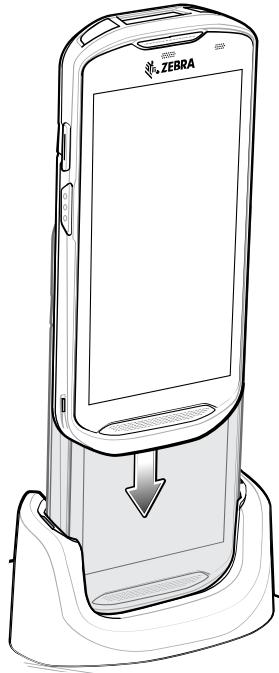


**注:** デバイスに高耐久性ブーツを装着している場合、デバイスを挿入する前にカップアダプタを取り外します。



**重要:** デフォルトでは、デバイスはインターフェースコネクタを搭載しています。USB タイプ C ケーブルを接続するためインターフェースコネクタを取り外している場合、クレードルに置いて充電を行なったりイーサネット IP アドレスを受信したりする前に、コネクタを装着し直してください。

1. スロットにデバイスを挿入すると充電が開始します。



2. デバイスが正しくセットされていることを確認してください。

## 5スロット充電専用クレードル

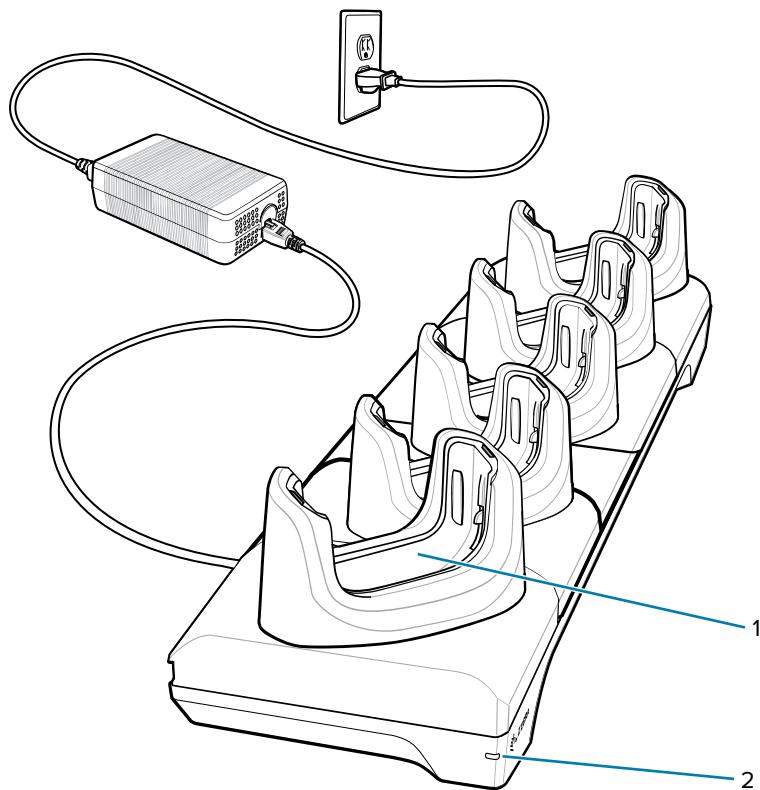


**注意：**「[バッテリの安全に関するガイドライン](#)」に記載されている、バッテリの安全に関するガイドラインに従っていることを確認してください。

5スロット充電専用クレードルには、次のような機能があります。

- デバイスの操作に必要な 5VDC の電力を供給する。
- 最大 5 台のデバイスを同時に充電する。

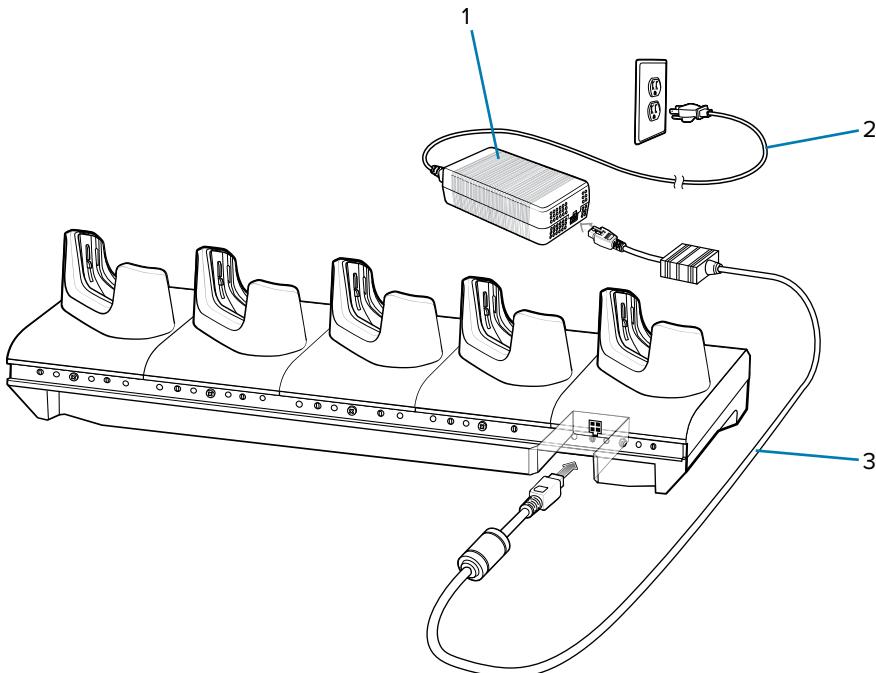
図43 5スロット充電専用クレードル



1	充電スロット
2	電源 LED

## セットアップ

図 44 5 スロット充電専用クレードルのセットアップ



1	電源
2	AC 電源コード
3	DC 電源コード

## クレードルでのデバイスの充電

デバイスを充電するには、次の手順に従います。

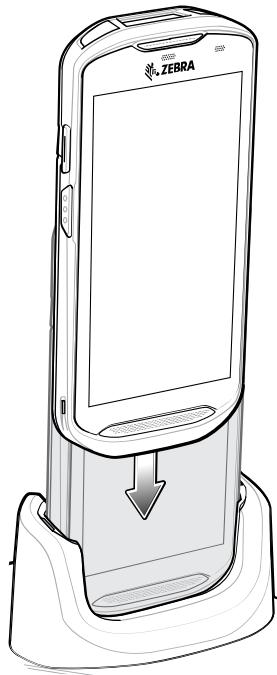


**注:** デバイスに高耐久性ブーツを装着している場合、デバイスを挿入する前にカップアダプタを取り外します。



**重要:** デフォルトでは、デバイスはインターフェースコネクタを搭載しています。USB タイプ C ケーブルを接続するためインターフェースコネクタを取り外している場合、クレードルに置いて充電を行なったりイーサネット IP アドレスを受信したりする前に、コネクタを装着し直してください。

- スロットにデバイスを挿入すると充電が開始します。

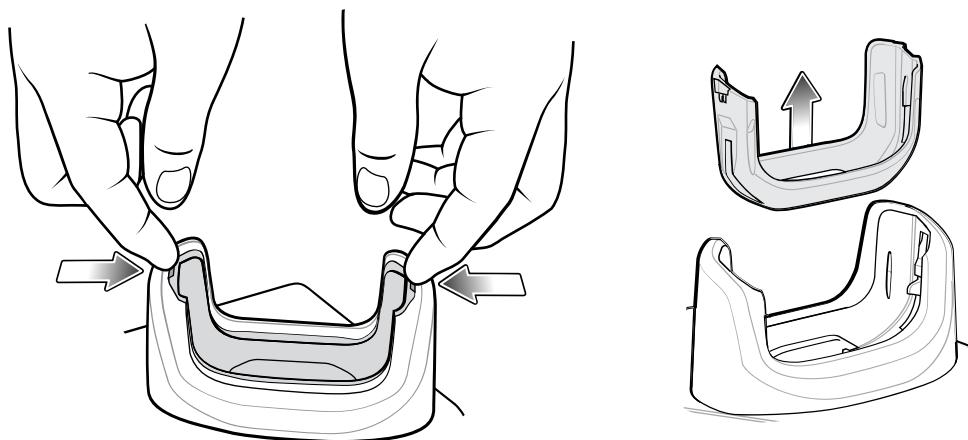


- デバイスが正しくセットされていることを確認してください。

## 高耐久性ブーツを装着した TC5X をクレードルに挿入する

クレードルの各カップにはアダプタがあります。高耐久性ブーツを装着したデバイスを挿入する場合、このアダプタを取り外す必要があります。アダプタを取り外した後、デバイスをカップに挿入します。

図 45 カップからアダプタを取り外す



## 5スロットイーサネット クレードル

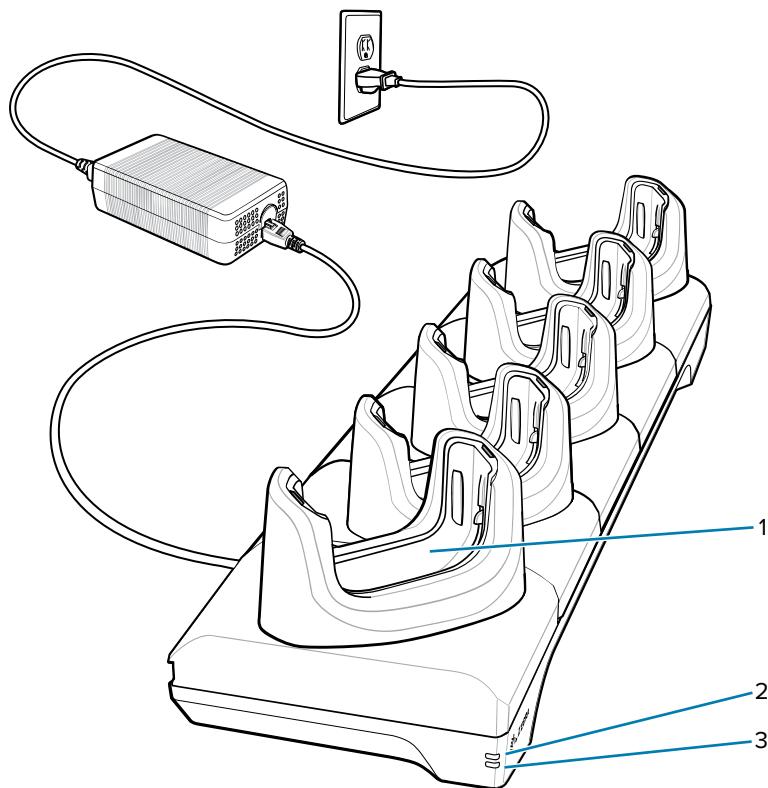


注意：「バッテリの安全に関するガイドライン」に記載されている、バッテリの安全に関するガイドラインに従っていることを確認してください。

5スロットイーサネット クレードルには、次のような機能があります。

- デバイスの操作に必要な 5VDC の電力を供給する。
- 最大 5 台のデバイスをイーサネット ネットワークに接続する。
- 最大 5 台のデバイスを同時に充電する。

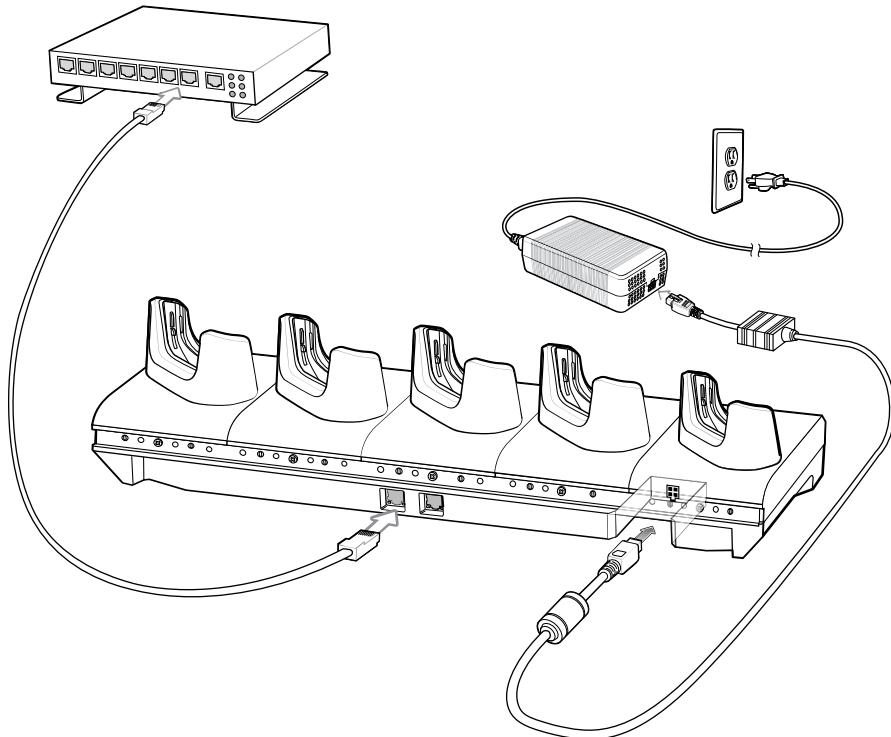
図 46 5スロットイーサネット クレードル



1	充電スロット
2	1000 LED
3	10/100 LED

## セットアップ

図47 5スロットイーサネット クレードルのセットアップ



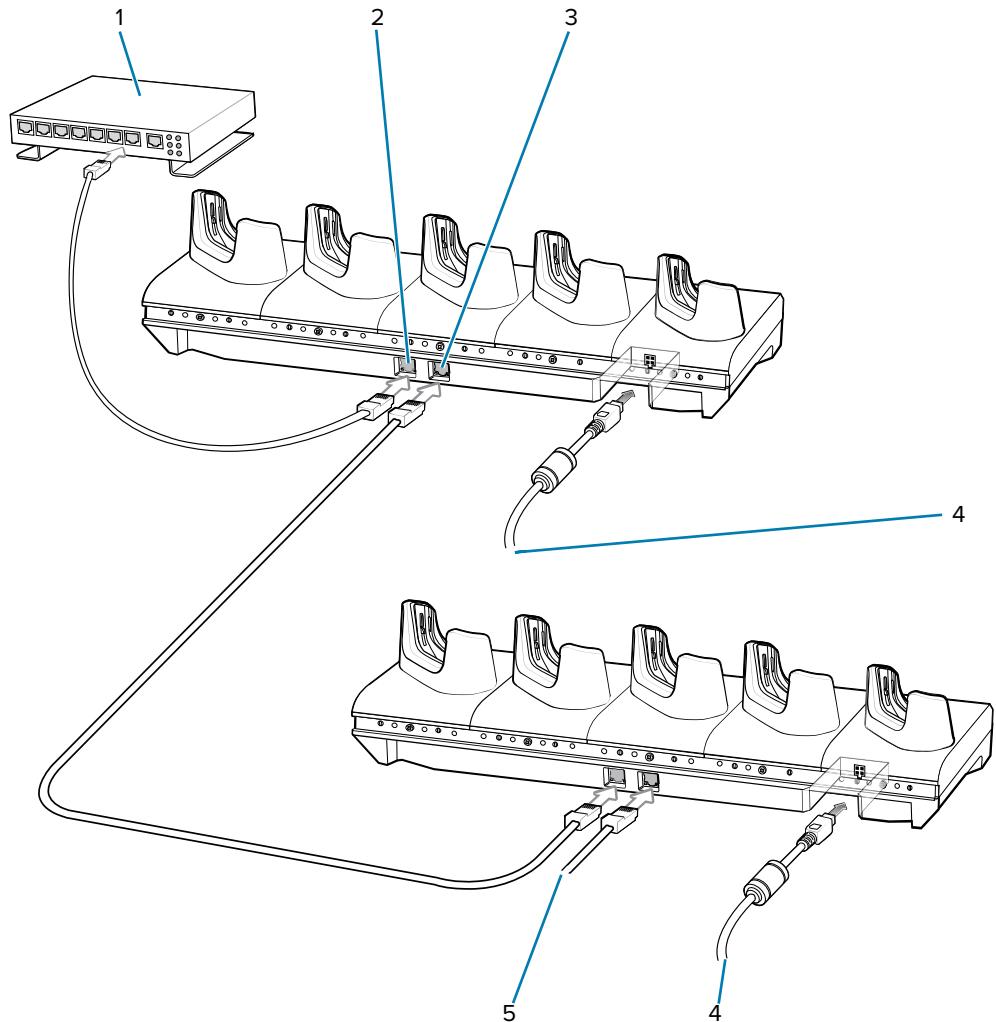
## イーサネット クレードルのデイジーチェーン接続

最大 10 台の 5 スロットイーサネット クレードルをデイジーチェーン接続して、複数のクレードルをイーサネット ネットワークに接続します。ストレート ケーブルまたはクロス ケーブルを使用します。最初のクレードルへのメインイーサネット接続が 10Mbps である場合、スループットの問題がほぼ確実に発生するため、デイジーチェーン接続を試行しないでください。

5スロットイーサネット クレードルをデイジーチェーン接続するには、次の手順に従います。

1. 各 5 スロットイーサネット クレードルに電源ケーブルを接続します。
2. イーサネット ケーブルをスイッチのいずれかのポートに接続し、もう一方の端を最初のクレードルのプライマリ ポートに接続します。
3. イーサネット ケーブルを最初のクレードルのセカンダリ ポートに接続します。

4. イーサネットケーブルのもう一方の端を、次の5スロットイーサネットクレードルのプライマリポートに接続します。



1	プライマリポート
2	セカンダリポート
3	電源へ
4	次のクレードルへ
5	イーサネットスイッチ

5. 手順3および4の説明に従って、追加のクレードルを接続します。

## イーサネットの設定

イーサネット通信を使用する場合、次の設定を構成できます。

- プロキシ設定
- 静的IP

## イーサネット プロキシ設定の構成

デバイスには、イーサネット クレードル ドライバが搭載されています。デバイスを挿入してから、イーサネット接続を構成します。

1. ステータスバーから下にスワイプしてクイック設定バーを開き、⚙️ をタッチします。
  2. [Ethernet] (イーサネット) をタッチします。
  3. スイッチを [On] (オン) の位置にスライドさせます。
  4. デバイスをイーサネット クレードル スロットに配置します。
  5. メニューが表示されるまで eth0 を長押しします。
  6. [Modify Proxy] (プロキシの変更) をタッチします。
  7. [Proxy] (プロキシ) ドロップダウンリストをタッチし、[Manual] (手動) を選択します。
  8. [Proxy hostname] (プロキシ ホスト名) フィールドに、プロキシ サーバーのアドレスを入力します。
  9. [Proxy port] (プロキシ ポート) フィールドに、プロキシ サーバーのポート番号を入力します。
-  注: [Bypass proxy for] (プロキシのバイパス) フィールドにプロキシ アドレスを入力する際は、アドレスとアドレスの間にスペースや改行を使用しないでください。
10. [Bypass proxy for] (プロキシのバイパス) テキストボックスに、プロキシ サーバーを経由する必要がない Web サイトのアドレスを入力します。
  11. アドレスとアドレスの間には区切り記号「|」を使用します。
  12. [MODIFY] (変更) をタッチします。
  13. ホーム ボタンをタッチします。

## イーサネット静的 IP アドレスの構成

デバイスには、イーサネット クレードル ドライバが搭載されています。デバイスを挿入してから、イーサネット接続を構成します。

1. ステータスバーから下にスワイプしてクイック設定バーを開き、⚙️ をタッチします。
2. [Ethernet] (イーサネット) をタッチします。
3. スイッチを [On] (オン) の位置にスライドさせます。
4. デバイスをイーサネット クレードル スロットに配置します。
5. [eth0] をタッチします。
6. [Disconnect] (切断) をタッチします。
7. [eth0] をタッチします。
8. [IP] 設定 ドロップダウンリストをタッチし、[Static] (静的) を選択します。
9. [IP address] (IP アドレス) フィールドにプロキシ サーバーのアドレスを入力します。
10. 必要に応じて、[Gateway] (ゲートウェイ) フィールドにデバイスのゲートウェイ アドレスを入力します。
11. 必要に応じて、[Netmask] (ネットマスク) フィールドにネットワーク マスク アドレスを入力します

12. 必要に応じて、[DNS] アドレス フィールドにドメイン ネーム システム (DNS) アドレスを入力します。
13. [CONNECT] (接続) にタッチします。
14. ホーム ボタンをタッチします。

## クレードルでのデバイスの充電

デバイスを充電するには、次の手順に従います。

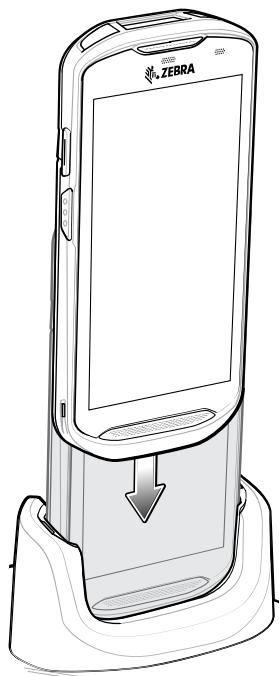


**注:** デバイスに高耐久性ブーツを装着している場合、デバイスを挿入する前にカップ アダプターを取り外します。



**重要:** デフォルトでは、デバイスはインターフェース コネクタを搭載しています。USB タイプ C ケーブルを接続するためインターフェース コネクタを取り外している場合、クレードルに置いて充電を行なったりイーサネット IP アドレスを受信したりする前に、コネクタを装着し直してください。

1. スロットにデバイスを挿入すると充電が開始します。

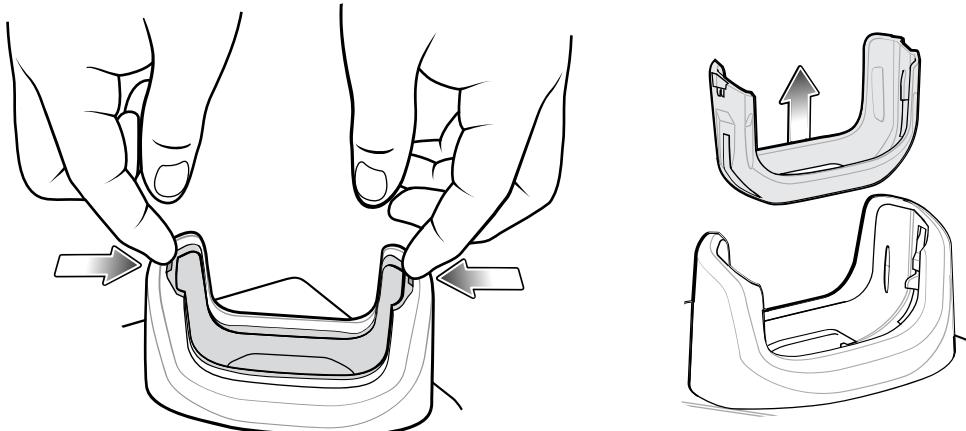


2. デバイスが正しくセットされていることを確認してください。

## 高耐久性ブーツを装着した TC5X をクレードルに挿入する

クレードルの各カップにはアダプタがあります。高耐久性ブーツを装着したデバイスを挿入する場合、このアダプタを先に取り外す必要があります。アダプタを取り外した後、デバイスをカップに挿入します。

図 48 カップからアダプタを取り外す



## イーサネット接続の確立

- ステータスバーから 2 本の指で下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開き、⚙️ をタッチします。
- [Ethernet] (イーサネット) をタッチします。
- イーサネット スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドします。
- デバイスをスロットに挿入します。 ⇣ アイコンがステータスバーに表示されます。
- [Eth0] をタッチし、イーサネット接続の詳細を表示します。

## LED インジケータ

クレードルの側面には、2 つの緑色の LED が搭載されています。これらの緑色の LED は、点灯および点滅してデータ転送速度を示します。

表 27 LED データ速度インジケータ

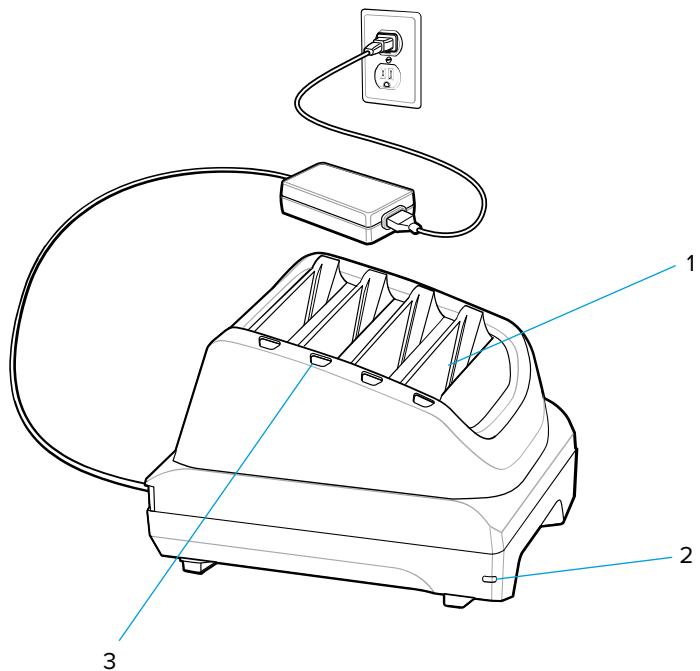
データ速度	1000 LED	100/10 LED
1Gbps	点灯/点滅	消灯
100Mbps	消灯	点灯/点滅
10Mbps	消灯	点灯/点滅

## 4スロット バッテリ充電器



**注意：**「[バッテリの安全に関するガイドライン](#)」に記載されている、バッテリの安全に関するガイドラインに従っていることを確認してください。

**図 49 4スロット バッテリ充電器**

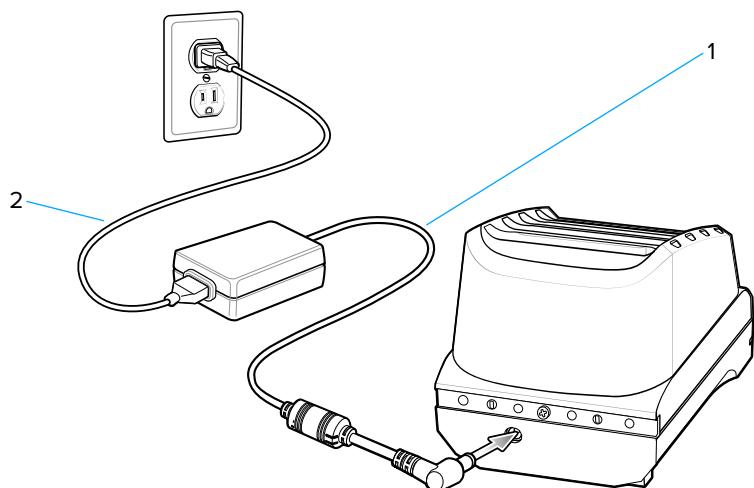


1	バッテリ スロット
2	電源 LED
3	バッテリ充電 LED

### 1台の充電器のセットアップ

1. 電源プラグを充電器の背面にある電源ポートに差し込みます。
2. AC 電源コードを電源アダプタに差し込みます。

3. AC 電源コードを AC コンセントに差し込みます。

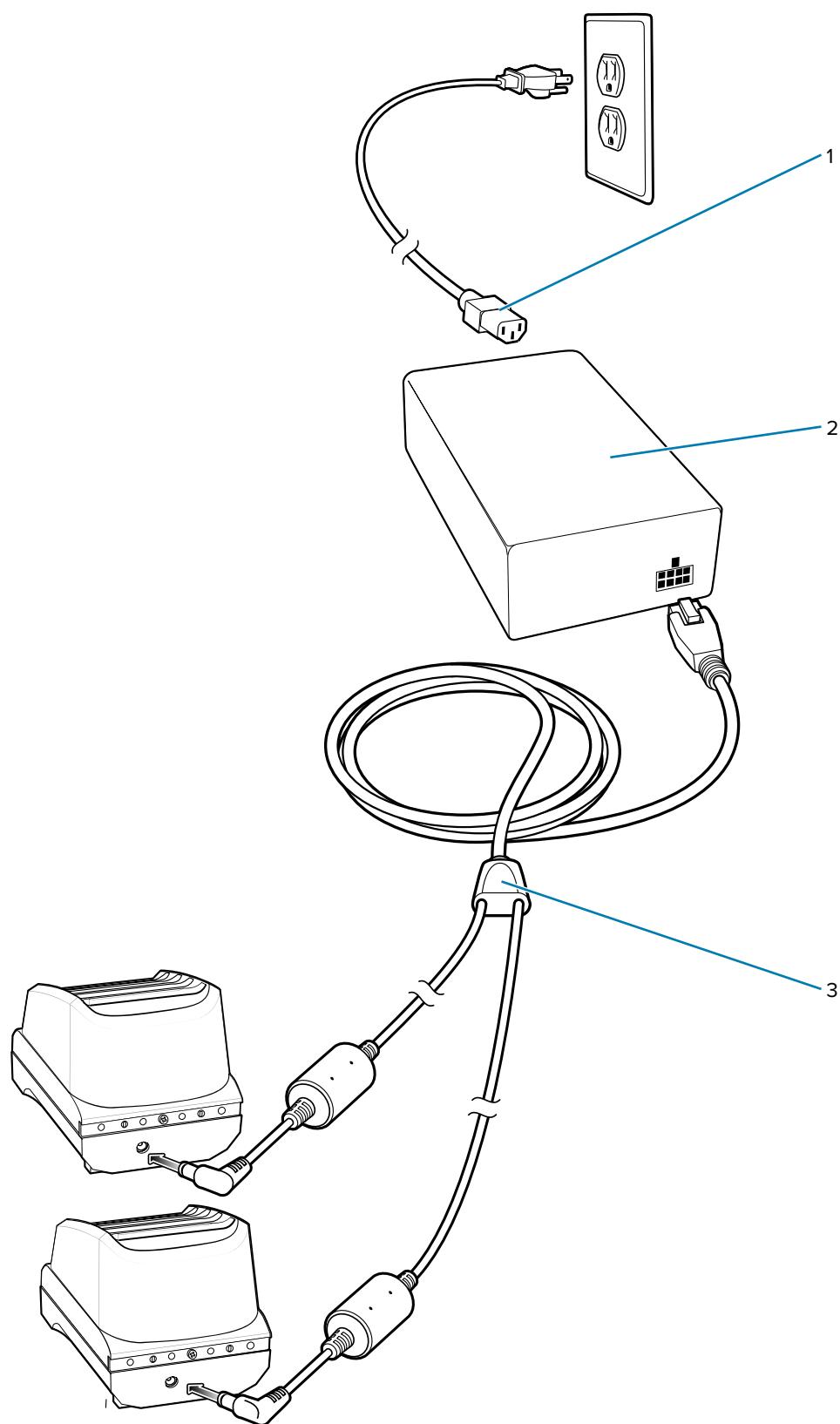


1	電源
2	AC 電源コード

## 2 台の充電器のセットアップ

1. 2 股 DC ケーブル プラグを各充電器の背面にある電源ポートに差し込みます。
2. 2 股 DC ケーブル コネクタを電源アダプタ (PWR-BGA12V108W0WW) の電源出力に差し込みます。
3. AC 電源コードを電源アダプタに差し込みます。

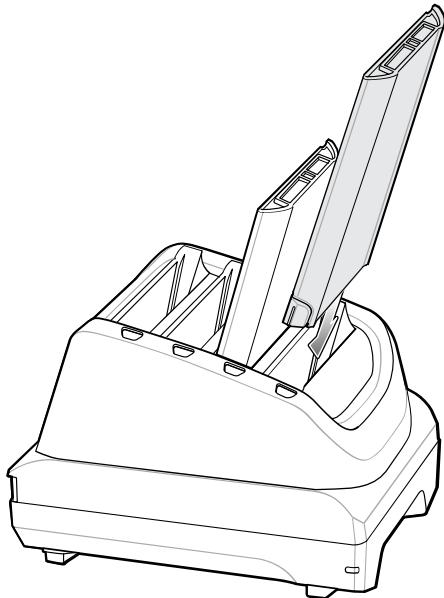
4. AC 電源コードを AC コンセントに差し込みます。



1	AC 電源コード
2	電源
3	2 股 DC ケーブル

## 予備バッテリの充電

1. 充電器を電源に接続します。
2. バッテリをバッテリ受けに差し込み、バッテリをゆっくり押し下げて正しく接触するようにします。



バッテリ充電 LED はそれぞれ、各スロットのバッテリ充電状態を示します。予備バッテリの充電インジケータの説明については、「[予備バッテリの充電](#)」を参照してください。

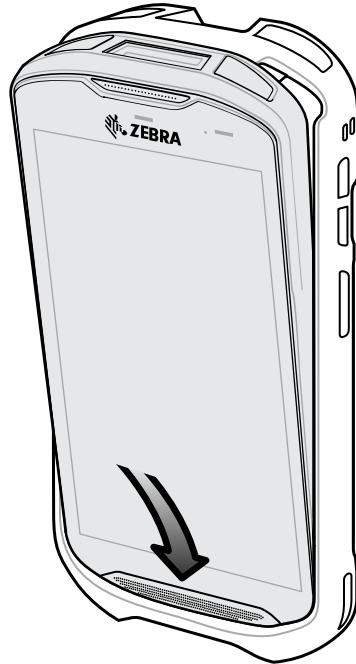
## 高耐久性ブーツ

高耐久性ブーツは、デバイスの保護を強化します。

### 取り付け

高耐久性ブーツを取り付けるには、次の手順に従います。

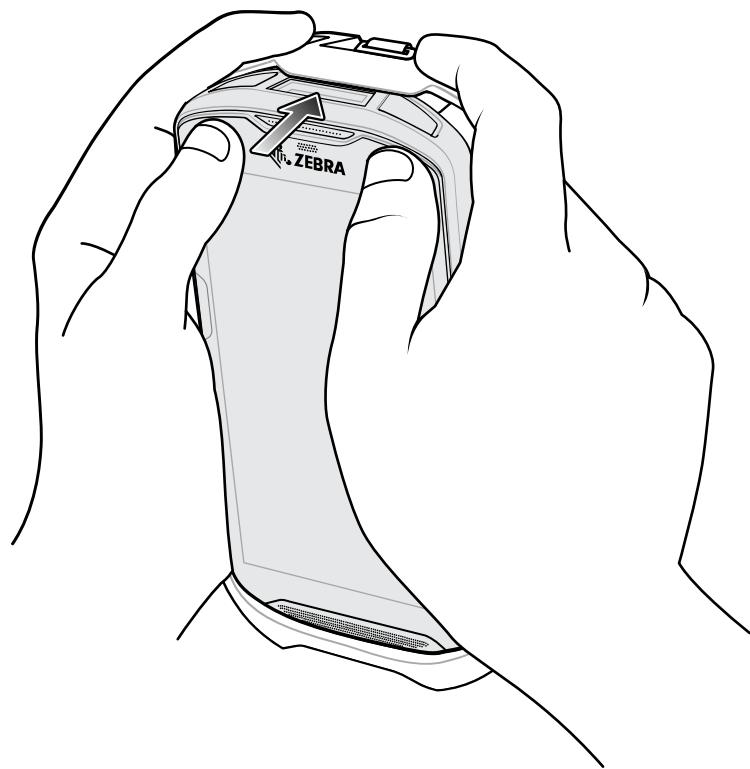
1. デバイスの下部をブーツの下部に挿入します。



2. 高耐久性ブーツの上部をデバイスの上部に持ち上げてかぶせます。



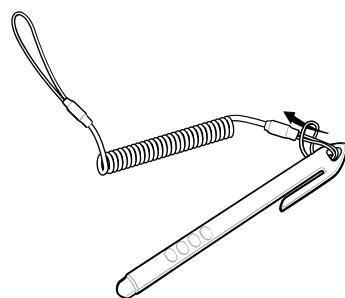
3. デバイスを高耐久性ブーツに押し込みます。



## プラスチック スタイラスの取り付け

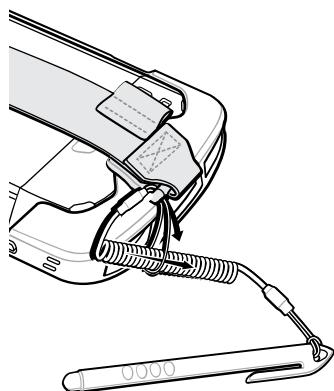
オプションのプラスチック スタイラスを取り付けるには、次の手順に従います。

1. ストラップの端のループの 1 つをスタイラスの穴に通します。
2. ストラップをループに通します。
3. ループが締まるまでストラップを引きます。



4. ハンドストラップ ホルダにループを挿入します。

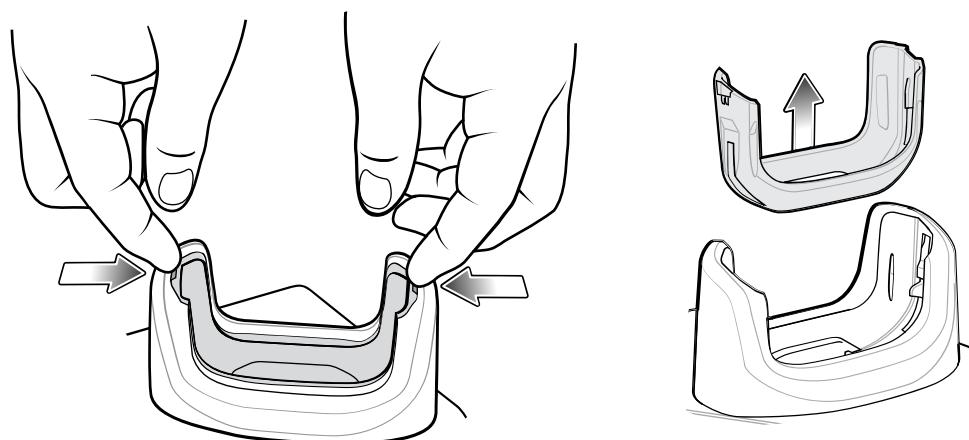
5. スタイラスをループに通します。



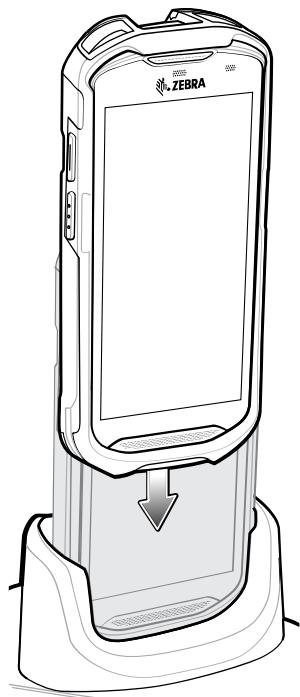
## クレードルで充電する

高耐久性ブーツを装着したデバイスをクレードルカップに挿入する場合、まずカップからアダプタを取り外します。

1. 両手の人差し指でアダプタをカップの中心に向かって押します。
2. アダプタをカップから持ち上げます。



3. クレードルにデバイスを装着します。

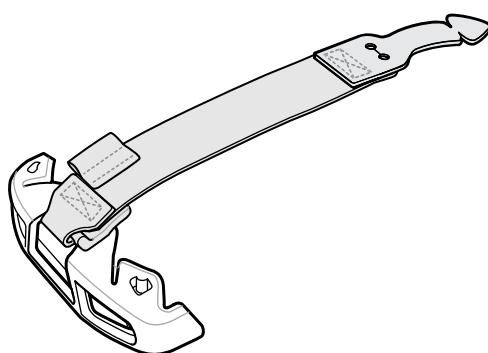


## ベーシック ハンドストラップキット

ベーシック ハンドストラップキットを使用して、ハンドストラップをデバイスに取り付けます。



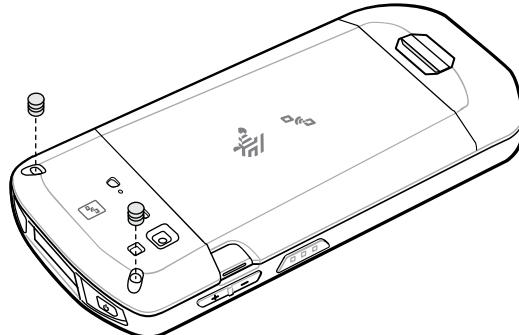
注: TC52x または TC52x-HC 専用です。



## 取り付け

ベーシック ハンドストラップ キットを取り付けるには、次の手順に従います。

1. デバイスの背面にある2つのゴム製プラグを取り外します。

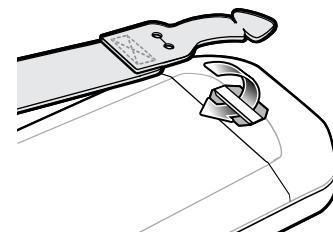


2. 上部キャップをデバイスの位置に合わせます。

3. デバイスの上部を覆うように上部キャップをかぶせます。



4. ハンドストラップのタブの先端をデバイスのスロットに挿入します。

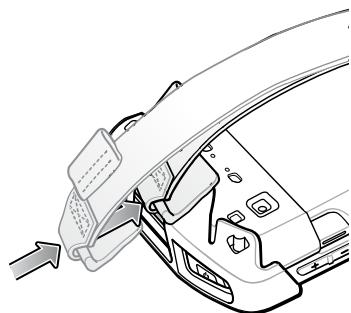


5. タブをストラップの切れ込みに通します。



6. ハンドストラップクリップを上部キャップの位置に合わせます。

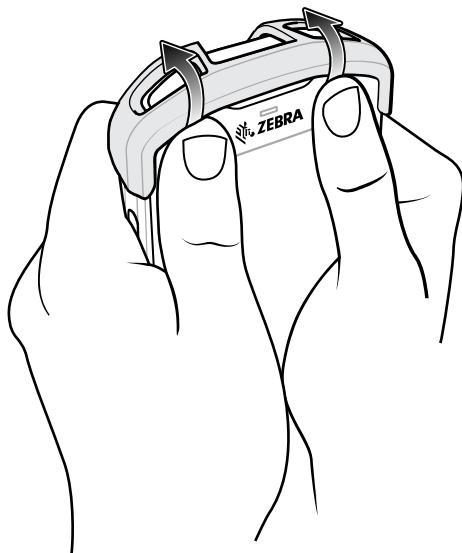
7. クリップを上部キャップに押し込みます。



## 取り外し

ベーシック ハンドストラップ キットを取り外すには、次の手順に従います。

1. 親指を使って、上部キャップを回転させるようにしてデバイスの上部から押し上げます。



2. ストラップタブを切り込みスロットから引き出します。
3. ハンドストラップタブをデバイスのスロットから引き出します。

## 2.5mm オーディオ アダプタ

デバイスに 2.5mm オーディオ アダプタを接続し、その端を 2.5mm プラグの有線ヘッドセットに接続します。



**注:** オーディオ アダプタは、TC52x および TC57x の構成のみで使用できます。

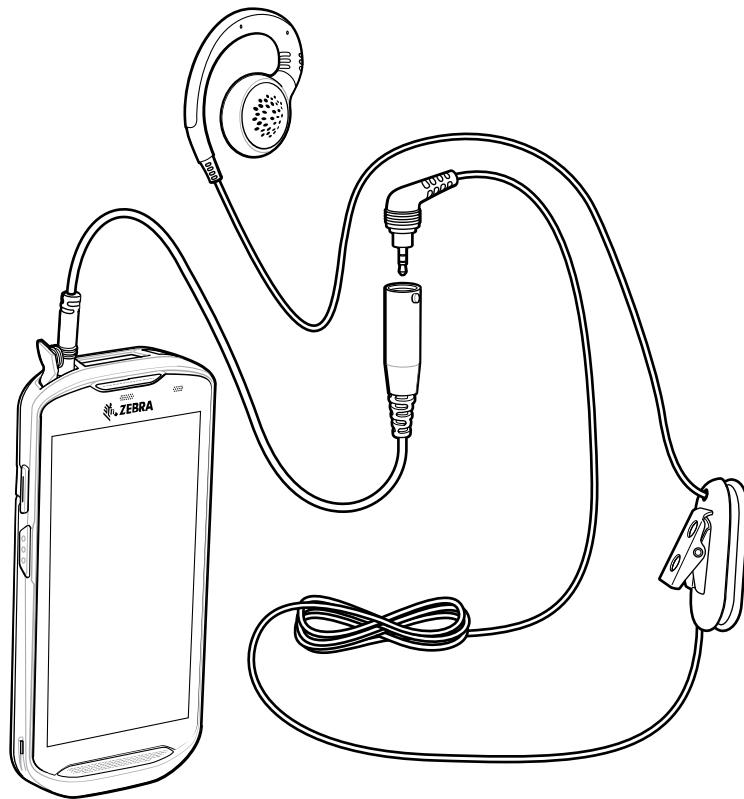
2.5mm ヘッドセットを接続するには、次の手順に従います。

1. ヘッドセットのジャック カバーを開きます。

2. 2.5mm オーディオ アダプタ プラグをヘッドセット ジャックに差し込みます。



3. 2.5mm ヘッドセットのプラグをオーディオ アダプタのジャックに差し込みます。



**注意:** ヘッドセットを取り外した後は、ヘッドセットのジャック カバーをしっかりと元に戻し、適切な密閉状態を確保してください。

### 3.5mm オーディオ アダプタ

デバイスに 3.5mm オーディオ アダプタを接続し、その端を 3.5mm プラグの有線ヘッドセットに接続します。



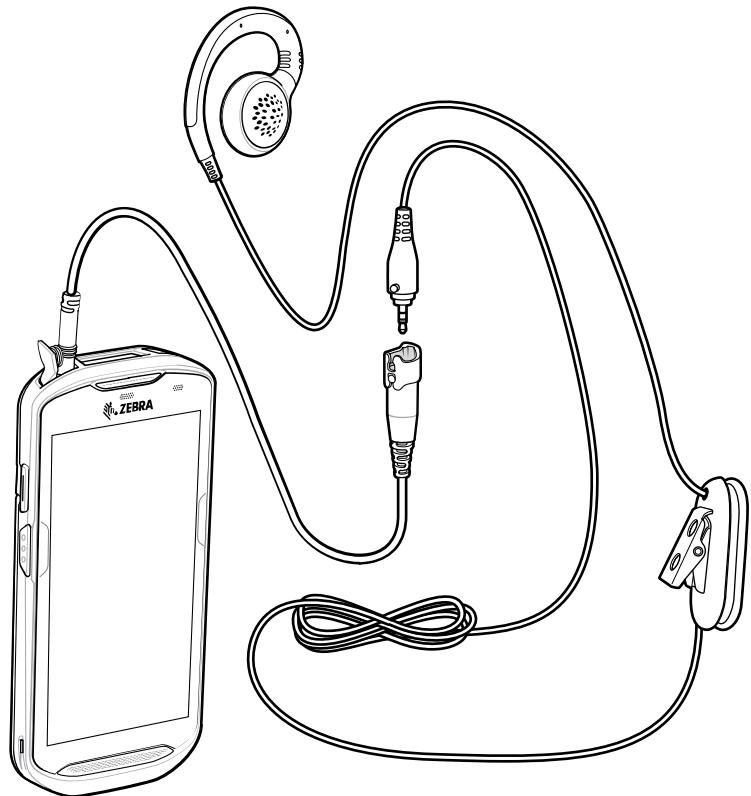
**注:** オーディオ アダプタは、デバイス標準構成で使用できます。

3.5mm ヘッドセットを接続するには、次の手順に従います。

1. ヘッドセット ジャックのカバーを開きます。
2. 3.5mm オーディオ アダプタ プラグをヘッドセット ジャックに差し込みます。



3. ヘッドセットの 3.5mm コネクタ プラグを 3.5mm オーディオ アダプタに接続します。

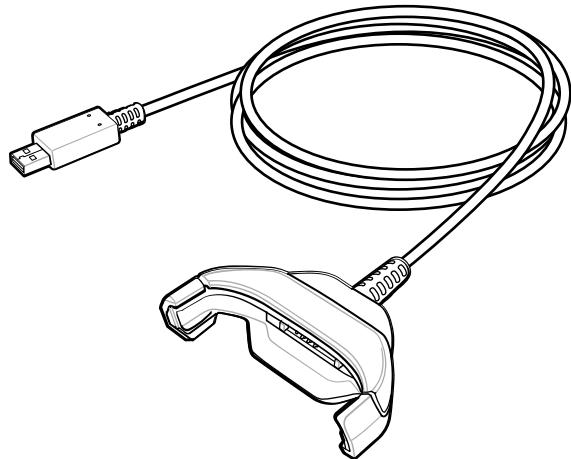


**注意：**ヘッドセットを取り外した後は、ヘッドセット ジャックのカバーをしっかりと元に戻し、適切な密閉状態を確保してください。

## 高耐久性充電/USB ケーブル

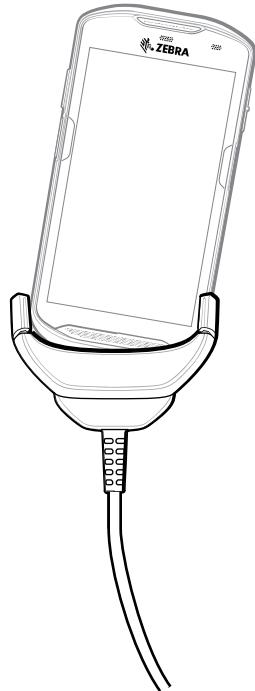
高耐久性充電/USB ケーブルはデバイスの下部に取り付けます。使用しないときは簡単に取り外せます。デバイスに接続すると、デバイスで充電、およびホスト コンピュータへのデータ転送が可能になります。

図 50 高耐久性充電/USB ケーブル

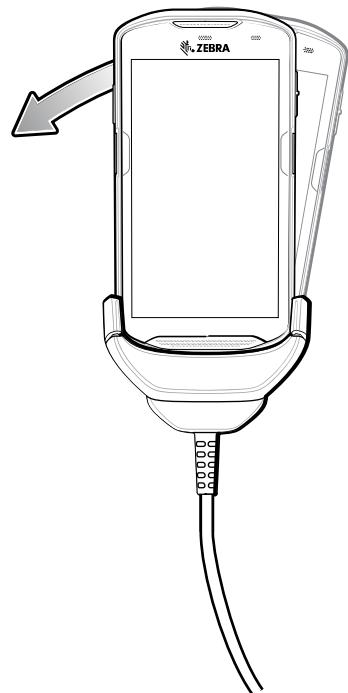


## 高耐久性充電/USB ケーブルのデバイスへの接続

1. デバイスを斜めにして、ケーブル カップの下部に触れるまで挿入します。



2. デバイスを回転させるようにしてカップに挿入します。



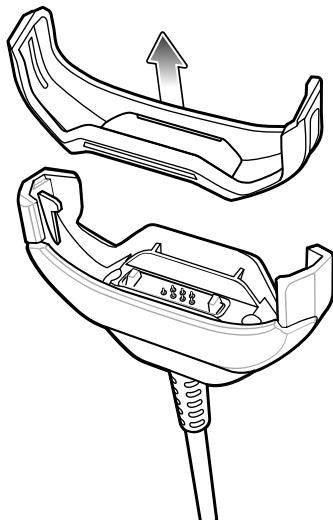
### 高耐久性ブーツを装着している TC5X への接続

高耐久性ブーツを装着しているデバイスに高耐久性充電/USB ケーブルを接続するには、次の手順に従います。

1. 親指と人差し指でカップの両端を内側に押します。



- アダプタをカップから持ち上げます。

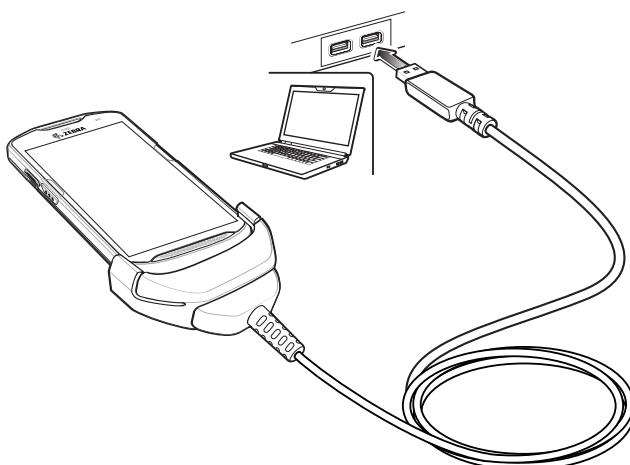


- ケーブルカップをデバイスの下部の位置に合わせます。
- デバイスをケーブルカップに押し込み、しっかりと固定します。

## USB 通信

デバイスをホスト コンピュータに接続するには、次の手順に従います。

- 高耐久性充電/USB ケーブルをデバイスに接続します。
- ケーブルの USB コネクタをホスト コンピュータに接続します。



## 本デバイスの充電

高耐久性充電/USB ケーブルを使用してデバイスを充電するには、次の手順に従います。

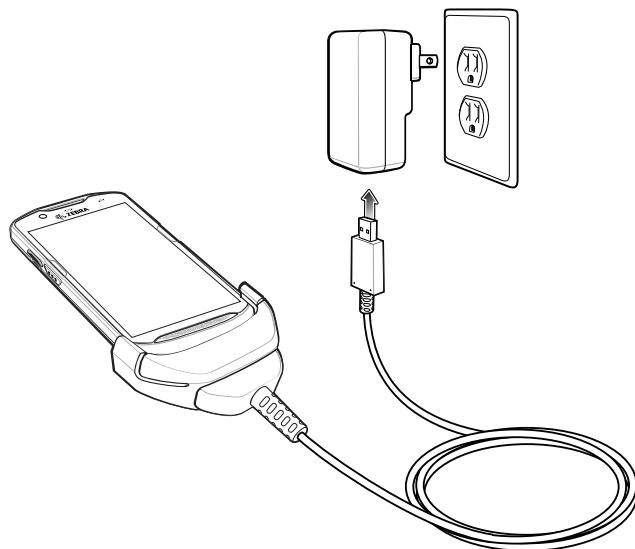
- 高耐久性充電/USB ケーブルをデバイスに接続します。
- 電源の USB コネクタを接続します。



電源のセットアップの詳細については、「[電源](#)」を参照してください。

デフォルトでは、デバイスはインターフェース コネクタを搭載しています。USB タイプ C ケーブルを接続するためインターフェース コネクタを取り外している場合、コネクタをつなぎ直してから充電するかイーサネット IP アドレスを受信してください(クレードルに装着している場合)。

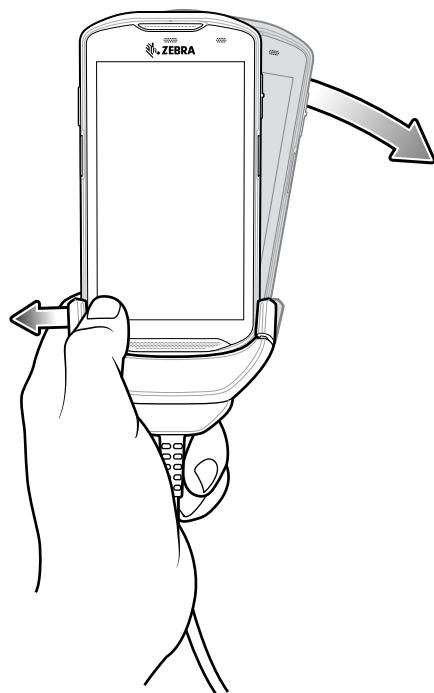
3. 電源を電源コンセントに差し込みます。



## 高耐久性充電/USB ケーブルの取り外し

高耐久性充電/USB ケーブルをデバイスから取り外すには、次の手順に従います。

1. デバイスを片側に回転させます。



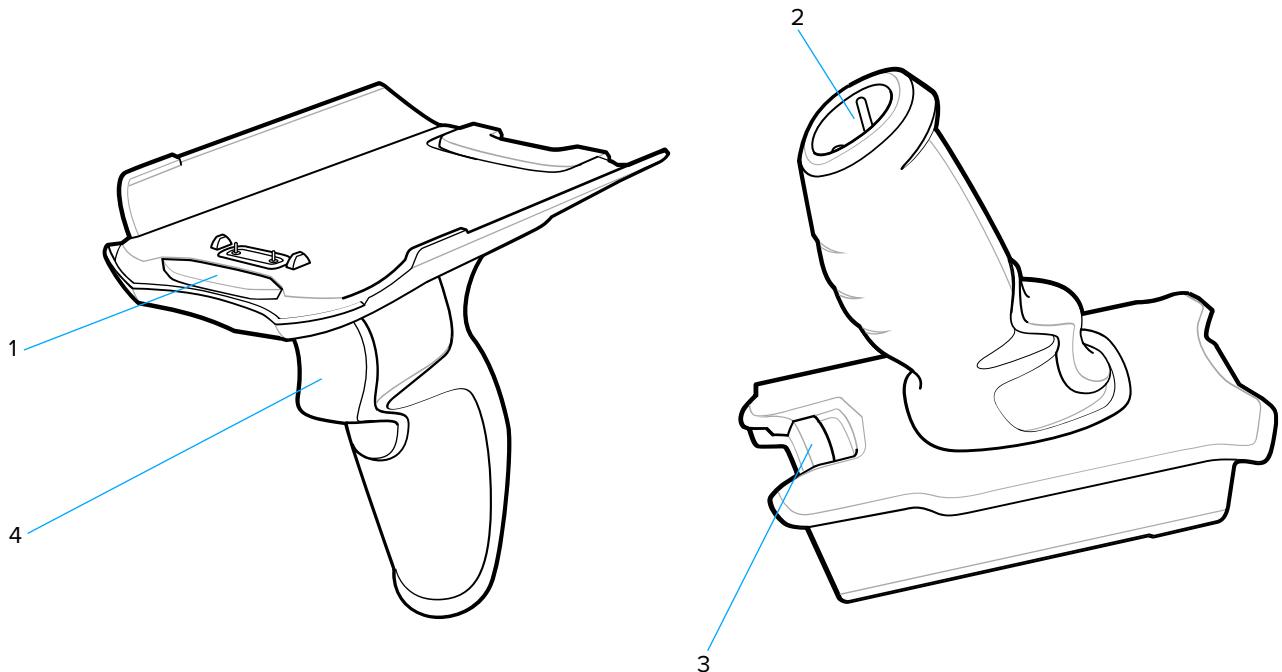
2. 高耐久性充電/USB ケーブルを反対側に押します。
3. 高耐久性充電/USB ケーブルからデバイスを取り外します。

## トリガ ハンドル

トリガ ハンドルを使用すると、スキャン トリガを備えたガン タイプのハンドルをデバイスに取り付けられます。長時間にわたる大量のスキャンが必要な作業でデバイスを使用する場合に、ユーザーへの負担が軽減されます。



**注:** トリガ ハンドルをデバイスに取り付けるには、高耐久性ブーツが必要です。トリガ ハンドル (p/n TRG-TC5X-ELEC1-01) には、高耐久性ブーツが含まれていないため、別途購入する必要があります。



1	フランジ
2	ストラップ マウント
3	リリース ラッチ
4	トリガ

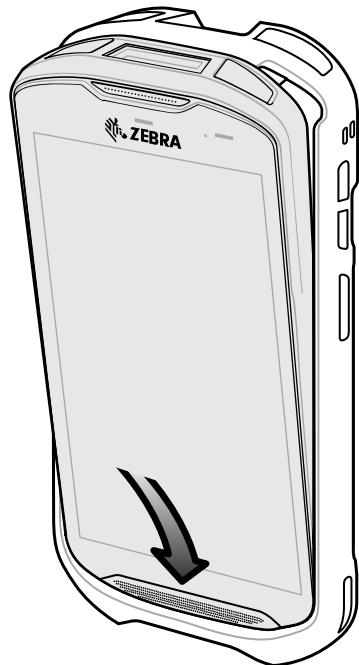
## 高耐久性ブーツの取り付け

高耐久性ブーツを取り付けるには、次の手順に従います。



**注:** 高耐久性ブーツにハンド ストラップを取り付けている場合、ブーツ取り付けの前に外します。

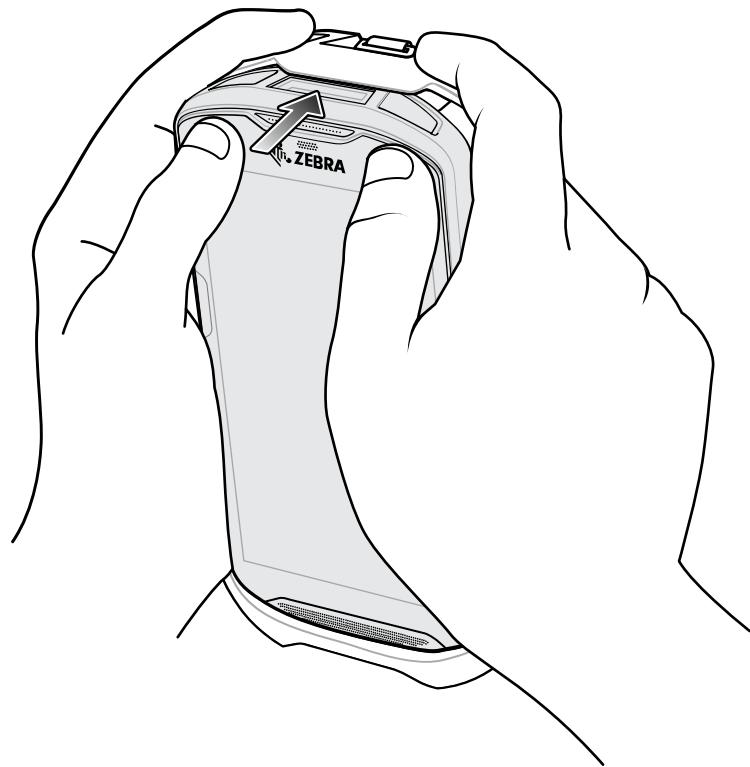
1. デバイスの下部をブーツの下部に挿入します。



2. 高耐久性ブーツの上部をデバイスの上部に持ち上げてかぶせます。



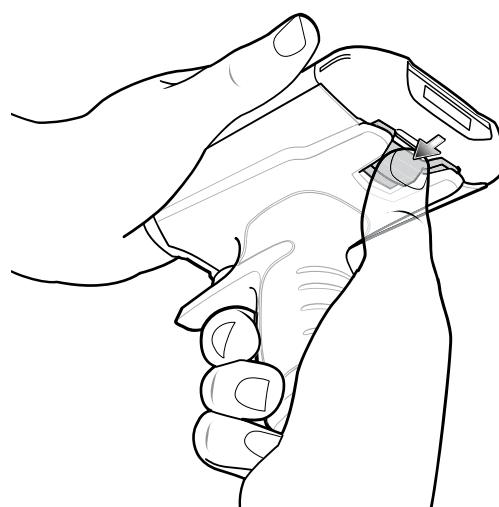
3. デバイスを高耐久性ブーツに押し込みます。



### トリガ ハンドルからのデバイスの取り外し

トリガ ハンドルからデバイスを取り外すには、次の手順に従います。

1. トリガ ハンドルのリリース ラッチを押します。



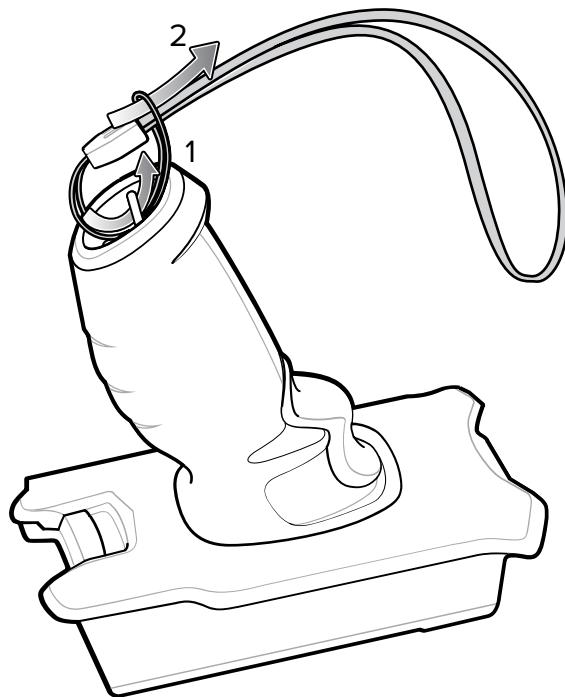
2. デバイスを前方にスライドさせ、デバイスの下部を上に引き上げます。



## オプションのストラップの取り付け

トリガハンドルにストラップを取り付けるには、次の手順に従います。

1. ストラップの端のループをハンドルの下部にあるスロットに挿入します。
2. ストラップをループに通します。

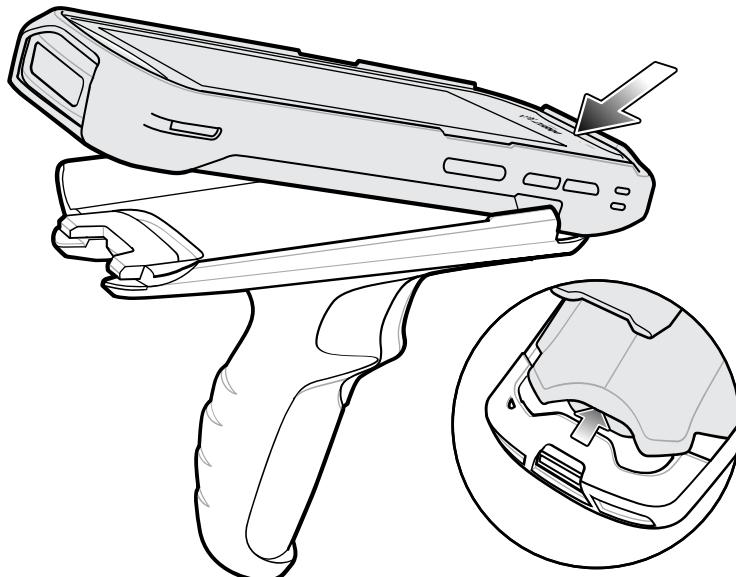


3. ループが締まるまでストラップを引きます。

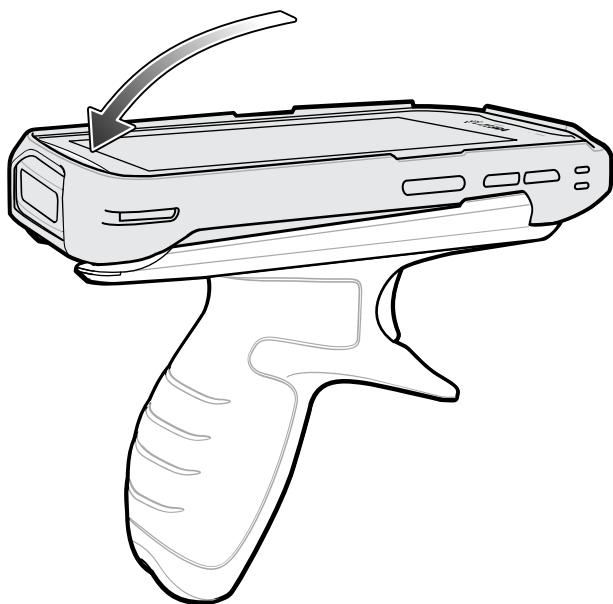
## トリガ ハンドルへのデバイスのセット

トリガ ハンドルにデバイスを取り付けるには、次の手順に従います。

1. トリガ ハンドルのフランジを、高耐久性ブーツの上部の位置に合わせて挿入します。



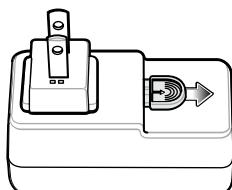
2. デバイスを回転させるようにして、所定の位置にカチッとはまるまで押し下げます。



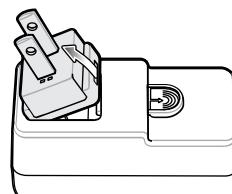
## 電源

電源と高耐久性充電/USB ケーブルを使用して、デバイスを充電します。多くの国で使用できるように、さまざまな構成の電源があり、プラグ アダプタも複数用意されています。プラグ アダプタを変更するには、次の手順に従います。

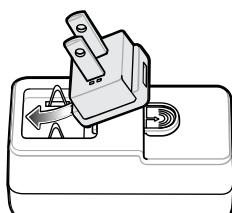
1. リリース ボタンを引き下げます。



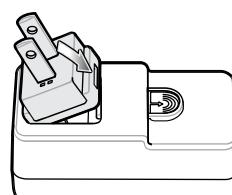
2. プラグ アダプタを回転させるようにして電源から持ち上げます。



3. 交換するプラグ アダプタを電源に挿入します。



4. プラグ アダプタを下に回転させて所定の位置にはめ込みます。



## 5 スロット クレードルのラック取り付け

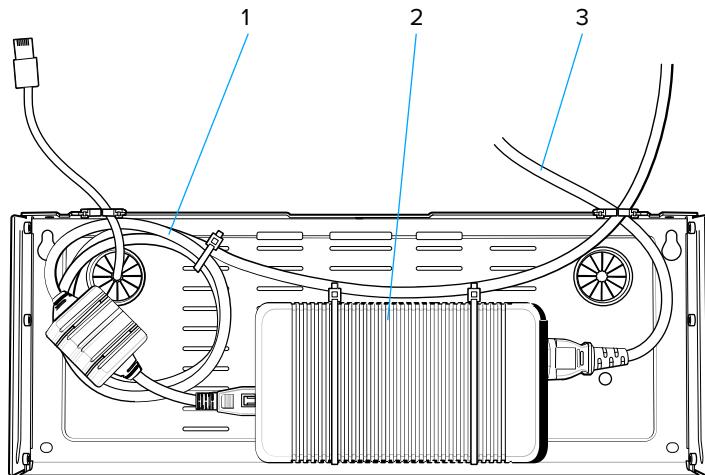
ラック/壁取り付けブラケットを使用して、5 スロット クレードルをラックに取り付けます。ラックに取り付ける場合は、まずブラケットとクレードル/充電器を組み立ててから、ラックに取り付けます。

1. 電源アダプタを下部トレイに配置します。
2. AC 電源コードを電源アダプタに接続します。
3. DC 電源コードを電源アダプタに接続します。
4. 結束バンドで電源アダプタとケーブルを下部トレイに固定します。



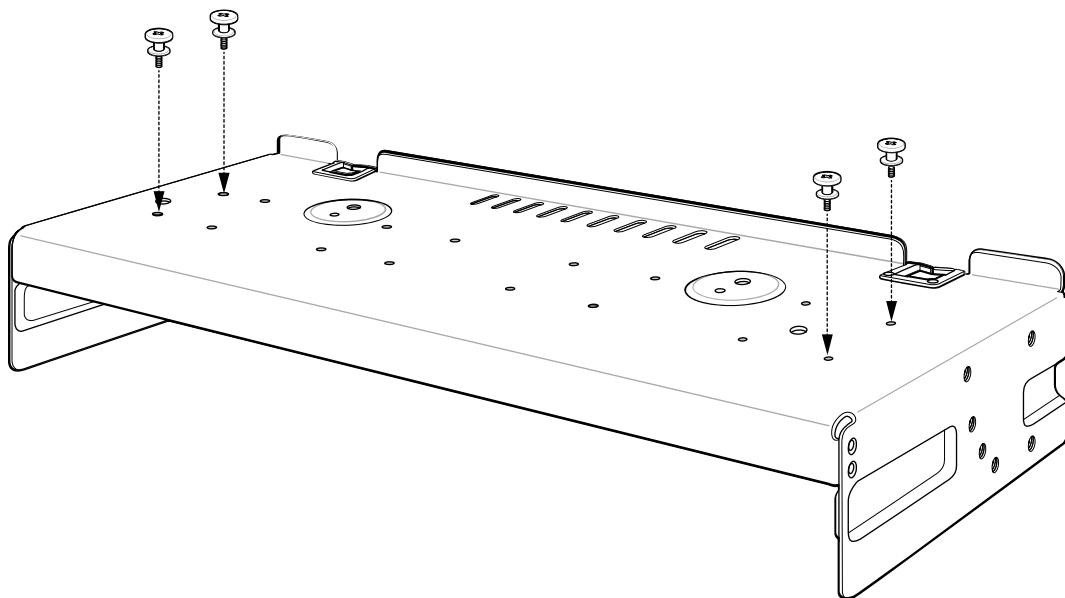
**注:** 結束バンドの結束部が電源アダプタの側面にあることを確認します。電源アダプタの上部に結束バンドの結束部があると、上部トレイの障害になります。

5. ケーブルスロットを通して、ケーブルを配線します。

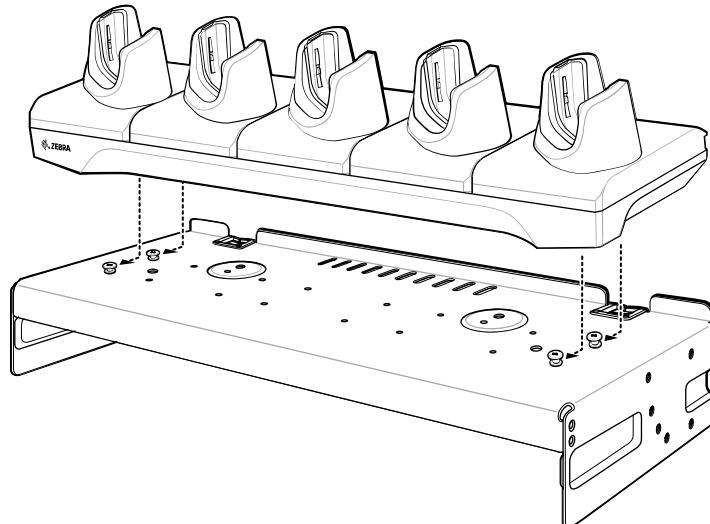


1	DC 電源コード
2	電源
3	AC 電源コード

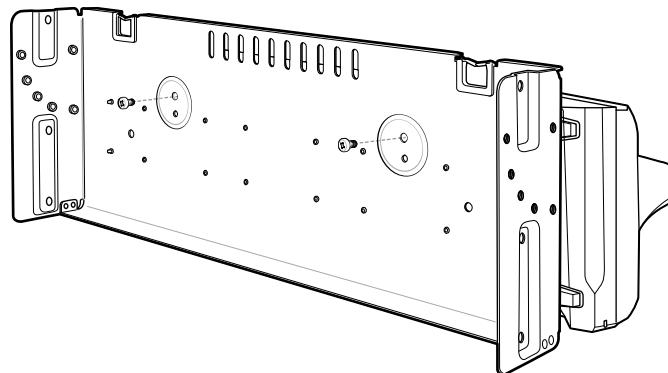
6. 図に示すように、4 本の M2.5 スタッドを上部トレイに取り付けます。



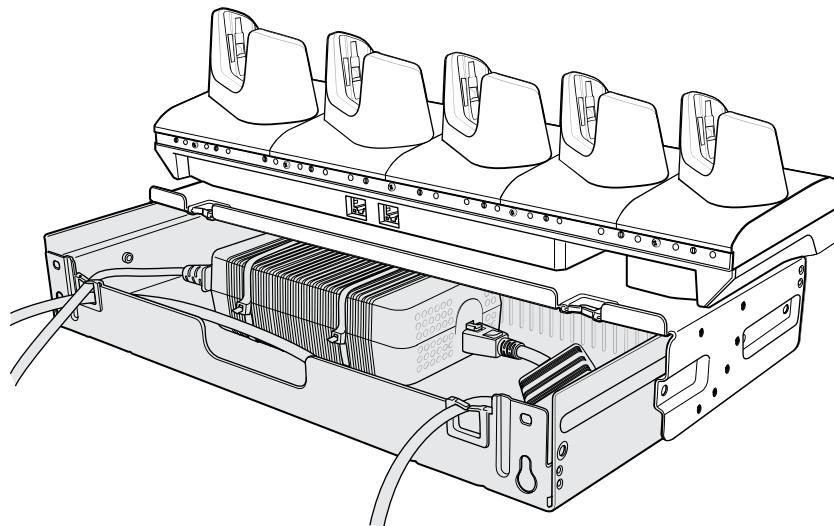
7. 5スロット クレードルを上部トレイのスタッドに合わせて取り付けます。



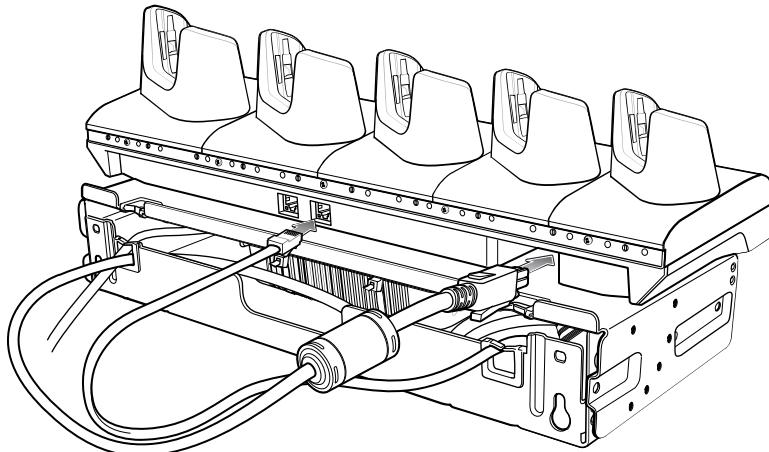
8. 2本のM2.5安全ネジでクレードルを上部トレイに固定します。9.スライド



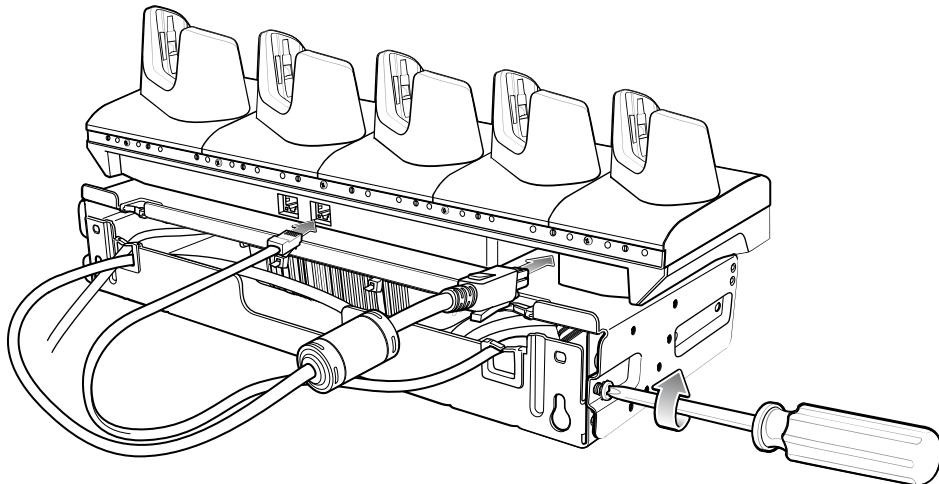
9. スライドさせて上部トレイを下部トレイにはめ込みます。



10. ケーブルをクレードルに接続します。



11. 4本のM5ネジ(各側面に2本)で上部トレイを下部トレイに固定します。



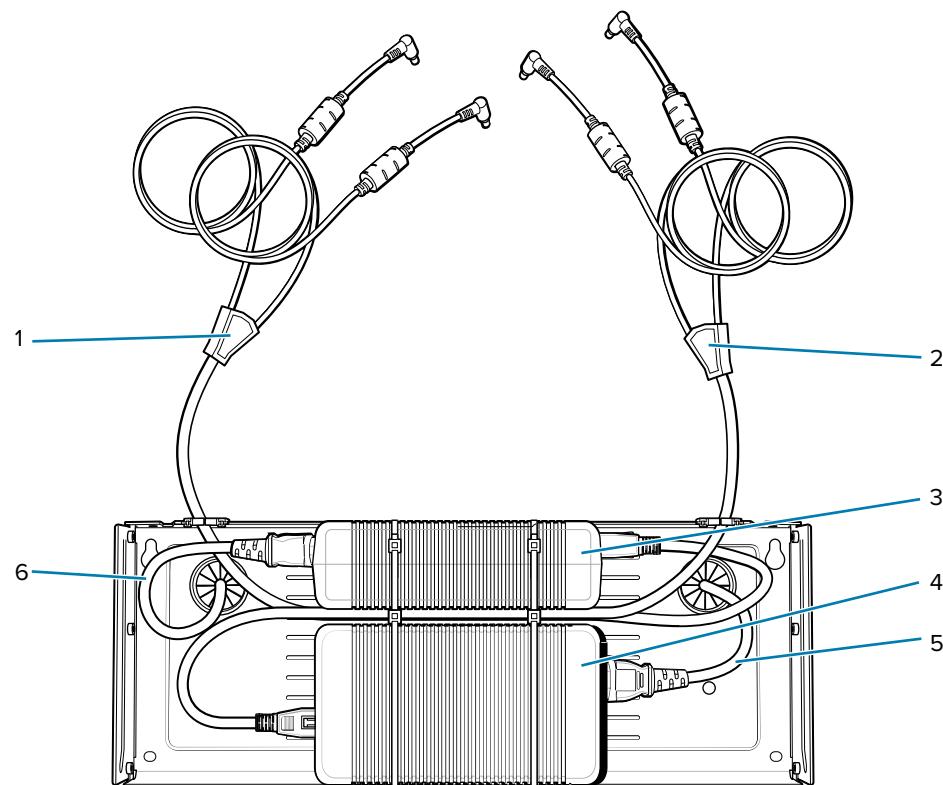
ラックにブラケットアセンブリを取り付ける手順については、「[ラックマウントの取り付け](#)」を参照してください。

## 4スロットバッテリ充電器のラックへの取り付け

ラック/壁取り付けブラケットを使用して、4台の4スロットバッテリ充電器をラックに取り付けます。ラックに取り付ける場合は、まずブラケットに充電器を取り付けてから、全体をラックに取り付けます。

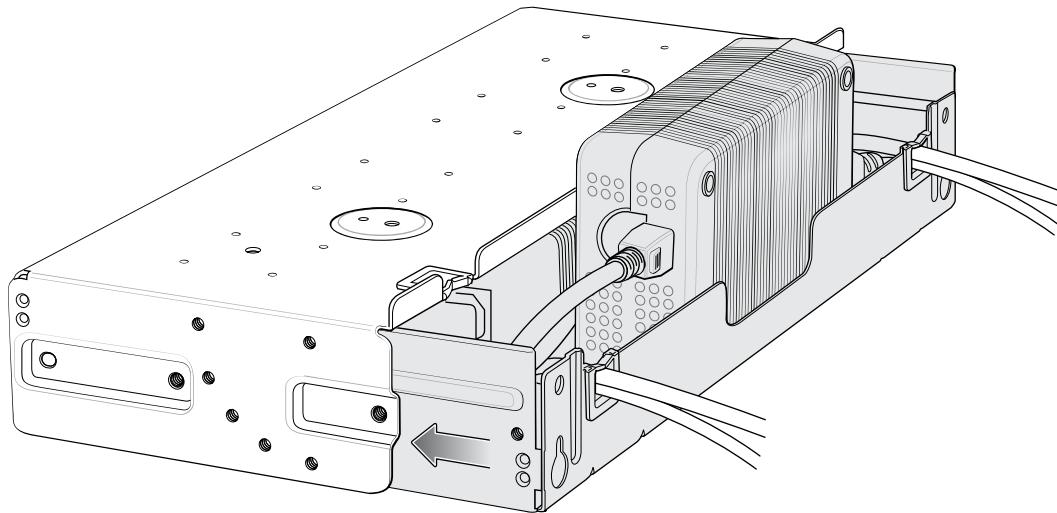
1. 1個の電源アダプタを横にして下部トレイに配置します。
2. 1個の電源アダプタを縦にして下部トレイに配置します。
3. AC電源コードを電源アダプタに接続します。
4. DC電源コードを電源アダプタに接続します。
5. 結束バンドで電源アダプタとケーブルを下部トレイに固定します。

6. ケーブルスロットを通して、ケーブルを配線します。

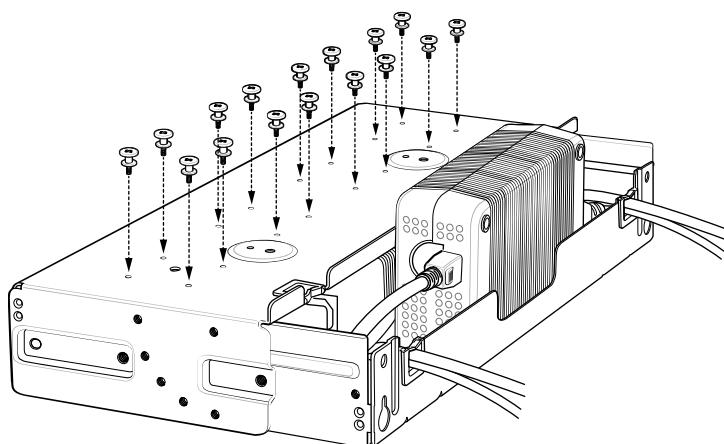


1	DC Yケーブル 1
2	DC Yケーブル 2
3	電源 1
4	電源 2
5	AC 電源コード 2
6	AC 電源コード 1

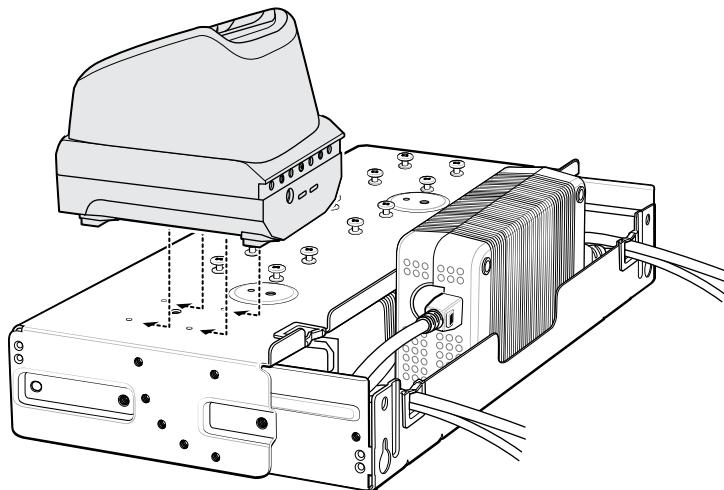
7. 上部トレイが縦になった電源アダプタに触れるまで、上部トレイをスライドさせて下部トレイにはめ込みます。



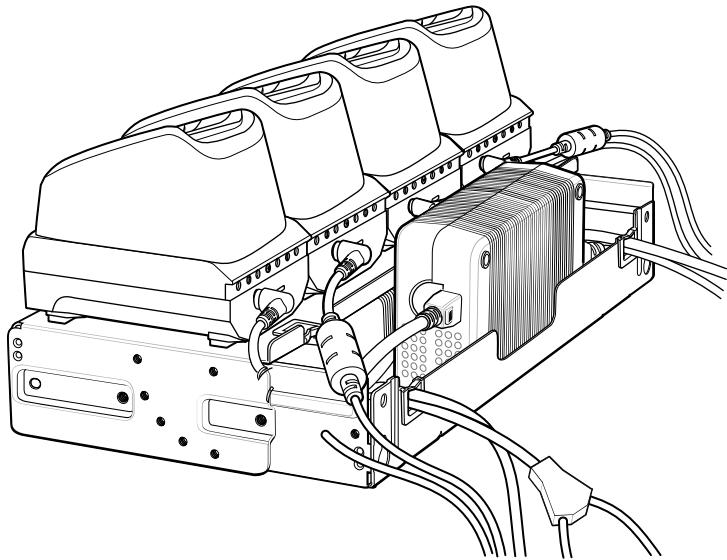
8. 次の図に示すように、16本のM2.5 スタッドを上部トレイに取り付けます。



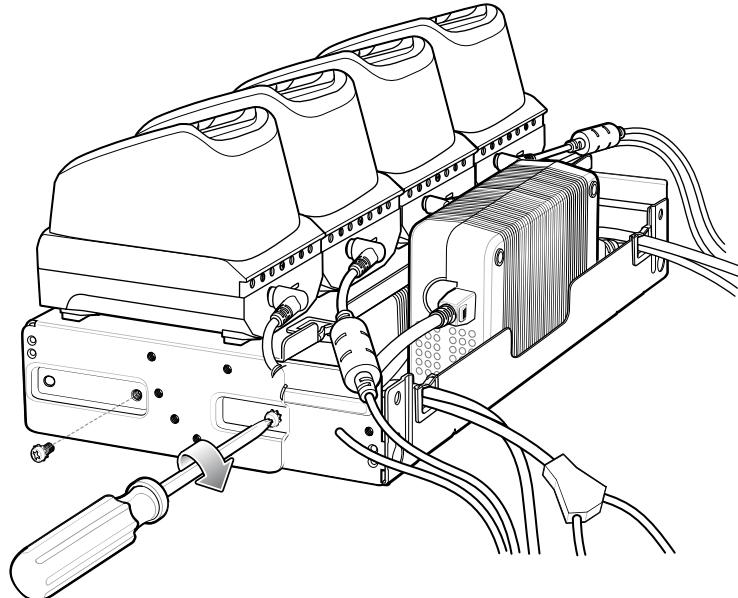
9. 4本のスタッドに合わせて4スロット バッテリ充電器を取り付けます。



10. DC Y ケーブルを 4 台の 4 スロット バッテリ充電器に接続します。



11. 4 本の M5 ネジ (各側面に 2 本) で上部トレイを下部トレイに固定します。



ラックへのブラケットの取り付けについては、170 ページの「ラック マウントの取り付け」を参照してください。

## ラック マウントの取り付け



注：ラック システムの付属ネジを使用します。手順については、ラックのユーザードキュメントを参照してください。

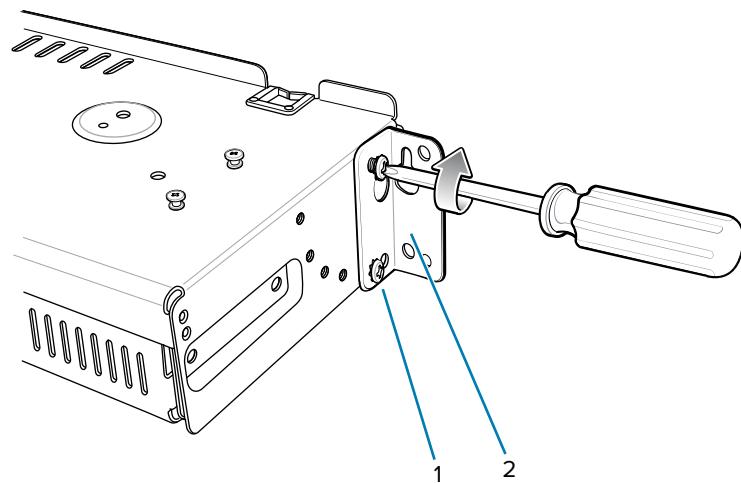


注意：設置者は、電源アダプタを AC 電源に接続する際に、すべての建築基準法を順守することを確認する必要があります。

ブラケット、電源、およびケーブルの取り付け時には、次の点に注意してください。

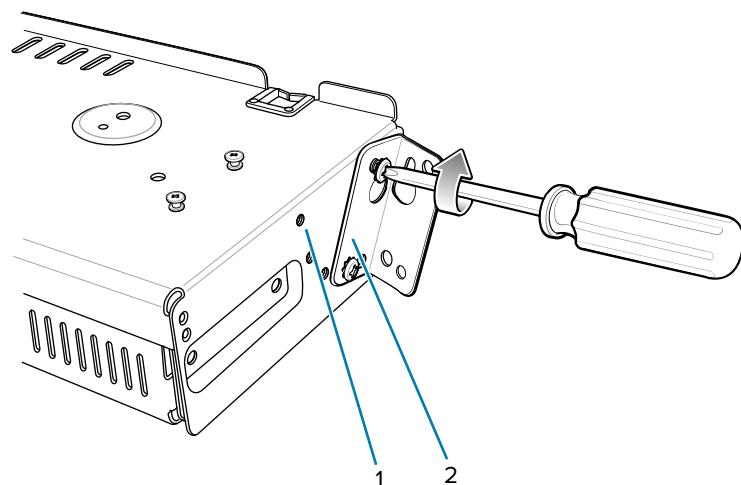
- 結束バンドを使用して、ケーブルをブラケットとレールに固定します。
  - 可能な限りケーブルを巻き取ります。
  - 電源ケーブルをレールに沿って配線します。
  - クレードル間のケーブルをサイド レールに配線し、次にレールからブラケットに配線します。
1. 4本のM5ネジ(各側面に2本)を使用して、取り付けブラケットを上部トレイの両側に固定します。5スロット クレードルの場合、水平取り付けに合わせてフランジを配置します。4スロット バッテリ充電器の場合、25°傾斜取り付けに合わせてフランジを配置します。

図51 フランジの水平配置(5スロット クレードル)



1	5番目のネジ穴
2	フランジ

図52 フランジの25°傾斜配置(4スロット バッテリ充電器)



1	上部のネジ穴
---	--------

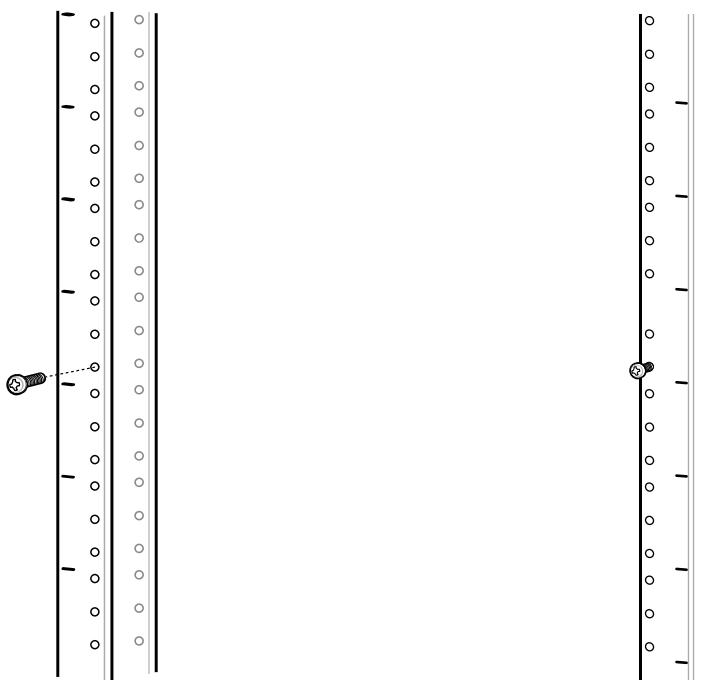


**注意:** 5スロット クレードルの取り付けブラケットを、地面から最大 120cm の高さに取り付けます。4スロット バッテリ充電器の取り付けブラケットを、地面から最大 90cm の高さに取り付けます。



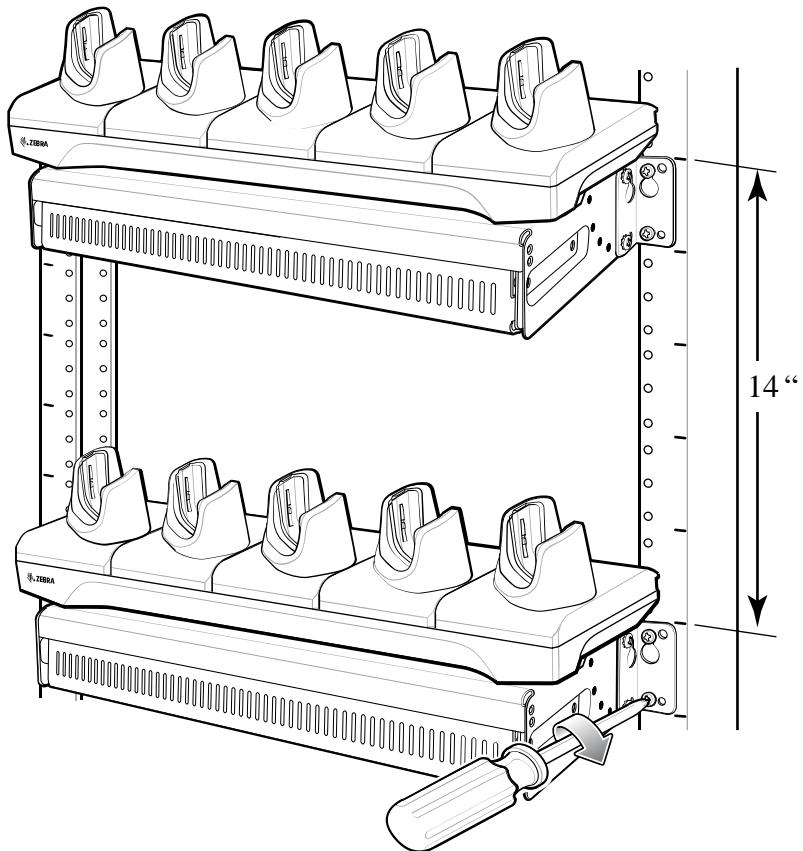
**注:** 2 個の水平取り付けブラケット間の距離 (1 個のフランジの上部から次のフランジの最上部まで) は、少なくとも 35cm 離れている必要があります。1 個の水平取り付けブラケットと 1 個の 25°傾斜取り付けブラケット間の距離 (1 個のフランジの最上部から次のフランジの最上部まで) は、少なくとも 41.3cm 離れている必要があります。デバイスの最上部と、その上の取り付けブラケットの最下部の間には、十分な空間 (7cm) が必要です。

2. 取り付けブラケットの上部用に 2 本のラックシステムネジを取り付けます。ネジの頭部が、レールから半分突き出た状態になります。



3. 取り付けブラケットの上部取り付けキー ホールをネジに合わせます。

**4. ブラケットをネジに取り付けます。**



5. 上部のネジを固定します。
6. 下部のネジを挿入してネジを締めます。
7. ケーブルを配線し、電源アダプタに接続します。

## 壁への取り付け

ラック/壁取り付けブラケットを使用して、4台の4スロットバッテリ充電器または1台のクレードルを壁に取り付けます。壁に取り付ける場合は、最初に下部トレイを組み立て、下部トレイを壁に取り付けてから、上部トレイを組み立てます。ブラケットを取り付ける壁に応じて、使用する取り付け金具(ネジおよび/またはアンカー)を選択します。取り付けブラケットの取り付けスロットは、寸法が5mm(0.2インチ)になっています。固定具は最低20Kg(44ポンド)を保持できる必要があります。適切な取り付けについては、専門の設置業者にご相談ください。ブラケットを正しく取り付けないと、ハードウェアが損傷する可能性があります。



**注意:** 5スロットクレードルの取り付けブラケットを、地面から最大120cmの高さに取り付けます。4スロットバッテリ充電器の取り付けブラケットを、地面から最大90cmの高さに取り付けます。

## 下部トレイの組み立て

手順については、「[4スロットバッテリ充電器のラックへの取り付け](#)」の手順1~5を参照してください。

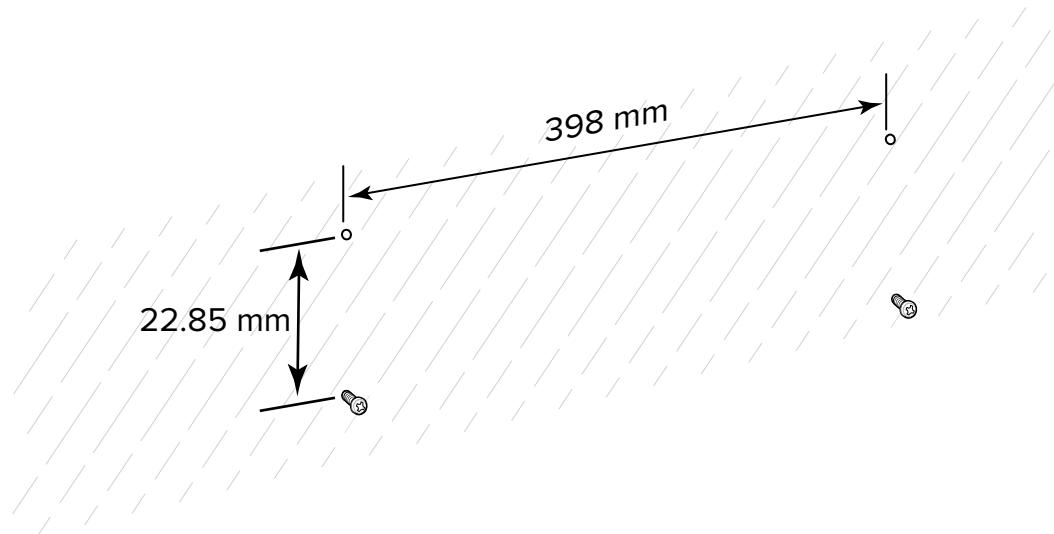
## ブラケットの取り付け



**注意：**設置者は、電源アダプタをAC電源に接続する際に、すべての建築基準法を順守していることを確認する必要があります。

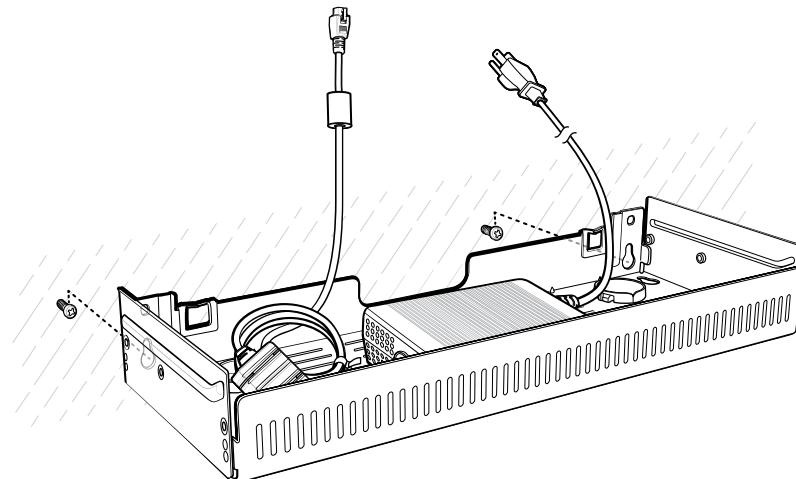
ブラケット、電源、およびケーブルの取り付け時には、次の点に注意してください。

- 結束バンドを使用して、ケーブルをブラケットとレールに固定します。
  - 可能な限りケーブルを巻き取ります。
  - 電源ケーブルをレールに沿って配線します。
  - クレードル間のケーブルをサイド レールに配線し、次にレールからブラケットに配線します。
1. ブラケットの付属テンプレートに従ってドリルで穴を開け、アンカーを取り付けます。
  2. ブラケットの下部をはめ込むことができるよう、2本のネジを取り付けます。ネジの頭部が、壁から 2.5mm (0.01 インチ) 突き出た状態になります。



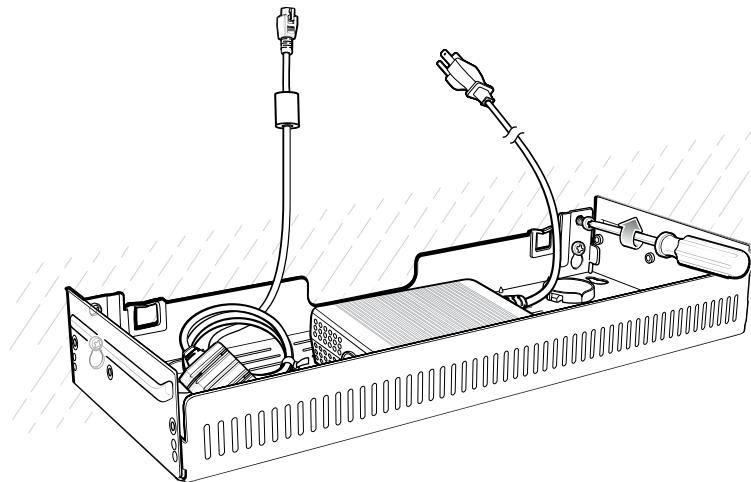
3. 取り付けブラケットの下部取り付けキー ホールをネジに合わせます。

4. ブラケットをネジにはめ込みます。



5. 上部に 2 本のネジを取り付けます。

6. すべてのネジを締めます。



7. 4台の4スロットバッテリ充電器またはクレードルをブラケットに取り付けます。167ページの手順7～11を参照してください。

8. ケーブルを配線し、電源アダプタに接続します。

# アプリケーションの導入

このセクションでは、デバイスセキュリティ、アプリ開発、アプリ管理の概要について説明します。また、アプリのインストールとデバイスソフトウェアの更新の手順についても説明します。



**注:** 証明書をインストールする前、またはセキュリティで保護されたWebサイトにアクセスする場合は、日付が正しく設定されていることを確認してください。

## セキュリティ

デバイスは、一連のセキュリティポリシーを実装します。これらのポリシーは、アプリケーションの実行を許可するかどうかや、許可する場合の信頼レベルを決定します。アプリケーションを開発する場合、デバイスのセキュリティ構成と、適切な証明書でアプリケーションに署名してアプリケーションを実行できるようにする(および必要な信頼レベルで実行できるようにする)方法を把握する必要があります。



**注:** 証明書をインストールする前、またはセキュリティで保護されたWebサイトにアクセスする場合は、日付が正しく設定されていることを確認してください。

## セキュリティ証明書

VPNまたはWi-Fiネットワークがセキュリティ証明書に依存している場合、VPNまたはWi-Fiネットワークへのアクセスを構成する前に、証明書を取得してデバイスのセキュリティで保護された認証情報ストレージに格納します。

Webサイトから証明書をダウンロードする場合、認証情報ストレージのパスワードを設定します。デバイスは、PKCS#12キーストアファイルに保存されている.p12拡張子が付いたX.509証明書をサポートしています(キーストアに.pfxまたはその他の拡張子が付いている場合は、.p12に変更します)。

デバイスは、キーストアに含まれている付属の秘密鍵または認証局の証明書もインストールします。

## セキュリティ証明書のインストール

VPNまたはWi-Fiネットワークで必要な場合は、デバイスにセキュリティ証明書をインストールします。

1. ホストコンピュータから、microSDカードのルートまたはデバイスの内部メモリに証明書をコピーします。
2. [Settings](設定)に移動します。
3. [Security](セキュリティ)>[Encryption & credentials](暗号化と認証情報)の順にタッチします。
4. 証明書のタイプを選択します。

5. 証明書ファイルの場所に移動します。
6. インストールする証明書のファイル名をタッチします。
7. プロンプトが表示されたら、証明書のパスワードを入力して [OK] をタッチします。
8. 証明書の名前を入力し、[Credential use] (認証情報の使用) ドロップダウンで、[VPN and apps] (VPN とアプリ) または [Wi-Fi] を選択します。
9. [OK] をタッチします。

これでセキュリティで保護されたネットワークへの接続時に証明書を使用できるようになります。セキュリティ上の理由で、証明書は microSD カードまたは内部メモリから削除されます。

次もご参考ください

[USB 通信](#)

## 認証情報ストレージ設定の構成

デバイス設定から認証情報ストレージを設定します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Security] (セキュリティ) > [Encryption & credentials] (暗号化と認証情報) の順にタッチします。
3. オプションを選択します。
  - [Trusted credentials] (信頼された認証情報) をタッチして、信頼されたシステムとユーザーの認証情報を表示します。
  - [User credentials] (ユーザーの認証情報) をタッチして、ユーザーの認証情報を表示します。
  - [Install a certificate] (証明書のインストール) をタッチして、microSD カードまたは内部ストレージからセキュリティ証明書をインストールします。
  - [Clear credentials] (認証情報のクリア) をタッチして、すべてのセキュリティ証明書と関連の認証情報を削除します。

## Android 開発ツール

Android 用開発ツールには、Android Studio、EMDK for Android、StageNow などがあります。

### Android 開発ワークステーション

Android 開発ツールは、[developer.android.com](http://developer.android.com) で入手できます。

デバイス向けのアプリケーション開発を開始するには、Android Studio をダウンロードします。開発は、Microsoft® Windows®、Mac® OS X®、または Linux® オペレーティングシステムで実行できます。

アプリケーションは Java または Kotlin で記述されますが、Dalvik 仮想マシンでコンパイルおよび実行されます。Java コードが正常にコンパイルされると、開発者ツールにより、AndroidManifest.xml ファイルを含め、アプリケーションが適切にパッケージ化されていることが確認されます。

Android Studio には、完全機能版の IDE と、Android アプリケーション開発に必要な SDK コンポーネントが含まれています。

## 開発者向けオプションを有効にする

[Developer options] (開発者向けオプション) 画面では、開発関連の設定を行います。デフォルトでは、[Developer options] (開発者オプション) は非表示になっています。

1. [Settings] (設定) に移動します。
  2. [About phone] (デバイス情報) をタッチします。
  3. [Build number] (ビルド番号) まで下にスクロールします。
  4. [Build number] (ビルド番号) を 7 回タップします。
- [You are now a developer!] (これでデベロッパーになりました！) というメッセージが表示されます。
5. [Back] (戻る) をタッチします。
  6. [System] (システム) > [Advanced] (詳細設定) > [Developer options] (開発者向けオプション) をタッチします。
  7. [USB debugging] (USB デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。

## EMDK for Android

EMDK for Android は、エンタープライズ モバイル デバイス向けのビジネス アプリケーションを作成するツールを開発者に提供します。Google の Android Studio で使用するように設計されており、バーコード、サンプル アプリケーション (ソース コード付き)、関連ドキュメントなどの Android クラス ライブリが含まれています。

EMDK for Android により、Zebra デバイスが提供する機能をアプリケーションで最大限に活用できます。Android Studio IDE に Profile Manager テクノロジを組み込んで、Zebra デバイス専用に設計された GUI ベースの開発ツールを提供します。これにより、コード行数を減らすことができるため、開発時間、労力、エラーが削減されます。

### 次もご参照ください

[詳細については、techdocs.zebra.com を参照してください。](https://techdocs.zebra.com)

## Android 向け StageNow

StageNow は、MX プラットフォーム上に構築された Zebra の次世代 Android ステージング ソリューションです。デバイス プロファイルをすばやく簡単に作成できます。さらに、バーコードのスキャン、タグの読み取り、またはオーディオ ファイルの再生だけでデバイスに導入できます。

StageNow Staging Solution には、次のコンポーネントが含まれています。

- StageNow Workstation ツールは、ステージング ワークステーション (ホスト コンピュータ) にインストールされます。管理者は、このツールにより、デバイス コンポーネントを構成するためのステージング プロファイルを簡単に作成できます。さらに、ターゲット デバイスの状態を確認して、ソフトウェア アップグレードやその他のアクティビティの適合性を判断するなど、その他のステージング アクションも実行できます。StageNow Workstation には、後で使用するために、プロファイルおよびその他の作成済みコンテンツが保存されます。
- StageNow Client はデバイスに常駐し、ステージング オペレータがステージングを開始できるように、ユーザー インタフェースを提供します。オペレータは、1 つ以上のステージング方法 (バーコードの印刷/スキャン、NFC タグの読み取り、またはオーディオ ファイルの再生) で、ステージング素材をデバイスに提供します。

次もご参照ください

[詳細については、techdocs.zebra.com を参照してください。](https://techdocs.zebra.com)

## GMS 制限

GMS 制限モードは、Google モバイル サービス (GMS) を無効にします。すべての GMS アプリがデバイスで無効になり、Google との通信 (分析データ収集サービスと位置情報サービス) が無効になります。

GMS 制限モードは、StageNow を使用して無効または有効にします。デバイスが GMS 制限モードになつたら、StageNow を使用して個々の GMS アプリとサービスを有効/無効にします。エンタープライズリセットの後も GMS 制限モードを維持するには、StageNow の Persist Manager オプションを使用します。

次もご参照ください

[StageNow の詳細については、techdocs.zebra.com を参照してください。](https://techdocs.zebra.com)

## ADB USB のセットアップ

ADB を使用するには、開発 SDK をホスト コンピュータにインストールし、ADB ドライバと USB ドライバをインストールします。

USB ドライバをインストールする前に、開発 SDK がホスト コンピュータにインストールされていることを確認してください。開発 SDK のセットアップの詳細については、[developer.android.com/sdk/index.html](https://developer.android.com/sdk/index.html) にアクセスしてください。

Windows および Linux 向けの ADB ドライバおよび USB ドライバは、Zebra Support Central Web サイト ([zebra.com/support](https://zebra.com/support)) で入手できます。ADB および USB ドライバセットアップパッケージをダウンロードします。パッケージの指示に従って、Windows および Linux 向けの ADB および USB ドライバをインストールします。

## USB デバッグを有効にする

デフォルトでは、USB デバッグは無効になっています。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [About phone] (デバイス情報) をタッチします。
3. [Build number] (ビルド番号) まで下にスクロールします。
4. [Build number] (ビルド番号) を 7 回タップします。  
[You are now a developer!] (これでデベロッパーになりました！) というメッセージが表示されます。
5. [Back] (戻る) をタッチします。
6. [System] (システム) > [Advanced] (詳細設定) > [Developer options] (開発者向けオプション) をタッチします。
7. [USB debugging] (USB デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
8. [OK] をタッチします。

9. 高耐久性充電/USB ケーブルを使用して、デバイスをホスト コンピュータに接続します。デバイスで **[Allow USB debugging?]** (USB デバッグを許可しますか?) ダイアログ ボックスが表示されます。デバイスとホスト コンピュータが初めて接続された場合、**[Allow USB debugging?]** (USB デバッグを許可しますか?) ダイアログ ボックスに **[Always allow from this computer]** (このコンピュータから常に許可する) チェック ボックスが表示されます。必要に応じて、このチェック ボックスをオンにします。
10. **[OK]** をタッチします。
11. ホスト コンピュータで、**platform-tools** フォルダに移動し、コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
12. 「adb devices」と入力します。

次のような画面が表示されます。

List of devices attached

XXXXXXXXXXXXXX device

XXXXXXXXXXXXXX はデバイス番号です。



注：デバイス番号が表示されない場合は、ADB ドライバが正しくインストールされていることを確認します。

13. ホーム画面に戻ります。

### Android Recovery に手動で入る

このセクションで説明する多くの更新方法では、デバイスを Android Recovery モードにする必要があります。adb コマンドを使用して Android Recovery モードに入ることができない場合は、次の手順を使用して Android Recovery モードに手動で入ります。

1. メニューが表示されるまで、電源ボタンを押し続けます。
2. **[Restart] (再起動)** をタッチします。
3. デバイスが振動するまで、PTT ボタンを長押しします。

[System Recovery] (システム リカバリ) 画面が表示されます。

## アプリケーションのインストール方法

アプリケーションの開発後、サポートされているいずれかの方法で、アプリケーションをデバイスにインストールします。

- USB 接続については、[USB 接続を使用したアプリケーションのインストール](#) (203ページ) を参照してください。
- Android Debug Bridge については、[Android Debug Bridge を使用したアプリケーションのインストール](#) (203ページ) を参照してください。
- 無線 Android Debug Bridge については、[無線 ADB を使用したアプリケーションのインストール](#) (204ページ) を参照してください。
- microSD カードについては、[microSD カードを使用したアプリケーションのインストール](#) (206ページ) を参照してください。

- ・ アプリケーションプロビジョニングに対応したモバイルデバイス管理(MDM)プラットフォーム。 詳細については、MDM ソフトウェアのドキュメントを参照してください。

## USB 接続を使用したアプリケーションのインストール

USB 接続を使用して、アプリケーションをデバイスにインストールします。



**注意：**デバイスをホストコンピュータに接続して microSD カードを取り付ける場合は、ファイルを破損しないように、ホストコンピュータの USB デバイスの接続と切断の指示に従ってください。

1. 高耐久性充電/USB ケーブルを使用して、デバイスをホストコンピュータに接続します。
2. デバイスで通知パネルを表示し、[Charging this device via USB] (このデバイスを USB で充電中) をタッチします。  
デフォルトでは、[No data transfer] (データ転送なし) が選択されています。
3. [File Transfer] (ファイル転送) をタッチします。
4. ホストコンピュータ上で、ファイルエクスプローラーアプリケーションを開きます。
5. ホストコンピュータで、アプリケーションの APK ファイルをホストコンピュータからデバイスにコピーします。



**注意：**情報が失われないように、ホストコンピュータの指示に慎重に従って、microSD カードをマウント解除し、USB デバイスを正しく切断します。

6. ホストコンピュータからデバイスを切断します。
  7. 画面を上にスワイプし、 を選択して内部ストレージ内のファイルを表示します。
  8. アプリケーションの APK ファイルを見つけます。
  9. アプリケーションファイルをタッチします。
  10. [Continue] (次へ) をタッチしてアプリをインストールするか、[Cancel] (キャンセル) をタッチしてインストールを停止します。
  11. インストールを確認し、アプリケーションによる影響を受け入れる場合は、[Install] (インストール) をタッチします。そうでない場合は [Cancel] (キャンセル) をタッチします。
  12. [Open] (開く) をタッチしてアプリケーションを開くか、[Done] (完了) をタッチしてインストールプロセスを終了します。
- アプリケーションが、アプリリストに表示されます。

## Android Debug Bridge を使用したアプリケーションのインストール

ADB コマンドを使用して、アプリケーションをデバイスにインストールします。



**注意：**デバイスをホストコンピュータに接続して、microSD カードを取り付ける場合は、ファイルを破損しないように、ホストコンピュータの USB デバイスの接続と切断の指示に従ってください。

1. ホストコンピュータで ADB ドライバがインストール済みであることを確認します。
2. USB ケーブルを使用し、デバイスをホストコンピュータに接続します。
3. [Settings] (設定) に移動します。

4. [System] (システム) > [Advanced] (詳細設定) > [Developer options] (開発者向けオプション) をタッチします。
5. [USB debugging] (USB デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
6. [USB Debugging] (USB デバッグ) をタッチします。チェック ボックスに、チェック マークが表示されます。[Allow USB debugging?] (USB デバッグを許可しますか?) ダイアログ ボックスが表示されます。
7. [OK] をタッチします。
8. ホストコンピュータで、**platform-tools** フォルダに移動し、コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
9. 「adb install <#####>」と入力します。  
値は次のとおりです。<アプリケーション>=apk ファイルのパスとファイル名。
10. ホストコンピュータからデバイスを切断します。

## 無線 ADB を使用したアプリケーションのインストール

ADB コマンドを使用して、アプリケーションをデバイスにインストールします。

Zebra のサポートとダウンロード Web サイト ([zebra.com/support](http://zebra.com/support)) にアクセスし、適切な工場出荷時リセットファイルをホストコンピュータにダウンロードします。



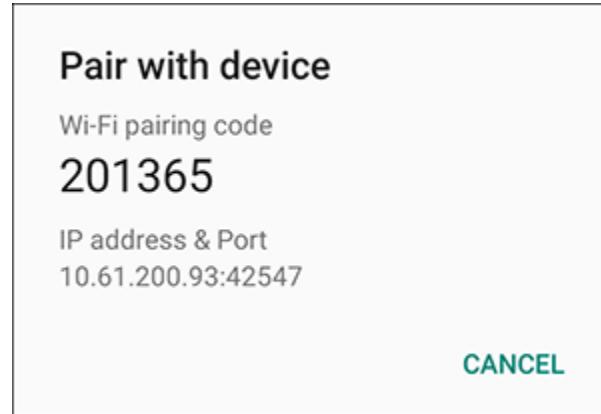
**重要:** ホストコンピュータに最新の adb ファイルがインストールされていることを確認します。



**重要:** デバイスとホストコンピュータは同じ無線ネットワーク上にある必要があります。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [System] (システム) > [Advanced] (詳細設定) > [Developer options] (開発者向けオプション) をタッチします。
3. [USB debugging] (USB デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
4. [Wireless debugging] (無線デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
5. デバイスとホストコンピュータが初めて接続された場合、[Allow wireless debugging on this network?] (このネットワークで無線デバッグを許可しますか?) ダイアログ ボックスに [Always allow from this network] (このネットワークから常に許可する) チェック ボックスが表示されます。必要に応じて、このチェック ボックスをオンにします。
6. [ALLOW] (許可) をタッチします。
7. [Wireless debugging] (無線デバッグ) をタッチします。

8. [Pair with pairing code] (ペアリング コードでペアリング) をタッチします。  
 [Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログ ボックスが表示されます。



9. ホストコンピュータで、**platform-tools** フォルダに移動し、コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
10. 「adb pair XX.XX.XX.XX.XX.XXXXXX」と入力します。  
 XX.XX.XX:XXXXX は、[Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログ ボックスに表示されているIP アドレスとポート番号です。
11. 「adb connect XX.XX.XX.XX.XX.XXXXXX」と入力します
12. **Enter** を押します。
13. [Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログ ボックスに表示されているペアリング コードを入力します。
14. **Enter** を押します。
15. 「adb connect」と入力します。  
 これで、デバイスはホストコンピュータに接続されました。
16. 「adb devices」と入力します。
- 次のような画面が表示されます。

List of devices attached	XXXXXXXXXXXXXXXXXX device
--------------------------	---------------------------

XXXXXXXXXXXXXXXXXX はデバイス番号です。



注：デバイス番号が表示されない場合は、ADB ドライバが正しくインストールされていることを確認します。

17. ホストコンピュータのコマンドプロンプト ウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
adb install <application>
```

値は次のとおりです。<ファイル> = apk ファイルのパスとファイル名。

18. ホストコンピュータで、「  
 adb disconnect」と入力します。

## microSD カードを使用したアプリケーションのインストール

microSD カードを使用して、デバイスにアプリケーションをインストールします。



**注意：**デバイスをホストコンピュータに接続して microSD カードを取り付ける場合は、ファイルを破損しないように、ホストコンピュータの USB デバイスの接続と切断の指示に従ってください。

使用する前に、デバイスで microSD カードをフォーマットすることを強くお勧めします。

1. APK ファイルを microSD カードのルートにコピーします。
  - ホストコンピュータを使用して APK ファイルを microSD カードにコピーし (詳細については「USB 通信」を参照)、デバイスに microSD カードを取り付けます (詳細については「microSD カードの交換」を参照)。
  - microSD カードがすでに取り付けられているデバイスをホストコンピュータに接続し、.apk ファイルを microSD カードにコピーします。詳細については、「USB 通信」を参照してください。ホストコンピュータからデバイスを切断します。
2. USB を使用し、デバイスをホストコンピュータに接続します。
3. ホストコンピュータから microSD カードにアプリケーションの APK ファイルをコピーします。
4. microSD カードをホストコンピュータから取り出します。
5. メニューが表示されるまで、デバイスの電源ボタンを押し続けます。
6. [Power off] (電源オフ) をタッチします。
7. 2つのバッテリ ラッチを押し入れます。
8. バッテリをデバイスから取り出します。
9. アクセスドアを持ち上げます。
10. microSD カードを挿入します。
11. アクセスドアを元に戻します。
12. デバイスの背面のバッテリコンパートメントに、バッテリを取り付けます。この場合、バッテリの下側を先に入れます。
13. バッテリリリースラッチが固定されるまで、バッテリを押し下げます。
14. 電源を長押しして、デバイスをオンにします。
15. 画面を上にスワイプし、を選択して microSD カード内のファイルを表示します。
16. アプリケーションの APK ファイルを見つけます。
17. アプリケーションファイルをタッチします。
18. [Continue] (次へ) をタッチしてアプリをインストールするか、[Cancel] (キャンセル) をタッチしてインストールを停止します。
19. インストールを確認し、アプリケーションによる影響を受け入れる場合は、[Install] (インストール) をタッチします。そうでない場合は [Cancel] (キャンセル) をタッチします。
20. [Open] (開く) をタッチしてアプリケーションを開くか、[Done] (完了) をタッチしてインストールプロセスを終了します。

アプリケーションが、アプリリストに表示されます。

次もご参照ください

[USB 通信](#)

## アプリケーションのアンインストール

使用していないアプリを削除して、デバイスのメモリを解放します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Apps & notifications] (アプリと通知) をタッチします。
3. [See all apps] (すべてのアプリを表示) をタッチして、リスト内のすべてのアプリを表示します。
4. リストをスクロールして、アプリを見つけます。
5. アプリをタッチします。[App info] (アプリ情報) 画面が表示されます。
6. [Uninstall] (アンインストール) をタッチします。
7. [OK] をタッチして確定します。

## Android システム更新

システム更新パッケージには、オペレーティングシステムの更新の一部または全部が含まれています。Zebra は、Zebra のサポートとダウンロード Web サイトでシステム更新パッケージを配布しています。microSD カードまたは ADB を使用してシステムの更新を実行します。

### microSD カードを使用したシステム更新の実行

使用する前に、デバイスで microSD カードをフォーマットすることを強くお勧めします。

Zebra のサポートとダウンロード Web サイト ([zebra.com/support](http://zebra.com/support)) にアクセスし、適切なシステム更新パッケージをホストコンピュータにダウンロードします。

1. システム更新の zip ファイルを microSD カードのルートにコピーします。
  - ホストコンピュータを使用して ZIP ファイルを microSD カードにコピーし、デバイスにその microSD カードを取り付けます。microSD カードの取り付けについては、「ご使用の前に」を参照してください。
  - 既に microSD カードが取り付けられているデバイスをホストコンピュータに接続し、ZIP ファイルを microSD カードにコピーしてから、デバイスをホストコンピュータから切断します。
2. メニューが表示されるまで、電源を押し続けます。
3. [Restart] (再起動) をタッチします。
4. デバイスが振動するまで、PTT を長押しします。  
[System Recovery] (システムリカバリ) 画面が表示されます。
5. 音量上および音量下を押して、[Apply upgrade from SD card] (SD カードからのアップグレードの適用) に移動します。
6. 電源を押します。
7. 音量上および音量下を押して、システム更新ファイルに移動します。
8. 電源を押します。システム更新がインストールされ、デバイスが [Recovery] (リカバリ) 画面に戻ります。
9. 電源を押して、デバイスを再起動します。

## ADB を使用したシステム更新の実行

ADB を使用してシステム更新を実行します。

1. 高耐久性充電/USB ケーブルを使用して、またはデバイスを 1 スロット USB/充電専用クレードルに挿入して、デバイスをホストコンピュータに接続します。
2. [Settings] (設定) に移動します。
3. [System] (システム) > [Advanced] (詳細設定) > [Developer options] (開発者向けオプション) をタッチします。
4. [USB debugging] (USB デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
5. デバイスとホストコンピュータが初めて接続された場合、[Allow USB debugging?] (USB デバッグを許可しますか?) ダイアログボックスに [Always allow from this computer] (このコンピュータから常に許可する) チェックボックスが表示されます。必要に応じて、このチェックボックスをオンにします。
6. [OK] をタッチします。
7. ホストコンピュータで、platform-tools フォルダに移動し、コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
8. 「adb devices」と入力します。

次のような画面が表示されます。

```
List of devices attached
```

```
XXXXXXXXXXXXXX device
```

XXXXXXXXXXXXXX はデバイス番号です。



**注:** デバイス番号が表示されない場合は、ADB ドライバが正しくインストールされていることを確認します。

9. タイプ:

```
adb reboot recovery
```

10. Enter を押します。

システム更新がインストールされ（進行状況がパーセンテージでコマンドプロンプトウィンドウに表示されます）、その後デバイスに [System Recovery]（システムリカバリ）画面が表示されます。

11. 音量上/音量下を押して、[Apply upgrade from ADB] (ADB からのアップグレードの適用) に移動します。

12. Enter を押します。

デバイスに [System Recovery]（システムリカバリ）画面が表示されます。

13. 電源を押します。

14. ホストコンピュータのコマンドプロンプトウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
adb sideload <file>
```

値は次のとおりです。<ファイル> = zip ファイルのパスとファイル名。

**15. Enter を押します。**

システム更新がインストールされ(進行状況がパーセンテージでコマンドプロンプトウィンドウに表示されます)、その後デバイスに[System Recovery](システムリカバリ)画面が表示されます。

**16. 電源を押して、デバイスを再起動します。**

adb コマンドを使用して Android Recovery モードを開始できない場合は、[Android Recovery に手動で入る](#)(202ページ)を参照してください。

## 無線 ADB を使用したシステム更新の実行

無線 ADB を使用してシステム更新を実行します。

Zebra のサポートとダウンロード Web サイト ([zebra.com/support](http://zebra.com/support)) にアクセスし、適切なシステム更新パッケージをホストコンピュータにダウンロードします。



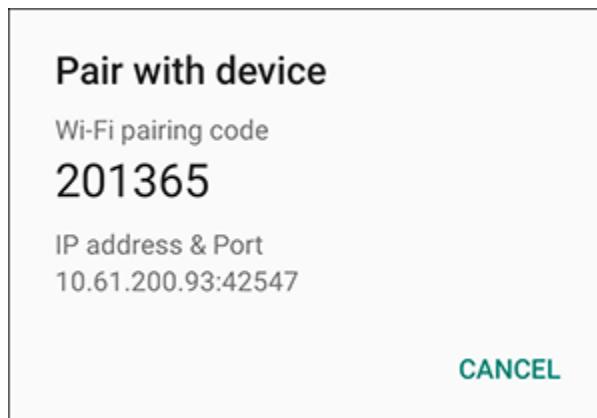
**重要:** ホストコンピュータに最新の adb ファイルがインストールされていることを確認します。



**重要:** デバイスとホストコンピュータは同じ無線ネットワーク上にある必要があります。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [System] (システム) > [Advanced] (詳細設定) > [Developer options] (開発者向けオプション) をタッチします。
3. [USB debugging] (USB デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
4. [Wireless debugging] (無線デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
5. [Wireless debugging] (無線デバッグ) をタッチします。
6. デバイスとホストコンピュータが初めて接続された場合、[Allow wireless debugging on this network?] (このネットワークで無線デバッグを許可しますか?) ダイアログボックスに [Always allow from this network] (このネットワークから常に許可する) チェックボックスが表示されます。必要に応じて、このチェックボックスをオンにします。
7. [ALLOW] (許可) をタッチします。
8. [Pair with pairing code] (ペアリングコードでペアリング) をタッチします。

[Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログボックスが表示されます。



9. ホストコンピュータで、platform-tools フォルダに移動し、コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

10. 「adb pair XX.XX.XX.XX.XX.XXXXXX」と入力します。  
XX.XX.XX:XXXXXは、[Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログ ボックスに表示されているIP アドレスとポート番号です。
11. **Enter** を押します。
12. [Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログ ボックスに表示されているペアリング コードを入力します。
13. **Enter** を押します。
14. 「adb connect」と入力します。  
これで、デバイスはホスト コンピュータに接続されました。
15. タイプ:  
`adb reboot recovery`
16. **Enter** を押します。  
デバイスに[System Recovery] (システム リカバリ) 画面が表示されます。
17. 音量上/音量下を押して、[Apply upgrade from ADB] (ADB からのアップグレードの適用) に移動します。
18. 電源を押します。
19. ホスト コンピュータのコマンド プロンプト ウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
adb sideload <file>
```

値は次のとおりです。<ファイル>=zip ファイルのパスとファイル名。

20. **Enter** を押します。  
システム更新がインストールされ (進行状況がパーセンテージでコマンド プロンプト ウィンドウに表示されます)、その後デバイスに[System Recovery] (システム リカバリ) 画面が表示されます。
21. [Reboot system now] (システムを今すぐ再起動) に移動して、電源ボタンを押してデバイスを再起動します。
22. ホスト コンピュータで、「  
`adb disconnect`」と入力します。

## システム更新のインストールを確認する

システム更新が正常に完了したことを確認します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [About phone] (電話機情報) をタッチします。
3. [Build number] (ビルド番号) まで下にスクロールします。
4. ビルド番号と新しいシステム更新パッケージ ファイル番号が一致することを確認します。

## Android - エンタープライズ リセット

エンタープライズ リセットを実行すると、プライマリ ストレージ (/sdcard およびエミュレートされたストレージ) 内のデータを含めて、/data パーティション内のユーザー データがすべて消去されま

す。Zebra は、Zebra のサポートとダウンロード Web サイトでエンタープライズ リセット パッケージを配布しています。

エンタープライズ リセットの実行前に、必要な構成ファイルをすべてプロビジョニングしておき、リセット後にこれらを復元します。

## microSD カードを使用したエンタープライズ リセットの実行

使用する前に、デバイスで microSD カードをフォーマットすることを強くお勧めします。

1. エンタープライズ リセットの zip ファイルを microSD カードのルートにコピーします。
    - ホストコンピュータを使用して zip ファイルを microSD カードにコピーし、デバイスにその microSD カードを取り付けます。詳細については、「ご使用の前に」を参照してください。
    - microSD カードがすでに取り付けられているデバイスをホストコンピュータに接続し、zip ファイルを microSD カードにコピーします。詳細については、「USB 通信」を参照してください。ホストコンピュータからデバイスを切断します。
  2. メニューが表示されるまで、電源を押し続けます。
  3. [Restart] (再起動) をタッチします。
  4. デバイスが振動するまで、PTT を長押しします。
- [System Recovery] (システム リカバリ) 画面が表示されます。
5. 音量上および音量下を押して、[Apply upgrade from SD card] (SD カードからのアップグレードの適用) に移動します。
  6. 電源を押します。
  7. 音量上および音量下を押して、エンタープライズ リセット ファイルに移動します。
  8. 電源を押します。
- エンタープライズ リセットが実行され、デバイスが [Recovery] (リカバリ) 画面に戻ります。
9. 電源を押して、デバイスを再起動します。

## ADB を使用したエンタープライズ リセットの実行

ADB を使用してエンタープライズ リセットを実行します。

1. 高耐久性充電/USB ケーブルを使用して、またはデバイスを 1 スロット USB/充電専用クレードルに挿入して、デバイスをホストコンピュータに接続します。
2. ケーブルまたはクレードルをホストコンピュータに接続します。
3. [Settings] (設定) に移動します。
4. [System] (システム) > [Advanced] (詳細設定) > [Developer options] (開発者向けオプション) をタッチします。
5. [USB debugging] (USB デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
6. デバイスとホストコンピュータが初めて接続された場合、[Allow USB debugging?] (USB デバッグを許可しますか?) ダイアログ ボックスに [Always allow from this computer] (このコンピュータから常に許可する) チェック ボックスが表示されます。必要に応じて、このチェック ボックスをオンにします。
7. [OK] をタッチします。

- ホストコンピュータのコマンドプロンプトウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
adb sideload <file>
```

値は次のとおりです。<ファイル> = zip ファイルのパスとファイル名。

- 「adb devices」と入力します。

次のような画面が表示されます。

List of devices attached	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX device
--------------------------	-----------------------------

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX はデバイス番号です。



**注:** デバイス番号が表示されない場合は、ADB ドライバが正しくインストールされていることを確認します。

- Enter を押します。

デバイスに [System Recovery] (システムリカバリ) 画面が表示されます。

- 音量上/音量下を押して、[Apply upgrade from ADB] (ADBからのアップグレードの適用) に移動します。

- 電源を押します。

- ホストコンピュータのコマンドプロンプトウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
adb sideload <file>
```

値は次のとおりです。<ファイル> = zip ファイルのパスとファイル名。

- Enter を押します。

エンタープライズリセットパッケージがインストールされ、デバイスに [System Recovery] (システムリカバリ) 画面が表示されます。

- 電源を押して、デバイスを再起動します。

## 無線 ADB を使用したエンタープライズリセットの実行

無線 ADB を使用してエンタープライズリセットを実行します。



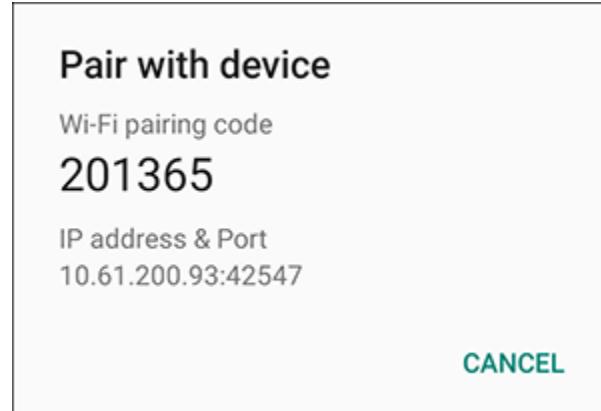
**重要:** ホストコンピュータに最新の adb ファイルがインストールされていることを確認します。



**重要:** デバイスとホストコンピュータは同じ無線ネットワーク上にある必要があります。

- [Settings] (設定) に移動します。
- [System] (システム) > [Advanced] (詳細設定) > [Developer options] (開発者向けオプション) をタッチします。
- [USB debugging] (USB デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
- [Wireless debugging] (無線デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。

5. デバイスとホストコンピュータが初めて接続された場合、[Allow wireless debugging on this network?] (このネットワークで無線デバッグを許可しますか?) ダイアログボックスに [Always allow from this network] (このネットワークから常に許可する) チェックボックスが表示されます。必要に応じて、このチェックボックスをオンにします。
6. [ALLOW] (許可) をタッチします。
7. [Wireless debugging] (無線デバッグ) をタッチします。
8. [Pair with pairing code] (ペアリングコードでペアリング) をタッチします。  
[Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログボックスが表示されます。



9. ホストコンピュータで、**platform-tools** フォルダに移動し、コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
  10. 「adb pair XX.XX.XX.XX.XXXXXX」と入力します。  
XX.XX.XX:XXXXXは、[Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログボックスに表示されているIPアドレスとポート番号です。
  11. 「adb connect XX.XX.XX.XX.XXXXXX」と入力します。
  12. **Enter** を押します。
  13. [Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログボックスに表示されているペアリングコードを入力します。
  14. **Enter** を押します。
  15. 「adb connect」と入力します。  
これで、デバイスはホストコンピュータに接続されました。
  16. 「adb devices」と入力します。
- 次のような画面が表示されます。

List of devices attached	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX device
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXはデバイス番号です。	



注：デバイス番号が表示されない場合は、ADBドライバが正しくインストールされていることを確認します。

17. ホストコンピュータのコマンドプロンプトウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
adb sideload <file>
```

値は次のとおりです。<ファイル>=zip ファイルのパスとファイル名。

18. タイプ:

```
adb reboot recovery
```

19. **Enter** を押します。

デバイスに [Factory Recovery] (工場出荷時リカバリ) 画面が表示されます。

20. 音量上/音量下を押して、[Apply upgrade from ADB] (ADB からのアップグレードの適用) に移動します。

21. 電源を押します。

22. ホストコンピュータのコマンドプロンプトウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
adb sideload <file>
```

値は次のとおりです。<ファイル>=zip ファイルのパスとファイル名。

23. **Enter** を押します。

エンタープライズリセットパッケージがインストールされ、デバイスに [System Recovery] (システムリカバリ) 画面が表示されます。

24. 電源を押して、デバイスを再起動します。

25. ホストコンピュータで、「

```
adb disconnect
```

」と入力します。

## Android の工場出荷時リセット

工場出荷時リセットを実行すると、内部ストレージの /data パーティションおよび /enterprise パーティション内のデータがすべて消去され、すべてのデバイス設定がクリアされます。工場出荷時リセットでは、デバイスが最後にインストールされたオペレーティングシステムイメージに戻されます。以前のバージョンのオペレーティングシステムに戻すには、そのオペレーティングシステムイメージを再インストールします。Zebra は、Zebra のサポートとダウンロード Web サイトで工場出荷時リセットパッケージを配布しています。

## microSD カードを使用した工場出荷時リセットの実行

microSD カードを使用して工場出荷時リセットを実行します。

Zebra のサポートとダウンロード Web サイト ([zebra.com/support](http://zebra.com/support)) にアクセスし、適切な工場出荷時リセットファイルをホストコンピュータにダウンロードします。

1. 工場出荷時リセットの zip ファイルを microSD カードのルートにコピーします。

- ホストコンピュータを使用して zip ファイルを microSD カードにコピーし、デバイスにその microSD カードを取り付けます。詳細については、「ご使用の前に」を参照してください。
- 既に microSD カードが取り付けられているデバイスをホストコンピュータに接続し、zip ファイルを microSD カードにコピーしてから、ホストコンピュータからデバイスを切断します。

2. メニューが表示されるまで、電源を押し続けます。
3. [Restart] (再起動) をタッチします。
4. デバイスが振動するまで、PTT を長押しします。  
[System Recovery] (システムリカバリ) 画面が表示されます。
5. 音量上および音量下を押して、[Apply upgrade from SD card] (SDカードからのアップグレードの適用) に移動します。
6. 電源を押します。
7. 音量上および下矢印を使用して、工場出荷時リセットファイルに移動します。
8. 電源を押します。  
工場出荷時リセットが実行され、デバイスが [Recovery] (リカバリ) 画面に戻ります。
9. 電源を押して、デバイスを再起動します。

次もご参照ください

[USB通信](#)

## ADB を使用して工場出荷時リセットを実行する

ADB を使用して工場出荷時リセットを実行する

Zebra のサポートとダウンロード Web サイト ([zebra.com/support](http://zebra.com/support)) にアクセスし、適切な工場出荷時リセットファイルをホストコンピュータにダウンロードします。

1. 高耐久性充電/USBケーブルを使用して、またはデバイスを 1 スロット USB/充電専用クレードルに挿入して、デバイスをホストコンピュータに接続します。
  2. [Settings] (設定) に移動します。
  3. [System] (システム) > [Advanced] (詳細設定) > [Developer options] (開発者向けオプション) をタッチします。
  4. [USB debugging] (USB デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
  5. デバイスとホストコンピュータが初めて接続された場合、[Allow USB debugging?] (USB デバッグを許可しますか?) ダイアログボックスに [Always allow from this computer] (このコンピュータから常に許可する) チェックボックスが表示されます。必要に応じて、このチェックボックスをオンにします。
  6. [OK] をタッチします。
  7. ホストコンピュータで、platform-tools フォルダに移動し、コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
  8. 「adb devices」を入力します。
- 次のような画面が表示されます。

List of devices attached

XXXXXXXXXXXXXX device

XXXXXXXXXXXXXX はデバイス番号です。



注：デバイス番号が表示されない場合は、ADB ドライバが正しくインストールされていることを確認します。

## 9. タイプ:

```
adb reboot recovery
```

## 10. Enter を押します。

デバイスに [System Recovery] (システム リカバリ) 画面が表示されます。

## 11. 音量上/音量下ボタンを押して、[Apply upgrade from ADB] (ADB からのアップグレードの適用) に移動します。

## 12. 電源を押します。

## 13. ホスト コンピュータのコマンド プロンプト ウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
adb sideload <file>
```

値は次のとおりです。<ファイル>=zip ファイルのパスとファイル名。

## 14. Enter を押します。

工場出荷時リセット パッケージがインストールされ、[System Recovery] (システム リカバリ) 画面がデバイスに表示されます。

## 15. 電源を押して、デバイスを再起動します。

## 無線 ADB を使用して工場出荷時リセットを実行する

無線 ADB を使用して工場出荷時リセットを実行します。

Zebra のサポートとダウンロード Web サイト ([zebra.com/support](http://zebra.com/support)) にアクセスし、適切な工場出荷時リセット ファイルをホスト コンピュータにダウンロードします。



**重要:** ホスト コンピュータに最新の adb ファイルがインストールされていることを確認します。

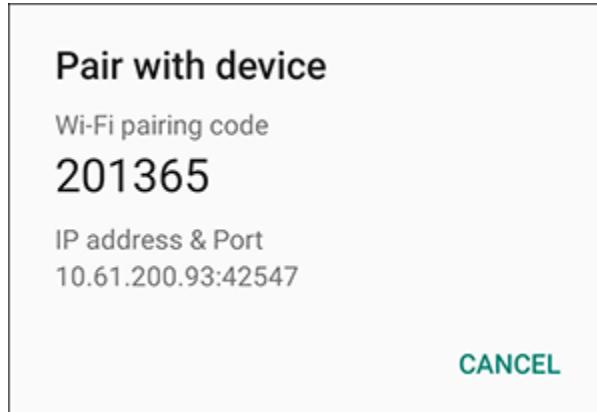


**重要:** デバイスとホスト コンピュータは同じ無線ネットワーク上にある必要があります。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [System] (システム) > [Advanced] (詳細設定) > [Developer options] (開発者向けオプション) をタッチします。
3. [USB debugging] (USB デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
4. [Wireless debugging] (無線デバッグ) スイッチを [ON] (オン) の位置にスライドさせます。
5. デバイスとホスト コンピュータが初めて接続された場合、[Allow wireless debugging on this network?] (このネットワークで無線デバッグを許可しますか?) ダイアログ ボックスに [Always allow from this network] (このネットワークから常に許可する) チェック ボックスが表示されます。必要に応じて、このチェック ボックスをオンにします。
6. [ALLOW] (許可) をタッチします。
7. [Wireless debugging] (無線デバッグ) をタッチします。

8. [Pair with pairing code] (ペアリング コードでペアリング) をタッチします。

[Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログ ボックスが表示されます。



9. ホストコンピュータで、**platform-tools** フォルダに移動し、コマンドプロンプト ウィンドウを開きます。
  10. 「adb pair XX.XX.XX.XX.XXX」と入力します。  
XX.XX.XX:XXXXX は、[Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログ ボックスに表示されているIP アドレスとポート番号です。
  11. 「adb connect XX.XX.XX.XX.XXX」と入力します
  12. **Enter** を押します。
  13. [Pair with device] (デバイスとペアリング) ダイアログ ボックスに表示されているペアリング コードを入力します
  14. **Enter** を押します。
  15. 「adb connect」と入力します。  
これで、デバイスはホストコンピュータに接続されました。
  16. 「adb devices」と入力します。
- 次のような画面が表示されます。

List of devices attached	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX device
--------------------------	-----------------------------

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX はデバイス番号です。



**注:** デバイス番号が表示されない場合は、ADB ドライバが正しくインストールされていることを確認します。

17. タイプ:

```
adb reboot recovery
```

18. **Enter** を押します。

工場出荷時リセット パッケージがインストールされ、[System Recovery] (システム リカバリ) 画面がデバイスに表示されます。

19. 音量上/音量下を押して、[Apply upgrade from ADB] (ADB からのアップグレードの適用) に移動します。

20. 電源を押します。

21. ホストコンピュータのコマンドプロンプトウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
adb sideload <file>
```

値は次のとおりです。<ファイル> = zip ファイルのパスとファイル名。

22. Enter を押します。

工場出荷時リセットパッケージがインストールされ、[System Recovery] (システムリカバリ) 画面がデバイスに表示されます。

23. 電源を押して、デバイスを再起動します。

24. ホストコンピュータで、「

```
adb disconnect
```

」と入力します。

## Androidストレージ

デバイスには、複数の種類のファイルストレージがあります。

- ランダムアクセスメモリ (RAM)
- オンデバイスストレージ
- 内部ストレージ
- 外部ストレージ (microSD カード)
- Enterprise フォルダ



**注:** 内部ストレージの容量は限られているため、デバイスに microSD カードを取り付けることをお勧めします。

## ランダムアクセスメモリ

プログラムを実行すると、RAMを使用してデータが格納されます。RAMに格納されているデータは、リセット時に失われます。

アプリケーションで RAM が使用される方法は、オペレーティングシステムによって管理されます。アプリケーション、コンポーネントプロセス、サービスによる RAM の使用は、必要な場合にのみ許可されます。最近使用したプロセスは RAM にキャッシュされるため、再び開く場合はより迅速に再開されます。ただし、新しいアクティビティに RAM が必要な場合、キャッシュは消去されます。

画面には、RAMの使用中の容量、空き容量が表示されます。

- [Performance] (パフォーマンス) - メモリのパフォーマンスを示します。
- [Total memory] (合計メモリ) - 使用可能な RAM の合計容量を示します。
- [Average used (%)] (平均使用量 (%)) - 選択した期間 (デフォルトは 3 時間) に使用されたメモリの平均使用量 (パーセント) を示します。
- [Free] (空き) - 使用されていない RAM の合計容量を示します。
- [Memory used by apps] (アプリのメモリ使用状況) - タッチして、個々のアプリの RAM 使用量を表示します。

## メモリの表示

使用されているメモリ容量と空き RAM 容量を表示します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [System] (システム) > [Advanced] (詳細設定) > [Developer options] (開発者向けオプション) をタッチします。
3. [Memory] (メモリ) にタッチします。

## 内部ストレージ

デバイスには内部ストレージがあります。デバイスがホストコンピュータに接続されている場合、内部ストレージのコンテンツを表示したり、ファイルをコピーしたりできます。一部のアプリケーションは、内部メモリではなく内部ストレージに格納されるように設計されています。

### 内部ストレージの表示

デバイスで使用可能な内部ストレージと使用済みの内部ストレージを表示します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Storage] (ストレージ) をタッチします。

[Internal Storage] (内部ストレージ) - 内部ストレージの合計容量と使用量を表示します。

デバイスに取り外し可能ストレージが取り付けられている場合は、[Internal shared storage] (内部共有ストレージ) をタッチすると、アプリ、写真、ビデオ、オーディオ、その他のファイルで使用される内部ストレージの量が表示されます。

## Enterprise フォルダ

Enterprise フォルダ (内部フラッシュ内) は、リセット後およびエンタープライズリセット後もデータが保持される優れた永続ストレージです。

工場出荷時リセット時に Enterprise フォルダは消去されます。Enterprise フォルダは、導入データおよびデバイス固有データに使用されます。Enterprise フォルダの容量は約 128MB (フォーマット済み) です。アプリケーションは、データを enterprise/user フォルダに保存することで、エンタープライズリセットの後までデータを保持できます。このフォルダは ext4 でフォーマットされており、ADB を使用するホストコンピュータまたは MDM からのみアクセスできます。

## 外部ストレージ

デバイスには、取り外し可能な microSD カードを挿入できます。デバイスがホストコンピュータに接続されている場合、microSD カードのコンテンツを表示したり、ファイルをコピーしたりできます。デバイスには、取り外し可能な USB ドライブを挿入できます。デバイスがホストコンピュータに接続されている場合、USB ドライブのコンテンツを表示したり、ファイルをコピーしたりできます。

### 外部ストレージの表示

[Portable storage] (ポータブルストレージ) には、取り付けられた microSD カードまたは USB ドライブの合計容量と使用量が表示されます。

1. [Settings] (設定) に移動します。

2. [Storage] (ストレージ) をタッチします。  
[General USB Drive] (汎用 USB ドライブ) をタッチすると、カードのコンテンツが表示されます。  
[SD card] (SD カード) をタッチすると、カードのコンテンツが表示されます。
3. microSD カードをマウント解除するには、▲をタッチします。
4. USB ドライブをマウント解除するには、▲をタッチします。

### ポータブルストレージとしての microSD カードのフォーマット

microSD カードをデバイスのポータブルストレージとしてフォーマットします。

1. [SD card] (SD カード) をタッチします。
2. : > [Storage settings] (ストレージの設定) をタッチします。
3. [Format] (フォーマット) をタッチします。
4. [ERASE & FORMAT] (消去してフォーマット) をタッチします。
5. [DONE] (完了) をタッチします。

### 内部メモリとしての microSD カードのフォーマット

microSD カードを内部メモリとしてフォーマットし、デバイスの内部メモリの実際の容量を増やすことができます。一度フォーマットすると、microSD カードを読み取ることができるのは、そのデバイスのみになります。

 注：内蔵ストレージを使用する場合、推奨される最大の SD カード サイズは 128GB です。

1. [SD card] (SD カード) をタッチします。
2. : > [Storage settings] (ストレージの設定) をタッチします。
3. [Format as internal] (内部としてフォーマット) をタッチします。
4. [ERASE & FORMAT] (消去してフォーマット) をタッチします。
5. [DONE] (完了) をタッチします。

### Enterprise フォルダ

Enterprise フォルダ (内部フラッシュ内) は、リセット後およびエンタープライズ リセット後もデータが保持される優れた永続ストレージです。

工場出荷時リセット時に Enterprise フォルダは消去されます。Enterprise フォルダは、導入データおよびデバイス固有データに使用されます。Enterprise フォルダの容量は約 128MB (フォーマット済み) です。アプリケーションは、データを enterprise/user フォルダに保存することで、エンタープライズ リセットの後までデータを保持できます。このフォルダは ext4 でフォーマットされており、ADB を使用するホスト コンピュータまたは MDM からのみアクセスできます。

## アプリの管理

アプリでは、ストレージメモリと RAM の 2 種類のメモリを使用します。アプリでは、アプリ自体およびすべてのファイル、設定、その他のデータでストレージメモリを使用します。アプリの実行時には RAM も使用します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Apps & notifications] (アプリと通知) をタッチします。
3. [See all XX apps] (XX 個のアプリをすべて表示) をタッチすると、デバイス内のすべてのアプリが表示されます。
4. ⚙ > [Show system] (システムを表示) をタッチすると、システムプロセスがリストに含まれます。
5. リスト内のアプリ、プロセス、またはサービスをタッチすると、画面が開いて詳細が表示されます。この画面では、アイテムに応じて、設定、権限、通知を変更したり、強制停止/アンインストールを実行したりできます。

## アプリの詳細

アプリには、さまざまな種類の情報とコントロールがあります。

- [Force stop] (強制停止) - アプリを停止します。
- [Disable] (無効化) - アプリを無効にします。
- [Uninstall] (アンインストール) - アプリ、関連データ、設定をすべてデバイスから削除します。
- [Notifications] (通知) - アプリの通知設定を設定します。
- [Permissions] (権限) - アプリがアクセスできるデバイス上の領域が表示されます。
- [Storage & cache] (ストレージとキャッシュ) - 保存されている情報の量と、それをクリアするためのボタンが表示されます。
- [Mobile data & Wi-Fi] (モバイルデータと Wi-Fi) - アプリで使用されたデータに関する情報が表示されます。
- [Mobile data & Wi-Fi] (モバイルデータと Wi-Fi) - アプリで使用されたデータに関する情報が表示されます。モバイルデータはサポートされていません。
- [Advanced] (詳細設定)
  - [Screen time] (利用時間) - アプリが画面に表示された時間を表示します。
  - [Battery] (バッテリ) - アプリで使用されたコンピューティングの電力量が表示されます。
  - [Open by default] (デフォルトで開く) - 特定のファイルタイプがデフォルトで起動されるようにアプリを設定した場合は、その設定をここでクリアできます。
  - [Display over other apps] (他のアプリに重ねて表示) - アプリを他のアプリに重ねて表示できます。
  - [App details] (アプリの詳細) - Play ストア上のその他のアプリ詳細へのリンクが表示されます。
  - [Additional settings in the app] (アプリの追加設定) - アプリで設定が開きます。
  - [Modify system settings] (システム設定の変更) - アプリでシステム設定を変更できます。

## ダウンロードの管理

ブラウザまたは電子メールを使用してダウンロードしたファイルとアプリは、USB ドライブまたは内部ストレージの Download ディレクトリ内に保存されます。ダウンロードしたアイテムを表示する、開く、または削除する場合は、ダウンロード アプリを使用します。 ブラウザまたは電子メールを使用してダウンロードしたファイルとアプリは、microSD カードまたは内部ストレージの Download ディレクトリ内に保存されます。ダウンロードしたアイテムを表示する、開く、または削除する場合は、ダウンロード アプリを使用します。

1. 画面を上にスワイプして  をタッチします。
2.  > [Downloads] (ダウンロード) をタッチします。
3. アイテムを長押しして、削除するアイテムを選択してから  をタッチします。アイテムがデバイスから削除されます。

# メンテナンスとトラブル シューーティング

このセクションでは、デバイスのクリーニングと保管方法、および操作中に発生する可能性のある問題のトラブルシューーティングについて説明します。

## デバイスのメンテナンス

トラブルを避けるため、デバイスの使用中は次の注意事項を守ってください。

- スクリーンを傷付けないように、タッチスクリーンでの使用を目的とした付属のタッチペンまたは先端がプラスチックのペンをご使用ください。デバイスの画面の表面で、実際のペンや鉛筆、その他の鋭いものを使用しないでください。
- デバイスのタッチスクリーンはガラス製です。落としたり強い衝撃を与えるたりしないでください。
- 極度の高温または低温にはさらさないでください。暑い日に車のダッシュボードに置いたままにしたり、熱源のそばに置いたりしないでください。
- ほこりや湿気が極端に多い場所にデバイスを保管しないでください。
- デバイスをクリーニングする場合、レンズ用の柔らかい布を使用してください。デバイスのディスプレイが汚れた場合は、承認済みの洗剤を湿らせた柔らかい布でクリーニングします。承認済みの洗浄剤のリストについては、「[承認済みの洗浄剤と消毒剤](#)」または「[TC52x-HC 向けの承認済みの洗浄剤と消毒剤](#)」を参照してください。
- バッテリの寿命と製品の性能を最大限に活用するために、充電式バッテリは定期的に交換してください。バッテリの寿命は、ユーザーの利用状況によって異なります。

## ディスプレイのベスト プラクティス

### 画像の残留

画像の残留は、静止画を長時間画面に表示した場合に発生することがあります。新しい画像を表示した後も、前の画像がかすかに表示される場合があります。画像の残留を避けるには、次の手順に従います。

- アイドル状態が数分間続いたときにディスプレイがオフになるように設定します。
- 背景画像を定期的に回転させます。
- デバイスを使用していないときには、ディスプレイをオフにします。

- 次の特性を持つスクリーンセーバーを使用します。
  - 背景色を黒に設定しているスクリーンセーバー
  - 小さな画像(ディスプレイサイズの約2%)が移動しているスクリーンセーバー
  - 画面上で画像をランダムに移動させるスクリーンセーバー
  - 静止画を使用する場合、スクリーンセーバーを有効にする

## 高温環境および直射日光の下で動作するエンタープライズモバイルコンピューティングデバイスのベストプラクティス

外部環境が高温になり動作温度を超えると、デバイスの温度センサーがユーザーにWANモードのシャットダウンを通知するか、デバイスの温度が動作温度範囲に戻るまでデバイスをシャットダウンします。

- デバイスに直射日光を当てるることは避けてください。過熱を防ぐ最も簡単な方法は、常にデバイスが直射日光に当たらないようにすることです。デバイスは太陽の光や熱を吸収して熱を保持するため、日光や高温の中にある時間が長いほど熱くなります。
- 暑い日にデバイスを車内に置いたり、高温になっている物体の表面に放置することは避けてください。デバイスを直射日光の当たる場所に放置する場合と同様に、デバイスは高温物の表面に放置したり、車両のダッシュボードやシートに置いたままにすると、熱エネルギーを吸収し、高温物の表面や高温の車内に置かれた時間が長いほど、デバイスが熱くなります。
- デバイスの未使用アプリをオフにします。バックグラウンドで実行されている、オン状態で使用されていないアプリは、デバイスの動作負荷を高め、その結果、デバイスが熱くなる可能性があります。これにより、モバイルコンピュータデバイスのバッテリ持続時間パフォーマンスも向上します。
- 画面の明るさを上げるのは避けてください。バックグラウンドでアプリを実行している場合と同様に、明るさを上げるとバッテリの動作負荷が高くなり、さらに熱が発生します。画面の明るさを最小限に抑えることで、モバイルコンピューティングデバイスを高温環境で使用できる時間が長くなる可能性があります。

## バッテリの安全に関するガイドライン

デバイスを安全に使用するには、バッテリガイドラインに従う必要があります。

- デバイスを充電する場所にはほこりが溜まらないようにして、近くに可燃性の物質や薬品を置かないでください。業務環境以外でデバイスを充電する場合は、特に細心の注意を払ってください。
- バッテリの使用、保管、および充電については、このガイドに記載されているガイドラインに従ってください。
- バッテリを正しく使用しないと、火災、爆発、またはその他の事故の原因となる可能性があります。
- モバイルデバイスバッテリを充電する場合は、バッテリと充電器の周辺温度を5°C～40°C(41°F～104°F)に保つ必要があります。
- Zebra製ではないバッテリパックや充電器など、互換性のないバッテリパックおよび充電器は使用しないでください。互換性のないバッテリや充電器を使用すると、火災、爆発、液漏れ、またはその他の事故の原因となる可能性があります。バッテリパックまたは充電器の互換性についてご質問のある場合は、グローバルカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。
- USBポートを充電用の電源として利用する機器は、USB-IFのロゴのある製品か、USB-IFコンプライアンスプログラムで認証された製品のみに接続できます。
- バッテリの分解、破碎、曲げや変形、穴開け、寸断などを行わないでください。

- バッテリ駆動式のデバイスを硬い面に落として衝撃が加わると、バッテリが過熱する原因になる可能性があります。
- バッテリをショートさせたり、金属や導電性の物体をバッテリ端子に接触させたりしないでください。
- 改造や再加工、バッテリ内部への異物の挿入、水やその他の液体への浸漬または曝露、または火、爆発あるいはその他の危険物への曝露を行わないでください。
- 駐車中の車両内、またはラジエータやその他の熱源の近くなど、高温になる可能性のある場所あるいはその近くに、機器を放置または保管しないでください。バッテリを電子レンジや乾燥機に入れないでください。
- 児童がバッテリを使用する場合は、保護者の監督が必要です。
- 使用済みの充電式バッテリは、現地の法令に適切に従って廃棄してください。
- バッテリを廃棄するときは焼却しないでください。
- バッテリを飲み込んだ場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
- バッテリが液漏れした場合は、漏れた液体が皮膚や目に付着しないようにしてください。付着してしまった場合は、接触部位を 15 分間水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 機器またはバッテリが破損したおそれがある場合は、カスタマー サポートに検査を依頼してください。

## クリーニング方法



**注意：**必ず保護用めがねを着用してください。ご使用前に、アルコール製品に関する警告ラベルをお読みください。医学的な理由などで他の溶剤を使用する必要がある場合、サポートセンターに詳細をお問い合わせください。



**警告：**高温の油やその他の可燃性の液体に製品を触れさせないでください。万一そのような液体に触れた場合は、製品を電源から抜き、このガイドラインに従ってただちに製品をクリーニングしてください。

## 清掃と消毒のガイドライン

- デバイスをAC/DC 電源から切断して、電源をオフにします。
- デバイスまたはアクセサリの損傷を防ぐため、デバイス向けに指定された承認済みの洗浄剤と消毒剤のみを使用してください。
- 製品を適切かつ安全に使用するには、承認済みの洗浄剤と消毒剤に関するメーカーの指示に従ってください。
- ウェット タイプの拭き取りクリーナーを使用します。または、湿っていない柔らかい減菌布を承認済みの薬剤で湿らせながら使用します。デバイスに化学薬品を直接吹きかけたり、注いだりしないでください。
- 狹い場所や手の届かない場所については、湿らせた綿棒を使用します。綿棒から出た糸くずは必ず取り除いてください。
- 液体が溜まらないようにしてください。
- 使用する前に、デバイスを自然乾燥させるか、柔らかい糸くずの出ない布またはタオルで乾かしてください。再び電源を入れる前に、電気接点が完全に乾いていることを確認してください。

### 使用できる洗浄剤と消毒剤

クリーナーの種類は問いませんが、有効成分の 100% がイソプロピルアルコール、漂白剤または次亜塩  
1 (下記の重要な注記を参照)

素酸ナトリウム 、過酸化水素、塩化アンモニウム、または中性食器洗剤であるも  
の、またはその組み合わせであるものに限定してください。



#### 重要:

ウェット タイプの拭き取りクリーナーを使用し、液が溜まらないように注意してください。

1

次亜塩素酸ナトリウム (漂白剤) ベースの製品を使用するときは、必ず製造業者の推奨手順に従い、使用中は手袋を着用し、使用後は残留分をアルコールで湿らせた布または綿棒で除去して、デバイスを取り扱うときは長時間皮膚と接触しないようにしてください。液体 (拭き取りクリーナーを含む) の次亜塩素酸ナトリウムに暴露されると、この化学物質の強力な酸化性によりデバイスの金属面が酸化 (腐食) しやすくなります。

このような消毒剤がデバイスの金属部分に触れた場合、クリーニングの手順の後、アルコールで湿らせた布または綿棒でただちに除去することが重要です。

### TC52x-HC 向けの承認済みの洗浄剤と消毒剤

TC52x-HC 構成向けの承認済み洗浄剤および消毒剤の詳細については、[zebra.com/tc5x-hc-cleaning](http://zebra.com/tc5x-hc-cleaning) を参照してください。

### クリーニングの際の注意事項

フタレートを含有する手袋を着用してデバイスを扱わないようにしてください。また、手袋を外した後は、手を洗って汚染残留物を除去してからデバイスを扱ってください。

デバイスを扱う前に、エタノールアミンを含有する除菌ローションなど、上記の有害成分を含有する製品を使用していた場合、デバイスの損傷を防止するために、手を完全に乾燥させてからデバイスを扱うようにしてください。



**重要:** バッテリ コネクタに洗浄剤が付着した場合、薬剤をできる限り完全に拭き取ってから、アルコール ウェット ティッシュでクリーニングします。コネクタに薬剤が蓄積するのを最小限に抑えるため、デバイスのクリーニングと消毒の前にターミナルにバッテリを取り付けることもお勧めします。

デバイスで洗浄/殺菌剤を使用するときは、洗浄/殺菌剤の製造業者により規定された指示に従うことが重要です。

### クリーニングの頻度

モバイル デバイスが使用される環境はそれぞれ異なるため、クリーニングの頻度はユーザーが判断し、必要に応じた頻度でクリーニングを行ってください。汚れに気付いたら、モバイル デバイスをまめにきれいにして、汚れが蓄積して後のクリーニングが面倒にならないようにします。

常に最適な画像をキャプチャできるように、特に汚れや埃の多い環境で使用した後など、カメラ ウィンドウの定期的なクリーニングを推奨しています。

## デバイスのクリーニング

このセクションでは、デバイスのクリーニングについて説明します。

### ハウジング

承認済みのアルコール ウェット ティッシュですべてのボタンやトリガを含め、筐体を完全に拭き取ります。

### ディスプレイ

ディスプレイは承認済みのアルコール ワイプで拭いてもかまいません。ただし、ディスプレイの端の付近に液体がたまらないように注意してください。すぐに柔らかい布でディスプレイを乾かします。このとき、傷が付かないよう、目の粗い布は使わないでください。

### カメラとスキャナ ウィンドウ

レンズ用ティッシュペーパー、またはメガネなど光学材料のクリーニングに適した用具で定期的にカメラとスキャナ ウィンドウを拭いてください。

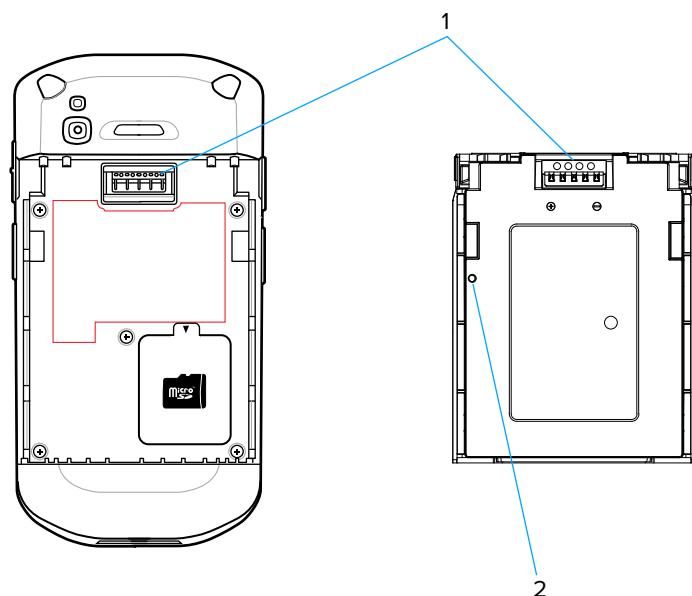
### バッテリ ガイド スロット

アルコールに浸した綿棒をバッテリ ガイド レールに挿入してごみをきれいに取り除き、乾いた綿棒でふき取って乾かします。

### バッテリ コネクタと位置マグネットのクリーニング

バッテリ コネクタと位置マグネットをクリーニングするには、次の手順に従います。

- モバイルコンピュータからメインバッテリを取り外します。



1	バッテリ コネクタ
---	-----------

## 2 位置マグネット

2. 純棒のコットン部をイソプロピルアルコールに浸します。
3. 油分や汚れを取り除くには、純棒のコットン部で、バッテリとターミナルの両方で、位置マグネットからコネクタ部分に渡って軽くこります。コネクタまたはマグネットに綿の屑が残らないようにしてください。
4. これを3回以上繰り返します。
5. 乾いた純棒で、ステップ3と4を繰り返します。コネクタまたはマグネットに綿の屑が残らないようにしてください。
6. 油分や埃が残っていないか確認し、必要であればクリーニング処理を繰り返します。



**注意：**漂白剤ベースの化学薬品でバッテリ コネクタまたは位置マグネットをクリーニングした後は、バッテリ コネクタと位置マグネットのクリーニング手順に従って、コネクタや位置マグネットから漂白剤を取り除きます。

## クレードルのコネクタのクリーニング

クレードルのコネクタをクリーニングするには、次の手順に従います。

1. クレードルからDC電源ケーブルを取り外します。
2. 純棒のコットン部をイソプロピルアルコールに浸します。
3. 純棒の綿の部分で、コネクタのピンに沿って拭きます。コネクタの片側から反対側に向けて、ゆっくり純棒を往復させます。コネクタに綿のかすが残らないようにしてください。
4. コネクタのすべての面を、純棒で軽くこすってください。
5. 純棒のコットンの屑をすべて取り除きます。
6. クレードルの他の部分に油分や埃が見つかった場合は、糸くずの出ない布とアルコールを使用して取り除きます。
7. アルコールが蒸発するまで10～30分(周辺の温度と湿度による)置いてから、クレードルに電源をつないでください。
8. 気温が低く湿度が高い場合は、長い乾燥時間が必要となります。温度が高く、湿度が低い場合は、乾燥時間は短くなります。



**注意：**漂白剤ベースの化学薬品でクレードル コネクタをクリーニングした後は、クレードル コネクタのクリーニング手順に従って、コネクタから漂白剤を取り除きます。

## トラブルシューティング

このセクションでは、デバイスとアクセサリのリセットとトラブルシューティングについて説明します。

### デバイスのリセット

リセット機能には、ソフトリセットとハードリセットの2種類があります。

#### ソフトリセットの実行

アプリケーションが応答を停止した場合、ソフトリセットを実行します。

- メニューが表示されるまで、電源ボタンを押し続けます。
- [Restart] (再起動) をタッチします。
- デバイスが再起動します。

#### ハードリセットの実行

デバイスが応答を停止した場合は、ハードリセットを実行します。



**注意：**デバイスに microSD カードを挿入している状態でハードリセットを実行すると、microSD カードの損傷やデータ破損が発生する可能性があります。

- 電源ボタン、左スキャンボタン、および音量上ボタンを4秒以上同時に押します。
- 画面がオフになったら、ボタンを放します。
- デバイスが再起動します。

### デバイスのトラブルシューティング

一般的なデバイスの問題に対するソリューションを提供します。

表 28 デバイスのトラブルシューティング

問題	原因	解決方法
バッテリを取り付けた後に、デバイスが起動しない。	電源ボタンを押していないかった。	電源ボタンを押します。
電源ボタンを押してもデバイスの電源がオンにならない。	バッテリが充電されない。	デバイスのバッテリを充電または交換します。
	バッテリが適切に取り付けられていない。	バッテリを適切に取り付けます。
	システムがクラッシュした。	リセットします。
電源ボタンを押しても、デバイスの電源がオンにならないが、LED が2つ点滅する。	データを維持できるレベルのバッテリ残量があるが、充電が必要。	デバイスのバッテリを充電または交換します。
バッテリが充電されない。	バッテリに問題がある。	バッテリを交換してください。それでもデバイスが動作しない場合、リセットします。

表 28 デバイスのトラブルシューティング (Continued)

問題	原因	解決方法
	バッテリの充電中にデバイスをクレードルから取り外した。	デバイスをクレードルに差し込みます。『 <a href="#">本デバイスの充電</a> 』を参照してください。
	バッテリが極端な高温か低温になっている。	周辺温度が 5°C (41°F) 未満になるか 40°C (104°F) を超えると、バッテリは充電されません。
ディスプレイの文字が見えない。	デバイスの電源が入っていない。	電源ボタンを押します。
ホスト コンピュータとのデータ通信中に、データが転送されなかつたか、転送されたデータが不完全である。	通信中に、デバイスをクレードルから取り外したか、ホスト コンピュータから切断した。	デバイスをクレードルに置き直すか、通信ケーブルをつなぎ直して再度転送します。
	ケーブルの構成が正しくない。	システム管理者にお問い合わせください。
	通信ソフトウェアのインストールまたは設定が誤っている。	セットアップを実行します。
Wi-Fi 経由のデータ通信中に、データが転送されなかつたか、転送されたデータが不完全である。	Wi-Fi 無線がオンになっていない。	Wi-Fi 無線の電源をオンにします。
	アクセス ポイントの範囲外に移動した。	アクセス ポイントの近くに移動します。
Bluetooth 経由のデータ通信中に、データが転送されなかつたか、転送されたデータが不完全である。	Bluetooth 無線がオンになっていない。	Bluetooth 無線の電源をオンにします。
	他の Bluetooth デバイスの範囲外に移動した。	もう一つのデバイスの 10m (32.8 フィート) 以内に移動します。
WAN 経由のデータ通信中に、データが転送されなかつたか、転送されたデータが不完全である。	セルラ サービスの強度が不十分な場所にいる。	サービスがより良好な場所に移動します。
	APN が正しくセットアップされていない。	APN セットアップ情報についてシステム管理者にお問い合わせください。
	SIM カードが正しく装着されていない。	SIM カードを取り外し、再度装着してください。
	データ プランがアクティブになっていない。	サービス プロバイダに問い合わせ、データ プランが有効になっていることを確認してください。
音が鳴らない。	音量設定が低いかオフになっている。	音量を調整します。
デバイスの電源が切れる。	デバイスが非アクティブになっている。	ディスプレイは一定の時間非アクティブになっていると電源がオフになります。この時間を、15 秒、30 秒、1 分、2 分、5 分、10 分、または 30 分に設定します。
	バッテリが完全に放電している。	バッテリを交換します。

表 28 デバイスのトラブルシューティング (Continued)

問題	原因	解決方法
ウィンドウのボタンやアイコンをタップしても、対応する機能が動作しない。	デバイスが反応しない。	デバイスをリブートします。
デバイスのメモリが満杯というメッセージが表示される。	デバイスに保存されているファイルが多すぎる。	使用しないメモや記録を削除します。必要に応じて、その記録をホストコンピュータに保存します(またはSDカードを使用してメモリを追加します)。
	デバイスにインストールされているアプリケーションが多すぎる。	ユーザーがデバイスにインストールしたアプリケーションを削除し、メモリを回復します。[Settings] (設定) > [Apps & notifications] (アプリと通知)を選択します。リストからアプリを選択して、[UNINSTALL] (アンインストール)を選択します。
デバイスで読み取ったバーコードがデコードされない。	スキャンアプリケーションがロードされていない。	デバイスにスキャンアプリケーションをロードするか、DataWedgeを有効にします。システム管理者にお問い合わせください。
	バーコードを読み取れない。	シンボルに汚れがないことを確認します。
	出力ウィンドウとバーコードとの距離が適切ではない。	デバイスを正しいスキャン範囲に置きます。
	バーコード用にデバイスがプログラミングされていない。	スキャンするバーコードのタイプに対応するように、デバイスをプログラミングします。EMDKまたはDataWedgeアプリケーションを参照します。
	デバイスがビープ音を鳴らさないようにプログラミングされていない。	正しく読み取ったときにデバイスがビープ音を鳴らさない場合、正しく読み取ったときにビープ音を鳴らすようにアプリケーションを設定します。
	バッテリ残量が少なくなっています。	スキヤナのトリガを押したときにレーザー光線の放射が停止する場合、バッテリレベルを確認します。バッテリ残量が少なくなっていると、バッテリ残量が少ないことをデバイスが通知する前に、スキヤナがシャットオフします。注: この対処法を実行してもスキヤナがコードを読み取らない場合、代理店またはグローバルカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。
デバイスが近くのBluetoothデバイスを検出できない。	他のBluetoothデバイスから遠すぎる。	他のBluetoothデバイスから10m(30フィート)以内にTC55を近づけます。

表 28 デバイスのトラブルシューティング (Continued)

問題	原因	解決方法
	近くの Bluetooth デバイスの電源がオンになっていない。	検出するには、Bluetooth デバイスの電源をオンにします。
	Bluetooth デバイスが検出可能なモードになっていない。	Bluetooth デバイスを検出可能なモードに設定します。必要に応じて、デバイスのユーザー マニュアルを参照してください。
デバイスのロックを解除できない。	ユーザーが正しくないパスワードを入力している。	ユーザーがパスワードの入力を 5 回間違えると、PIN、パターンまたはパスワードを使用するときに 30 秒待つように求められます。

## 1 スロット充電専用クレードルのトラブルシューティング

下の表に、クレードルのトラブルシューティング オプションを示します。

表 29 1 スロット充電専用クレードルのトラブルシューティング

問題	原因	解決方法
デバイスを挿入したときに LED が点灯しない。	クレードルに電力が供給されていない。	電源ケーブルが、クレードルと AC 電源の両方にしっかりと接続されていることを確認します。
	デバイスがクレードルにしっかりとセットされていない。	デバイスをクレードルから取り外して、しっかりとセットされるように差し込み直します。
デバイスのバッテリが充電されない。	デバイスをクレードルから抜くのが早すぎたか、クレードルを AC 電源から抜くのが早すぎた。	クレードルに電力が供給されていることを確認します。デバイスが正しくセットされていることを確認します。メイン バッテリが充電中であることを確認します。バッテリが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリが故障している。	他のバッテリが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリを交換します。
	デバイスがクレードルに完全にセットされていない。	デバイスをクレードルから取り外して、しっかりとセットされるように差し込み直します。
	バッテリが極端な高温か低温になっている。	周辺温度が 5°C (41°F) 未満になるか 40°C (104°F) を超えると、バッテリは充電されません。

## 1スロットワークステーション ドッキング クレードルのトラブルシューティング

以下の表に、クレードルのトラブルシューティング オプションを示します。

**表 30 1スロットワークステーション ドッキング クレードルのトラブルシューティング**

問題	原因	解決方法
デバイスを挿入したときに LED が点灯しない。	クレードルに電力が供給されていない。	電源ケーブルが、クレードルと AC 電源の両方にしっかりと接続されていることを確認します。
	デバイスがクレードルにしっかりとセットされていない。	デバイスをクレードルから取り外して、しっかりとセットされるように差し込み直します。
デバイスのバッテリが充電されない。	デバイスをクレードルから抜くのが早すぎたか、クレードルを AC 電源から抜くのが早すぎた。	クレードルに電力が供給されていることを確認します。デバイスが正しくセットされていることを確認します。メイン バッテリが充電中であることを確認します。バッテリが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリが故障している。	他のバッテリが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリを交換します。
	デバイスがクレードルに完全にセットされていない。	デバイスをクレードルから取り外して、しっかりとセットされるように差し込み直します。
	バッテリが極端な高温か低温になっている。	周辺温度が 5°C (41°F) 未満になるか 40°C (104°F) を超えると、バッテリは充電されません。
外付けモニタが検出されない。	デバイスをクレードルに装着してから電源をオンにすると、デバイスの電源がオフになります。	クレードルからデバイスを取り外し、挿入し直してください。その後、デバイスがモニタを検出します。
ディスプレイの向きが変わるのが遅い。	デバイスがモニタを認識するまでには少し時間がかかります。	画面の向きが変わるまで待ちます。
デバイスは横向きモードに切り替わらない。	デバイスがモニタを検出しない。	クレードルからデバイスを取り外し、挿入し直してください。
	表示設定が正しく設定されていません。	[Settings] (設定) > [Display] (ディスプレイ) > [When device detects external monitor] (デバイスが外付けモニタを検出した場合) に移動します。[Rotate screen orientation] (画面の向きを回転する) が選択されていることを確認します。
周辺機器が検出されない。	ケーブルの接続に問題があります。	ケーブルを取り外して再接続します。

## 2 スロット USB/イーサネット クレードルのトラブルシューティング

以下の表に、クレードルのトラブルシューティング オプションを示します。

**表 31 2 スロット USB/イーサネット クレードルのトラブルシューティング**

問題	原因	解決方法
デバイスまたは予備バッテリを差し込んでも LED が点灯しない。	クレードルに電力が供給されていない。	電源ケーブルが、クレードルと AC 電源の両方にしっかりと接続されていることを確認します。
	デバイスがクレードルにしっかりとセットされていない。	デバイスをクレードルから取り外して、しっかりとセットされるように差し込み直します。
	予備バッテリがクレードルにしっかりとセットされていない。	予備バッテリを充電スロットから取り外して、しっかりとセットされるように差し込み直します。
デバイスのバッテリが充電されない。	デバイスをクレードルから抜くのが早すぎたか、クレードルを AC 電源から抜くのが早すぎた。	クレードルに電力が供給されていることを確認します。デバイスが正しくセットされていることを確認します。メインバッテリが充電中であることを確認します。バッテリが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリが故障している。	他のバッテリが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリを交換します。
	デバイスがクレードルに完全にセットされていない。	デバイスをクレードルから取り外して、しっかりとセットされるように差し込み直します。
	バッテリが極端な高温か低温になっている。	周辺温度が 5°C (41°F) 未満になるか 40°C (104°F) を超えると、バッテリは充電されません。
予備バッテリが充電されない。	バッテリが充電スロットに完全にセットされていない。	予備バッテリをクレードルから取り外して、しっかりとセットされるように差し込み直します。バッテリが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリが正しく差し込まれていない。	バッテリの充電端子とクレードルの端子を合わせて、バッテリを差し込み直します。
	バッテリが故障している。	他のバッテリが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリを交換します。

## 5 スロット充電専用クレードルのトラブルシューティング

下の表に、クレードルのトラブルシューティング オプションを示します。

**表 32** 5 スロット充電専用クレードルのトラブルシューティング

問題	原因	解決方法
バッテリが充電されない。	クレードルからデバイスを取り外すのが早すぎた。	デバイスをクレードルに差し込み直します。バッテリが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリが故障している。	他のバッテリが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリを交換します。
	デバイスがクレードルに正しく挿入されていない。	デバイスを取り外して正しく差し込み直します。充電がアクティブになっていることを確認します。[Settings] (設定) [System] (システム) [About phone] (電話機情報) [Status] (ステータス) の順にタッチして、バッテリのステータスを表示します。
	クレードルの周辺温度が高すぎる。	クレードルを、周辺温度が 5°C (+41°F) ~ +40°C (+104°F) の場所に移動します。

## 4 スロット バッテリ充電器のトラブルシューティング

下の表に、充電器のトラブルシューティング オプションを示します。

**表 33** 4 スロット バッテリ充電器のトラブルシューティング

問題	原因	解決方法
予備バッテリを挿入しても、予備バッテリの充電 LED が点灯しない。	予備バッテリが正しくセットされていない。	予備バッテリを充電スロットから取り外し、正しくセットされるように差し込み直します。
予備バッテリが充電されない。	充電器に電力が供給されていない。	電源ケーブルが、充電器と AC 電源の両方にしっかりと接続されていることを確認してください。
	予備バッテリが正しくセットされていない。	バッテリをバッテリアダプタから取り外して、正しくセットされるように差し込み直します。
	バッテリアダプタが正しく装着されていない。	充電器からバッテリアダプタを取り外して、正しくセットされるように差し込み直します。

表 33 4 スロット バッテリ充電器のトラブルシューティング (Continued)

問題	原因	解決方法
	バッテリを充電器から取り外したり、充電器を AC 電源から抜いたりするのが早すぎた。	充電器に電力が供給されていることを確認してください。予備バッテリが正しくセットされていることを確認してください。バッテリが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリが故障している。	他のバッテリが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリを交換します。
	クレードルの周辺温度が高すぎる。	クレードルを、周辺温度が 5°C (+41°F) ~ +40°C (+104°F) の場所に移動します。

## 5 スロット イーサネット クレードルのトラブルシューティング

下の表に、クレードルのトラブルシューティング オプションを示します。

表 34 5 スロット イーサネット クレードルのトラブルシューティング

問題	原因	解決方法
通信中に、データが転送されないか、転送されたデータが不完全である。	デバイスが通信中にクレードルから取り外された。	デバイスをクレードルに戻し、転送し直してください。
	ケーブルの構成が正しくない。	正しいケーブル構成であることを確認します。
	デバイスにアクティブな接続が存在しない。	接続がアクティブになっている場合は、ステータスバーにアイコンが表示されます。
バッテリが充電されない。	クレードルからデバイスを取り外すのが早すぎた。	デバイスをクレードルに差し込み直します。バッテリが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリが故障している。	他のバッテリが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリを交換します。
	デバイスがクレードルに正しく挿入されていない。	デバイスを取り外して正しく差し込み直します。充電がアクティブになっていることを確認します。[Settings] (設定) [System] (システム) [About phone] (電話機情報) [Status] (ステータス) の順にタッチして、バッテリのステータスを表示します。

**表34 5スロットイーサネットクレードルのトラブルシューティング(Continued)**

問題	原因	解決方法
	クレードルの周辺温度が高すぎる。	クレードルを、周辺温度が5°C (+41°F) ~ +40°C (+104°F) の場所に移動します。

# 技術仕様

デバイスの技術仕様については、[zebra.com/us/en/products/spec-sheets/mobile-computers/handheld/tc52x-tc57x.html](http://zebra.com/us/en/products/spec-sheets/mobile-computers/handheld/tc52x-tc57x.html) を参照してください。

## 読み取り可能距離

次の表に、SE4720 スキャンエンジンの読み取り可能距離を示します。

表 35 SE4720 の読み取り可能距離

シンボル密度/ バーコードタイプ	通常の読み取り範囲	
	近距離	遠距離
4 mil Code 39	8.4cm (3.3 インチ)	22.4 cm (8.8 インチ)
5.0 mil Code 128	7.1 cm (2.8 インチ)	20.8 cm (8.2 インチ)
5mil Code 39	5.08 cm (2.0 インチ)	34.3 cm (13.5 インチ)
5 mil PDF417	7.9cm (3.1 インチ)	21.3 cm (8.4 インチ)
10 mil Data Matrix	7.4 cm (2.9 インチ)	25.7 cm (10.1 インチ)
100% UPCA	4.6 cm* (1.8 インチ)	66.0 cm (26.0 インチ)
20mil Code 39	5.08 cm* (2.0 インチ)	76.2 cm (30.0 インチ)
20 mil QR Code	8.1 cm (3.2 インチ)	40.1 cm (15.8 インチ)

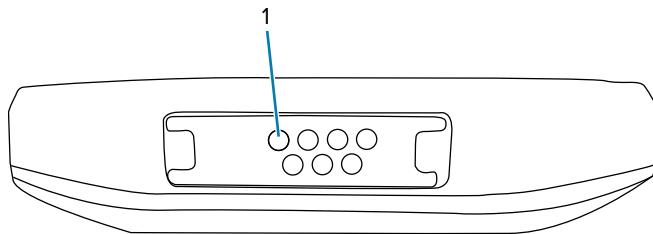
\*読み取り幅内のバーコードの幅により制限されます。  
注: 30fcd 周辺光の下、15°の傾斜ピッチ角で使用する写真品質のバーコード。  
スキャンエンジンシャーシの前端から測定された距離。

## I/O コネクタのピン配列

7 ピン I/O コネクタのピン配置を説明します。



**注意:** デバイス下部の 7 ピンインタフェースコネクタは取り外しできません。コネクタを無理に取り外そうとすると、デバイスが損傷し、保証が無効になる場合があります。

**図 53** I/O コネクタのピン配列**表 36** I/O コネクタのピン配列

ピン	信号	説明
1	VBUS	USB 電源入力
2	D-	USB データのマイナス側
3	CC	USB Type C 制御
4	GND	グランド
5	D+	USB データのプラス側
6	未使用	未使用
7	[ID]	クレードル ID

## 1 スロット充電専用クレードルの技術仕様

ここでは、1 スロット充電専用クレードルの技術仕様について説明します。

**表 37** 1 スロット充電専用クレードルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ: 9.9cm (3.9 インチ) 幅: 9.8cm (3.86 インチ) 奥行き: 13.3cm (5.24 インチ)
重量	378g (13.3 オンス)
入力電圧	12 VDC
消費電力	最大 15W
動作温度	0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	5 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能

**表 37** 1スロット充電専用クレードルの技術仕様 (Continued)

項目	説明
静電放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 /- 10kV 接触放電 /- 10kV 間接放電

## 1スロットワークステーションドッキング クレードルの技術仕様

このセクションでは、1スロットワークステーションドッキング クレードルの技術仕様について説明します。

**表 38** 1スロットワークステーションドッキング クレードルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ: 9.9cm (3.9 インチ) 幅: 9.8cm (3.86 インチ) 奥行き: 13.3cm (5.24 インチ)
重量	378g (13.3 オンス)
入力電圧	12VDC
消費電力	最大 15W
動作温度	0°C ~ 40°C (32°F ~ 104°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	5 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 ± 10 kV 接触放電 ± 10 kV 間接放電

## 2スロット USB/イーサネット クレードルの技術仕様

このセクションでは、2スロット USB/イーサネット クレードルの技術仕様について説明します。

**表 39** 2スロット USB/イーサネット クレードルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ: 8.9cm (3.5 インチ) 幅: 16.0 cm (6.3 インチ) 奥行き: 13.0 cm (5.12 インチ)

**表 39** 2スロットUSB/イーサネットクレードルの技術仕様(Continued)

項目	説明
重量	470 g (16.6 オンス)
入力電圧	12 VDC
消費電力	最大 12W
動作温度	0°C ~ 40°C (32°F ~ 104°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	5 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 75.0 cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電放電(ESD)	+/- 20kV 大気放電 ± 10 kV 接触放電 ± 10 kV 間接放電

## 4スロット充電専用クレードル(バッテリ充電器付き)の技術仕様

このセクションでは、バッテリ充電器付き4スロット充電専用クレードルの技術仕様について説明します。

**表 40** 4スロット充電専用クレードル(バッテリ充電器付き)の技術仕様

項目	説明
寸法	高さ: 10.6cm (4.17 インチ) 幅: 48.9cm (19.25 インチ) 奥行き: 13.3cm (5.24 インチ)
重量	2,020 g (71.3 オンス)
入力電圧	12 VDC
消費電力	最大 95 ワット
動作温度	0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	5 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電放電(ESD)	+/- 20kV 大気放電 /- 10kV 接触放電 ± 10 kV 間接放電

## 5 スロット充電専用クレードルの技術仕様

ここでは、5 スロット充電専用クレードルの技術仕様について説明します。

**表 41** 5 スロット充電専用クレードルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ: 10.6cm (4.17 インチ) 幅: 48.9cm (19.25 インチ) 奥行き: 13.3cm (5.24 インチ)
重量	1,937 g (68 オンス)
入力電圧	12 VDC
消費電力	最大 65 ワット
動作温度	0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	5 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 /- 10kV 接触放電 ± 10 kV 間接放電

## 5 スロット イーサネット クレードルの技術仕様

このセクションでは、5 スロット イーサネット クレードルの技術仕様について説明します。

**表 42** 5 スロット イーサネット クレードルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ: 10.6cm (4.17 インチ) 幅: 48.9cm (19.25 インチ) 奥行き: 13.3cm (5.24 インチ)
重量	2,010 g (71 オンス)
入力電圧	12 VDC
消費電力	最大 70 ワット
動作温度	0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	5 ~ 95% (結露なきこと)

**表 42** 5スロット イーサネット クレードルの技術仕様 (Continued)

項目	説明
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 /- 10kV 接触放電 /- 10kV 間接放電

## 4スロット バッテリ充電器の技術仕様

このセクションでは、4スロット バッテリ充電器の技術仕様について説明します。

**表 43** 4スロット バッテリ充電器の技術仕様

項目	説明
寸法	高さ: 9.7cm (3.82 インチ) 幅: 9.8cm (3.86 インチ) 奥行き: 13.3cm (5.24 インチ)
重量	450g (15.9 オンス)
入力電圧	12 VDC
消費電力	最大 48 ワット
動作温度	0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	5 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 /- 10kV 接触放電 /- 10kV 間接放電

## トリガ ハンドルの技術仕様

このセクションでは、トリガ ハンドルの技術仕様について説明します。

**表 44** トリガ ハンドルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ: 13.1 cm (5.2 インチ) 幅: 8.2 cm (3.2 インチ) 奥行き: 13.6 cm (5.4 インチ)
重量	120 g (4.2 オンス)
入力電圧	12 VDC
動作温度	-10°C ~ 50°C (14°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
湿度	5 ~ 95% (結露なきこと)
落下	動作温度範囲内で、1.5 m (5 フィート) の高さからコンクリート面に落下しても動作可能。
静電放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 /- 10kV 接触放電

## 高耐久性充電/USB ケーブルの技術仕様

このセクションでは、高耐久性充電/USB ケーブルの技術仕様について説明します。

**表 45** 高耐久性充電/USB ケーブルの技術仕様

項目	説明
長さ	164 +/- 6cm (64.6 +/- 2.4 インチ)
入力電圧	5.0 VDC
動作温度	-20°C~50°C (-4°F~122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
湿度	10 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 /- 10kV 接触放電

